

安城市男女共同参画に関する  
アンケート調査  
【調査結果報告書】

平成 28 年 11 月

安城市

# 目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の実施概要	2
3	報告書の見方	3
II	市民調査結果	5
1	回答者の属性	6
2	家庭生活について	12
3	職業生活について	22
4	女性の活躍推進について	50
5	地域活動への参加状況について	59
6	DV（ドメスティック・バイオレンス）について	66
7	男女の平等観について	84
8	市の施策への女性意見の反映について	93
9	男女共同参画に関する考え方について	97
III	企業調査結果	101
1	回答企業の概要	102
2	育児や介護に関する制度について	107
3	女性従業員について	110
4	男女共同参画全般について	116
IV	高校生調査結果	121
1	回答者の属性	122
2	男女共同参画の意識について	123
3	将来の働き方について	128
4	男女間の暴力について	130
V	町内会調査結果	135
1	回答者の属性	136
2	町内会活動における女性の参画について	137
3	災害時対策について	141

# I 調査の概要

# 1 調査の目的

本調査は、家庭、地域、職場等における男女共同参画に関する市民の意識や男女の平等・社会参加の実態等を調査し、過去の意識調査と比較・検証することにより、男女共同参画社会の実現に向けての施策展開の基礎とするとともに「第4次安城市男女共同参画プラン」策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

# 2 調査の実施概要

## ●調査に関する事項

区 分	内 容
調査対象	市民 20歳以上の男女各1,000人を無作為抽出 企業 市内業者500社を無作為抽出 高校生 市内の高校5校からクラスごとに253人を抽出 町内会 市内79町内会の会長
調査票の配布・回収	市民 : 郵送配布・郵送回収（督促状1回） 企業 : 郵送配布・郵送回収（督促状1回） 高校生 : 学校を通じた配布・回収 町内会 : 郵送配布・郵送回収
調査基準日	平成28年7月1日
調査期間	市民 : 平成28年7月20日～8月8日 企業 : 平成28年7月20日～8月8日 高校生 : 平成28年7月20日～8月8日 町内会 : 平成28年7月20日～8月8日

## ●配布・回収に関する事項

区 分	市民調査	企業調査	高校生調査	町内会調査
配布数（A）	2,000	500	253	79
回収件数（B）	939	243	253	68
回収率（B/A）	47.0%	48.6%	100.0%	86.1%

### 3 報告書の見方

---

#### ●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果とクロス集計結果を記載しています。なお、クロス集計結果では、性別等の不明・無回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数の合計と全体の回答者総数は合致しません。

#### ●「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。

#### ●「%」について

グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

#### ●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。

#### ●「不明・無回答」について

図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

#### ●「単数回答」「複数回答」について

図表のタイトルにある「単数回答」は、選択肢の中から1つだけを選ぶもの、「複数回答」は選択肢の中から2つ以上を選ぶものを表します。

#### ●表について

表中の網掛けは、「不明・無回答」を除き、**最も割合の高い項目**と**二番目に割合の高い項目**を表しています。



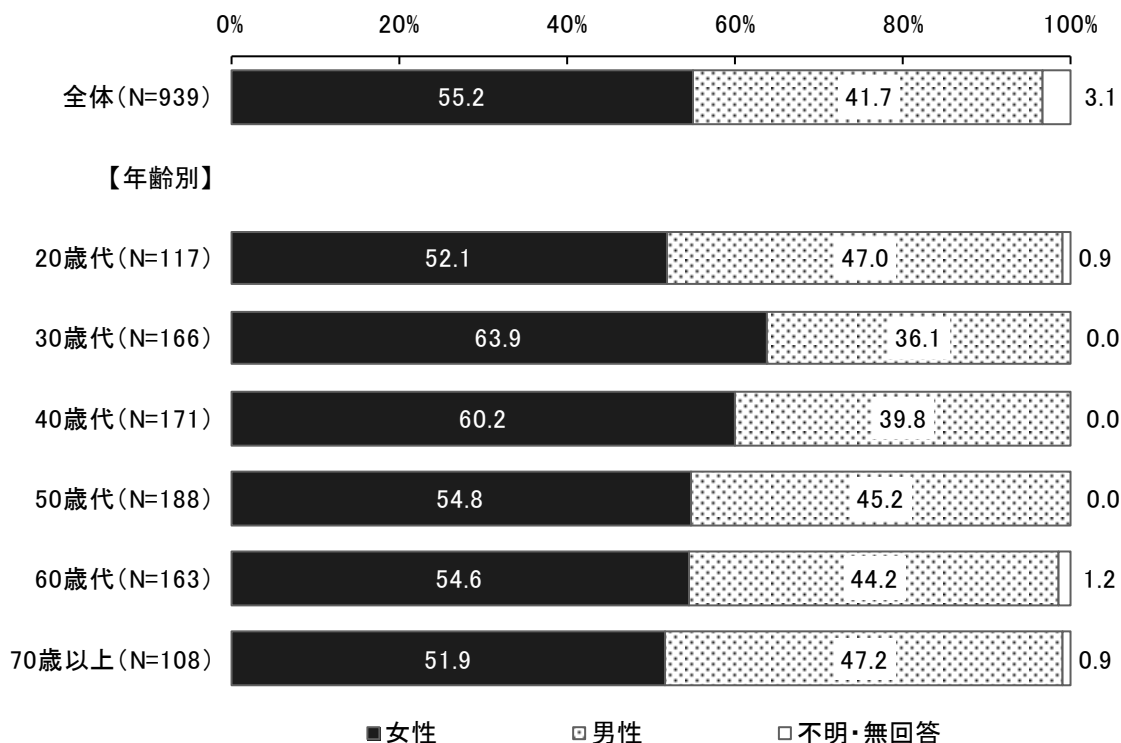
## II 市民調查結果

# 1 回答者の属性

## 問1 性別（単数回答）

回答者の性別は、全体で「女性」が55.2%、「男性」が41.7%となっています。

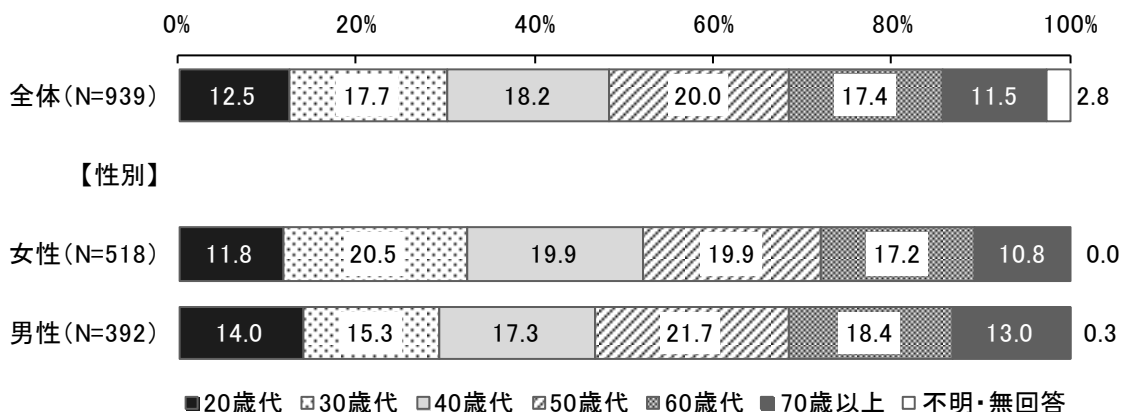
年齢別では、いずれの年代も「女性」が半数を超えており、30歳代及び40歳代では6割を超えて高くなっています。



## 問2 年齢（単数回答）

回答者の年齢は、全体で「50歳代」が20.0%と最も高く、次いで「40歳代」が18.2%となっています。

性別では、女性で30～50歳代が2割前後、男性では「50歳代」が21.7%とそれぞれ高くなっています。

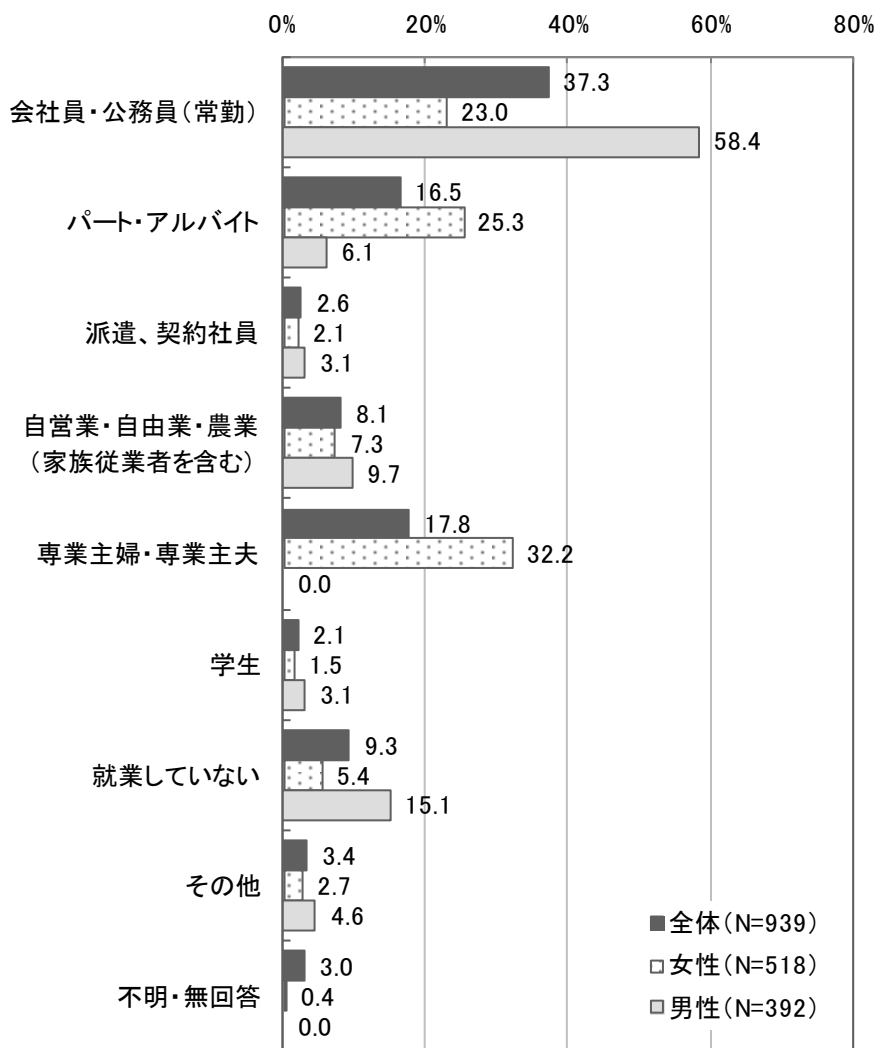




問3 職業（単数回答）

回答者の職業は全体で「会社員・公務員（常勤）」が37.3%と最も高く、次いで「専業主婦・専業主夫」が17.8%となっています。

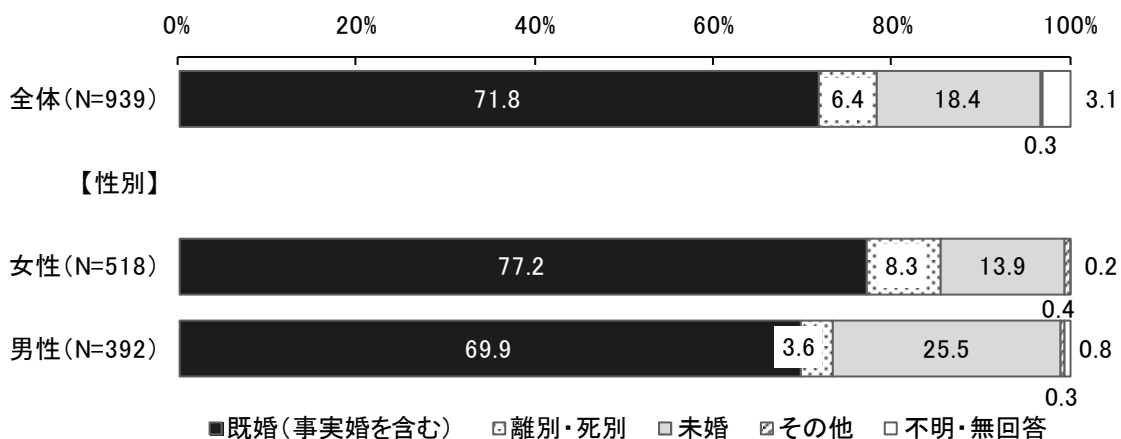
性別では、女性で「専業主婦・専業主夫」が32.2%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が25.3%、「会社員・公務員（常勤）」が23.0%となっています。男性では「会社員・公務員（常勤）」が58.4%と最も高く、次いで「就業していない」が15.1%となっています。



問4 婚姻状況（単数回答）

回答者の婚姻状況は、全体で「既婚（事実婚を含む）」が71.8%と最も高く、次いで「未婚」が18.4%となっています。

性別では、「既婚（事実婚を含む）」が女性で77.2%と、男性よりも7.3ポイント高くなっています。一方、「未婚」は男性で25.5%と、女性よりも11.6ポイント高くなっています。

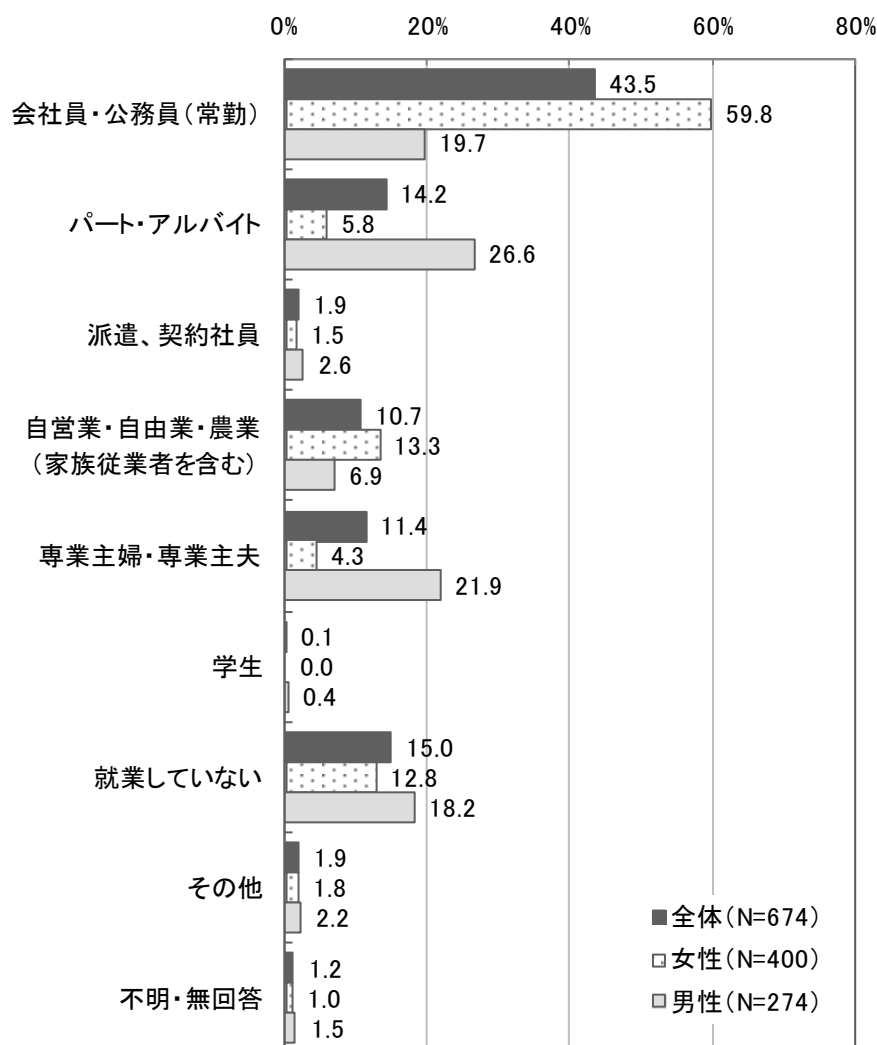


【問4で「1 既婚（事実婚を含む）」と回答した方のみ】

問4-1 配偶者・パートナーの職業（単数回答）

回答者の配偶者・パートナーの職業は、全体で「会社員・公務員（常勤）」が43.5%と最も高く、次いで「就業していない」が15.0%となっています。

性別では、女性回答者の配偶者・パートナーは「会社員・公務員（常勤）」が59.8%と最も高く、次いで「自営業・自由業・農業（家族従業者を含む）」が13.3%となっています。男性回答者の配偶者・パートナーは「パート・アルバイト」が26.6%と最も高く、次いで「専業主婦・専業主夫」が21.9%となっています。

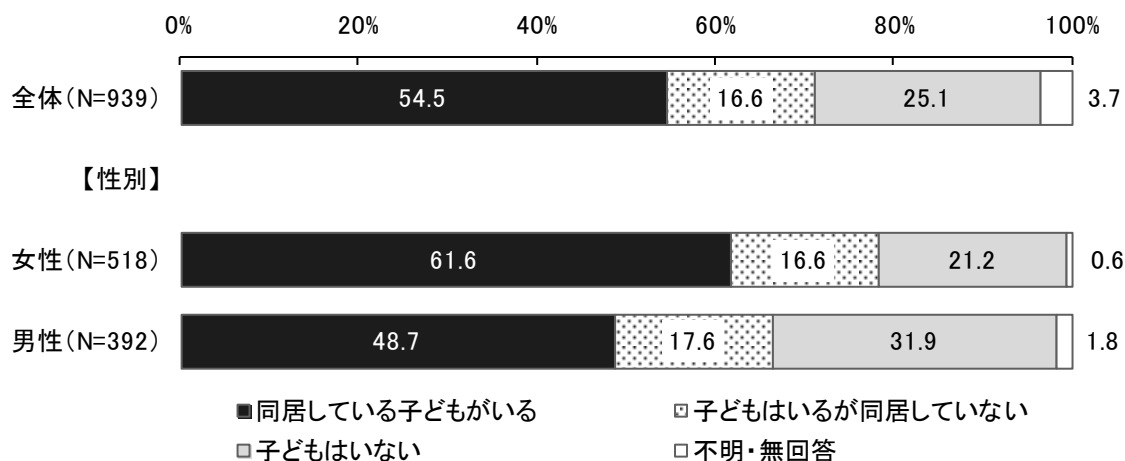


## 【子どものいる方のみ】

### 問5 子どもの有無（単数回答）

回答者の子どもの有無は、全体で「同居している子どもがいる」が 54.5%と最も高く、次いで「子どもはいない」が 25.1%となっています。

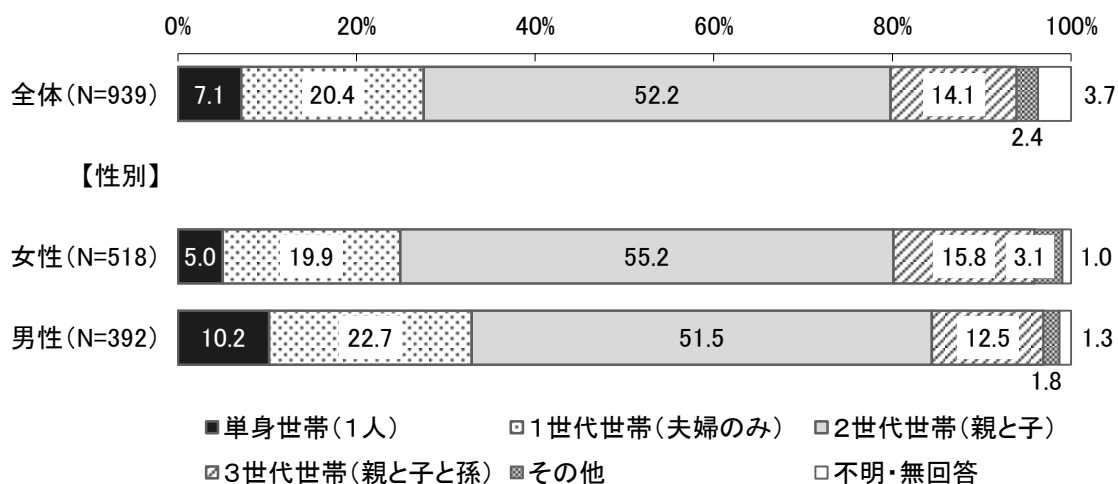
性別では、「同居している子どもがいる」が女性で 61.6%、男性で 48.7%となっています。



### 問6 家族構成（単数回答）

回答者の家族構成は、全体で「2世代世帯（親と子）」が 52.2%と最も高く、次いで「1世代世帯（夫婦のみ）」が 20.4%となっています。

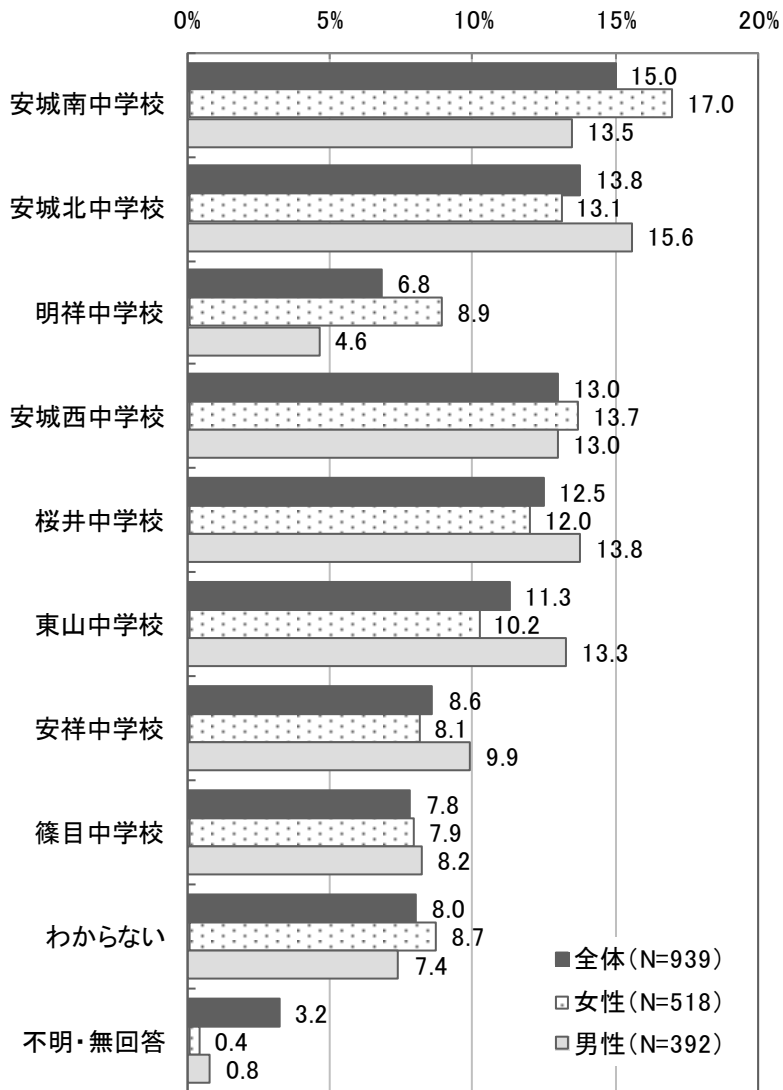
性別では、「単身世帯（1人）」が男性で 10.2%と、女性よりも 5.2ポイント高くなっています。



問7 お住まいの中学校区（単数回答）

回答者の住まいの中学校区は、全体で「安城南中学校」が15.0%と最も高く、次いで「安城北中学校」が13.8%となっています。

性別では、女性で「安城南中学校」が17.0%、男性で「安城北中学校」が15.6%と、それぞれ最も高くなっています。



## 2 家庭生活について

### 問8 次にあげる考え方について、あなたはどのように思いますか。(単数回答)

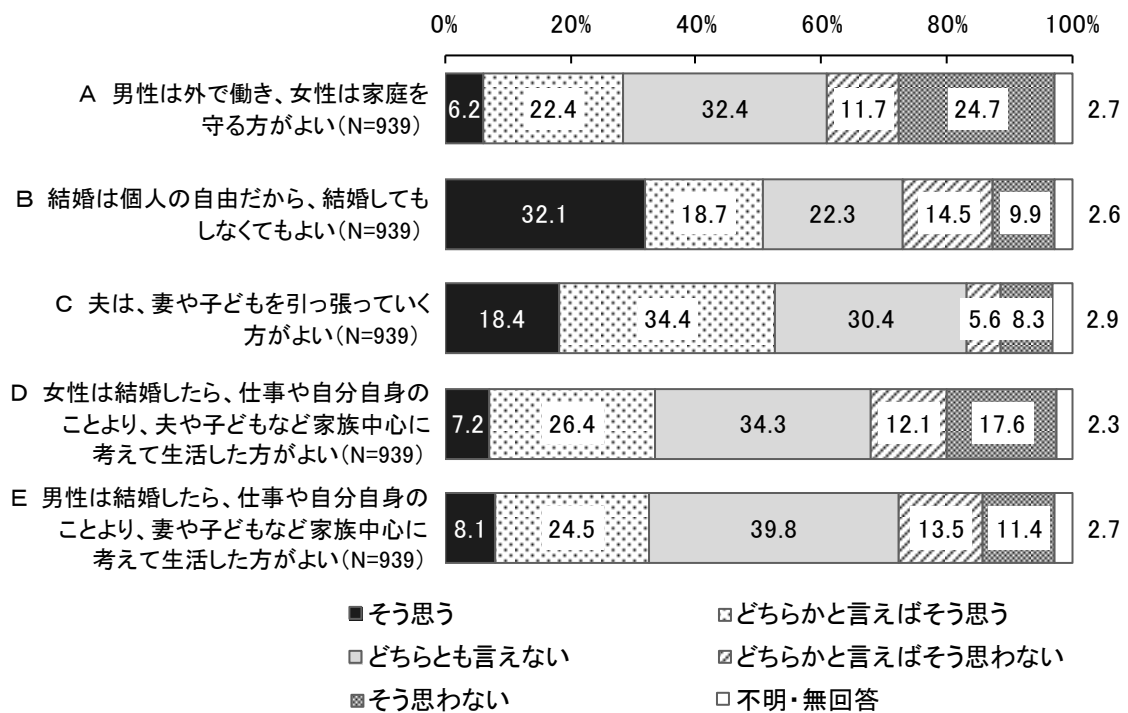
問8の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『賛成』…「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合算

『反対』…「そう思わない」と「どちらかと言えばそう思わない」の合算

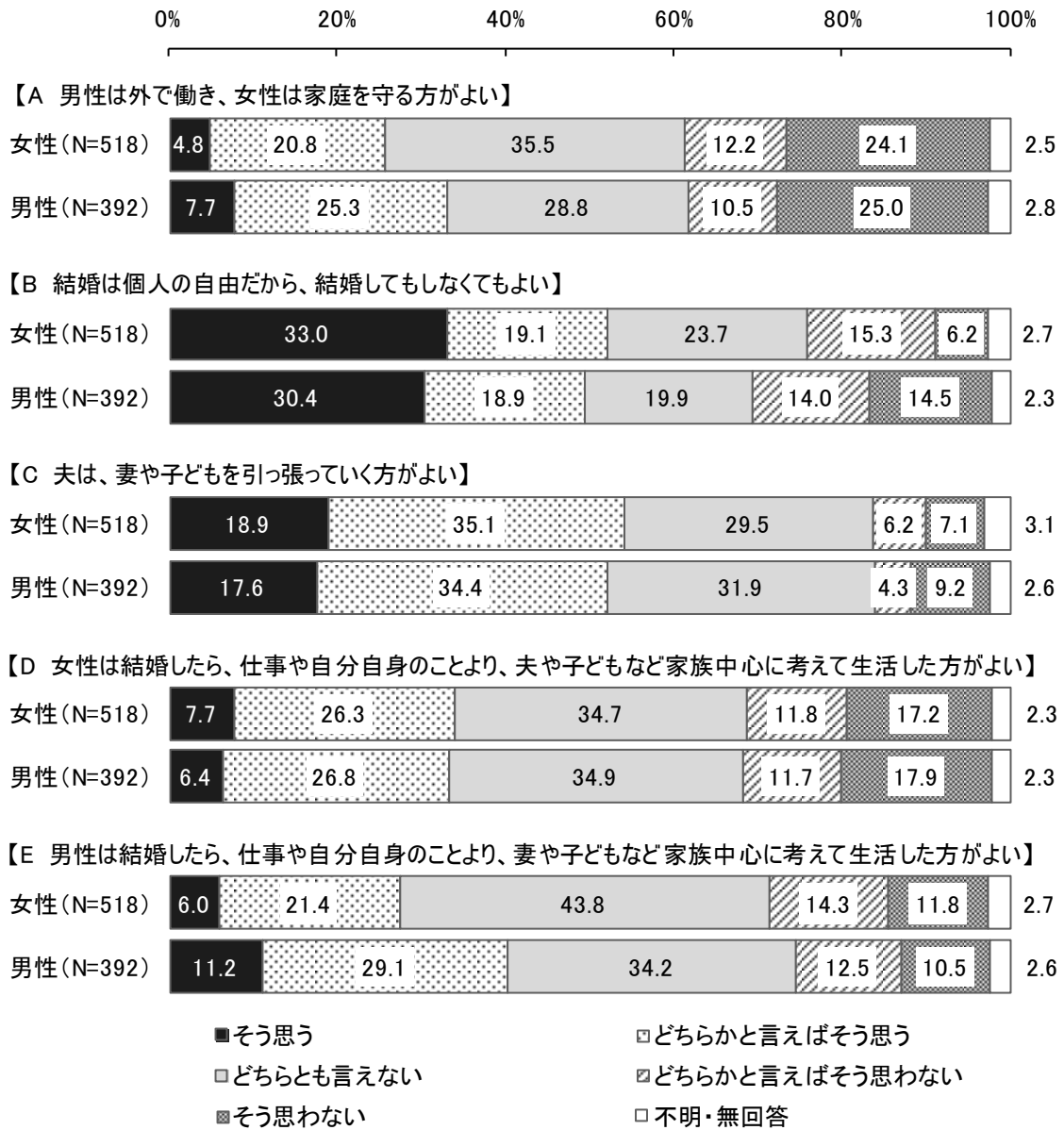
家庭生活における考えでは、「B 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい」「C 夫は、妻や子どもを引っ張っていく方がよい」で『賛成』が、いずれも5割を超えて高くなっています。

一方、「A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」「D 女性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、夫や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」で『反対』が、3割前後と高くなっています。



## 性別比較

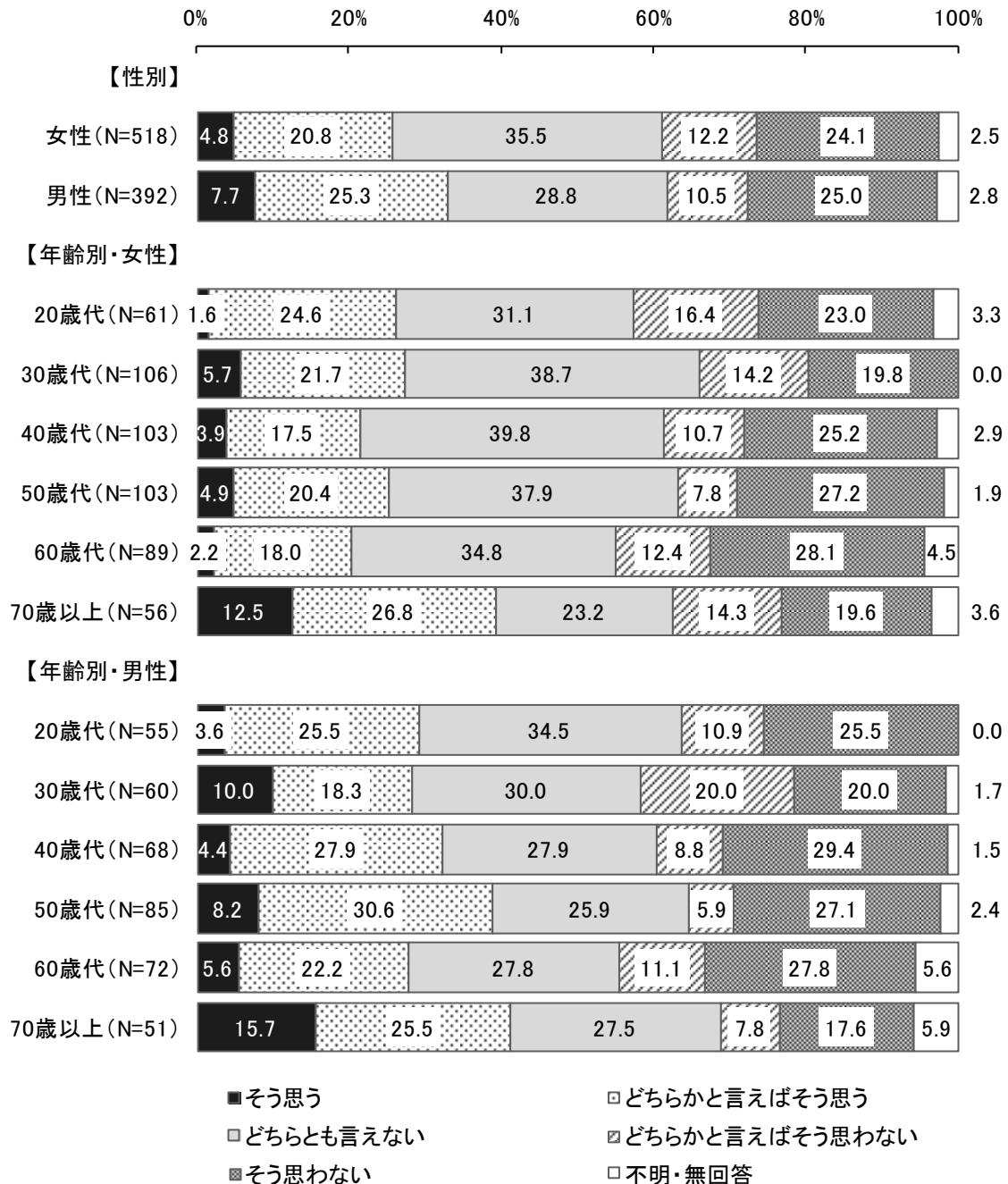
女性と男性で最も差が大きい項目は「E 男性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、妻や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」となっており、『賛成』は男性で40.3%と、女性より12.9ポイント高くなっています。



## 項目別集計結果

### 【A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい】

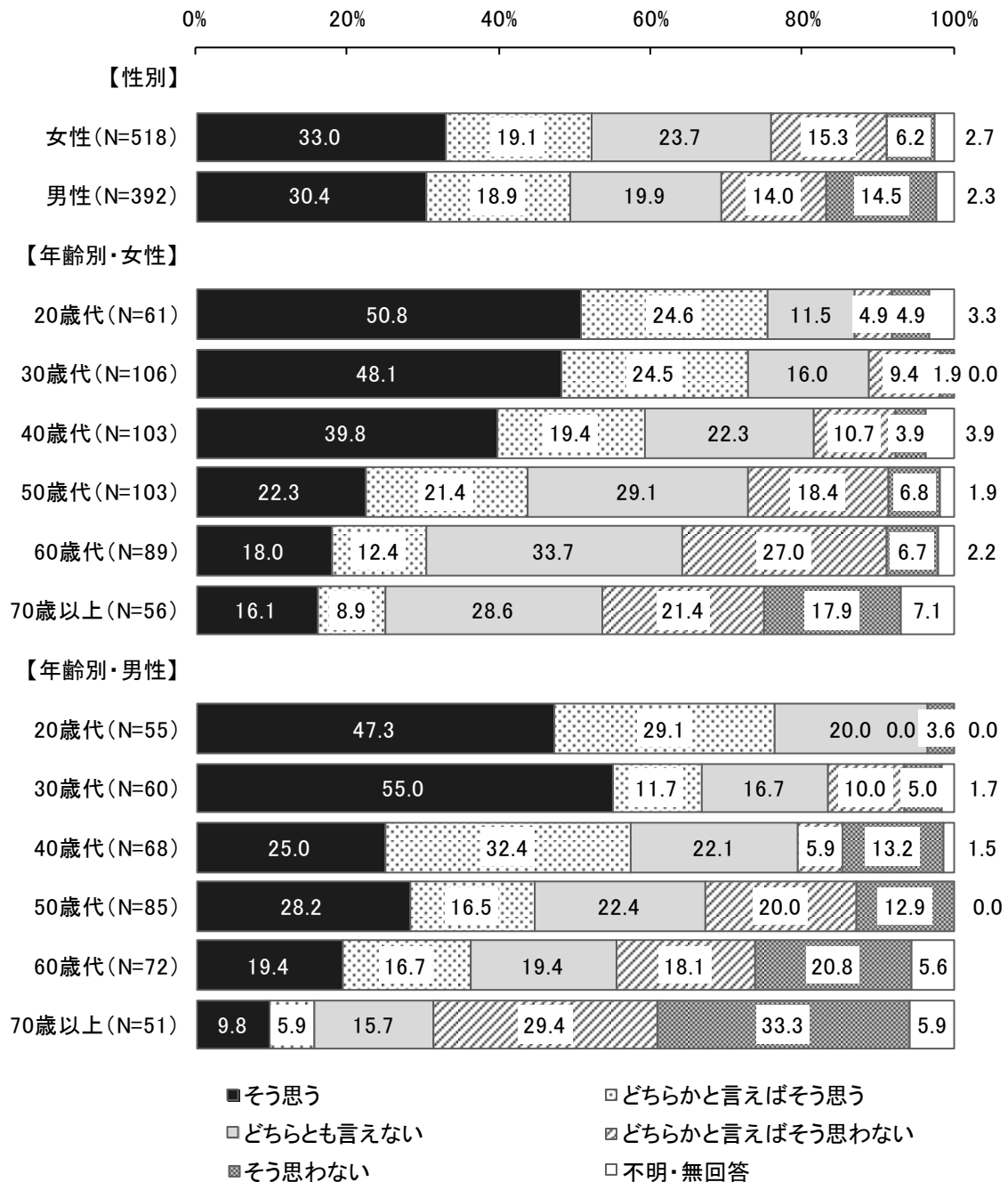
「男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」という考えについては、女性の70歳以上、男性の50歳代、40歳代及び70歳以上で『賛成』が3割を超えて高くなっています。一方、『反対』は女性の50歳代、男性の20～40歳代及び60歳代で4割前後と高くなっています。





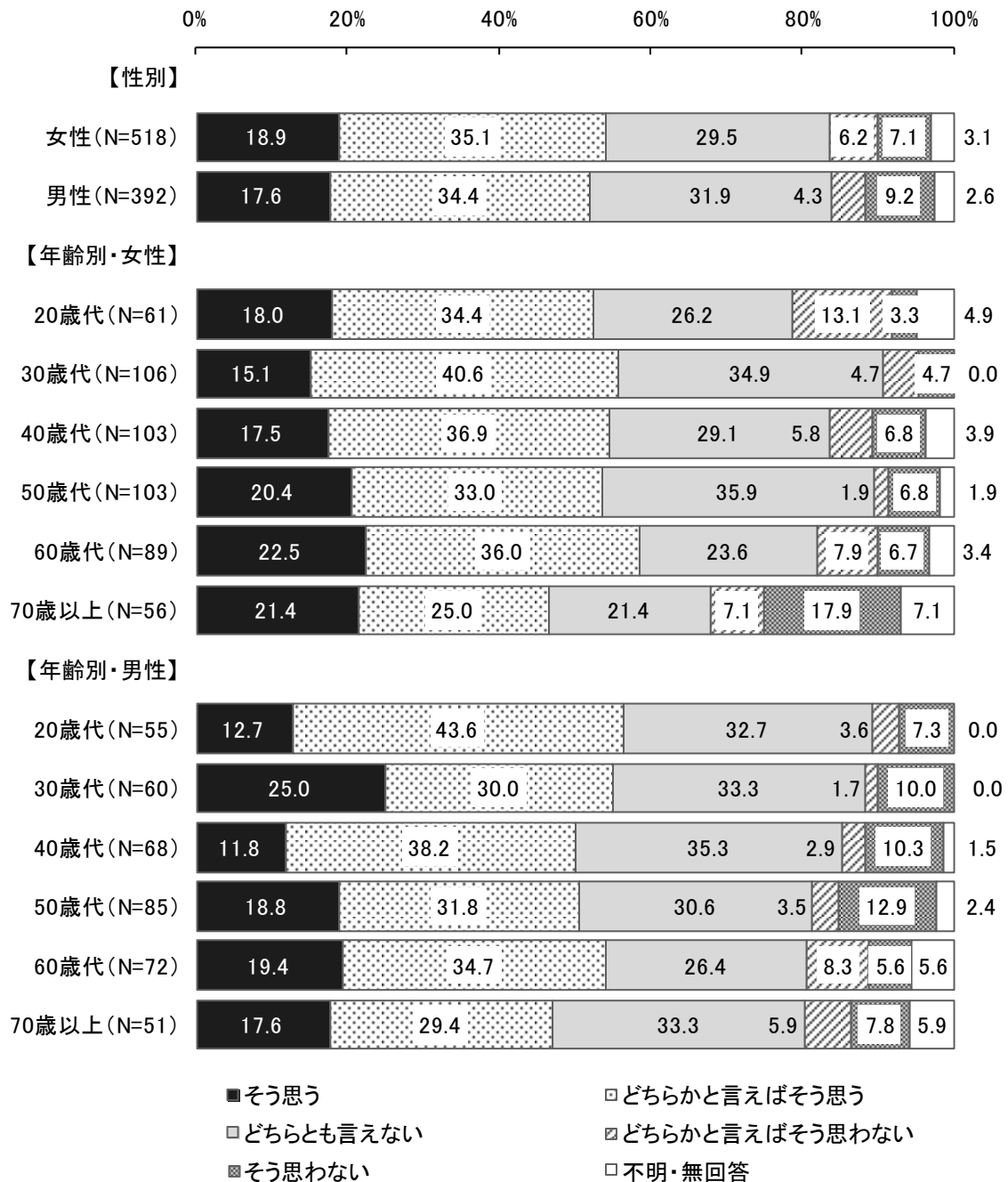
## 【B 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい】

「結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい」という考えについては、女性、男性ともに 20～40 歳代で『賛成』が 5 割を超えて高く、特に女性の 20～30 歳代及び男性の 20 歳代は 7 割を超えています。また、男女ともに年齢が上がるにつれて『賛成』が低下する傾向にあります。



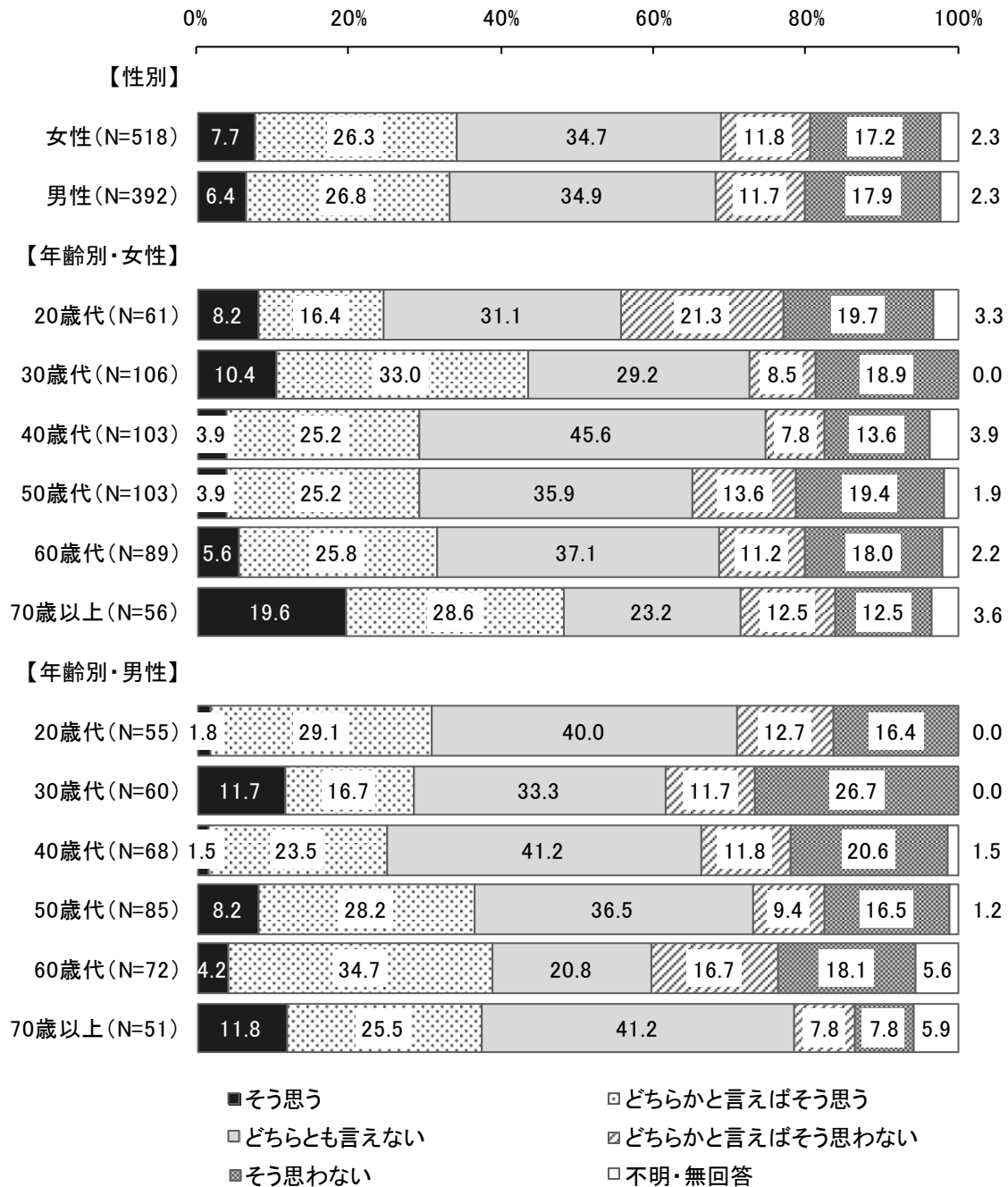
### 【C 夫は、妻や子どもを引っ張っていく方がよい】

「夫は、妻や子どもを引っ張っていく方がよい」という考えについては、女性、男性ともに70歳以上を除いて『賛成』が5割以上と高くなっています。なお、女性の70歳以上で『反対』が25.0%と、他と比べて高くなっています。



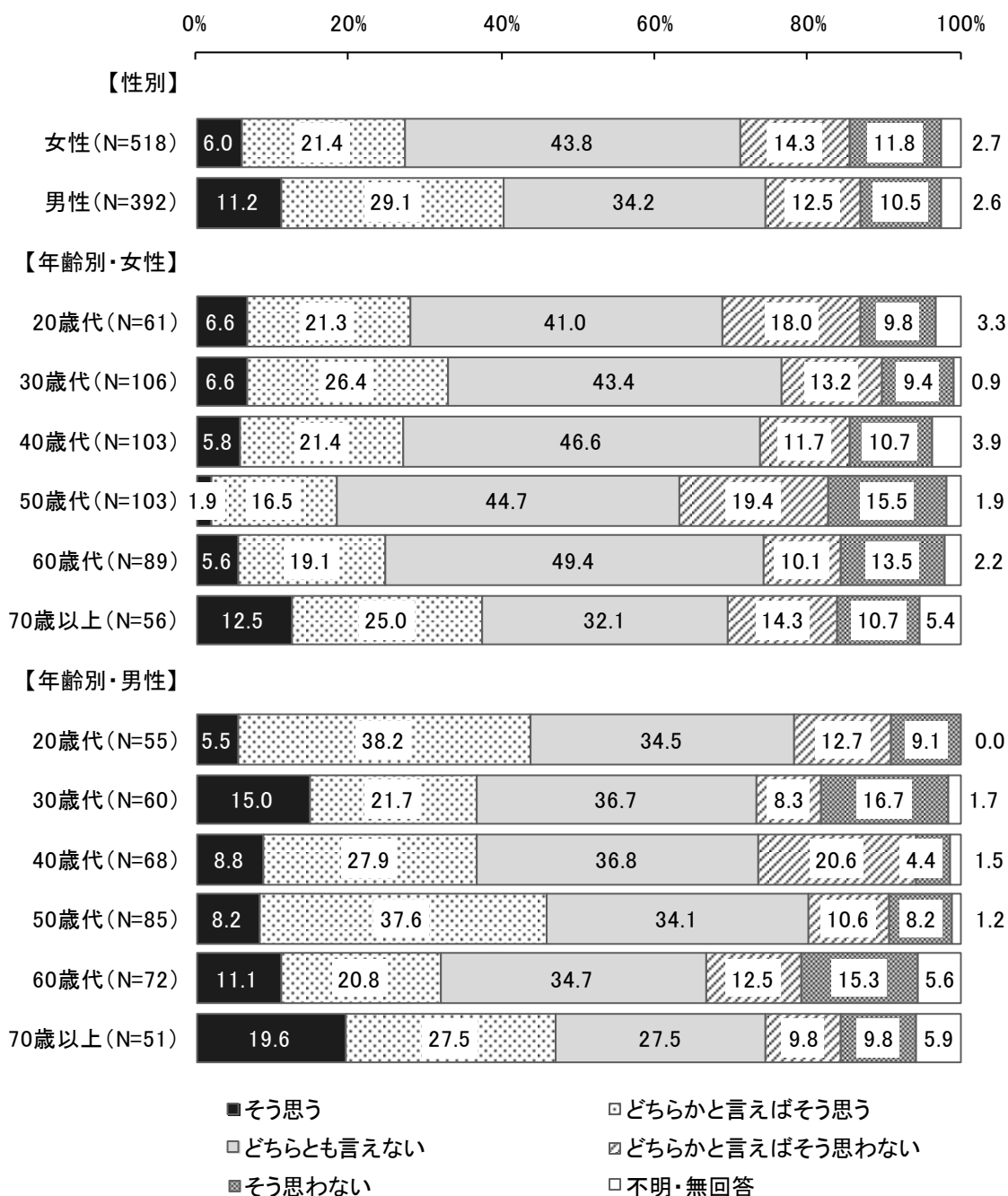
【D 女性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、夫や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい】

「女性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、夫や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」という考えについては、女性の30歳代及び70歳以上で『賛成』が4割を超えて高くなっています。また、女性の20歳代では『反対』の割合が41.0%と他の年代に比べて高くなっています。



【E 男性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、妻や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい】

「男性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、妻や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」という考えについては、男性の20歳代、50歳代及び70歳以上で『賛成』が4割を超えて高くなっています。これは、同年代の女性と比べても高い割合となっています。

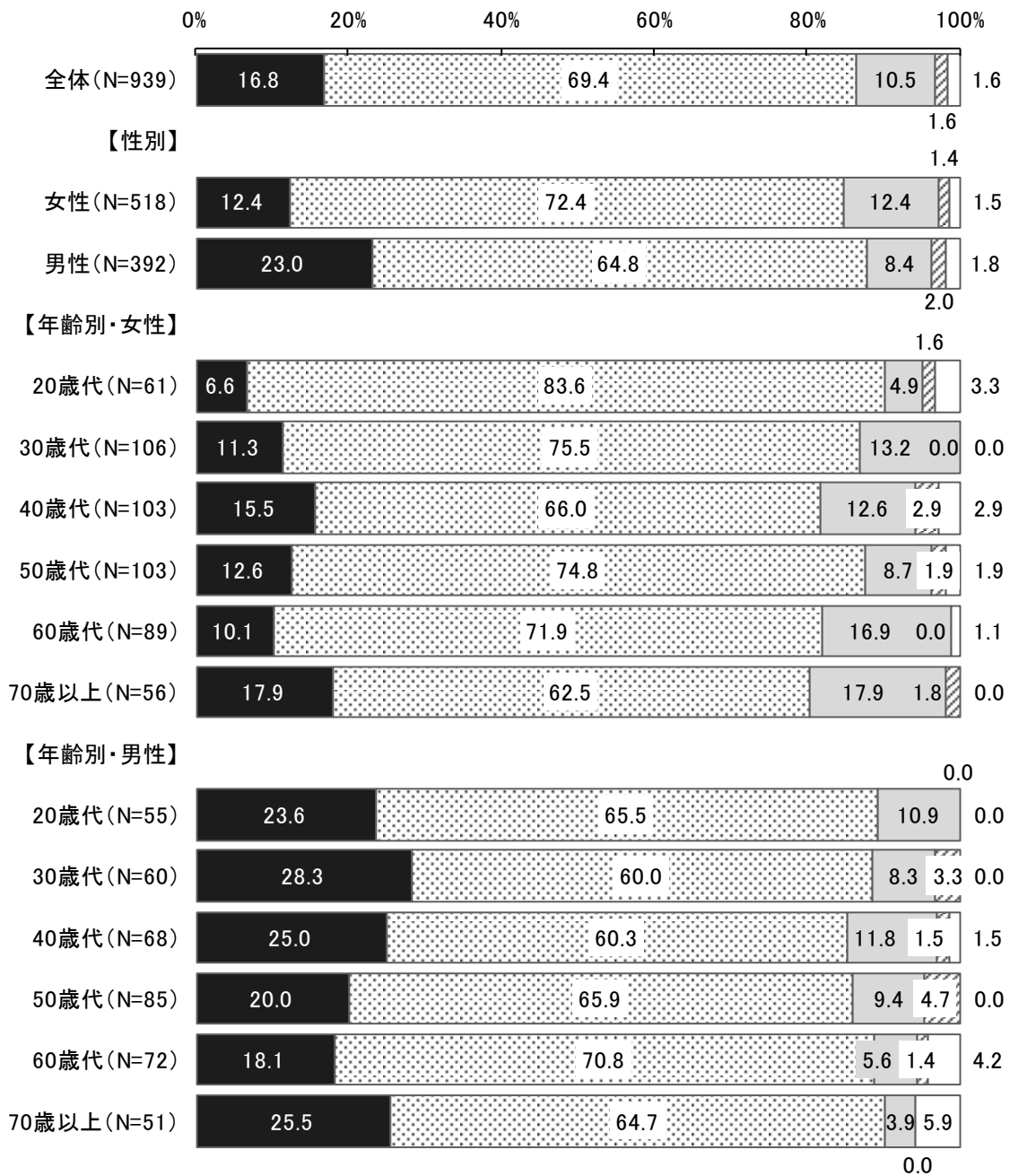


問9 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方について、どのように考えますか。(単数回答)

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方についての考えは、全体で「男らしさ、女らしさにとらわれず、個性を尊重するように育てた方がよい」が 69.4%と最も高く、次いで「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が 16.8%となっています。

性別では、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が男性で 23.0%と、女性と比べて 10.6ポイント高くなっています。

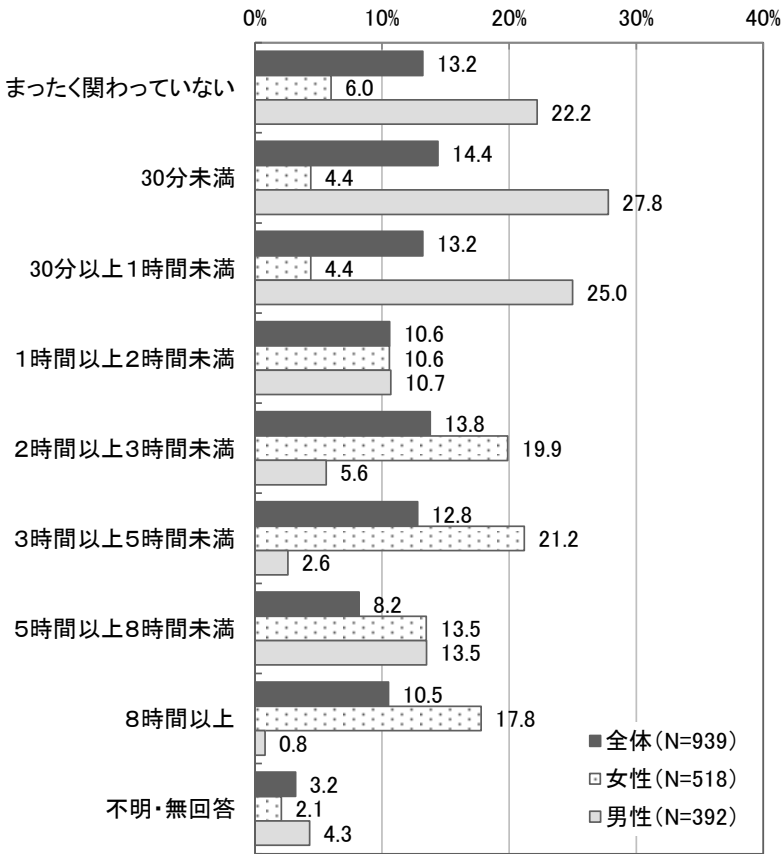
性別・年齢別では、男性の 60 歳代を除いた年代で「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が 2割以上となっており、同じ年代の女性と比べても高くなっています。



- 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい
- ▨男らしさ、女らしさにとらわれず、個性を尊重するように育てた方がよい
- どちらとも言えない
- ▨その他
- 不明・無回答

問10 あなたが、家事・育児に携わる平日一日あたりの平均的な時間はどのくらいですか。(単数回答)

家事・育児に携わる平日一日あたりの平均的な時間は、女性は「3時間以上5時間未満」が、男性は「30分未満」がそれぞれ最も高くなっています。



## 性別・年齢別比較

女性は20歳代を除いた年代で2時間以上が高く、特に30～40歳代は半数近くが5時間以上となっています。男性は20歳代及び70歳以上で「まったく関わっていない」が最も高く、その他の年代でも1時間未満で高くなっています。

	まったく関わっていない	30分未満	30分以上1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上3時間未満	3時間以上5時間未満	5時間以上8時間未満	8時間以上	不明・無回答
(単位: %)									
<b>【年齢別・女性】</b>									
20歳代(N=61)	21.3	18.0	8.2	8.2	14.8	8.2	1.6	16.4	3.3
30歳代(N=106)	3.8	2.8	5.7	7.5	10.4	14.2	13.2	42.5	0.0
40歳代(N=103)	1.0	2.9	1.9	8.7	15.5	19.4	26.2	21.4	2.9
50歳代(N=103)	1.0	2.9	3.9	14.6	22.3	30.1	15.5	7.8	1.9
60歳代(N=89)	2.2	0.0	3.4	13.5	34.8	29.2	7.9	5.6	3.4
70歳以上(N=56)	17.9	5.4	5.4	10.7	23.2	23.2	8.9	3.6	1.8
<b>【年齢別・男性】</b>									
20歳代(N=55)	43.6	20.0	18.2	10.9	1.8	1.8	0.0	0.0	3.6
30歳代(N=60)	6.7	30.0	30.0	11.7	11.7	6.7	0.0	0.0	3.3
40歳代(N=68)	20.6	38.2	26.5	5.9	2.9	2.9	0.0	0.0	2.9
50歳代(N=85)	17.6	35.3	21.2	10.6	7.1	2.4	1.2	3.5	1.2
60歳代(N=72)	20.8	22.2	34.7	6.9	4.2	1.4	0.0	0.0	9.7
70歳以上(N=51)	29.4	15.7	15.7	21.6	5.9	0.0	5.9	0.0	5.9

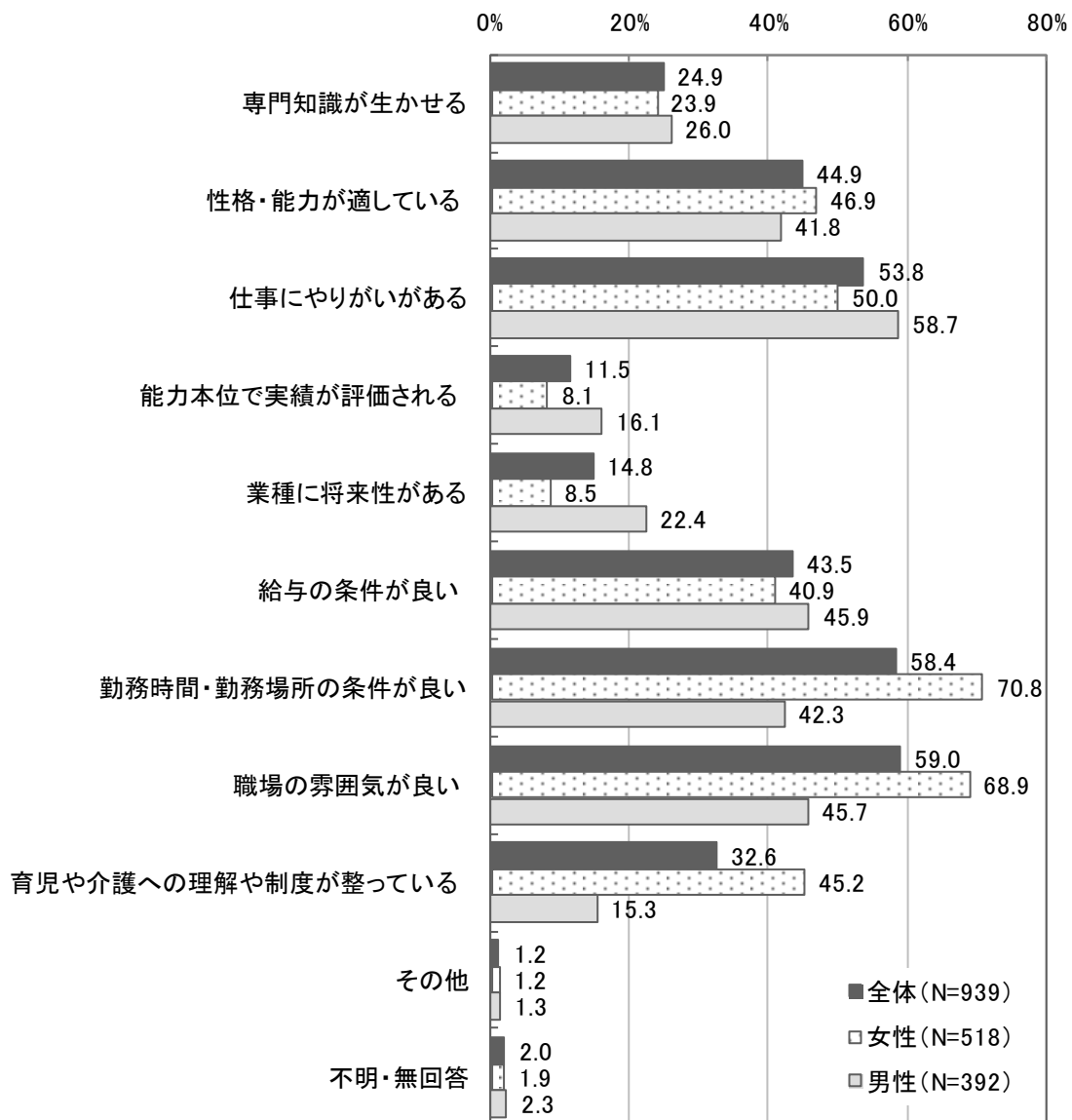
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

### 3 職業生活について

問 11 あなたが仕事を選ぶ際に重視すること、またはしたいことは何ですか。仕事をしていない方も、仕事をするとして仮定してお答えください。(複数回答)

仕事を選ぶ際に重視すること、またはしたいことは、全体で「職場の雰囲気が良い」が 59.0%と最も高く、次いで「勤務時間・勤務場所の条件が良い」が 58.4%となっています。

性別では、女性で「職場の雰囲気が良い」「勤務時間・勤務場所の条件が良い」「育児や介護への理解や制度が整っている」について、男性と比べてそれぞれ 28.5 ポイント、23.2 ポイント、29.9 ポイント高くなっています。一方、男性では「能力本位で実績が評価される」「業種に将来性がある」について、女性と比べてそれぞれ 8.0 ポイント、13.9 ポイント高くなっています。





## 性別・年齢別比較

女性で「勤務時間・勤務場所の条件が良い」「職場の雰囲気が良い」がいずれの年代も上位であり、特に20～50歳代では7割前後と高くなっています。なお、20歳代の女性、男性ともに「給与の条件が良い」が6割を超えており、他の年代と比べても高くなっています。

	専門知識が生かせる	性格・能力が適している	仕事にやりがいがある	能力本位で実績が評価される	業種に将来性がある	給与の条件が良い	勤務時間・勤務場所の条件が良い	職場の雰囲気が良い	育児や介護への理解や制度が整っている	その他	不明・無回答
(単位: %)											
<b>【年齢別・女性】</b>											
20歳代(N=61)	18.0	54.1	50.8	9.8	9.8	62.3	70.5	75.4	52.5	1.6	3.3
30歳代(N=106)	24.5	46.2	46.2	10.4	4.7	48.1	77.4	76.4	62.3	0.9	0.0
40歳代(N=103)	25.2	45.6	53.4	12.6	9.7	41.7	74.8	68.0	52.4	1.9	2.9
50歳代(N=103)	26.2	54.4	49.5	3.9	12.6	42.7	73.8	71.8	35.9	0.0	1.9
60歳代(N=89)	22.5	41.6	43.8	6.7	3.4	21.3	64.0	58.4	34.8	2.2	2.2
70歳以上(N=56)	25.0	37.5	60.7	3.6	12.5	30.4	57.1	60.7	25.0	0.0	1.8
<b>【年齢別・男性】</b>											
20歳代(N=55)	30.9	43.6	65.5	16.4	25.5	60.0	45.5	52.7	9.1	1.8	0.0
30歳代(N=60)	21.7	36.7	53.3	26.7	35.0	55.0	46.7	43.3	25.0	1.7	1.7
40歳代(N=68)	25.0	47.1	69.1	14.7	20.6	47.1	36.8	47.1	10.3	1.5	1.5
50歳代(N=85)	29.4	43.5	57.6	15.3	23.5	45.9	40.0	42.4	11.8	1.2	0.0
60歳代(N=72)	22.2	44.4	58.3	8.3	8.3	38.9	44.4	44.4	15.3	0.0	5.6
70歳以上(N=51)	25.5	33.3	47.1	17.6	25.5	29.4	43.1	47.1	23.5	2.0	5.9

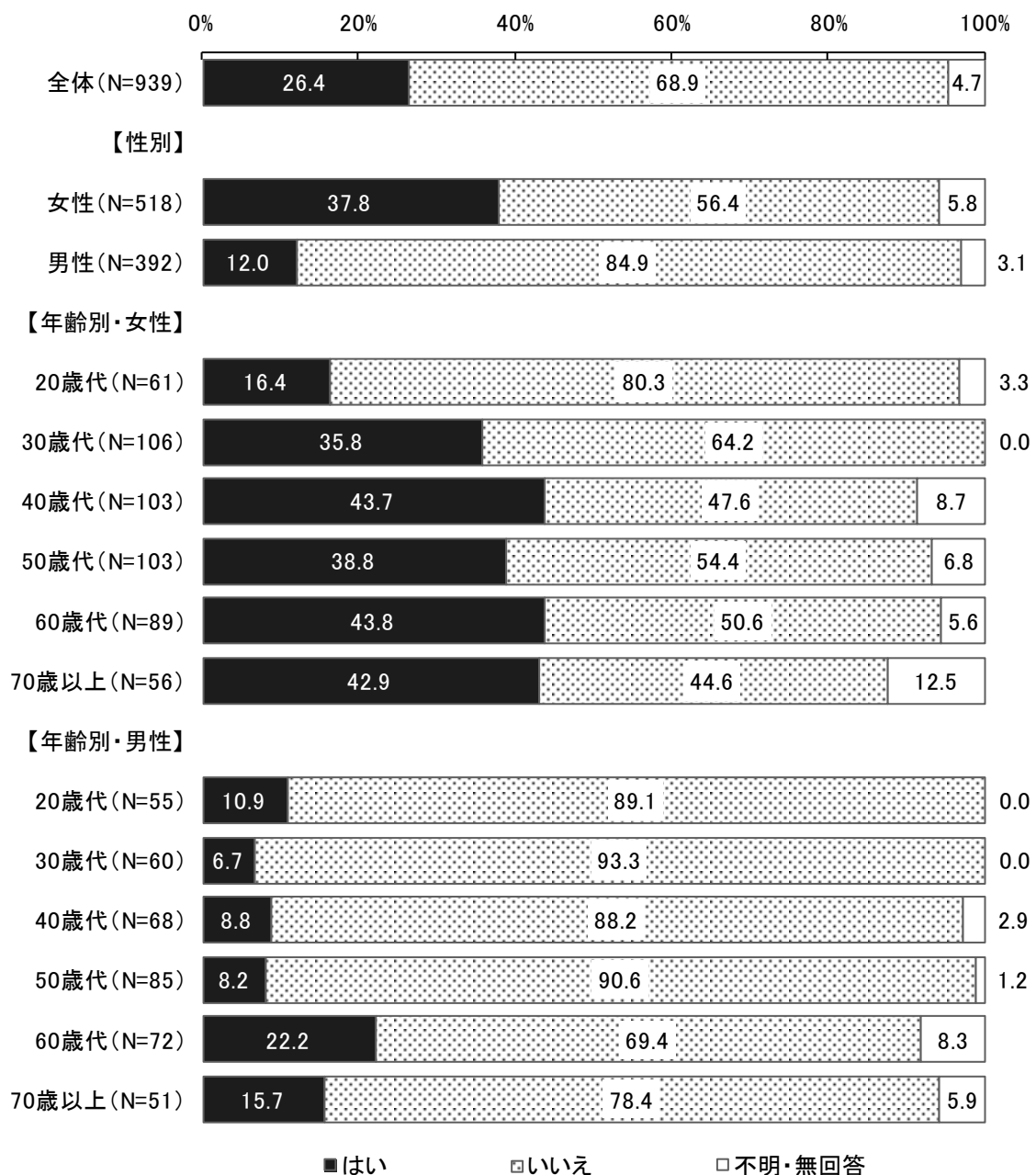
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問 12 あなたは、働きたいけれど、仕事をやめざるを得なかったことはありますか。(単数回答)

働きたいけれど、仕事をやめざるを得なかったことの有無は、全体で「はい」が26.4%、「いいえ」が68.9%となっています。

性別では、「はい」が女性で37.8%と、男性と比べて25.8ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、女性の30歳以上で「はい」が3割以上と高くなっています。

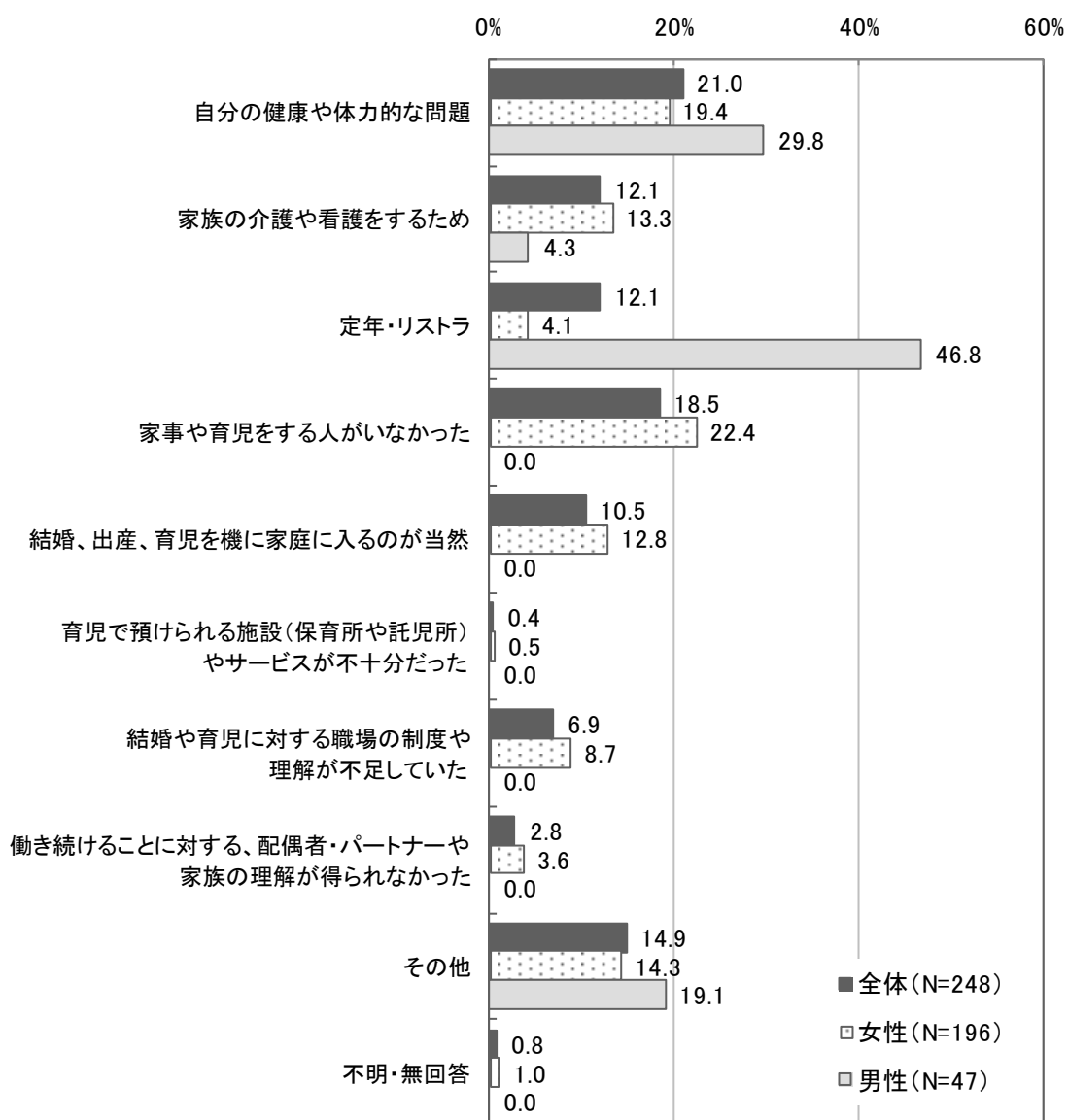


【問12で「はい」と回答した方のみ】

問12-1 仕事をやめざるを得なかった理由の一番は何ですか。(単数回答)

仕事をやめざるを得なかった一番の理由は、全体で「自分の健康や体力的な問題」が21.0%と最も高く、次いで「家事や育児をする人がいなかった」が18.5%となっています。

性別では、女性は「家族の介護や看護をするため」「家事や育児をする人がいなかった」「結婚、出産、育児を機に家庭に入るのが当然」「結婚や育児に対する職場の制度や理解が不足していた」で、男性と比べて高くなっています。男性は「自分の健康や体力的な問題」「定年・リストラ」で、女性と比べて高くなっています。



## 性別・年齢別比較

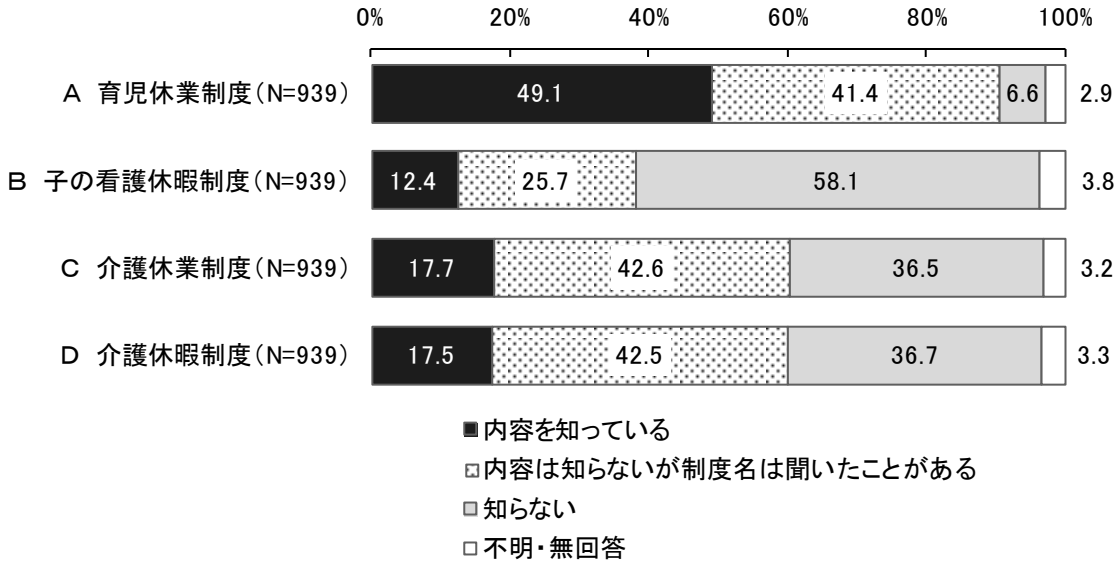
女性の20歳代で「自分の健康や体力的な問題」が50.0%と高く、30歳以降においても一定割合みられます。また、女性の各年代で「結婚、出産、育児を機に家庭に入るのが当然」の理由も一定割合みられます。

(単位: %)	自分の健康や体力的な問題	家族の介護や看護をするため	定年・リストラ	家事や育児をする人がいなかった	結婚、出産、育児を機に家庭に入るのが当然	育児で預けられる施設(保育所や託児所)やサービスが不十分だった	結婚や育児に対する職場の制度や理解が不足していた	働き続けることに対する、配偶者・パートナーや家族の理解が得られなかった	その他	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>										
20歳代(N=10)	50.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	20.0	0.0
30歳代(N=38)	21.1	2.6	5.3	26.3	10.5	2.6	13.2	0.0	18.4	0.0
40歳代(N=45)	17.8	8.9	0.0	26.7	11.1	0.0	13.3	6.7	15.6	0.0
50歳代(N=40)	15.0	12.5	5.0	25.0	12.5	0.0	7.5	7.5	12.5	2.5
60歳代(N=39)	17.9	30.8	5.1	20.5	12.8	0.0	2.6	2.6	5.1	2.6
70歳以上(N=24)	16.7	16.7	8.3	12.5	20.8	0.0	4.2	0.0	20.8	0.0
<b>【年齢別・男性】</b>										
20歳代(N=6)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
30歳代(N=4)	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
40歳代(N=6)	0.0	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
50歳代(N=7)	71.4	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
60歳代(N=16)	37.5	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
70歳以上(N=8)	0.0	12.5	87.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

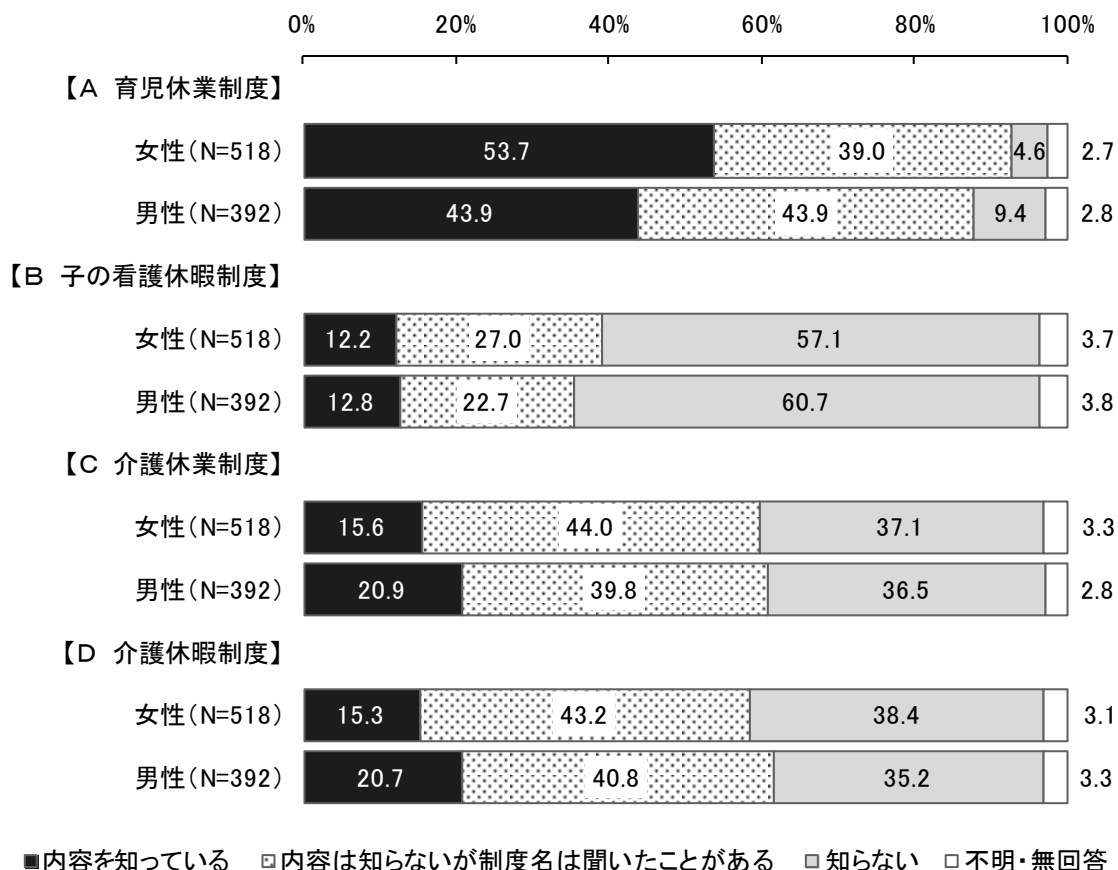
問 13 次にあげる、仕事と家庭生活を両立するための制度を知っていますか。(単数回答)

仕事と家庭生活を両立するための制度の認知度については、「A 育児休業制度」で「内容を知っている」が49.1%と高いものの、「B 子の看護休暇制度」については「知らない」が58.1%となっています。「C 介護休業制度」「D 介護休暇制度」はいずれも「内容を知っている」が2割を下回っており、「知らない」が3割を超えています。



## 性別比較

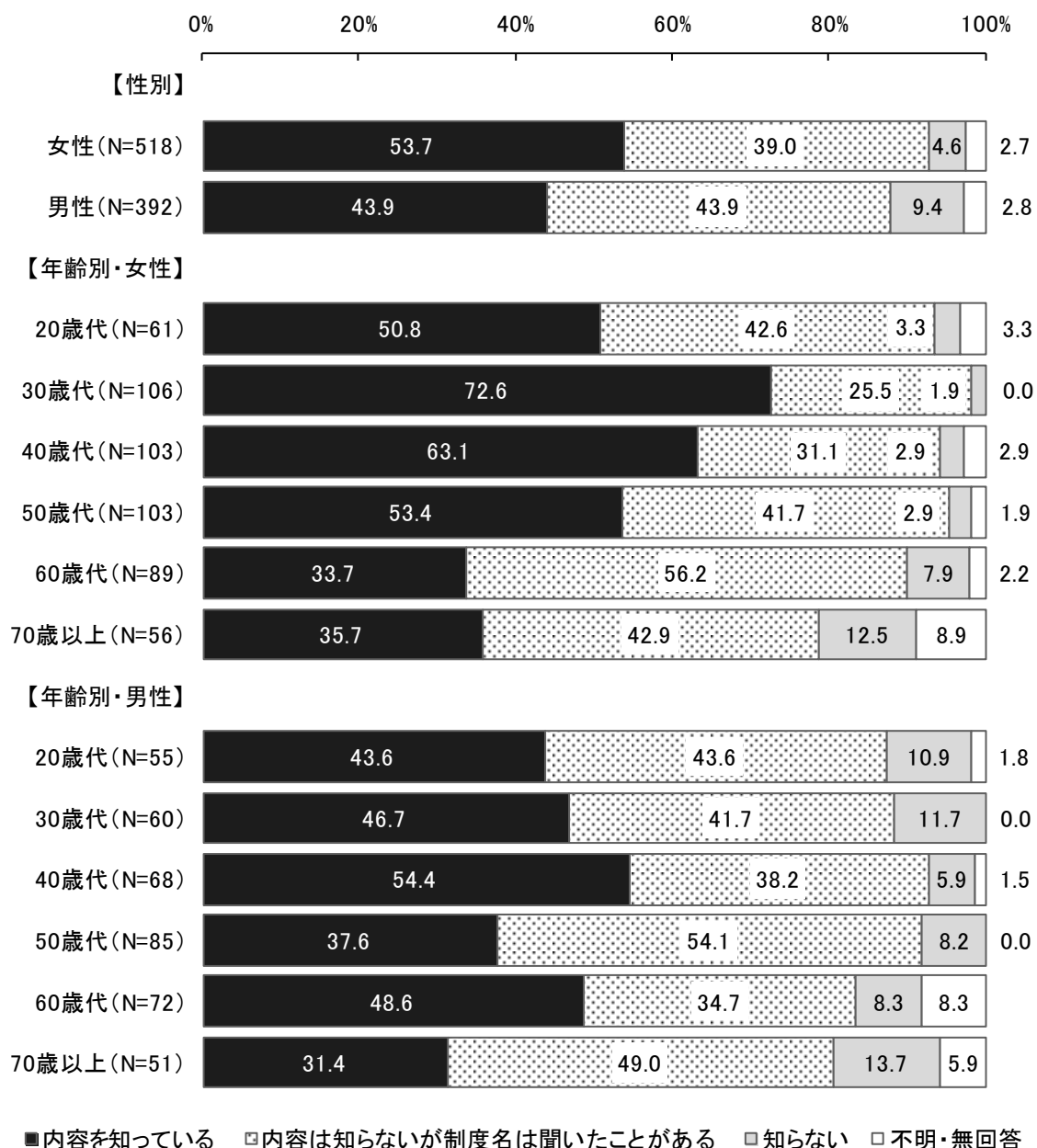
女性と男性で最も差が大きい項目は「A 育児休業制度」であり、「内容を知っている」は女性で53.7%、男性で43.9%と、女性は男性と比べて9.8ポイント高くなっています。「C 介護休業制度」「D 介護休暇制度」はいずれも「内容を知っている」が、男性は女性と比べて高くなっています。



## 項目別集計結果

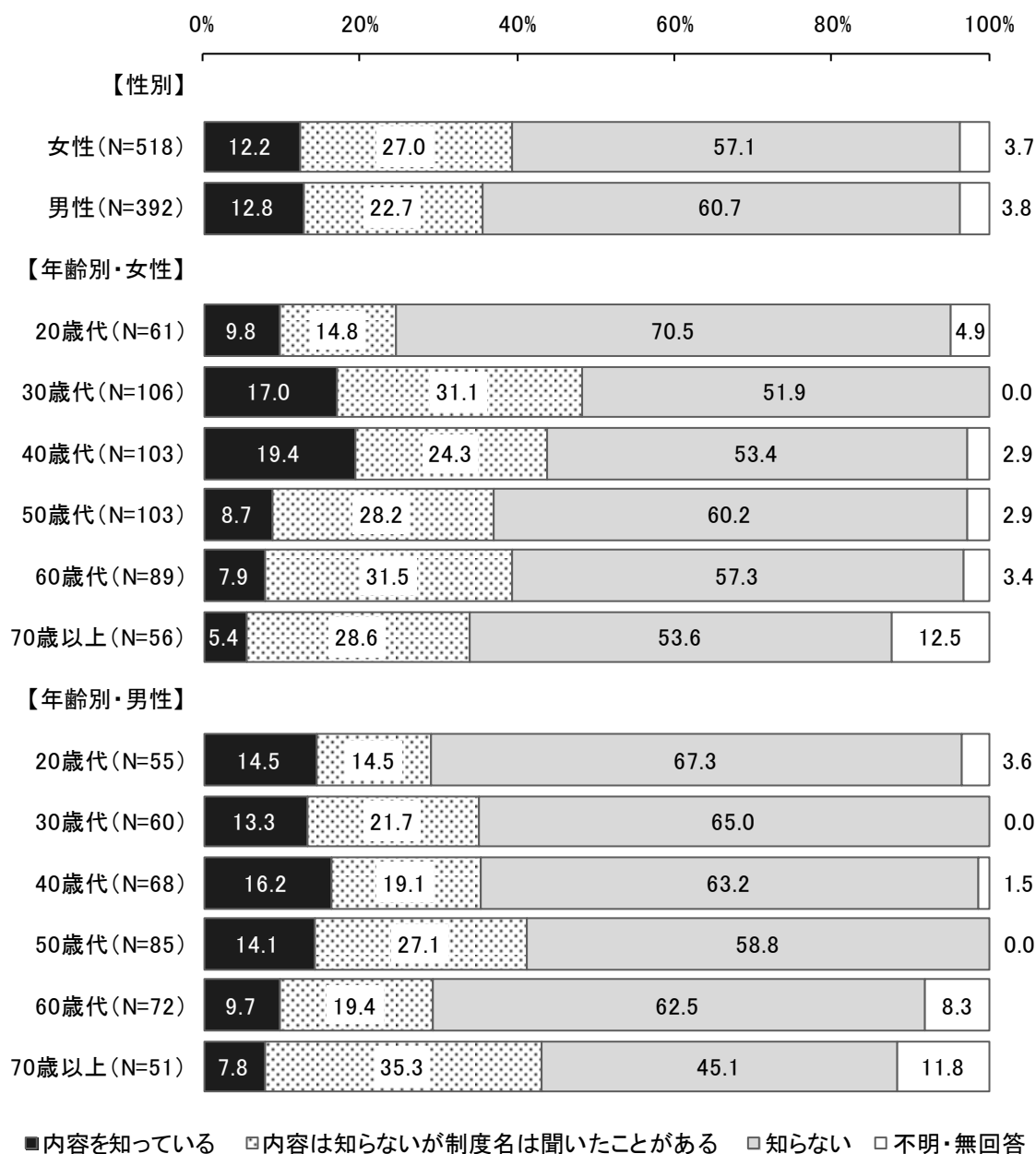
### 【A 育児休業制度】

「育児休業制度」の認知度は、女性の20～50歳代及び男性の40歳代で「内容を知っている」が5割を超えて高くなっています。なお、50歳代以下で「知らない」が女性で数パーセント、男性で1割前後、いずれの年代でもみられます。



## 【B 子の看護休暇制度】

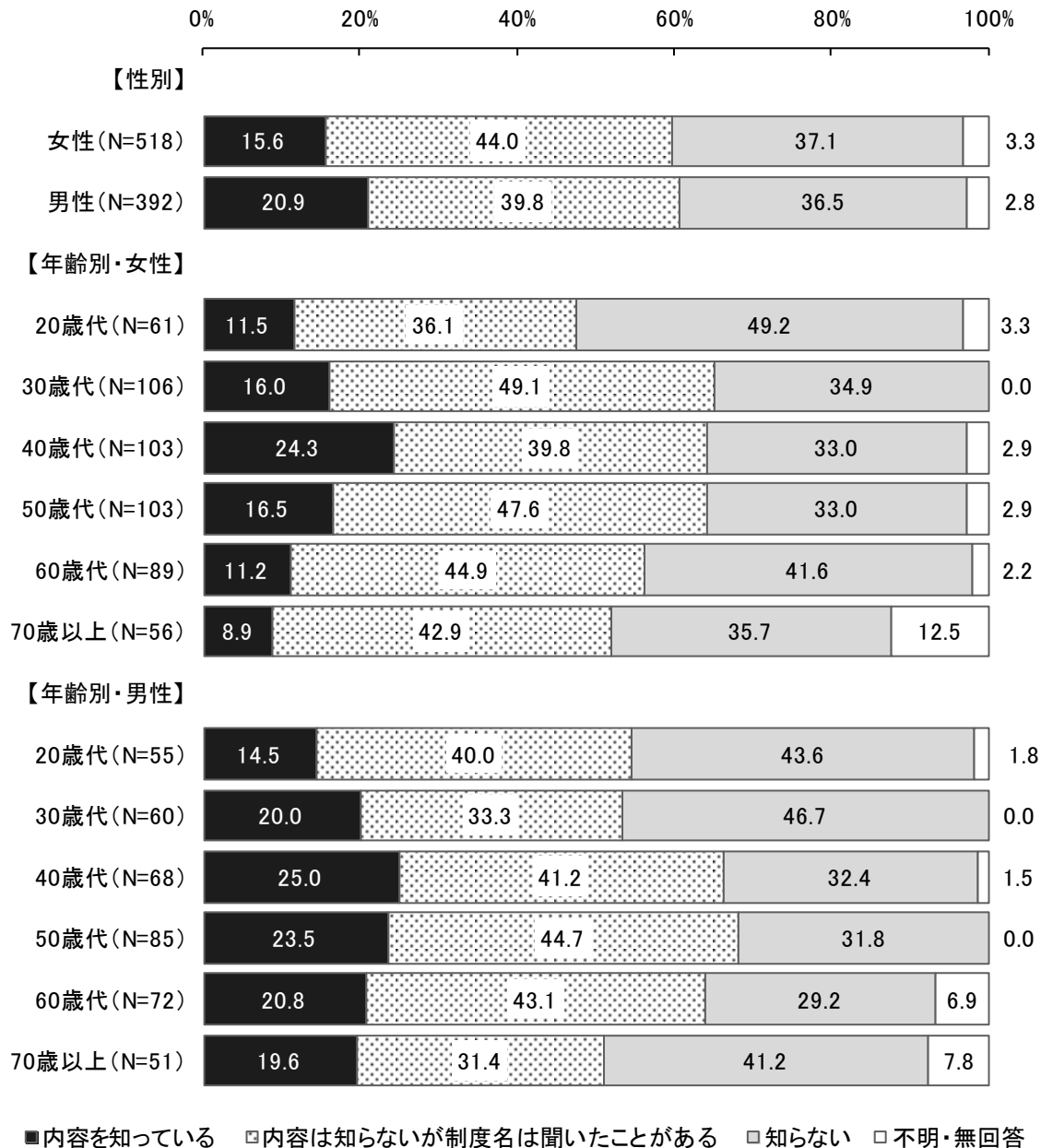
「子の看護休暇制度」の認知度は、女性の30～40歳代及び男性の50歳代以下で「内容を知っている」が1割を超えているものの、「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」を含めても全体的に5割満たず、認知度が低い状況にあります。なお、50歳代以下で「知らない」が女性で5～7割強、男性で6割前後、いずれの年代でもみられます。





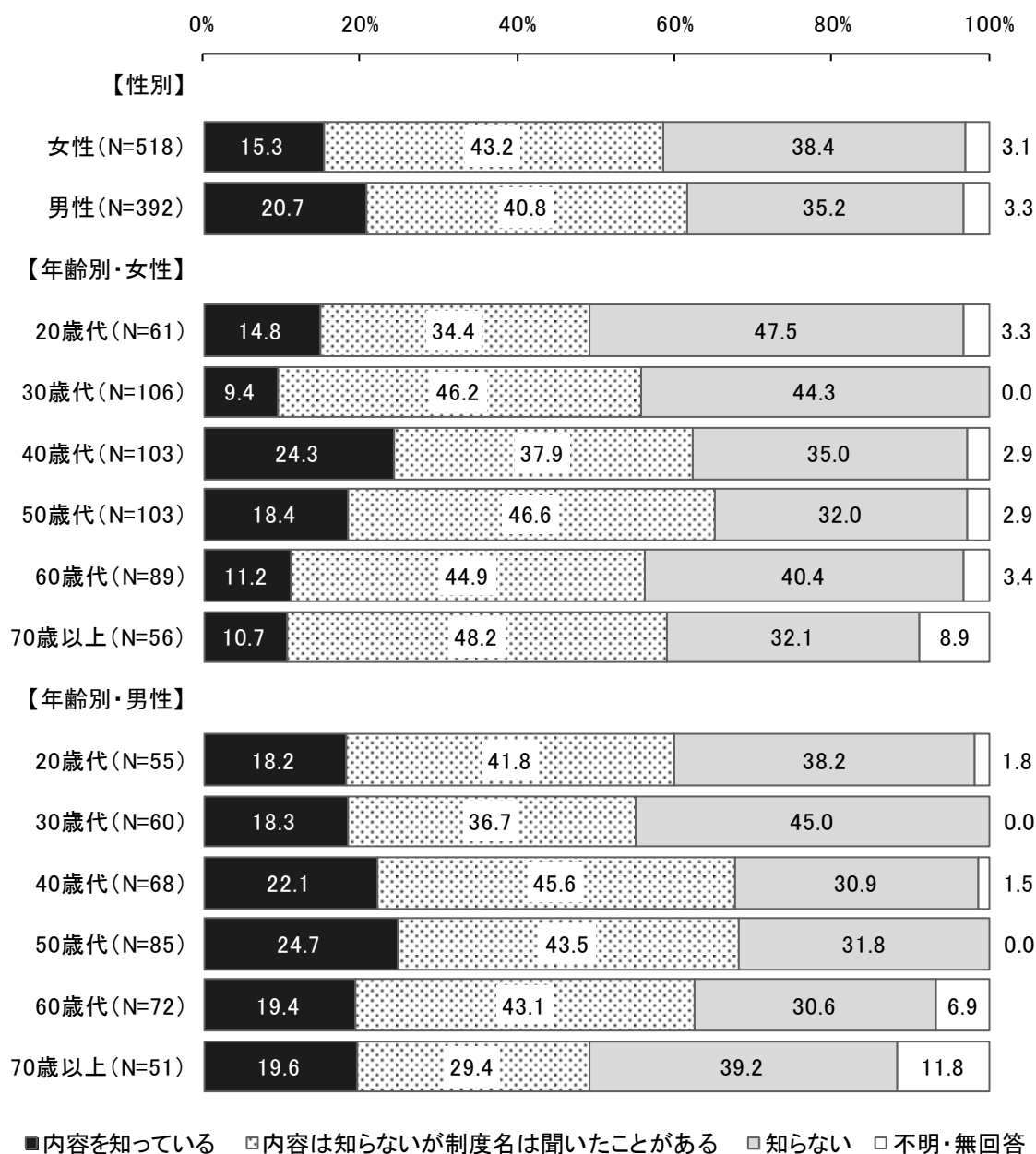
## 【C 介護休業制度】

「介護休業制度」の認知度は、女性の40歳代及び男性の30～60歳代で「内容を知っている」が2割を超えているものの、「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」を含めても全体的に5～7割弱にとどまっています。なお、「知らない」が男性の60歳代を除いた性別・年代で3割を超えており、女性の20歳代では49.2%と高くなっています。



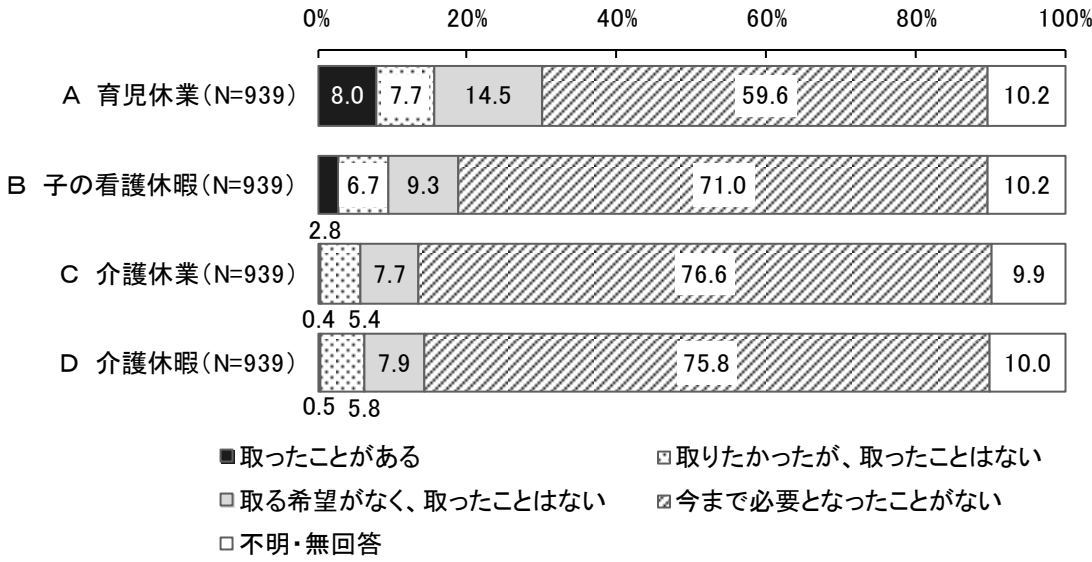
## 【D 介護休暇制度】

「介護休暇制度」の認知度は、女性の40歳代及び男性の40～50歳代で「内容を知っている」が2割を超えているものの、「内容は知らないが制度名は聞いたことがある」を含めても全体的に5～7割弱にとどまっています。なお、「知らない」が女性の20～30歳代、60歳代及び男性の30歳代で4割を超えており、女性の20歳代では47.5%と高くなっています。



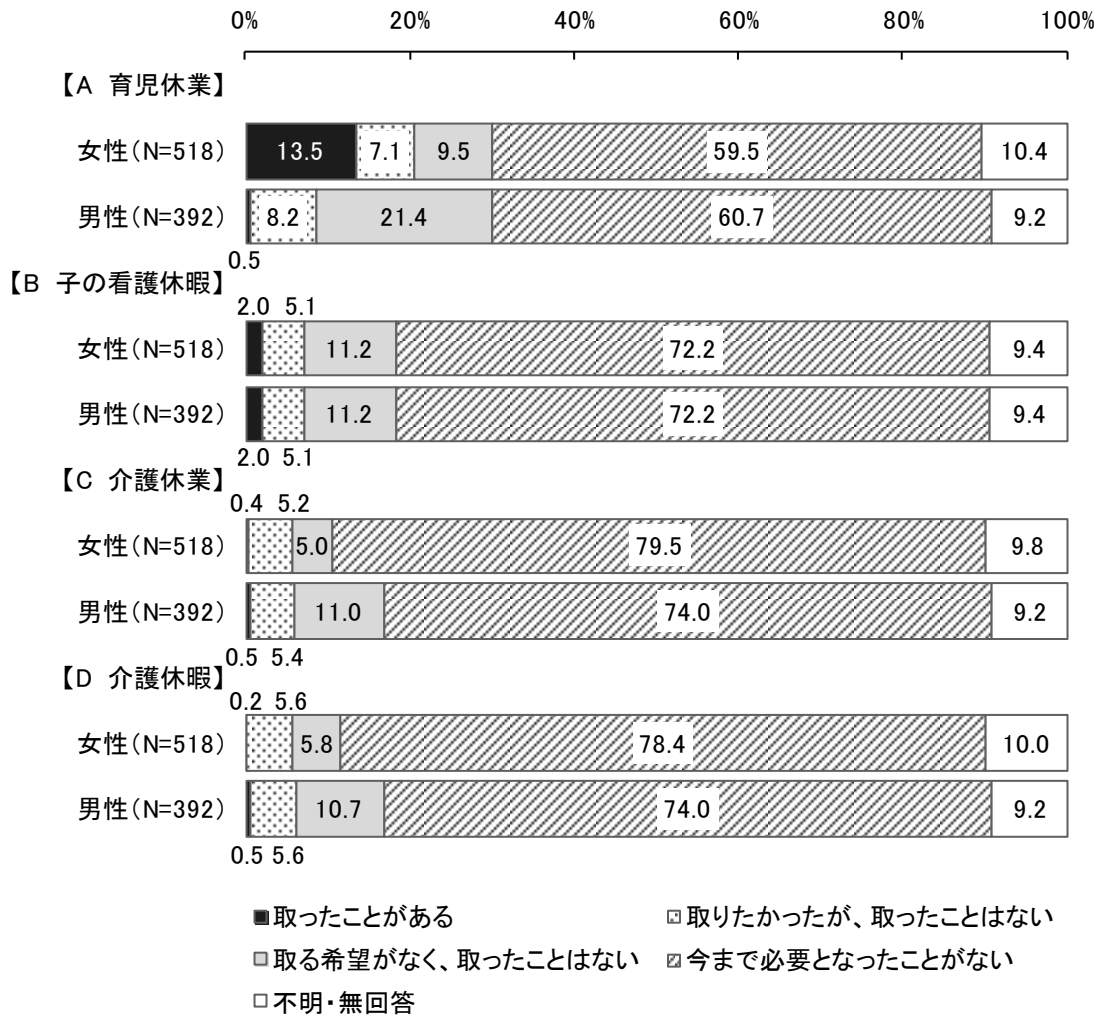
問 14 あなたは、職場で以下のような制度を使って休暇等を取ったことがありますか。複数のお子さんがある場合、直近の状況でお答えください。(単数回答)

職場において各種制度を使った休暇等の取得の有無については、「取ったことがある」が「A 育児休業」で 8.0%と4制度のうちでは高いものの、「B 子の看護休暇制度」は 2.8%、「C 介護休業制度」は 0.4%、「D 介護休暇制度」は 0.5%にとどまっています。



## 性別比較

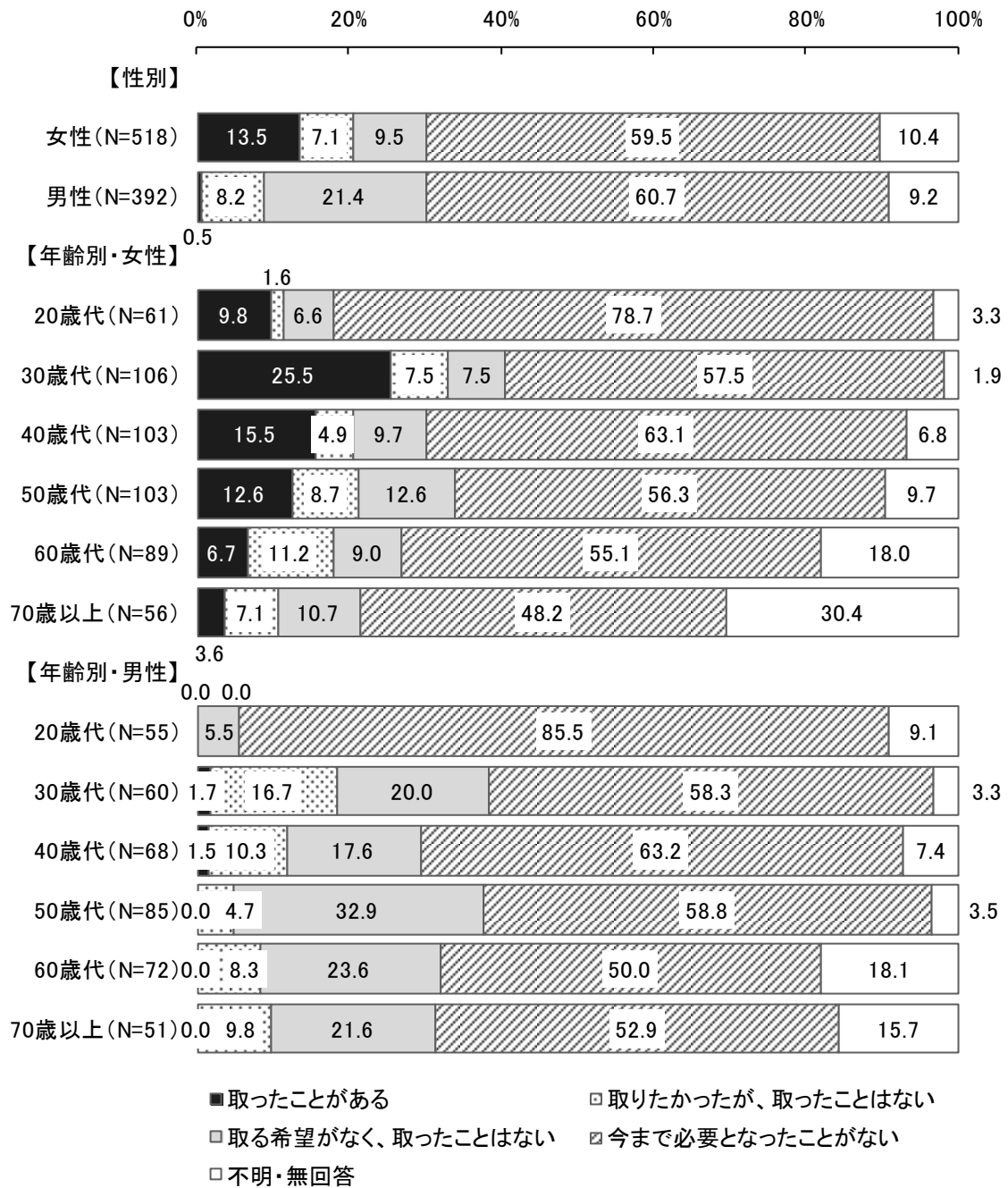
女性と男性で最も差が大きい項目は「A 育児休業制度」であり、「取ったことがある」は男性で 0.5%と、女性と比べて 13.0 ポイント低くなっています。なお、「取る希望がなく、取ったことはない」についても男性で 21.4%と、女性と比べて 11.9 ポイント高く、差が大きくなっています。



項目別集計結果

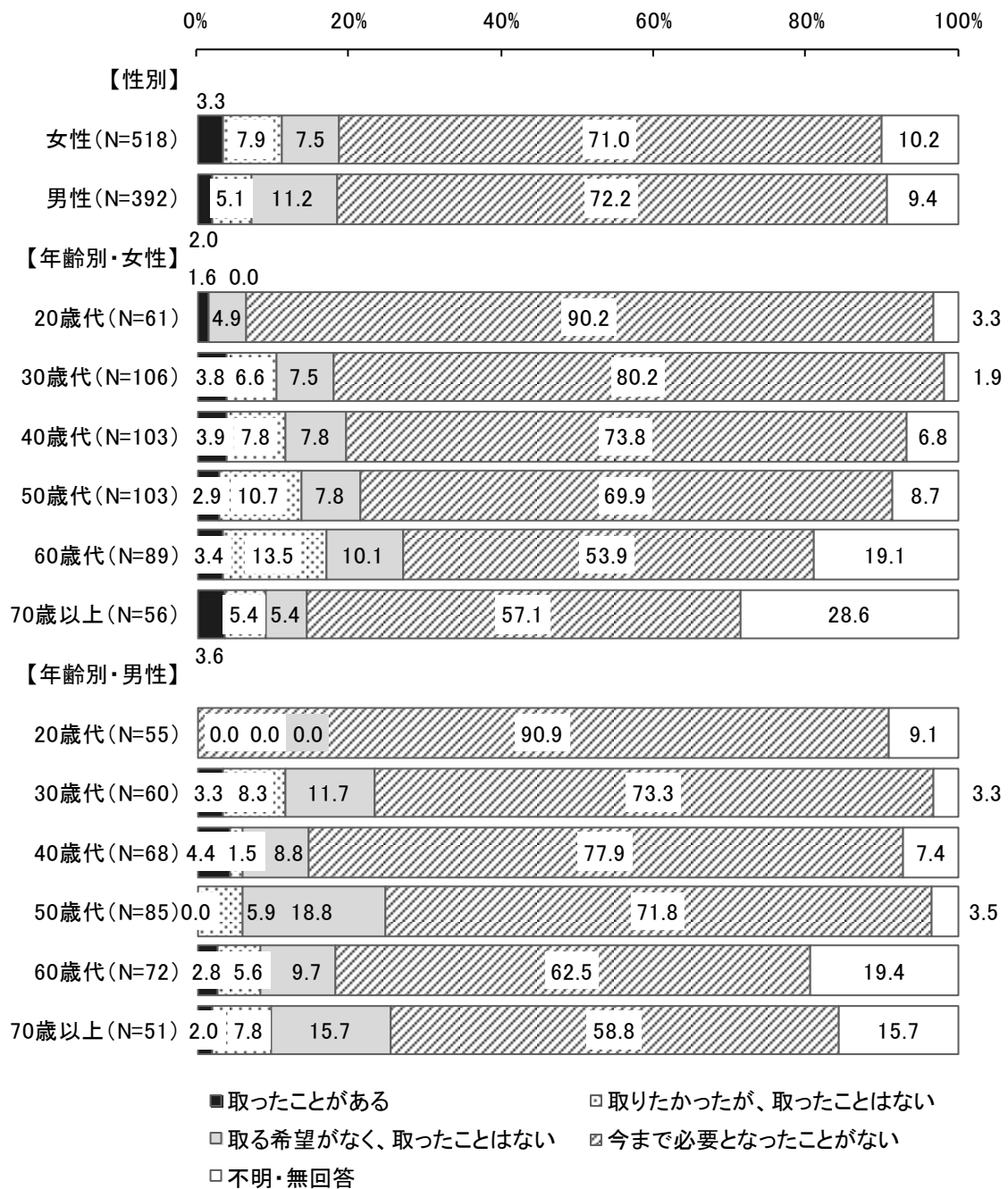
【A 育児休業】

「育児休業」の取得状況は、男性の20歳代で「取ったことがある」「取りたかったが、取ったことはない」がいずれも0.0%となっています。なお、50歳以上の男性では、「取ったことがある」は0.0%となっています。



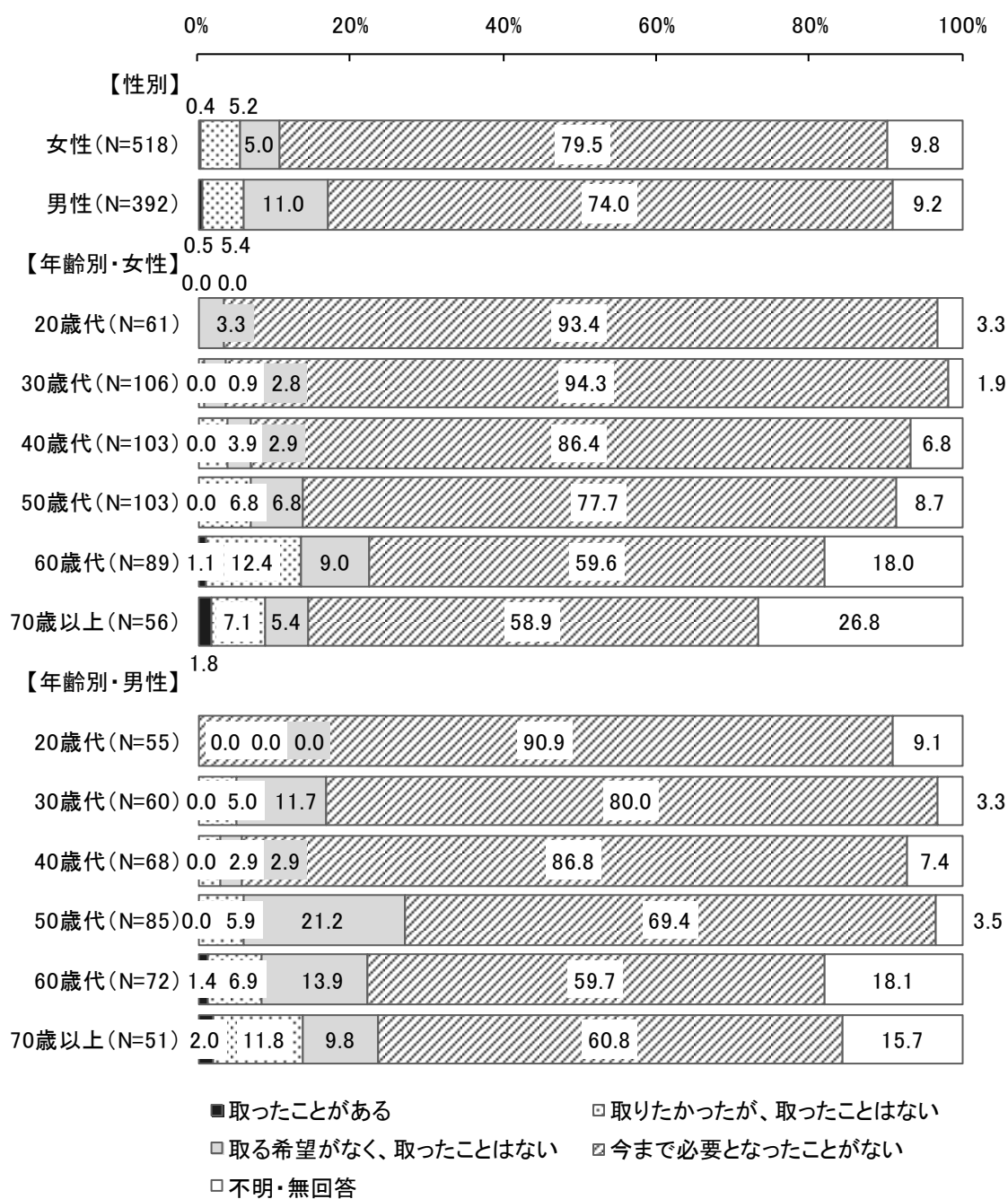
## 【B 子の看護休暇】

「子の看護休暇」の取得状況は、女性の「取ったことがある」はいずれの年代も数パーセントにとどまっています。



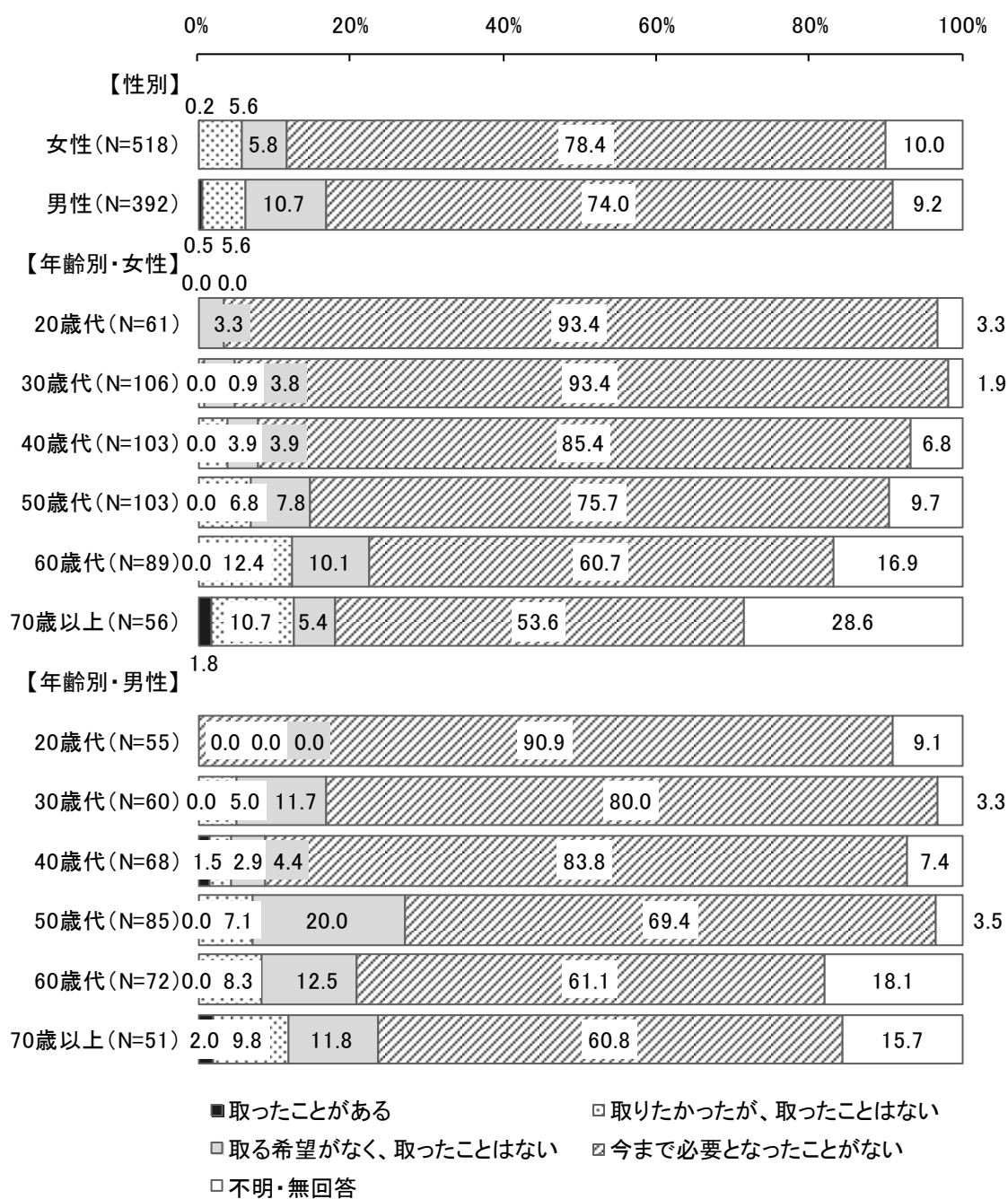
## 【C 介護休業】

「介護休業」の取得状況は、50歳代以下では女性、男性のいずれの年代も「取ったことがある」は0.0%となっており、60歳代以上でも数パーセントにとどまっています。



## 【D 介護休暇】

「介護休暇」の取得状況は、「取ったことがある」は女性の70歳以上及び男性の40歳代、70歳以上で数パーセントにとどまっています。



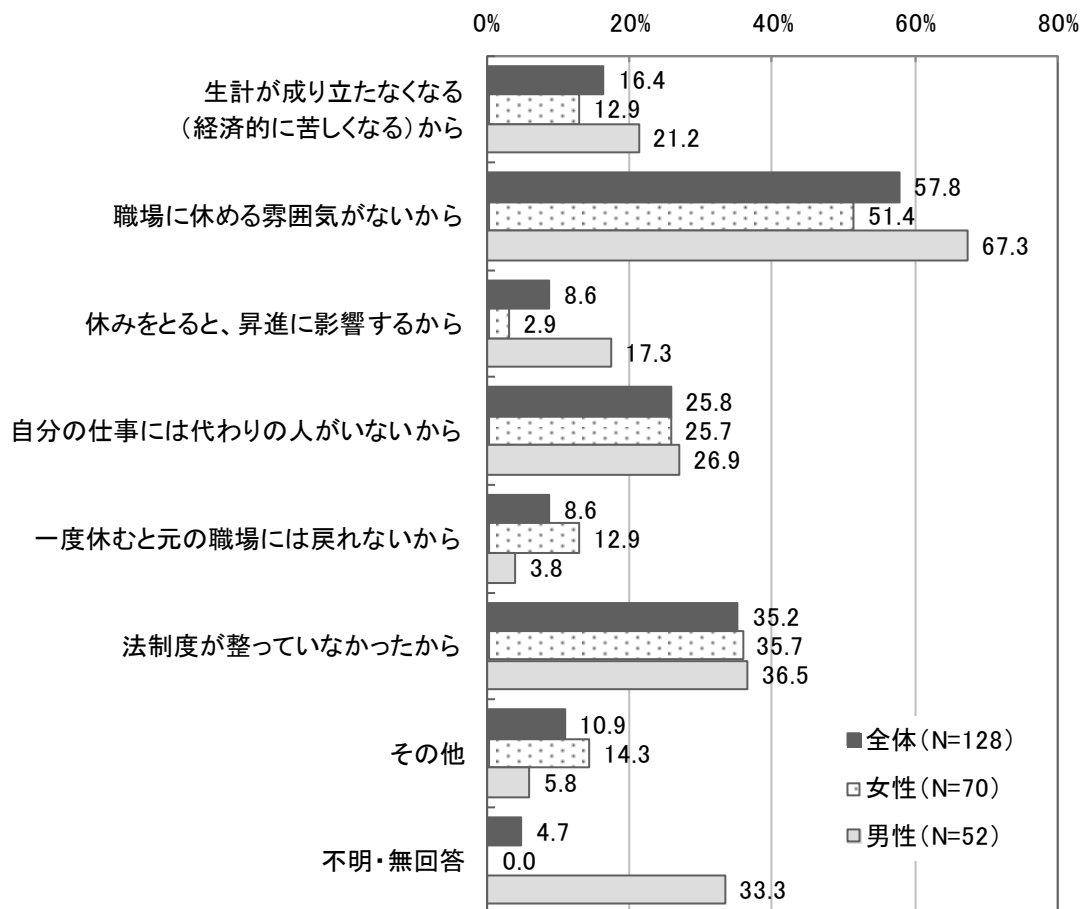


【問 14 の A～D のいずれかで「取りたかったが、取ったことはない」と回答した方のみ】

問 14-1 取得することができなかった理由について、あなたの考えに近いものを選んでください。  
(複数回答)

取りたかったが、取ったことはない理由は、全体で「職場に休める雰囲気がないから」が 57.8%と最も高く、次いで「法制度が整っていなかったから」が 35.2%となっています。

性別では、男性で「生計が成り立たなくなる（経済的に苦しくなる）から」「職場に休める雰囲気がないから」「休みをとると、昇進に影響するから」という理由が、男女差が大きくなっています。女性では「一度休むと元の職場には戻れないから」という理由が、男女差が大きくなっています



## 性別・年齢別比較

女性の30～40歳代、男性の30歳代で「職場に休める雰囲気がないから」「自分の仕事には代わりの人がいないから」という理由が上位となっています。

(単位: %)	生計が成り立たなくなる(経済的に苦しくなる)から	職場に休める雰囲気がないから	休みをとると、昇進に影響するから	自分の仕事には代わりの人がいないから	一度休むと元の職場には戻れないから	法制度が整っていなかったから	その他	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>								
30歳代(N=13)	0.0	53.8	7.7	38.5	0.0	15.4	23.1	0.0
40歳代(N=13)	7.7	76.9	0.0	46.2	7.7	30.8	15.4	7.7
50歳代(N=18)	16.7	38.9	0.0	33.3	16.7	55.6	11.1	0.0
60歳代(N=18)	22.2	50.0	5.6	5.6	16.7	22.2	16.7	5.6
70歳以上(N=7)	14.3	42.9	0.0	0.0	28.6	57.1	0.0	14.3
<b>【年齢別・男性】</b>								
30歳代(N=12)	41.7	91.7	33.3	50.0	8.3	16.7	0.0	0.0
40歳代(N=8)	0.0	50.0	0.0	12.5	12.5	37.5	25.0	0.0
50歳代(N=9)	22.2	55.6	11.1	11.1	0.0	33.3	0.0	11.1
60歳代(N=13)	23.1	84.6	23.1	38.5	0.0	46.2	7.7	0.0
70歳以上(N=9)	11.1	44.4	11.1	11.1	0.0	44.4	0.0	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

※20歳代について、女性は回答者1名、男性は回答者なしであったため、掲載していません。

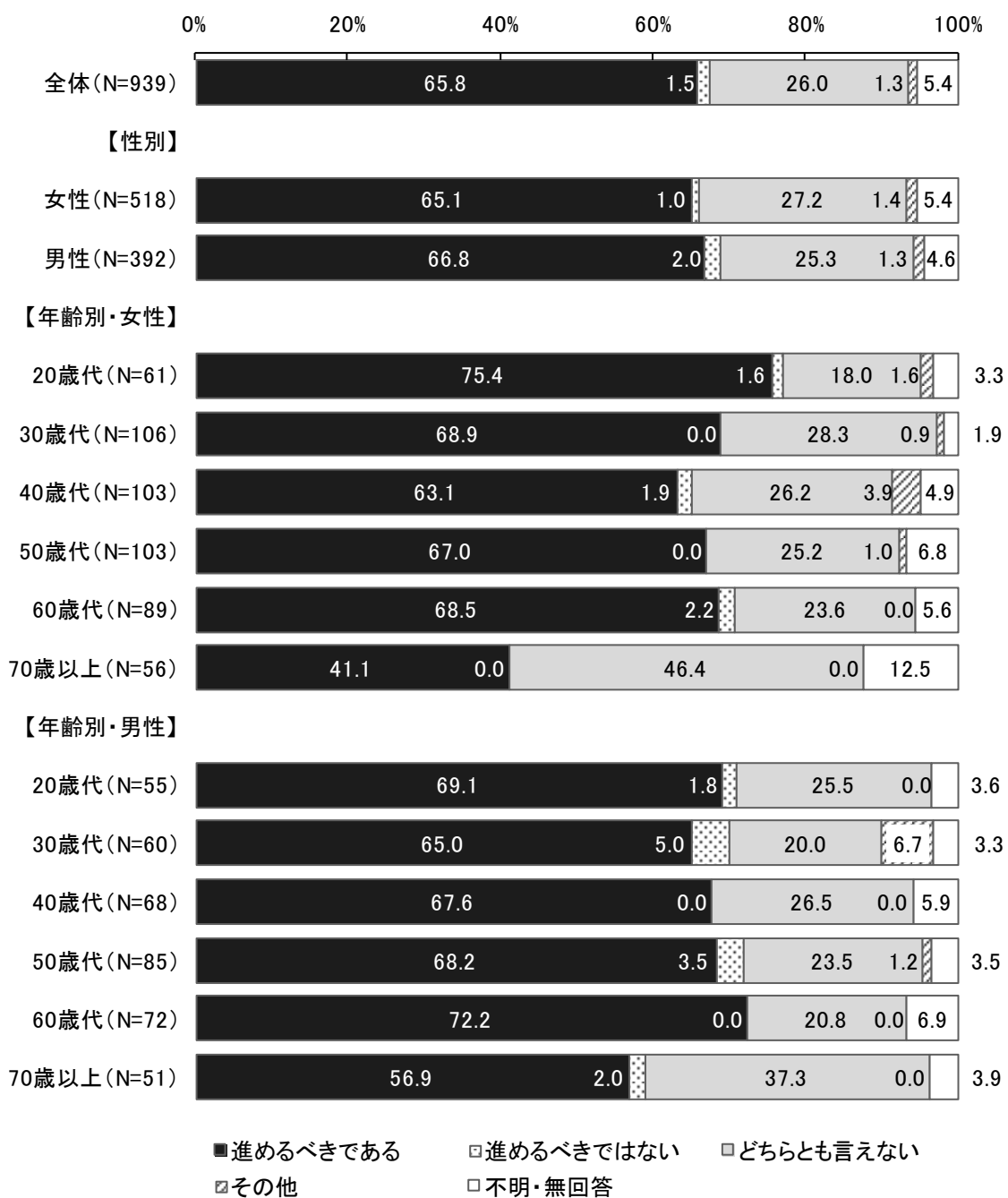
※回答者(N)が10件未満の年代については、順位の表記はしていません。

問 15 男性が育児や介護のための休業制度をとることを社会的に進めることについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(単数回答)

男性が育児や介護のための休業制度をとることを社会的に進めることについては、全体で「進めるべきである」が65.8%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」が26.0%となっています。

性別では、「進めるべきである」が女性で65.1%、男性で66.8%と、大差はみられません。

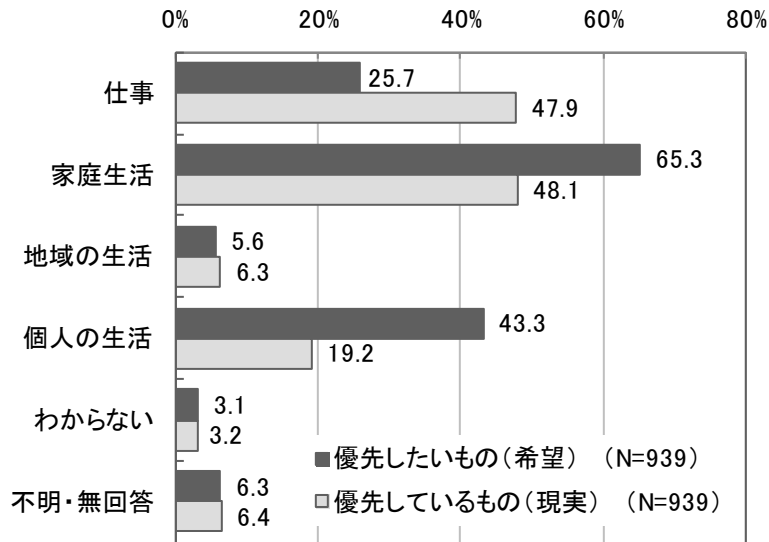
性別・年齢別では、「進めるべきである」が60歳代以下では女性、男性のいずれも7割前後となっています。なお、男性の30歳代及び50歳代で「進めるべきではない」が5.0%、3.5%と他の年代と比べて高くなっています。



**問 16 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」などについて、優先させたいものの希望と現実を教えてください。(単数回答)**

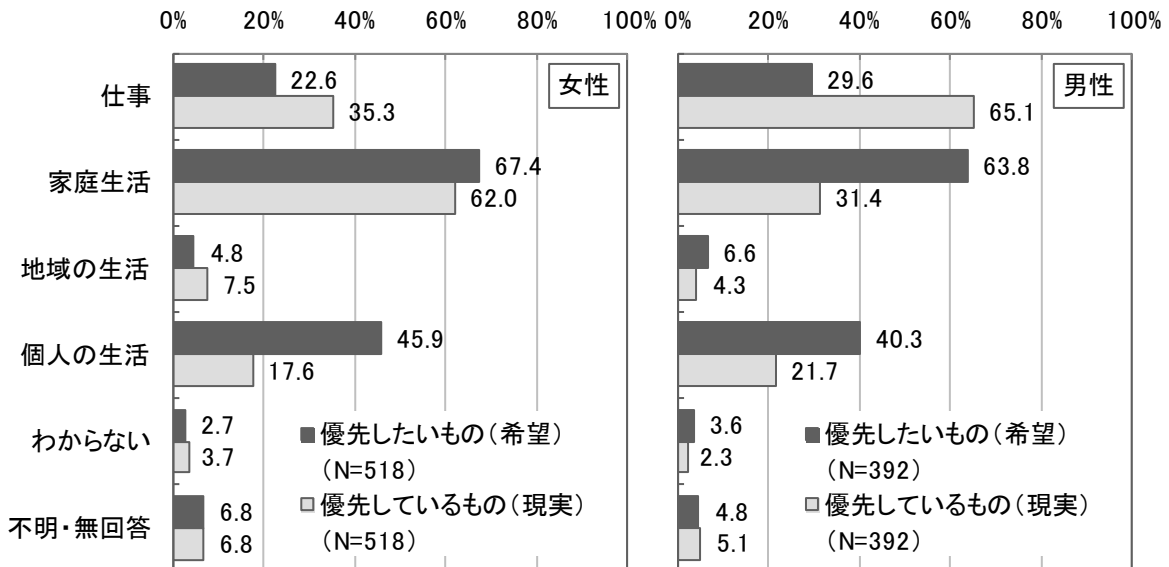
生活の中で優先させたいものの希望と現実とは、全体で「優先したいもの(希望)」は、「家庭生活」で65.3%と最も高く、次いで「個人の生活」が43.3%となっています。「優先しているもの(現実)」は、「家庭生活」で48.1%と最も高く、次いで「仕事」が47.9%となっています。

なお、「優先したいもの(希望)」と「優先しているもの(現実)」の差が大きい項目は、「個人の生活」で24.1ポイント、「仕事」が22.2ポイント、「家庭生活」が17.2ポイントとなっています。



**性別比較**

性別で見ると、「優先したいもの(希望)」と「優先しているもの(現実)」の差が大きい項目は、女性で「個人の生活」が28.3ポイント、「仕事」で12.7ポイント、男性で「仕事」が35.5ポイント、「家庭生活」が32.4ポイント、「個人の生活」が18.6ポイントとなっています。



## 項目別集計結果

### 【A 優先したいもの（希望）】

「優先したいもの（希望）」は、「家庭生活」「個人の生活」がいずれも上位となっているものの、男性の60歳代以上では「家庭生活」に次いで「仕事」が上位となっています。また、男性の20歳代では「個人の生活」が最も高くなっています。

(単位: %)	仕事	家庭生活	地域の生活	個人の生活	わからない	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>						
20歳代(N=61)	21.3	55.7	0.0	50.8	4.9	4.9
30歳代(N=106)	21.7	80.2	0.9	55.7	1.9	1.9
40歳代(N=103)	25.2	72.8	9.7	48.5	1.0	4.9
50歳代(N=103)	23.3	68.0	2.9	48.5	2.9	7.8
60歳代(N=89)	23.6	65.2	6.7	34.8	3.4	9.0
70歳以上(N=56)	17.9	48.2	8.9	30.4	3.6	16.1
<b>【年齢別・男性】</b>						
20歳代(N=55)	29.1	41.8	0.0	61.8	7.3	7.3
30歳代(N=60)	28.3	78.3	1.7	38.3	0.0	3.3
40歳代(N=68)	29.4	60.3	4.4	45.6	1.5	5.9
50歳代(N=85)	23.5	68.2	5.9	37.6	2.4	3.5
60歳代(N=72)	31.9	65.3	12.5	29.2	5.6	5.6
70歳以上(N=51)	37.3	64.7	15.7	33.3	5.9	3.9

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

### 【B 優先しているもの（現実）】

「優先しているもの（現実）」は、「仕事」「家庭生活」がいずれも上位となっているものの、男性の20歳代では「仕事」に次いで「個人の生」が上位となっています。

(単位: %)	仕事	家庭生活	地域の生活	個人の生活	わからない	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>						
20歳代(N=61)	57.4	29.5	1.6	23.0	8.2	3.3
30歳代(N=106)	36.8	70.8	6.6	17.0	2.8	1.9
40歳代(N=103)	35.0	68.0	11.7	20.4	2.9	4.9
50歳代(N=103)	39.8	69.9	5.8	18.4	1.0	6.8
60歳代(N=89)	23.6	62.9	10.1	10.1	4.5	10.1
70歳以上(N=56)	19.6	53.6	7.1	17.9	5.4	17.9
<b>【年齢別・男性】</b>						
20歳代(N=55)	60.0	9.1	0.0	38.2	5.5	7.3
30歳代(N=60)	83.3	30.0	0.0	11.7	0.0	3.3
40歳代(N=68)	77.9	27.9	0.0	17.6	1.5	5.9
50歳代(N=85)	76.5	27.1	1.2	11.8	1.2	3.5
60歳代(N=72)	50.0	44.4	12.5	26.4	2.8	6.9
70歳以上(N=51)	33.3	51.0	13.7	31.4	3.9	3.9

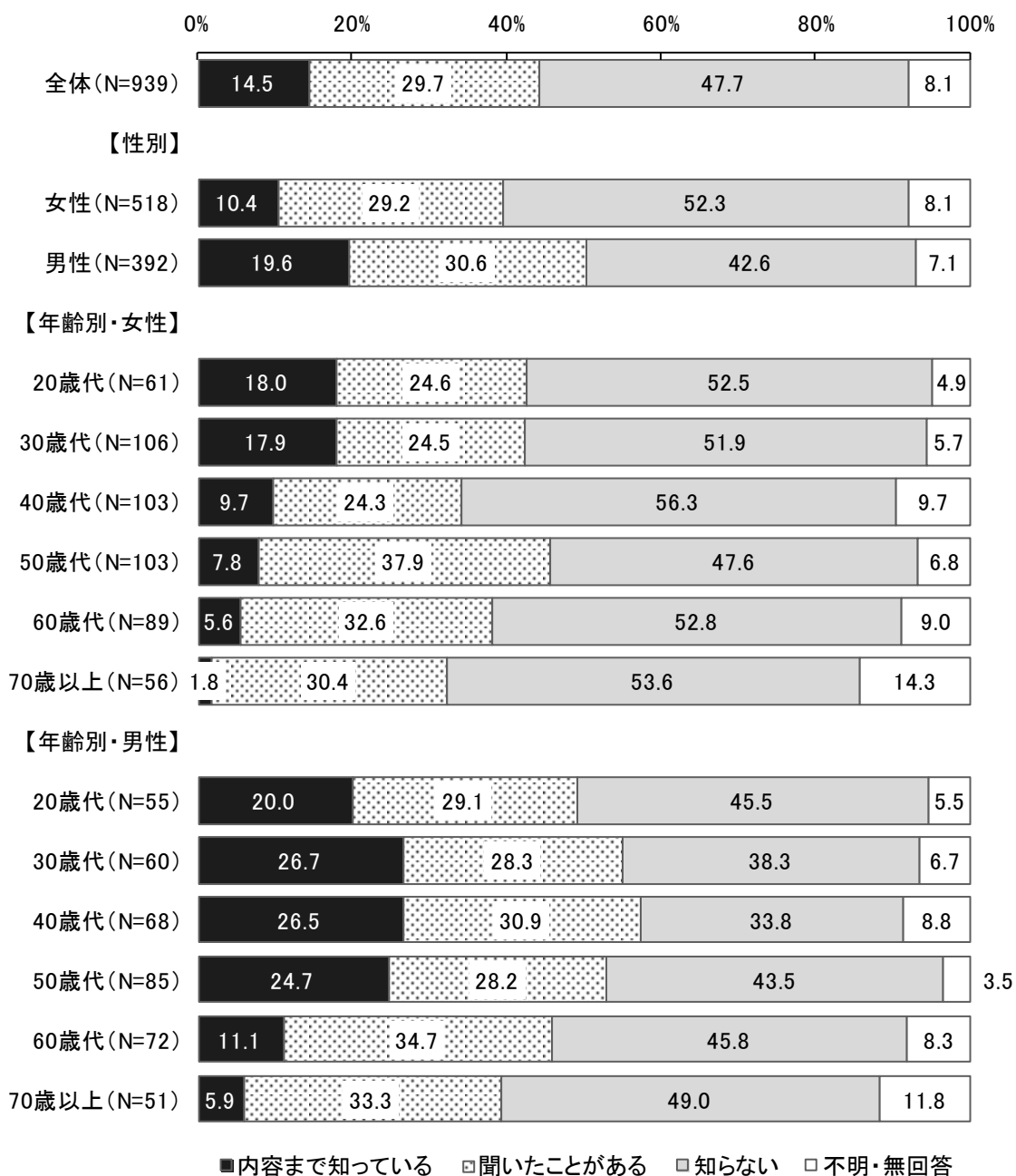
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問17 ワーク・ライフ・バランスという言葉についておたずねします。(単数回答)

ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度は、全体で「知らない」が47.7%と最も高く、次いで「聞いたことがある」が29.7%となっており、「内容まで知っている」は14.5%にとどまっています。

性別では、「内容まで知っている」が女性で10.4%と、男性と比べて9.2ポイント低くなっています。

性別・年齢別では、男性の50歳以下で「内容まで知っている」が2割以上に対し、女性の50歳以下では20歳代の18.0%が最も高く、「知らない」が5割前後となっています。



問 18 あなたご自身のワーク・ライフ・バランス実現のための努力の状況について教えてください。  
(単数回答)

問 18 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

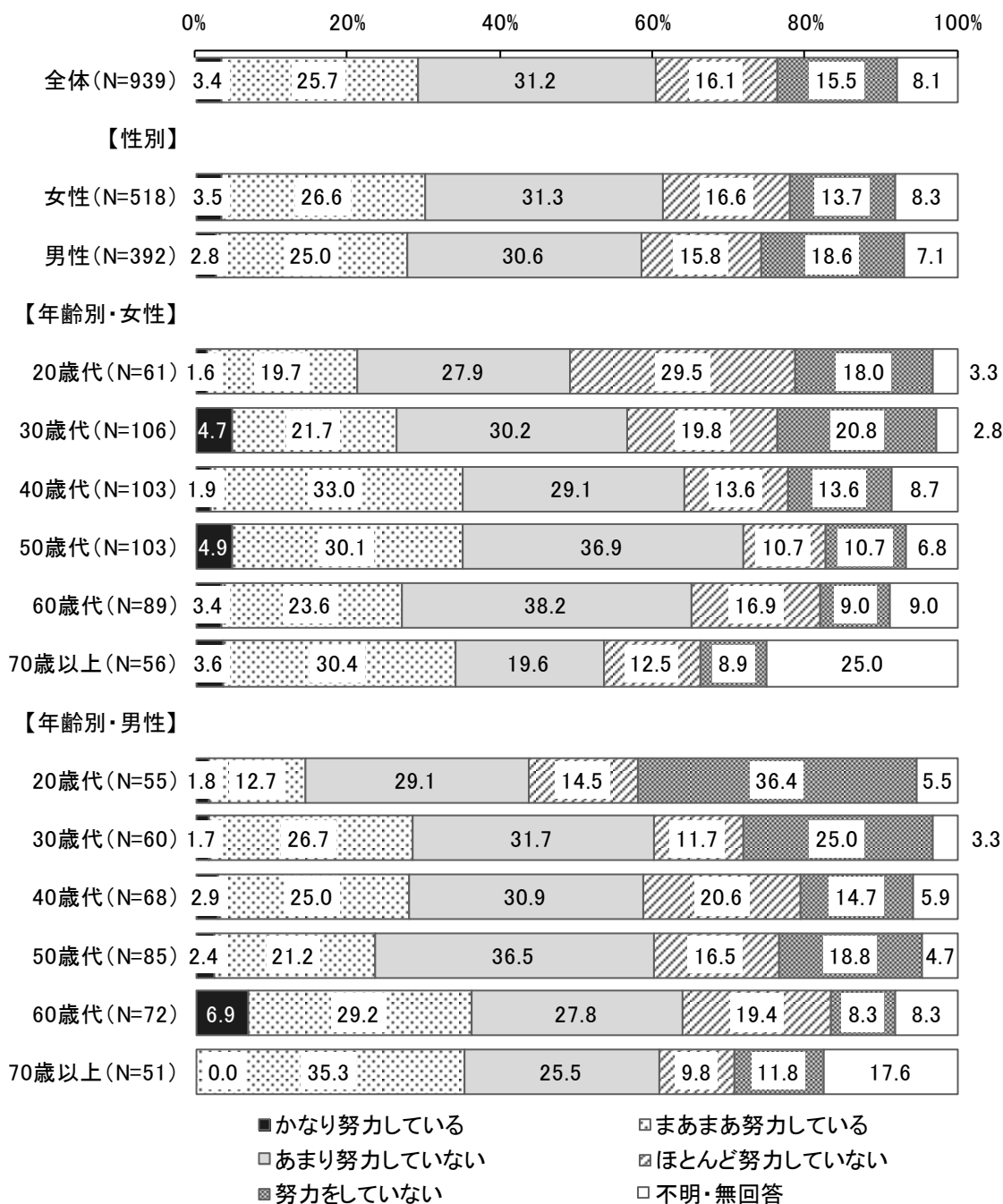
『努力している』…「かなり努力している」と「まあまあ努力している」を合算

『努力していない』…「あまり努力していない」と「ほとんど努力していない」と「努力をしていない」を合算

自身のワーク・ライフ・バランス実現のための努力の状況は、全体で『努力している』が 29.1%、『努力していない』が 62.8%となっています。

性別では、『努力している』が女性で 30.1%と、女性は男性と比べて 2.3 ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、『努力している』が男性の 20 歳代の 14.5%を除いて、いずれも 2～3 割強となっています。なお、女性の 20～30 歳代、男性の 20 歳代、50 歳代では『努力していない』が 7 割を超えて高くなっています。



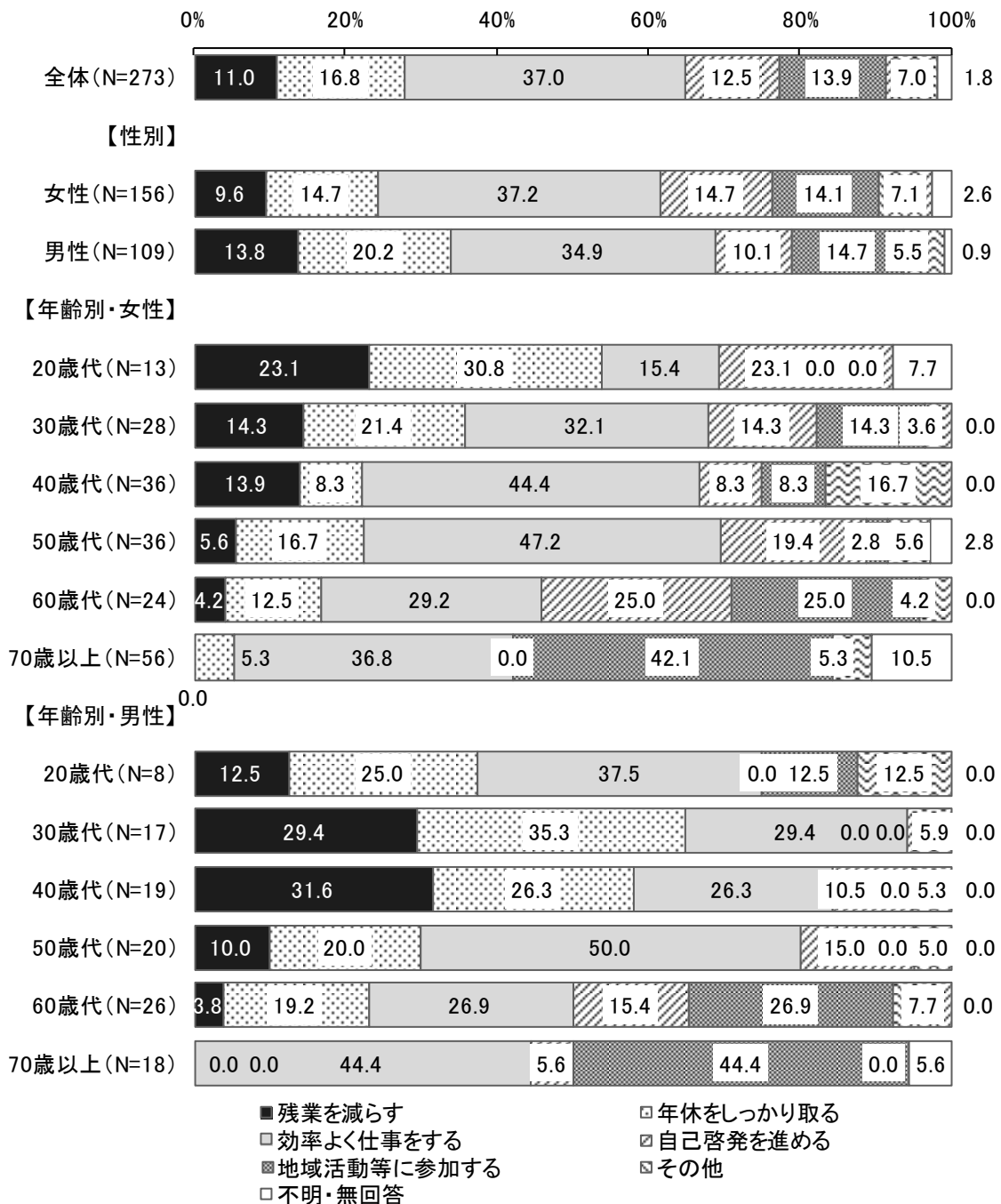
【問18で「1 かなり努力している」または「2 まあまあ努力している」と回答した方のみ】

問18-1 あなたがワーク・ライフ・バランス実現のためにやっていることをお答えください。(単数回答)

ワーク・ライフ・バランス実現のためにやっていることは、全体で「効率よく仕事をする」が37.0%と最も高く、次いで「年休をしっかり取る」が16.8%となっています。

性別では、男性で「年休をしっかり取る」が20.2%と、女性と比べて5.5ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、男性の30～40歳代で「残業を減らす」が3割前後と高くなっています。

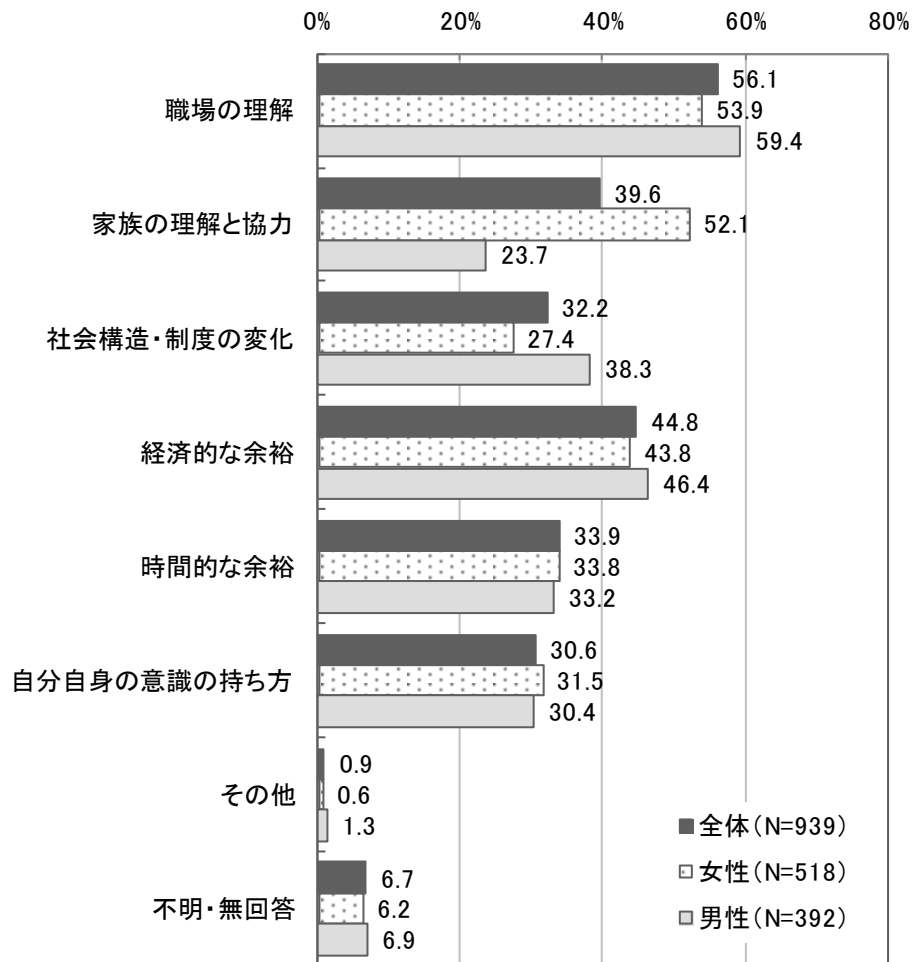




問19 ワーク・ライフ・バランス実現のために必要だと思うものをお答えください。(複数回答)

ワーク・ライフ・バランス実現のために必要だと思うものは、全体で「職場の理解」が56.1%と最も高く、次いで「経済的な余裕」が44.8%となっています。

性別では、「家族の理解と協力」で女性が52.1%と、男性と比べて28.4ポイント高く、「社会構造・制度の変化」では女性が27.4%と、男性と比べて10.9ポイント低くなっており、項目によっては男女差が明確となっています。



## 性別・年齢別比較

女性の20歳代は「職場の理解」「経済的な余裕」が、30～50歳代は「職場の理解」「家族の理解と協力」が、60歳代以上では「家族の理解と協力」「自分自身の意識の持ち方」がそれぞれ上位となっており、年代観の差がでています。また、男性の60歳以下で「職場の理解」が、70歳以上で「自分自身の意識の持ち方」が、それぞれ最も高くなっています。

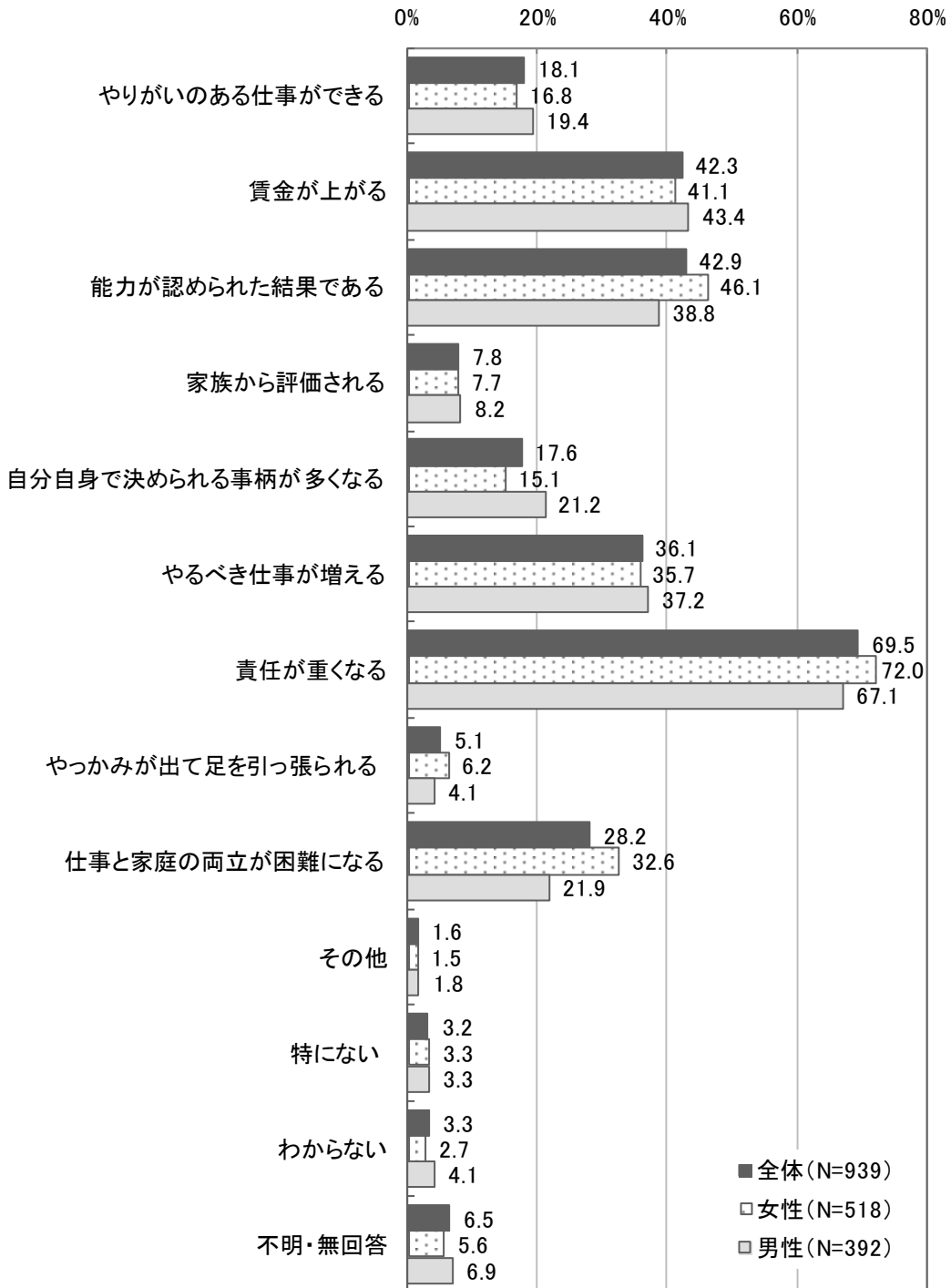
	職場の理解	家族の理解と協力	社会構造・制度の変化	経済的な余裕	時間的な余裕	自分自身の意識の持ち方	その他	不明・無回答
(単位:%)								
<b>【年齢別・女性】</b>								
20歳代(N=61)	73.8	36.1	39.3	57.4	29.5	26.2	0.0	1.6
30歳代(N=106)	71.7	56.6	33.0	52.8	38.7	18.9	0.0	0.9
40歳代(N=103)	54.4	47.6	27.2	40.8	41.7	30.1	1.9	7.8
50歳代(N=103)	47.6	54.4	31.1	43.7	31.1	35.0	0.0	5.8
60歳代(N=89)	39.3	59.6	16.9	37.1	33.7	40.4	1.1	6.7
70歳以上(N=56)	32.1	53.6	14.3	28.6	19.6	42.9	0.0	17.9
<b>【年齢別・男性】</b>								
20歳代(N=55)	76.4	20.0	29.1	54.5	41.8	27.3	0.0	7.3
30歳代(N=60)	73.3	18.3	55.0	55.0	33.3	18.3	0.0	0.0
40歳代(N=68)	58.8	14.7	38.2	50.0	39.7	35.3	2.9	2.9
50歳代(N=85)	63.5	29.4	40.0	47.1	35.3	21.2	2.4	3.5
60歳代(N=72)	48.6	29.2	38.9	38.9	26.4	40.3	0.0	9.7
70歳以上(N=51)	35.3	29.4	23.5	31.4	19.6	43.1	2.0	21.6

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

問 20 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。(複数回答)

管理職以上に昇進することについては、全体で「責任が重くなる」が 69.5%と最も高く、次いで「能力が認められた結果である」が 42.9%となっています。

性別では、「仕事と家庭の両立が困難になる」で女性が 32.6%と、男性と比べて 10.7 ポイント高くなっています。



## 性別・年齢別比較

女性、男性のいずれの年代も「責任が重くなる」が最も高く、特に女性の20～30歳代では8割を超えています。なお、「仕事と家庭の両立が困難になる」は30歳代の女性で43.4%、男性で36.7%と、他の年代と比べても高くなっています。

(単位: %)	やりがいのある仕事ができる	賃金が上がる	能力が認められた結果である	家族から評価される	自分自身で決められる事柄が多くなる	やるべき仕事が増える	責任が重くなる	やっかみが出て足を引っ張られる	仕事と家庭の両立が困難になる	その他	特にない	わからない	不明・無回答
【年齢別・女性】													
20歳代(N=61)	21.3	62.3	54.1	9.8	24.6	36.1	85.2	8.2	32.8	0.0	1.6	1.6	1.6
30歳代(N=106)	20.8	54.7	47.2	7.5	17.9	49.1	82.1	4.7	43.4	0.9	0.0	2.8	0.0
40歳代(N=103)	19.4	43.7	46.6	7.8	15.5	39.8	70.9	5.8	32.0	1.9	1.9	1.9	6.8
50歳代(N=103)	10.7	36.9	47.6	7.8	15.5	33.0	73.8	7.8	33.0	2.9	1.9	1.0	5.8
60歳代(N=89)	10.1	22.5	39.3	5.6	11.2	24.7	67.4	3.4	28.1	2.2	5.6	5.6	7.9
70歳以上(N=56)	21.4	25.0	42.9	8.9	3.6	25.0	44.6	8.9	19.6	0.0	12.5	3.6	14.3
【年齢別・男性】													
20歳代(N=55)	12.7	56.4	61.8	3.6	21.8	40.0	70.9	1.8	10.9	0.0	3.6	5.5	7.3
30歳代(N=60)	23.3	50.0	41.7	11.7	25.0	45.0	78.3	5.0	36.7	0.0	5.0	3.3	0.0
40歳代(N=68)	20.6	47.1	32.4	5.9	25.0	51.5	72.1	5.9	17.6	2.9	0.0	2.9	2.9
50歳代(N=85)	17.6	40.0	24.7	8.2	16.5	35.3	75.3	2.4	22.4	4.7	2.4	1.2	4.7
60歳代(N=72)	20.8	37.5	44.4	6.9	22.2	25.0	55.6	6.9	26.4	1.4	4.2	4.2	9.7
70歳以上(N=51)	21.6	31.4	35.3	13.7	17.6	27.5	45.1	2.0	15.7	0.0	5.9	9.8	19.6

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

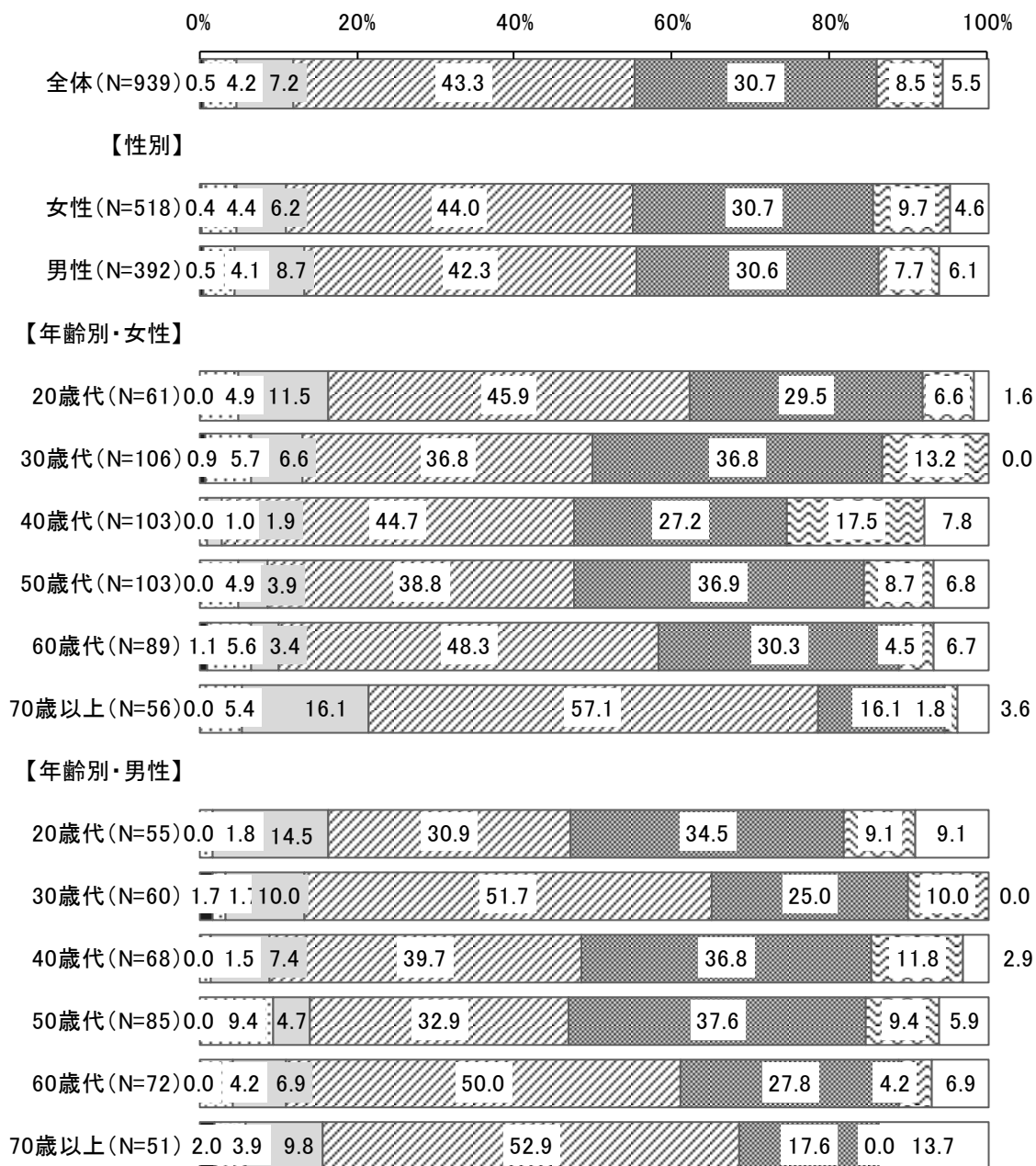
## 4 女性の活躍推進について

### 問21 あなたは女性の仕事について、どのような形が望ましいと思いますか。(単数回答)

女性の仕事について、どのような形が望ましいと思うかは、全体で「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が43.3%と最も高く、次いで「結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が30.7%となっています。

性別では、いずれの項目も大差はみられません。

性別・年齢別では、男性の20歳代、50歳代で「結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」を上回っています。なお、「女性は仕事を持たない方がよい」が女性の30歳代、60歳代及び男性の30歳代、70歳以上で数パーセント出現しています。



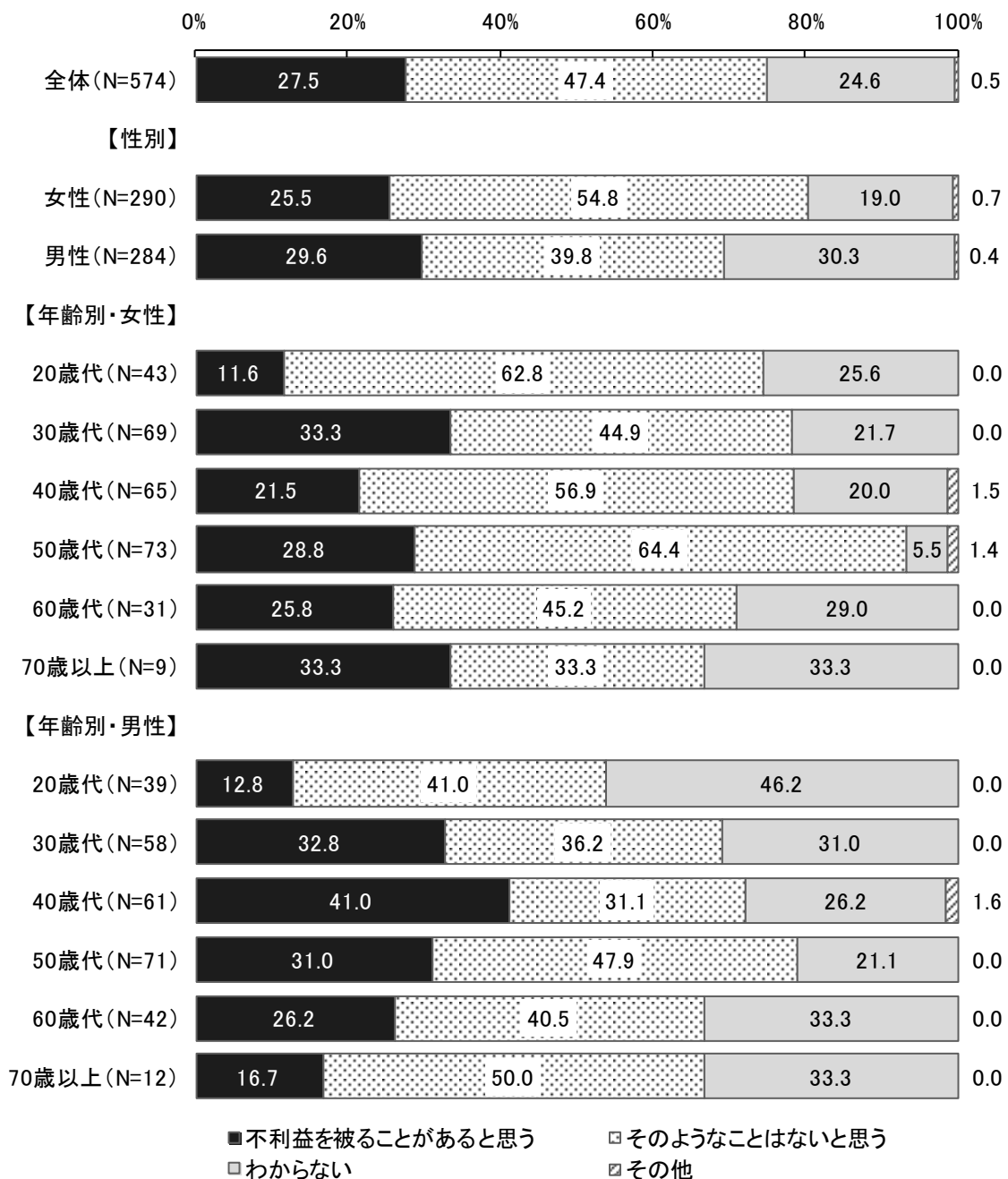
- 女性に仕事を持たない方がよい
- 結婚するまでは、仕事をする方がよい
- 子どもができるまでは、仕事をする方がよい
- 子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい
- 結婚をしても、子どもができてもしっかりと仕事を続ける方がよい
- その他
- 不明・無回答

問 22 現在働いている方におたずねします。現在の職場で、仕事内容や待遇面で女性であるという理由で男性に比べて不利益を被ることがあると思いますか。(単数回答)

現在働いている職場で、仕事内容や待遇面で女性であるという理由で男性に比べて不利益を被ることがあると思うかは、全体で「そのようなことはないと思う」が 47.4%と最も高く、次いで「不利益を被ることがあると思う」が 27.5%となっています。

性別では、「不利益を被ることがあると思う」が男性で 29.6%と、女性と比べて 4.1 ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、「不利益を被ることがあると思う」が女性の 30 歳代及び男性の 30～50 歳代で 3割を超えています。



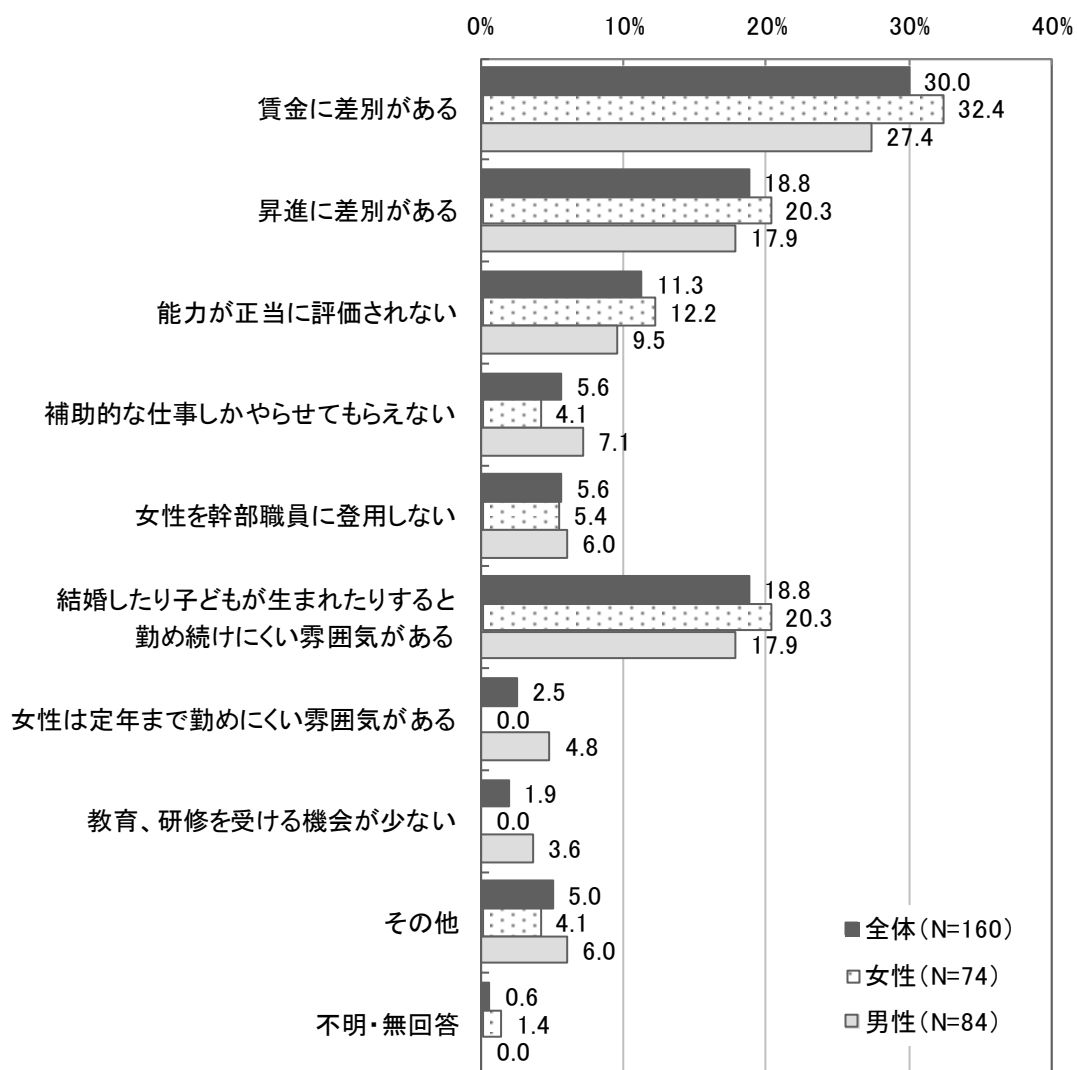
※結果が「不明・無回答」多数のため、「不明・無回答」を除いた回答者のみの結果となっています。

【問 22 で「1 不利益を被ることがあると思う」と回答した方のみ】

問 22-1 具体的にはどのようなことですか。(単数回答)

不利益を被ることがあると思う具体的な内容は、全体で「賃金に差別がある」が 30.0%と最も高く、次いで「昇進に差別がある」「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」がそれぞれ 18.8%となっています。

性別では、「賃金に差別がある」が女性で 32.4%と、男性と比べて 5.0 ポイント高くなっています。



## 性別・年齢別比較

「賃金に差別がある」が女性の30～50歳代及び男性の50～60歳代で、高くなっています。

(単位: %)	賃金に差別がある	昇進に差別がある	能力が正当に評価されない	補助的な仕事しかやらせてもらえない	女性を幹部職員に登用しない	結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある	女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある	教育、研修を受ける機会が少ない	その他	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>										
20歳代(N=5)	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0
30歳代(N=23)	30.4	26.1	4.3	0.0	4.3	30.4	0.0	0.0	4.3	0.0
40歳代(N=14)	28.6	21.4	14.3	7.1	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0
50歳代(N=21)	42.9	19.0	19.0	4.8	4.8	4.8	0.0	0.0	0.0	4.8
60歳代(N=8)	50.0	12.5	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70歳以上(N=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
<b>【年齢別・男性】</b>										
20歳代(N=5)	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0
30歳代(N=19)	21.1	26.3	10.5	5.3	15.8	10.5	5.3	0.0	5.3	0.0
40歳代(N=25)	16.0	20.0	16.0	12.0	0.0	24.0	0.0	4.0	8.0	0.0
50歳代(N=22)	31.8	22.7	4.5	9.1	4.5	13.6	4.5	4.5	4.5	0.0
60歳代(N=11)	45.5	0.0	9.1	0.0	0.0	18.2	18.2	9.1	0.0	0.0
70歳以上(N=2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

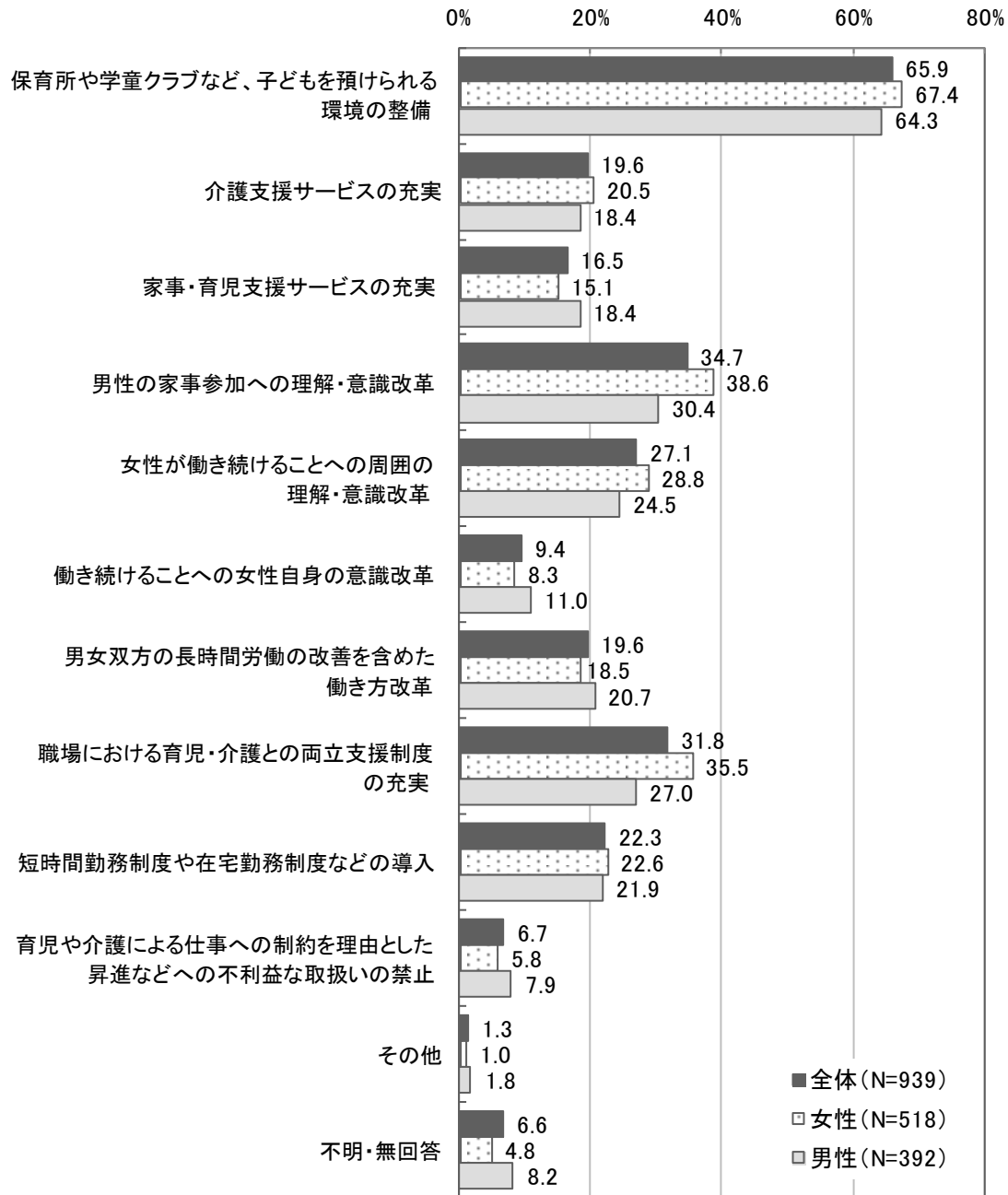
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。



問23 女性が働き続けるために必要なことは何だと思えますか。(複数回答)

女性が働き続けるために必要なことは、全体で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が65.9%と最も高く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革」が34.7%となっています。

性別では、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」で8.5ポイント、「男性の家事参加への理解・意識改革」で8.2ポイント、それぞれ女性は男性と比べて高くなっています。



## 性別・年齢別比較

「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が30歳代の女性で83.0%、男性で70.0%と、他の年代と比べても高くなっています。

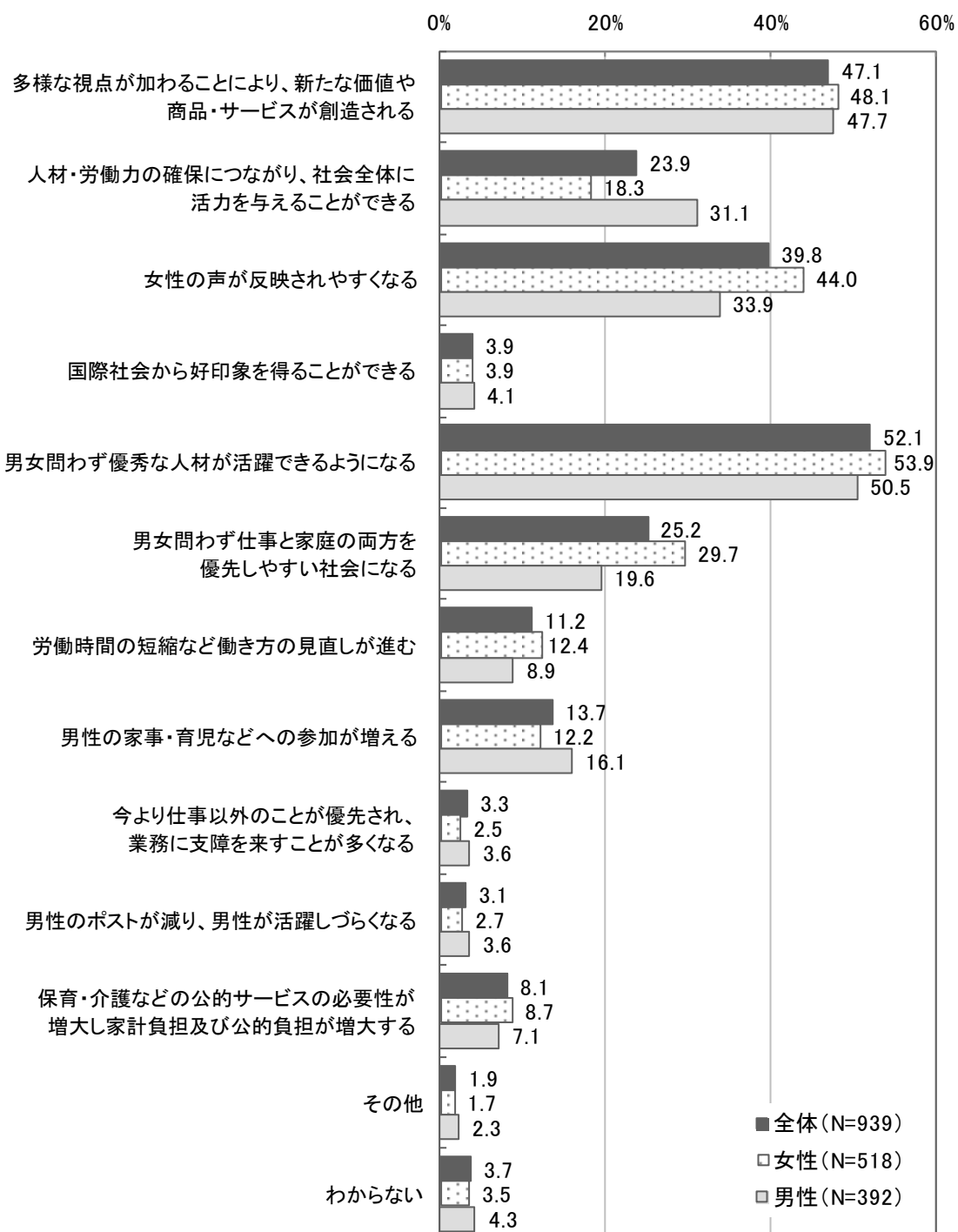
(単位: %)	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	働き方改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>													
20歳代(N=61)	73.8	3.3	16.4	49.2	21.3	8.2	24.6	47.5	21.3	8.2	1.6	1.6	
30歳代(N=106)	83.0	13.2	19.8	39.6	26.4	6.6	19.8	37.7	34.0	2.8	0.0	0.0	
40歳代(N=103)	61.2	24.3	20.4	40.8	31.1	6.8	14.6	33.0	20.4	5.8	1.0	6.8	
50歳代(N=103)	60.2	28.2	13.6	37.9	29.1	7.8	22.3	35.9	17.5	9.7	0.0	5.8	
60歳代(N=89)	64.0	23.6	7.9	36.0	31.5	13.5	19.1	28.1	19.1	3.4	2.2	6.7	
70歳以上(N=56)	60.7	26.8	8.9	26.8	32.1	7.1	8.9	33.9	21.4	5.4	1.8	8.9	
<b>【年齢別・男性】</b>													
20歳代(N=55)	60.0	9.1	16.4	34.5	25.5	7.3	16.4	30.9	25.5	7.3	0.0	9.1	
30歳代(N=60)	70.0	6.7	21.7	43.3	26.7	10.0	31.7	26.7	30.0	8.3	1.7	1.7	
40歳代(N=68)	63.2	19.1	10.3	35.3	20.6	8.8	22.1	33.8	22.1	8.8	2.9	4.4	
50歳代(N=85)	67.1	27.1	27.1	27.1	32.9	11.8	20.0	21.2	14.1	5.9	3.5	5.9	
60歳代(N=72)	65.3	22.2	15.3	27.8	19.4	15.3	19.4	33.3	20.8	9.7	1.4	6.9	
70歳以上(N=51)	56.9	21.6	15.7	13.7	19.6	11.8	11.8	15.7	23.5	7.8	0.0	25.5	

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問 24 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増える  
とどのような影響があると思いますか。(複数回答)

政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるるとどのような影響がある  
と思うかは、全体で「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が 52.1%と最も高く、次いで「多  
様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が 47.1%となっています。

性別では、女性で「女性の声が反映されやすくなる」「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会  
になる」が男性と比べて、男性で「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」  
が女性と比べて、それぞれ差が明確になっています。



## 性別・年齢別比較

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が上位となっているほか、「女性の声が反映されやすくなる」という期待も高くなっています。

(単位: %)	多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	女性の声が反映されやすくなる	国際社会から好印象を得ることができる	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
<b>【年齢別・女性】</b>							
20歳代(N=61)	45.9	19.7	42.6	6.6	60.7	27.9	8.2
30歳代(N=106)	50.0	15.1	50.0	1.9	57.5	31.1	22.6
40歳代(N=103)	48.5	12.6	38.8	5.8	47.6	24.3	11.7
50歳代(N=103)	47.6	23.3	48.5	1.9	59.2	31.1	7.8
60歳代(N=89)	49.4	22.5	37.1	3.4	50.6	34.8	10.1
70歳以上(N=56)	44.6	17.9	46.4	5.4	46.4	28.6	10.7
<b>【年齢別・男性】</b>							
20歳代(N=55)	40.0	7.3	34.5	0.0	49.1	25.5	10.9
30歳代(N=60)	58.3	30.0	28.3	8.3	50.0	13.3	8.3
40歳代(N=68)	54.4	36.8	23.5	2.9	51.5	17.6	14.7
50歳代(N=85)	56.5	28.2	41.2	4.7	51.8	25.9	7.1
60歳代(N=72)	40.3	47.2	41.7	2.8	55.6	18.1	5.6
70歳以上(N=51)	31.4	33.3	29.4	5.9	43.1	15.7	5.9

(単位: %)	男性の家事・育児などへの参加が増える	今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し家計負担及び公的負担が増大する	その他	わからない	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>							
20歳代(N=61)	11.5	1.6	1.6	9.8	3.3	1.6	1.6
30歳代(N=106)	11.3	3.8	2.8	5.7	0.9	2.8	0.9
40歳代(N=103)	9.7	3.9	2.9	10.7	4.9	4.9	6.8
50歳代(N=103)	14.6	1.9	0.0	7.8	0.0	1.0	5.8
60歳代(N=89)	10.1	1.1	2.2	11.2	1.1	4.5	6.7
70歳以上(N=56)	17.9	1.8	8.9	7.1	0.0	7.1	8.9
<b>【年齢別・男性】</b>							
20歳代(N=55)	12.7	7.3	5.5	3.6	3.6	5.5	9.1
30歳代(N=60)	16.7	0.0	8.3	5.0	6.7	8.3	0.0
40歳代(N=68)	17.6	4.4	5.9	5.9	1.5	4.4	4.4
50歳代(N=85)	22.4	5.9	1.2	4.7	2.4	1.2	5.9
60歳代(N=72)	9.7	0.0	1.4	9.7	0.0	2.8	6.9
70歳以上(N=51)	15.7	2.0	0.0	15.7	0.0	5.9	17.6

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

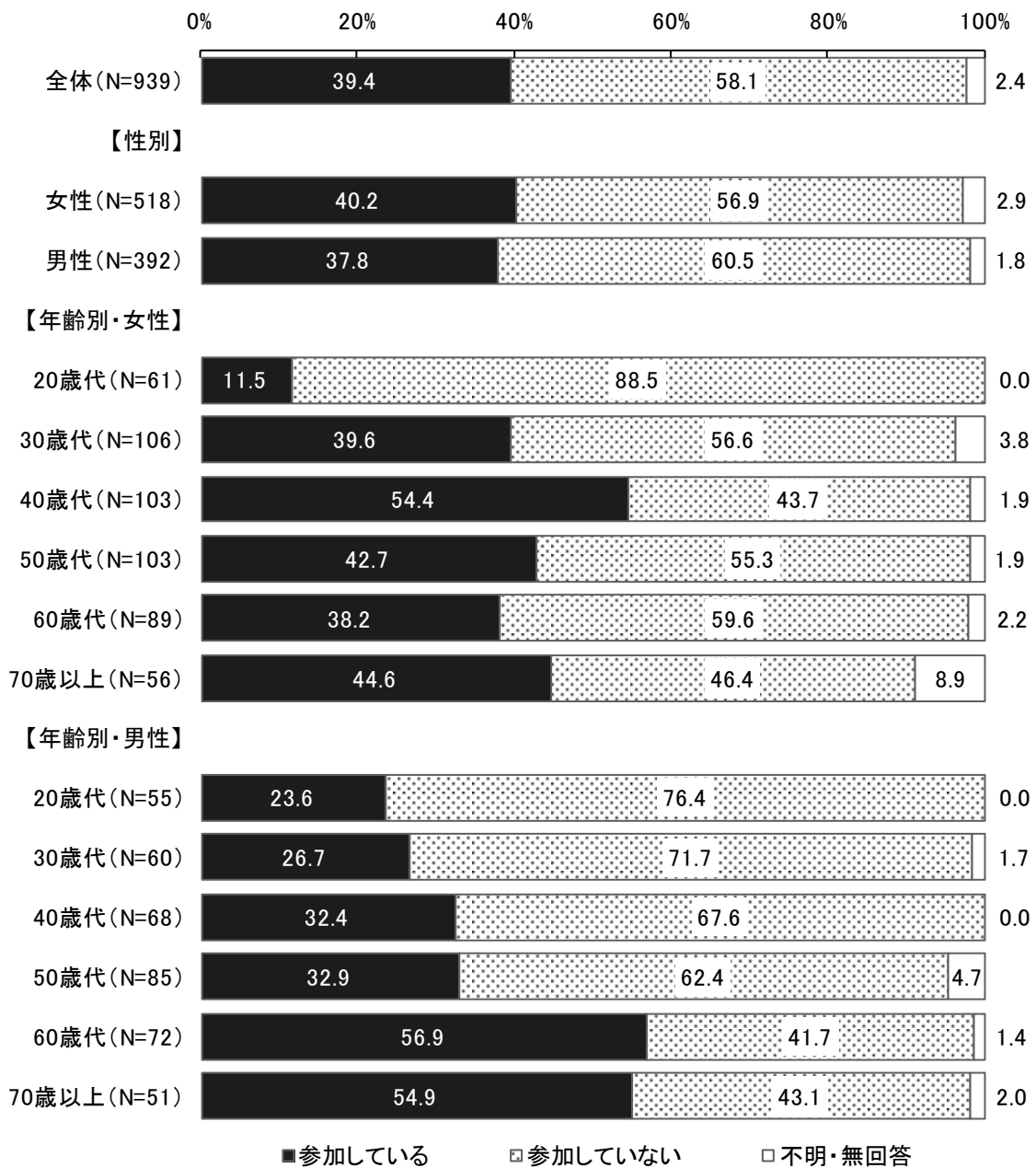
## 5 地域活動への参加状況について

問 25 あなたは、現在、地域の活動に参加していますか。(単数回答)

地域の活動への参加は、全体で「参加している」が39.4%、「参加していない」が58.1%となっています。

性別では、「参加している」が女性で40.2%と、男性と比べて2.4ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、「参加している」が女性は30歳代以上で4割前後から5割を超えているものの、男性は40～50歳代で3割強、60歳代以上で5割を超えており、性別・年齢別の差が明確となっています。

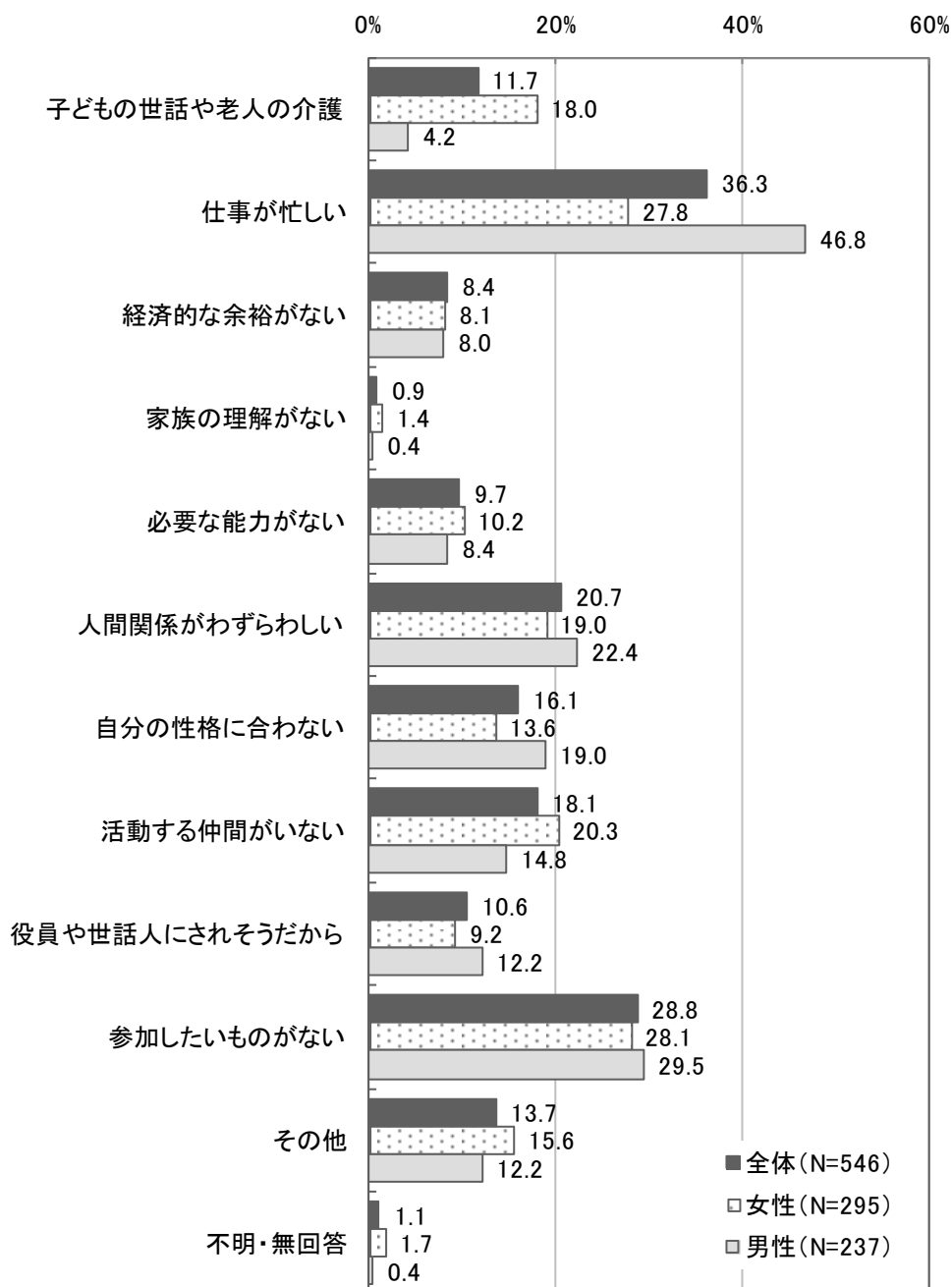


【問 25 で「2 参加していない」と回答した方のみ】

問 25-1 地域の活動に参加しない理由は何ですか。(複数回答)

地域の活動に参加しない理由は、全体で「仕事が忙しい」が 36.3%と最も高く、次いで「参加したいものがない」が 28.8%となっています。

性別では、「仕事が忙しい」が男性で 46.8%と女性と比べて 19.0 ポイント、「子どもの世話や老人の介護」が女性で 18.0%と男性と比べて 13.8 ポイント、それぞれ高くなっています。



## 性別・年齢別比較

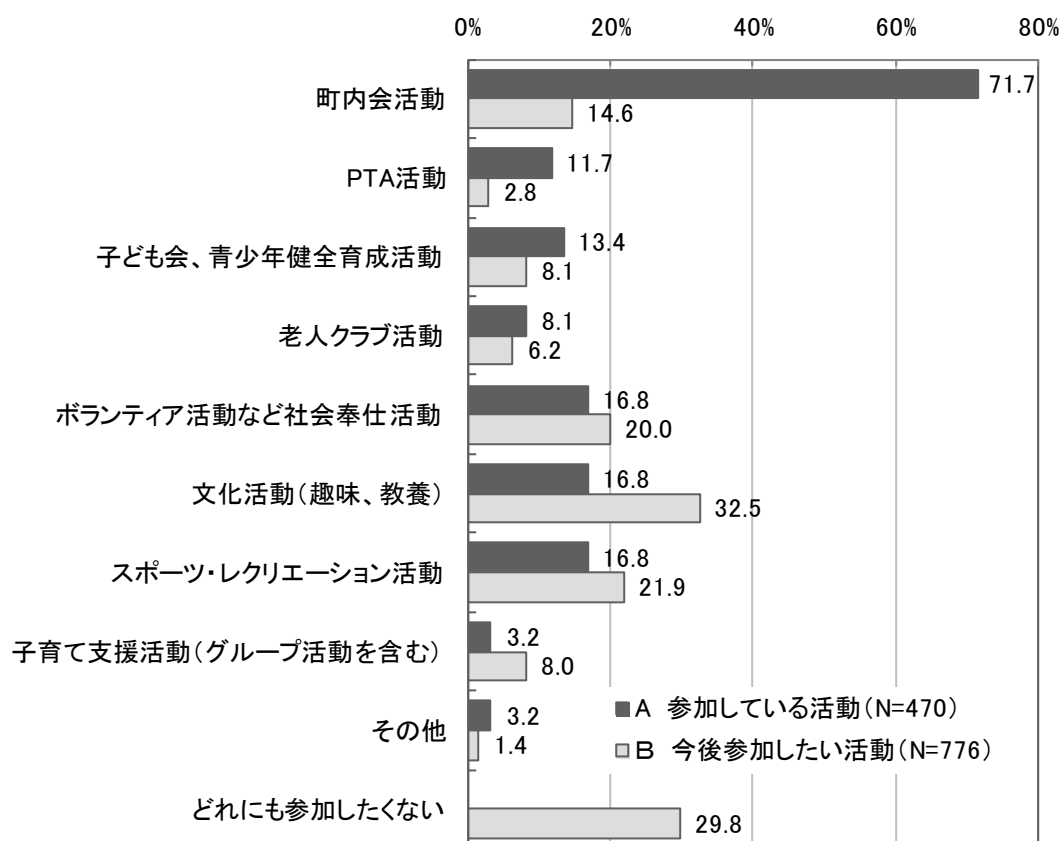
「参加したいものがない」が、女性の20歳代、70歳以上で最も高くなっています。50歳代以上になると、女性、男性のいずれも「必要な能力がない」「人間関係がわずらわしい」が上位となっており、男性は60歳代以上で「自分の性格に合わない」も上位となっています。

(単位: %)	子どもの世話や老人の介護	仕事が忙しい	経済的な余裕がない	家族の理解がない	必要な能力がない	人間関係がわずらわしい	自分の性格に合わない	活動する仲間がない	役員や世話人からそれさうだから	参加したいものがない	その他	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>												
20歳代(N=54)	7.4	31.5	3.7	0.0	1.9	16.7	5.6	25.9	5.6	51.9	14.8	1.9
30歳代(N=60)	33.3	18.3	5.0	0.0	1.7	15.0	16.7	20.0	8.3	25.0	20.0	3.3
40歳代(N=45)	13.3	37.8	15.6	0.0	11.1	15.6	17.8	20.0	13.3	22.2	15.6	0.0
50歳代(N=57)	15.8	40.4	12.3	1.8	7.0	22.8	10.5	15.8	12.3	17.5	19.3	0.0
60歳代(N=53)	20.8	18.9	5.7	1.9	20.8	22.6	17.0	20.8	9.4	20.8	9.4	1.9
70歳以上(N=26)	11.5	15.4	7.7	7.7	30.8	23.1	15.4	19.2	3.8	34.6	11.5	3.8
<b>【年齢別・男性】</b>												
20歳代(N=42)	0.0	45.2	4.8	0.0	2.4	7.1	0.0	7.1	2.4	38.1	16.7	2.4
30歳代(N=43)	7.0	58.1	2.3	0.0	2.3	11.6	16.3	18.6	7.0	30.2	14.0	0.0
40歳代(N=46)	4.3	60.9	8.7	0.0	8.7	26.1	23.9	23.9	17.4	26.1	6.5	0.0
50歳代(N=53)	5.7	50.9	13.2	0.0	7.5	32.1	17.0	15.1	13.2	30.2	13.2	0.0
60歳代(N=30)	3.3	33.3	16.7	0.0	10.0	33.3	36.7	10.0	16.7	23.3	13.3	0.0
70歳以上(N=22)	4.5	4.5	0.0	4.5	31.8	27.3	31.8	9.1	22.7	27.3	9.1	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

問26 あなたは、どのような地域の活動に参加していますか。また、今後参加したいですか。(単数回答)

参加している地域活動の内容は、全体で「町内会活動」が71.7%と最も高くなっています。  
 今後参加したい地域活動の内容は、全体で「文化活動（趣味、教養）」が32.5%と最も高く、次いで「どれにも参加したくない」が29.8%となっています。



※結果が「不明・無回答」多数のため、「不明・無回答」を除いた回答者のみの結果となっています。

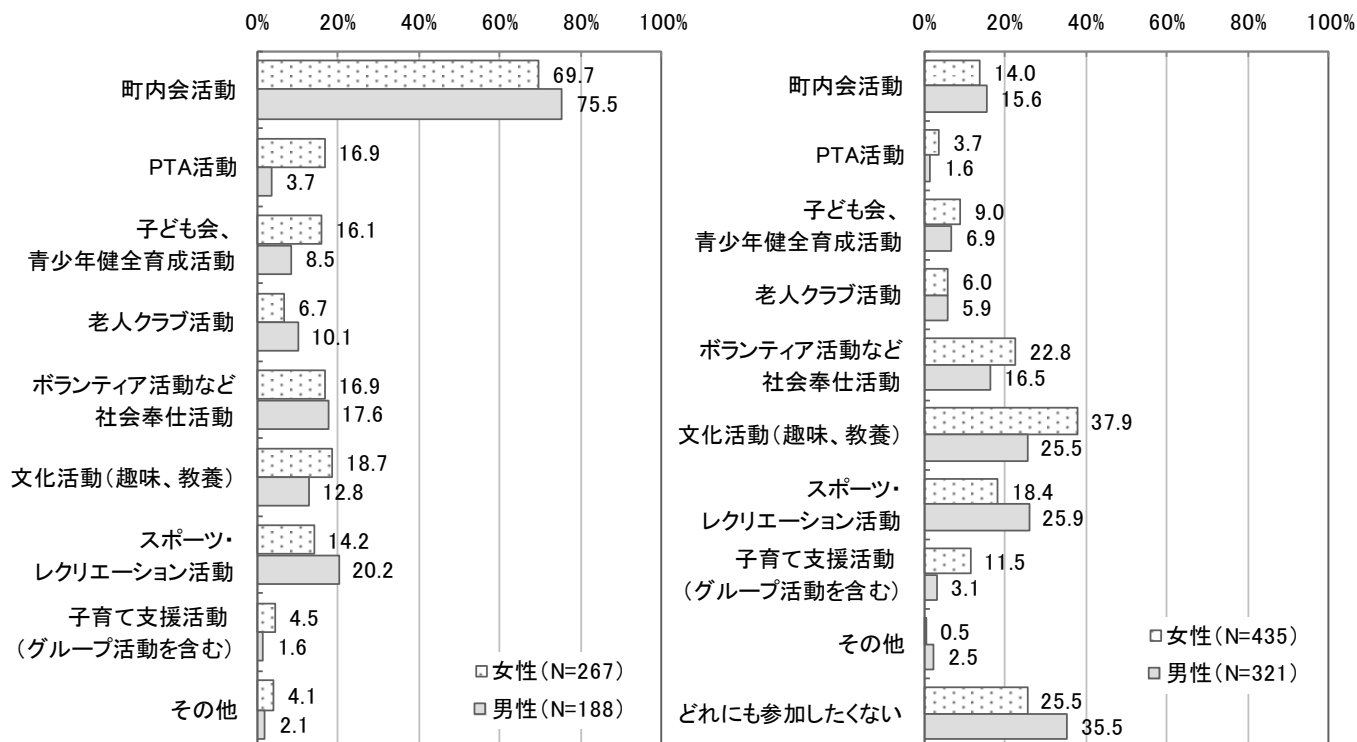


## 性別比較

女性と男性で最も差が大きい項目は、参加している活動では「PTA活動」で13.2ポイント、今後参加したい活動では「文化活動（趣味、教養）」で12.4ポイントとなっています。

【A 参加している活動】

【B 今後参加したい活動】



※結果が「不明・無回答」多数のため、「不明・無回答」を除いた回答者のみの結果となっています。

## 項目別集計結果

### 【A 参加している活動】

「参加している活動」は、女性、男性のいずれの年代も「町内会活動」が最も高く、女性の20歳代を除いて6割を超えています。

(単位: %)	町内会活動	PTA活動	子ども会、青少年健全育成活動	老人クラブ活動	ボランティア活動 など社会奉仕活動	文化活動(趣味、 教養)	スポーツ・レクリエーション活動	子育て支援活動 (グループ活動を 含む)	その他
<b>【年齢別・女性】</b>									
20歳代(N=12)	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	8.3	0.0	8.3	33.3
30歳代(N=48)	66.7	33.3	29.2	0.0	8.3	6.3	6.3	12.5	2.1
40歳代(N=68)	70.6	33.8	33.8	0.0	19.1	16.2	8.8	4.4	2.9
50歳代(N=57)	78.9	8.8	3.5	0.0	8.8	15.8	19.3	1.8	1.8
60歳代(N=47)	72.3	2.1	6.4	8.5	23.4	31.9	12.8	2.1	6.4
70歳以上(N=35)	65.7	0.0	2.9	40.0	28.6	31.4	34.3	0.0	0.0
<b>【年齢別・男性】</b>									
20歳代(N=16)	56.3	0.0	0.0	0.0	18.8	6.3	12.5	0.0	6.3
30歳代(N=16)	87.5	6.3	18.8	0.0	18.8	0.0	18.8	0.0	0.0
40歳代(N=27)	66.7	11.1	14.8	0.0	7.4	7.4	25.9	3.7	3.7
50歳代(N=49)	77.6	4.1	8.2	0.0	14.3	6.1	14.3	4.1	4.1
60歳代(N=46)	87.0	2.2	6.5	8.7	19.6	19.6	21.7	0.0	0.0
70歳以上(N=34)	67.6	0.0	5.9	44.1	26.5	26.5	26.5	0.0	0.0

※結果が「不明・無回答」多数のため、「不明・無回答」を除いた回答者のみの結果となっています。

※回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

## 【B 今後参加したい活動】

「今後参加したい活動」は、「文化活動（趣味、教養）」が女性の40歳代以上、男性の60歳代以上で最も高くなっています。なお、女性の20～30歳代及び男性の20～50歳代では、「どれにも参加したくない」が最も高くなっています。

(単位: %)	町内会活動	PTA活動	子ども会、青少年健全育成活動	老人クラブ活動	ボランティア活動など社会奉仕活動	文化活動(趣味、教養)	スポーツ・レクリエーション活動	子育て支援活動(グループ活動を含む)	その他	どれにも参加したくない
<b>【年齢別・女性】</b>										
20歳代(N=59)	10.2	3.4	13.6	0.0	11.9	25.4	16.9	11.9	0.0	40.7
30歳代(N=93)	15.1	8.6	22.6	1.1	14.0	30.1	11.8	21.5	0.0	32.3
40歳代(N=83)	16.9	7.2	8.4	2.4	26.5	37.3	20.5	12.0	1.2	22.9
50歳代(N=88)	10.2	0.0	0.0	5.7	38.6	50.0	20.5	8.0	1.1	17.0
60歳代(N=75)	17.3	0.0	0.0	10.7	22.7	45.3	24.0	4.0	0.0	21.3
70歳以上(N=37)	13.5	0.0	8.1	27.0	16.2	35.1	16.2	8.1	0.0	18.9
<b>【年齢別・男性】</b>										
20歳代(N=47)	17.0	2.1	12.8	0.0	12.8	19.1	29.8	6.4	2.1	40.4
30歳代(N=48)	22.9	4.2	14.6	0.0	12.5	12.5	31.3	2.1	0.0	47.9
40歳代(N=60)	11.7	3.3	5.0	1.7	18.3	21.7	25.0	1.7	1.7	36.7
50歳代(N=75)	16.0	0.0	5.3	2.7	20.0	30.7	29.3	1.3	2.7	33.3
60歳代(N=56)	14.3	0.0	1.8	16.1	21.4	33.9	16.1	3.6	3.6	30.4
70歳以上(N=34)	11.8	0.0	2.9	20.6	8.8	35.3	23.5	5.9	5.9	20.6

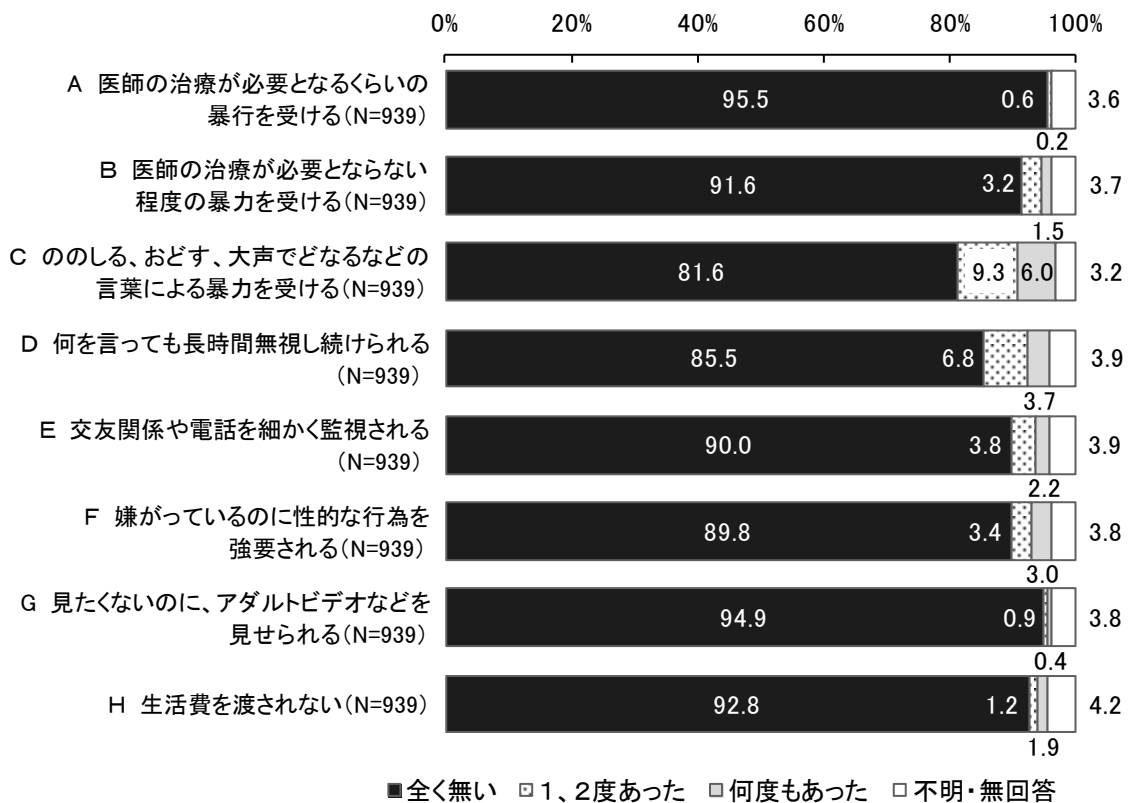
※結果が「不明・無回答」多数のため、「不明・無回答」を除いた回答者のみの結果となっています。

※回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

## 6 DV(ドメスティック・バイオレンス)について

問 27 男性・女性に関わらず、おたずねします。あなたはこれまでに、配偶者や恋人などから次にあげるような行為を受けたことがありますか。(単数回答)

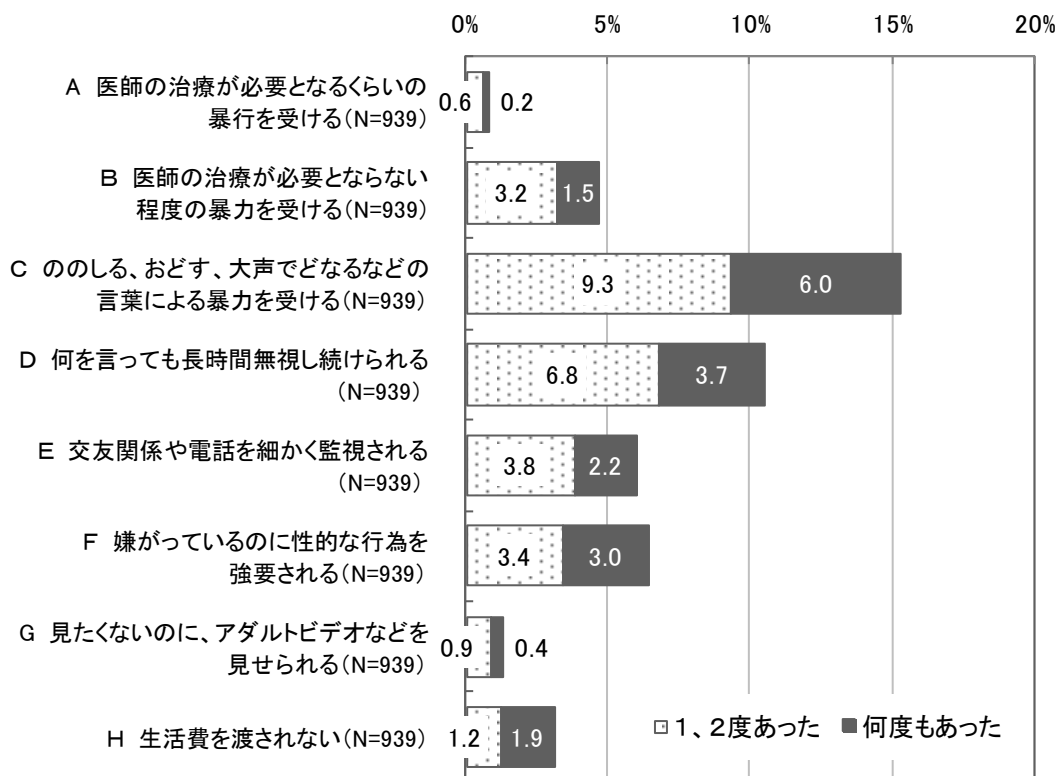
配偶者や恋人などからの暴力等の経験の有無について、全体で「1、2度あった」「何度もあった」が高い内容は「C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける」が最も高く、次いで「D 何を言っても長時間無視し続けられる」となっています。その他の内容についても数パーセントあり、様々な暴力を受けている様子がみられます。



## 項目別DV経験者

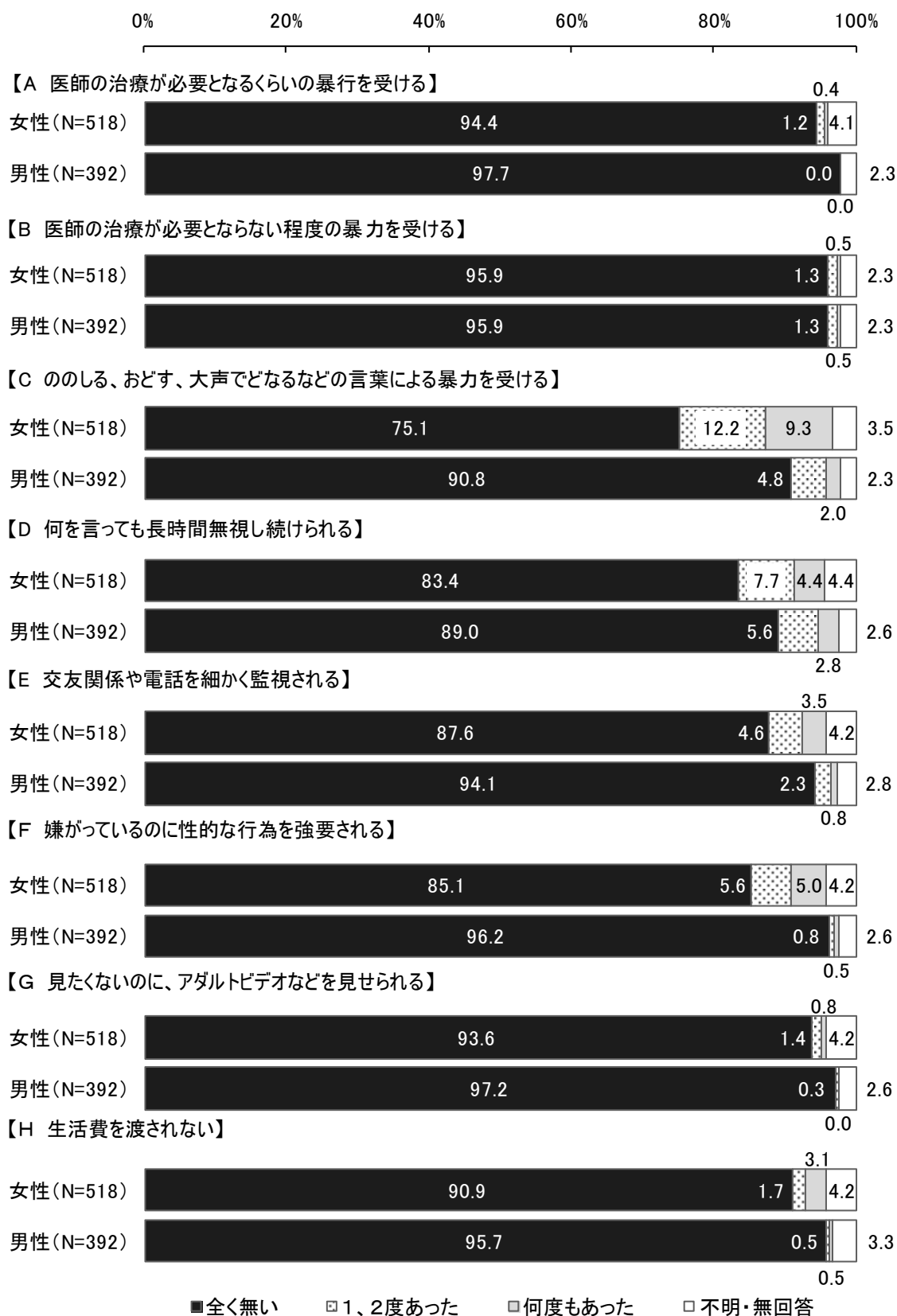
配偶者や恋人などからの暴力等の経験がある人は、「1、2度あった」「何度もあった」のいずれも「C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける」が最も高く、それぞれ9.3%、6.0%となっています。次いで「D 何を言っても長時間無視し続けられる」が、それぞれ6.8%、3.7%となっています。

なお、「A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける」の経験者は合わせて0.8%、「B 医師の治療が必要とされない程度の暴力を受ける」の経験者は合わせて4.7%となっています。



## 性別比較

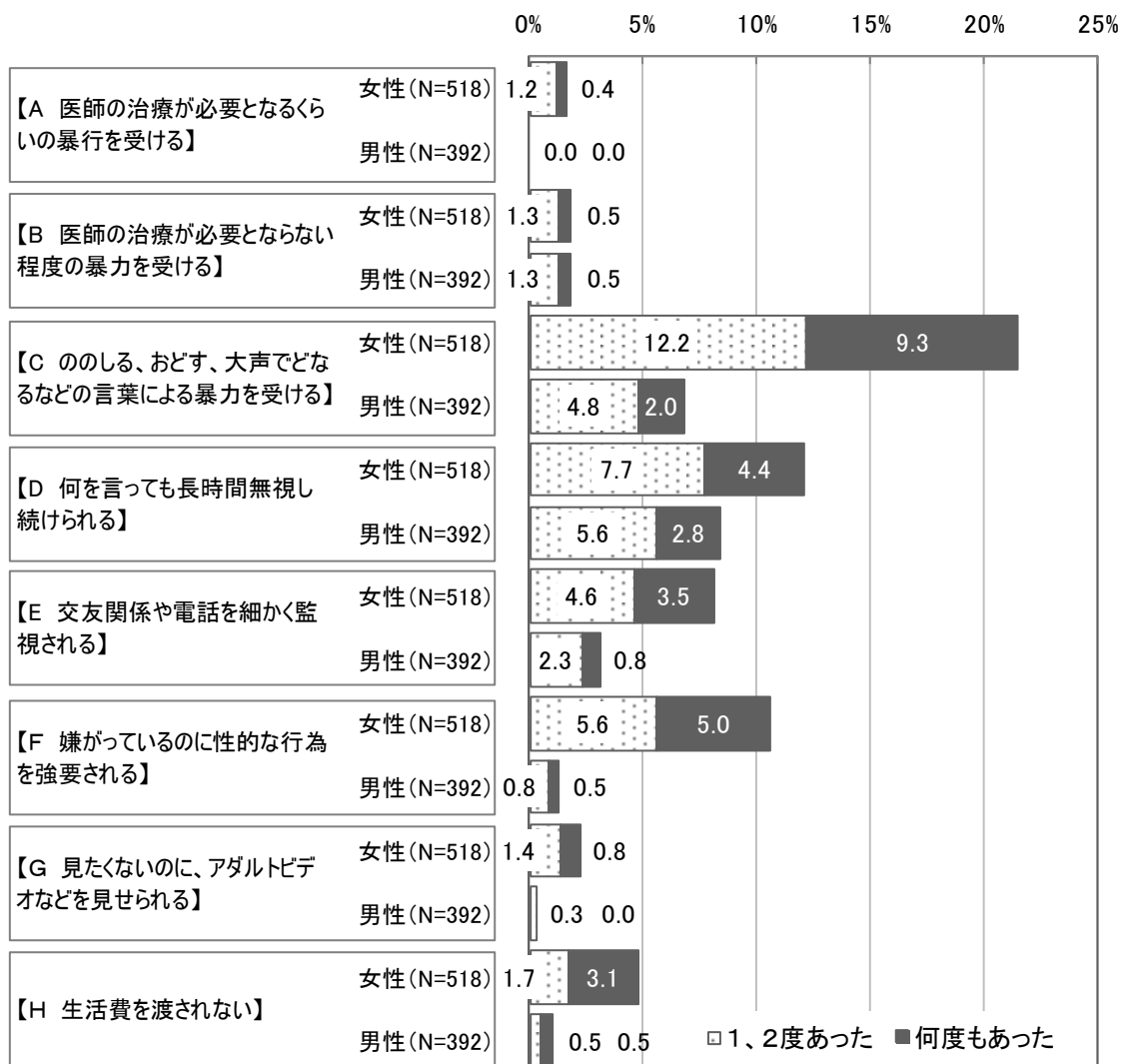
ほとんどの暴力において女性に対する暴力が多く、「1、2度あった」「何度もあった」を合わせると「C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける」が21.6%と最も高くなっています。なお、「A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける」女性は1.6%となっています。



## 項目別性別DV経験者

女性に対する暴力では、「1、2度あった」「何度もあった」のいずれも「C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける」が最も高く、それぞれ12.2%、9.3%となっています。男性に対する暴力では、「1、2度あった」「何度もあった」のいずれも「D 何を言っても長時間無視し続けられる」それぞれ5.6%、2.8%となっています。

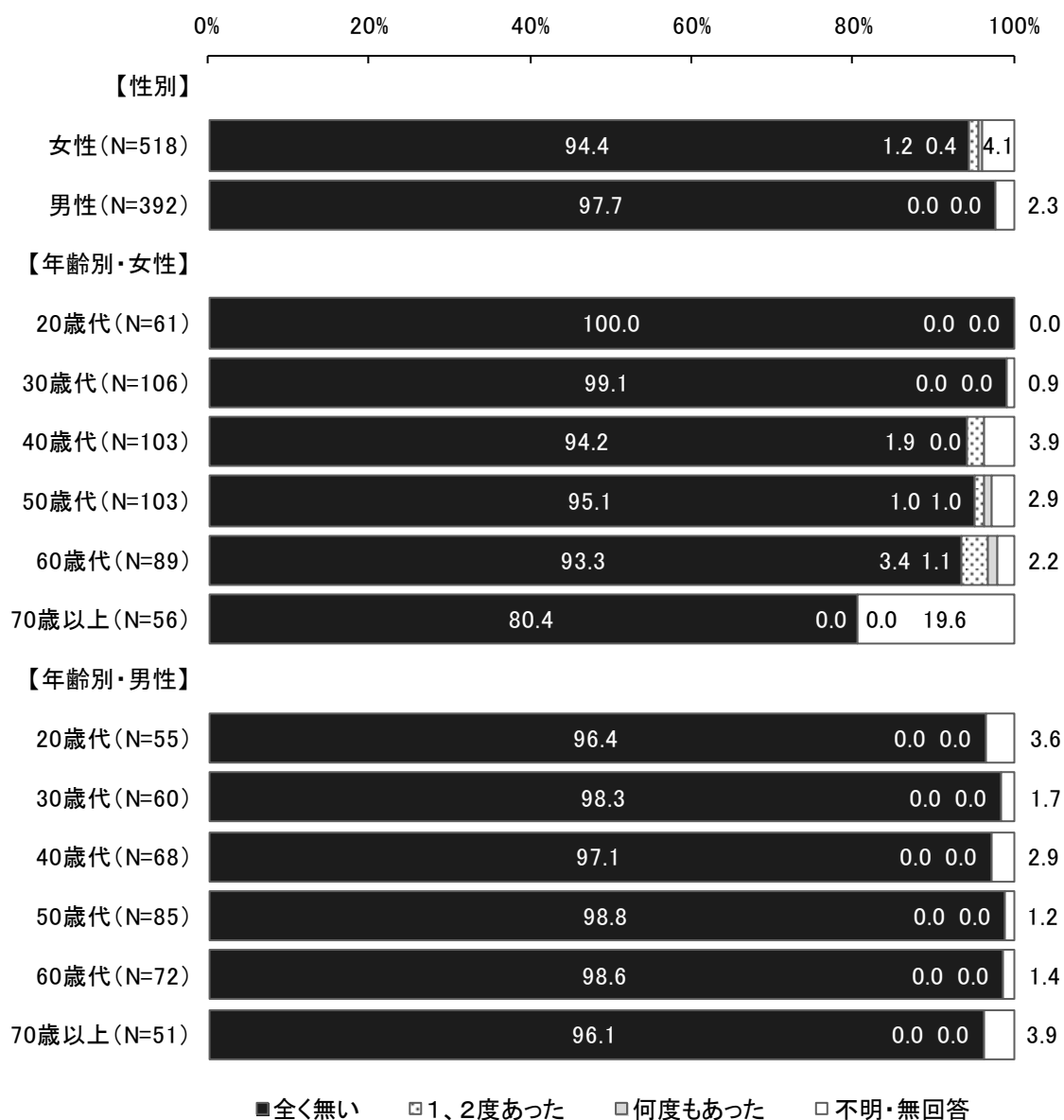
なお、「A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける」の経験者は合わせて女性で1.6%であり、「B 医師の治療が必要とされない程度の暴力を受ける」の経験者は合わせて、男女それぞれ1.8%となっています。



## 項目別集計結果

### 【A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける】

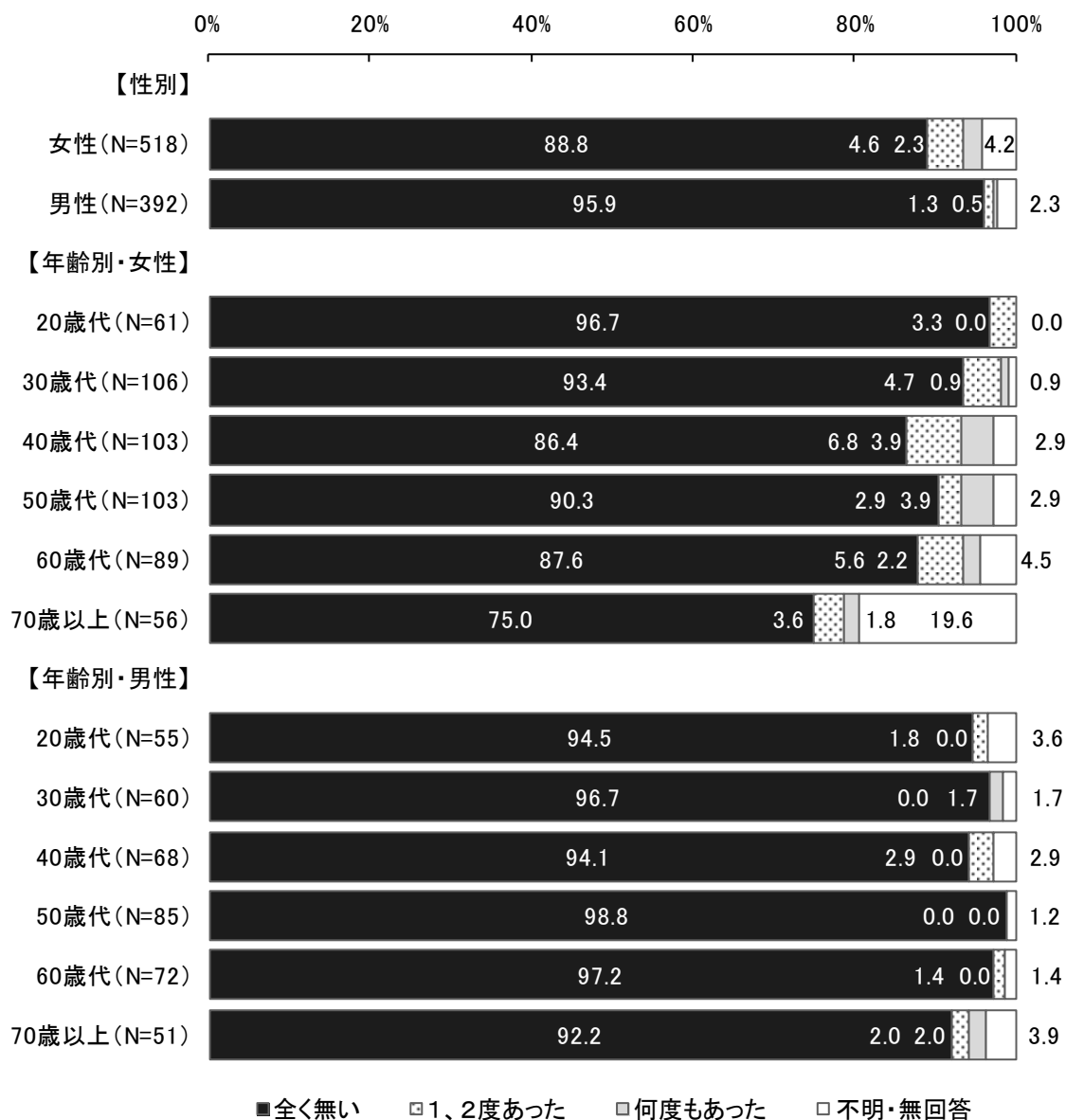
医師の治療が必要となるくらいの暴行については、女性の30～60歳代で「1、2度あった」「何度もあった」が高くなっています。





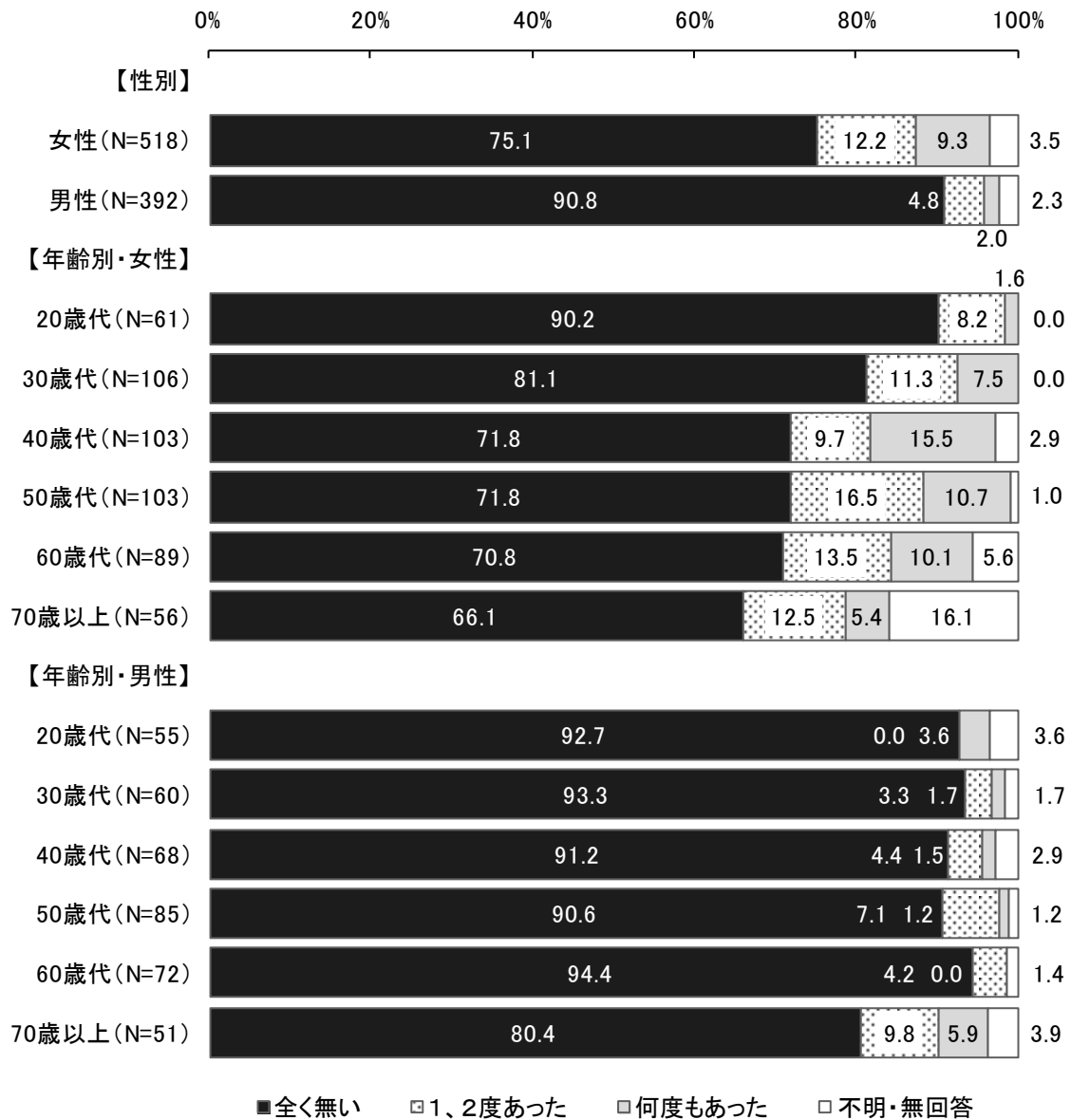
## 【B 医師の治療が必要とならない程度の暴力を受ける】

医師の治療が必要とならない程度の暴力については、女性のすべての年代で「1、2度あった」「何度もあった」が出現しており、40～50歳代で「何度もあった」が高くなっています。男性でも50歳代を除いて散見されます。



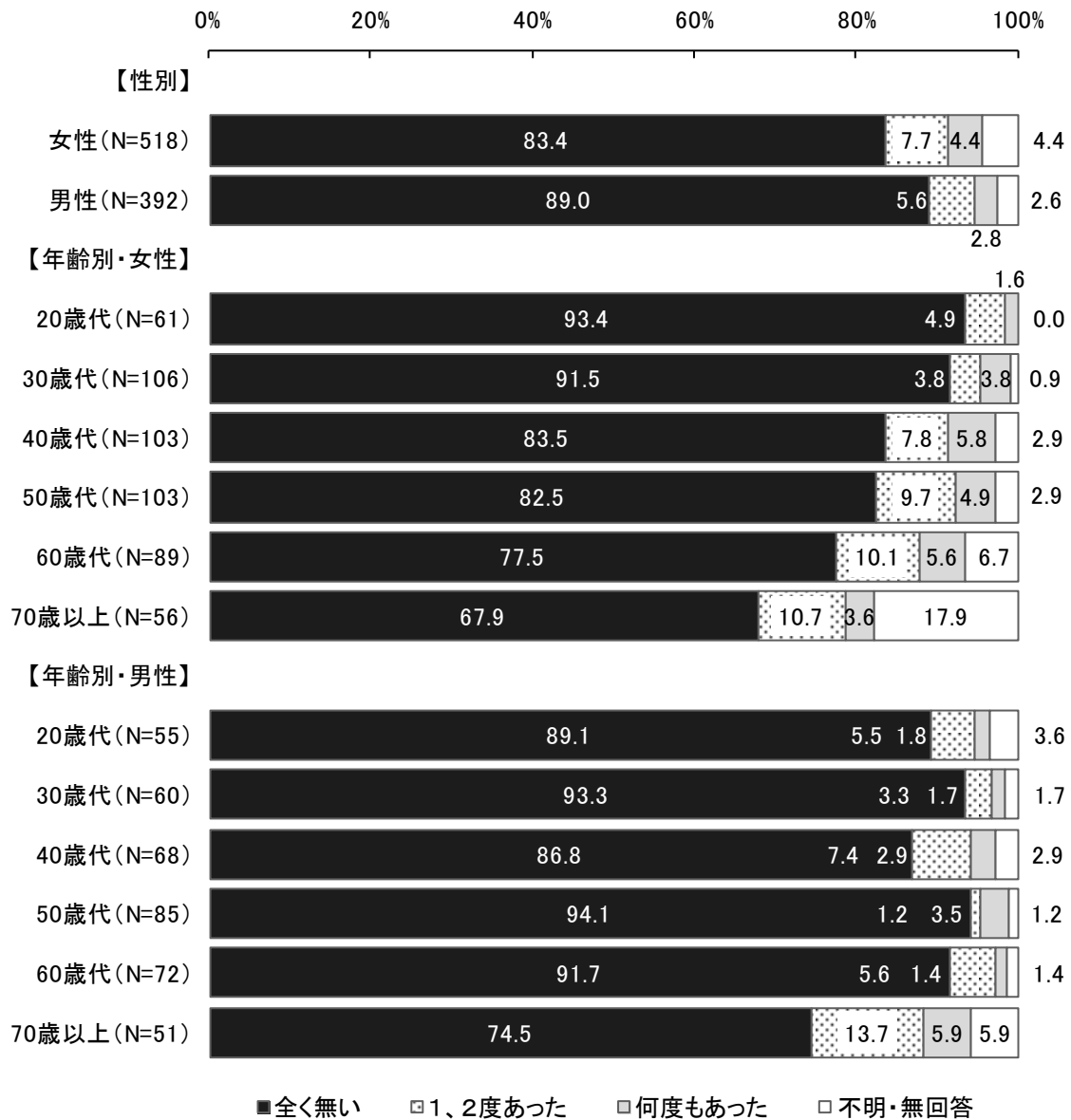
### 【C ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力を受ける】

ののしる、おどす、大声でどなるなどの言葉による暴力については、女性の40～60歳代で「何度もあった」が1割を超えて高くなっています。また、男性の70歳以上で「1、2度あった」「何度もあった」が、他の年代と比べて高くなっています。



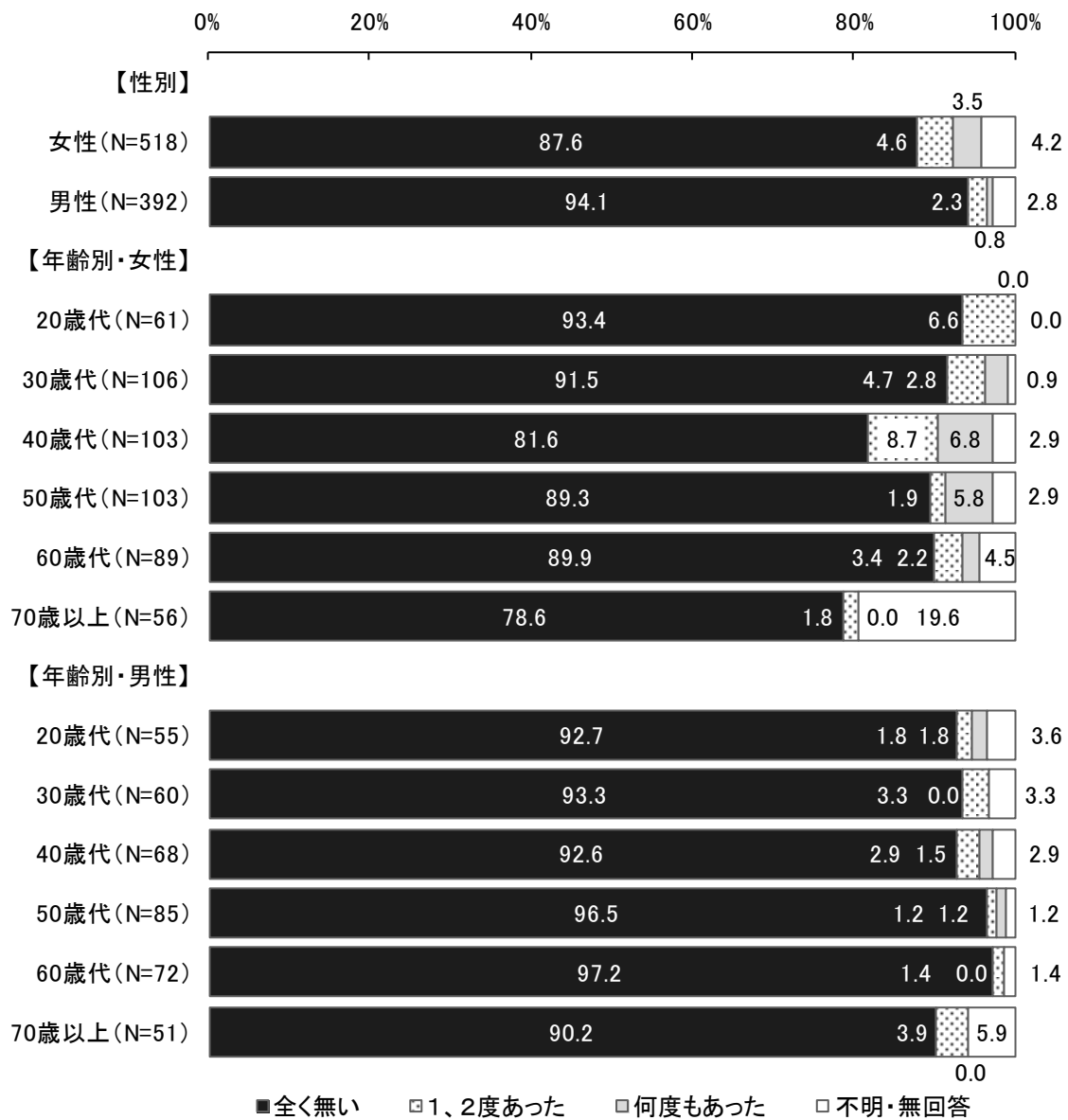
### 【D 何を言っても長時間無視し続けられる】

何を言っても長時間無視し続けられる暴力については、女性の40歳代以上で「1、2度あった」「何度もあった」が1割を超えて高くなっています。また、男性の70歳以上で「1、2度あった」「何度もあった」が、他の年代と比べて高くなっています。



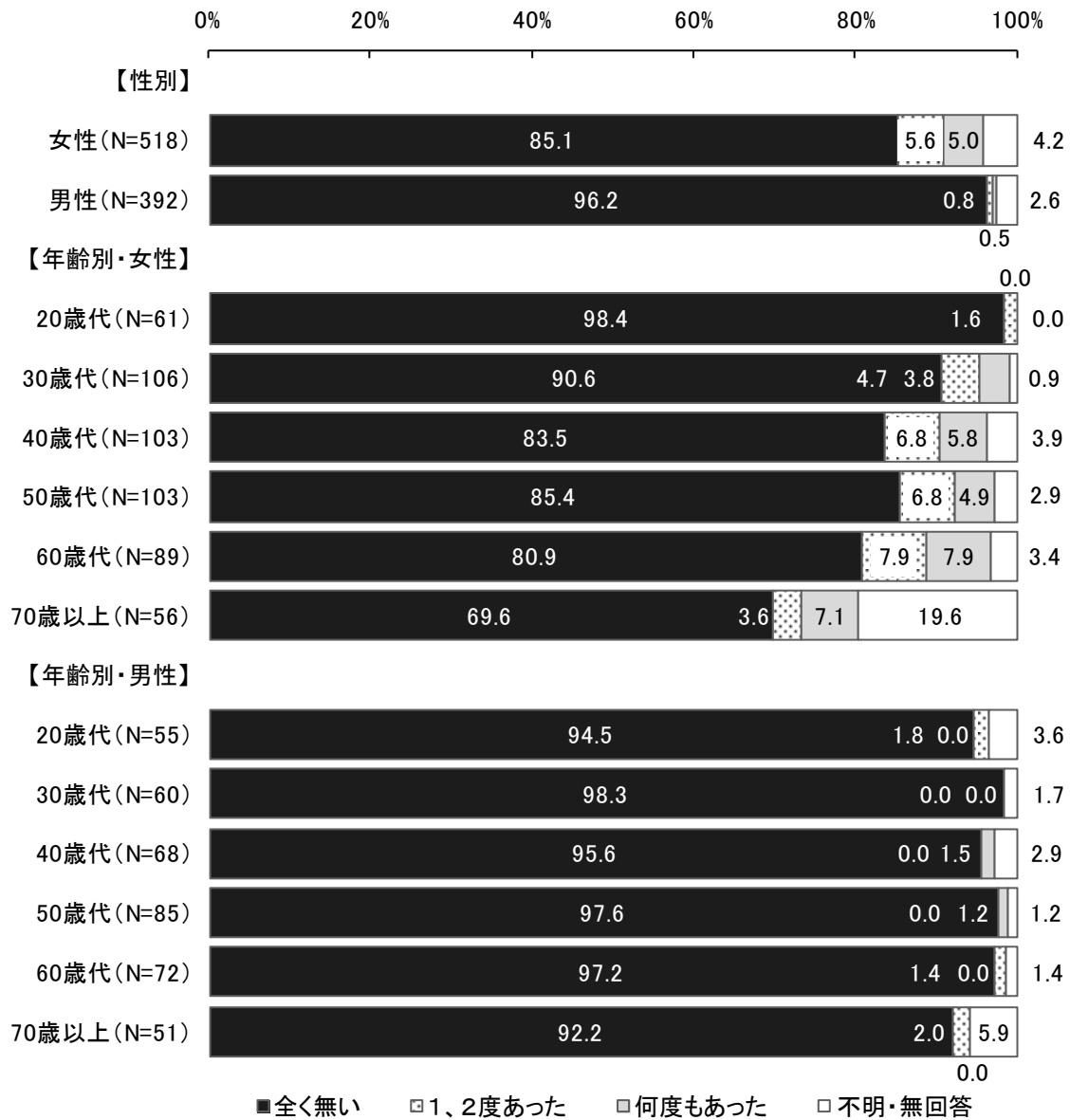
### 【E 交友関係や電話を細かく監視される】

交友関係や電話を細かく監視される暴力については、女性の40歳代で「1、2度あった」「何度もあった」が高くなっています。



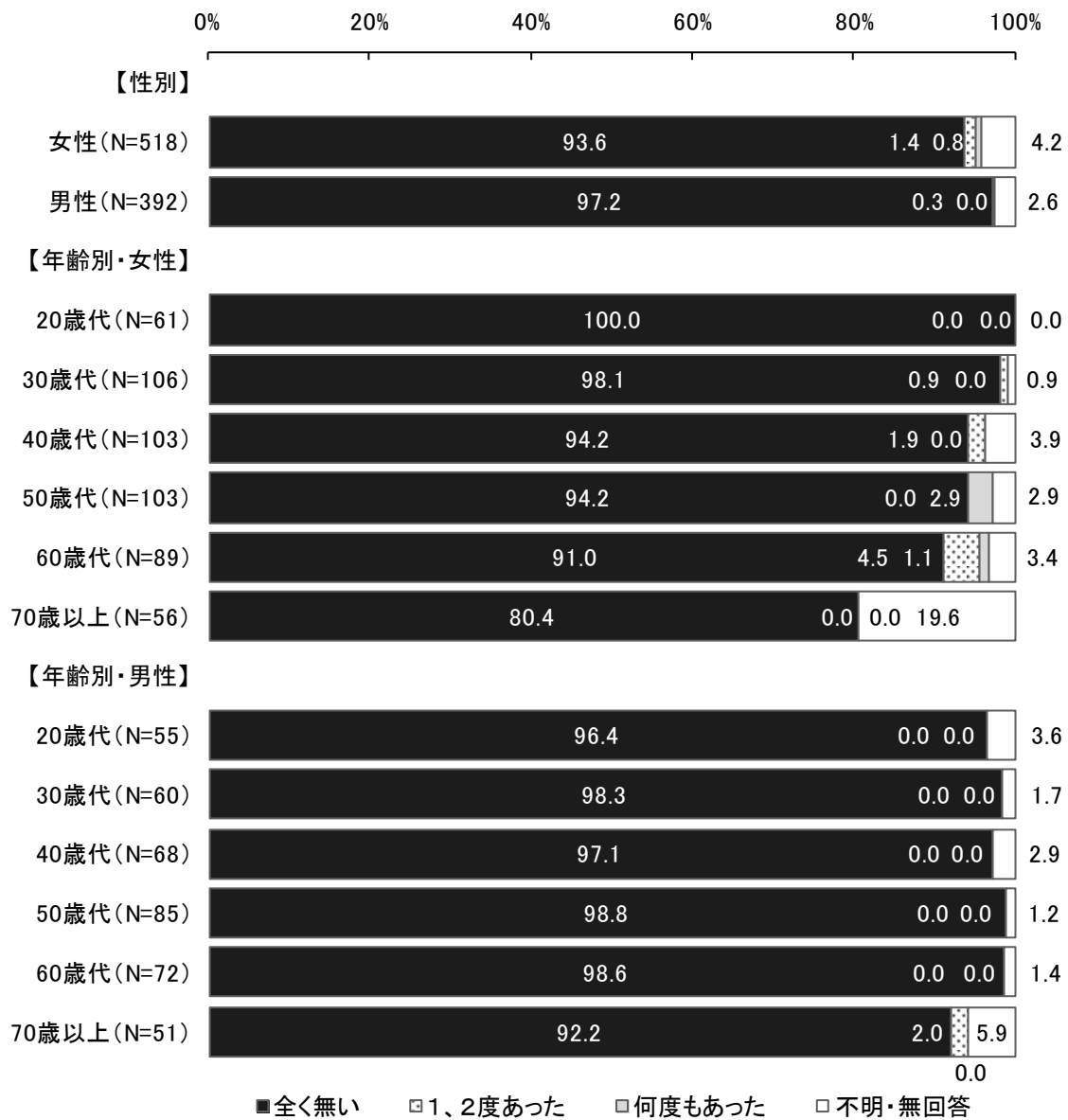
## 【F 嫌がっているのに性的な行為を強要される】

嫌がっているのに性的な行為を強要される暴行については、女性の40歳代以上で「1、2度あった」「何度もあった」が1割を超えて高くなっています。



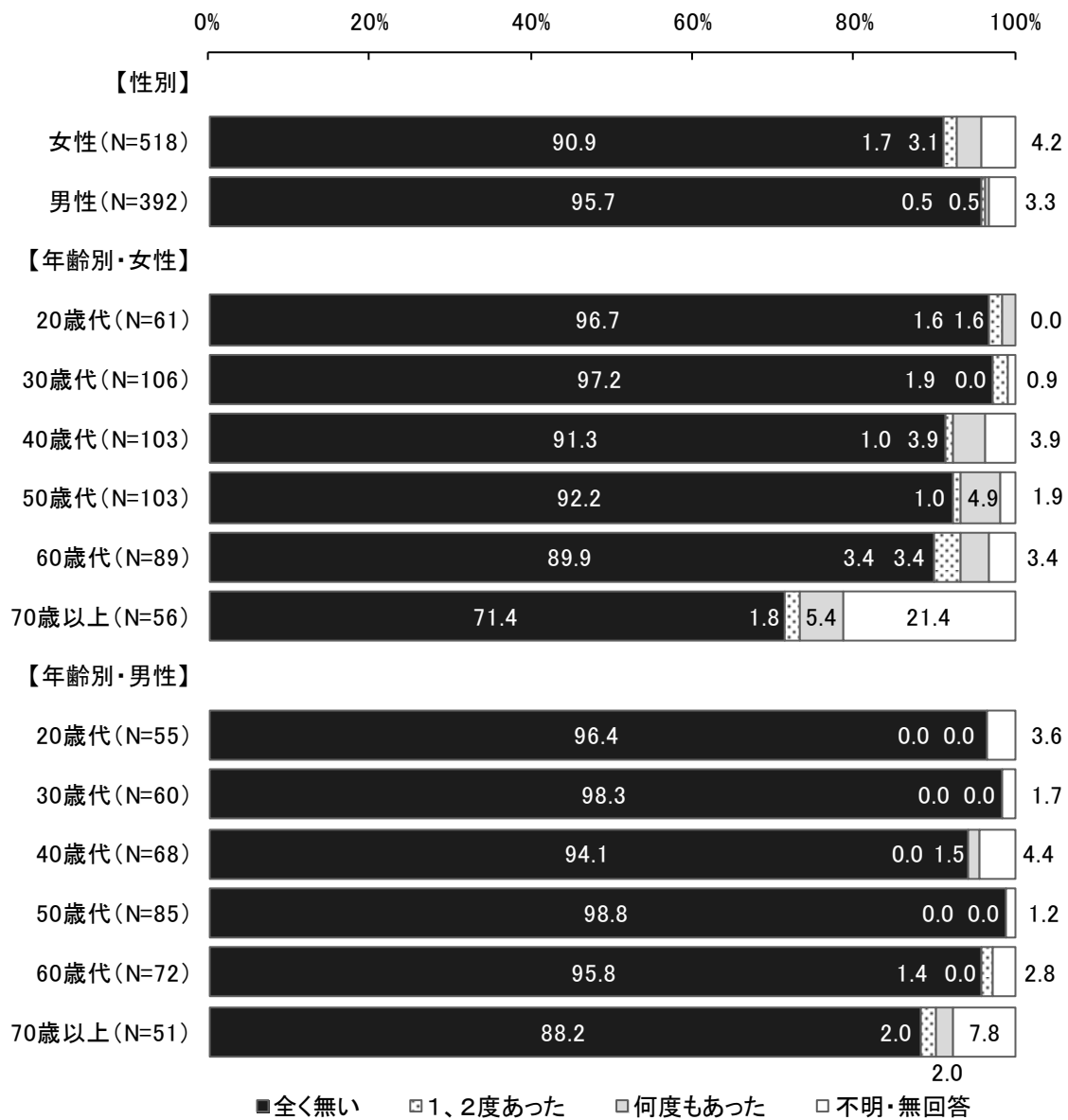
## 【G 見たくないのに、アダルトビデオなどを見せられる】

見たくないのに、アダルトビデオなどを見せられる暴行については、女性の60歳代で「1、2度あった」「何度もあった」が高くなっています。



## 【H 生活費を渡されない】

生活費を渡されない暴行については、女性の40歳代以上で「1、2度あった」「何度もあった」が高くなっています。

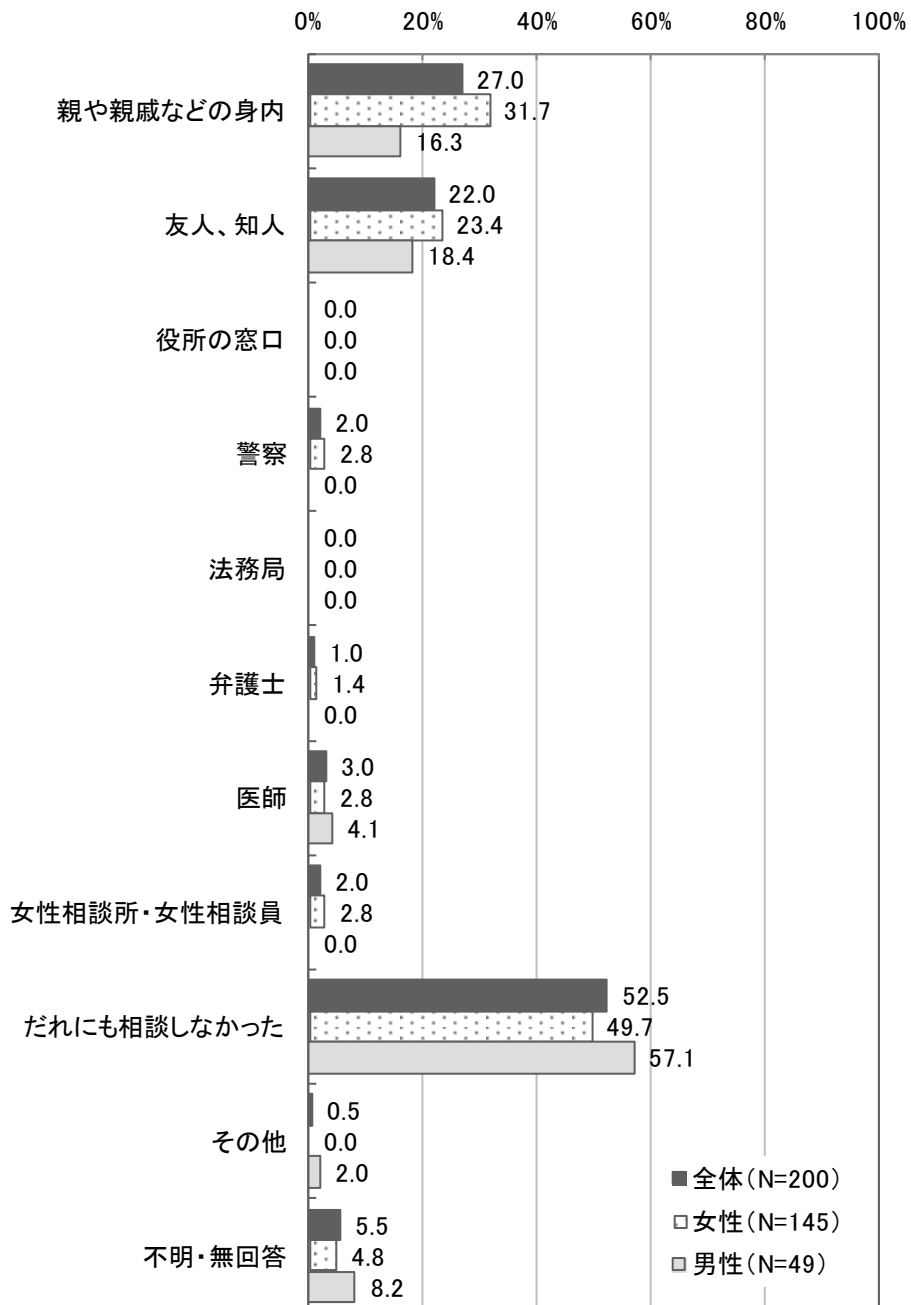


【問27で「1、2度あった」「何度もあった」に1つでも○をつけた方のみ】

問27-1 そのような行為を受けた後、だれか（どこか）に打ち明けたり、相談したりしましたか。  
（複数回答）

だれか（どこか）に打ち明けたり、相談したりしたかは、全体で「だれにも相談しなかった」が52.5%と最も高く、次いで「親や親戚などの身内」が27.0%となっています。

性別では、「だれにも相談しなかった」が男性で57.1%と、女性と比べて7.4ポイント高くなっています。





## 性別・年齢別比較

相談先として女性は「親や親戚などの身内」「友人、知人」が高くなっています。

(単位: %)	内親や親戚などの身	友人、知人	役所の窓口	警察	法務局	弁護士	医師	女性相談所・女性相談員	だれにも相談しなかった	その他	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>											
20歳代(N=8)	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0
30歳代(N=21)	19.0	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.6	0.0	4.8
40歳代(N=32)	37.5	28.1	0.0	3.1	0.0	0.0	3.1	6.3	43.8	0.0	0.0
50歳代(N=34)	32.4	17.6	0.0	8.8	0.0	2.9	2.9	2.9	55.9	0.0	5.9
60歳代(N=32)	34.4	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	3.1	50.0	0.0	6.3
70歳以上(N=18)	27.8	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.6	0.0	11.1
<b>【年齢別・男性】</b>											
20歳代(N=6)	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	50.0	0.0	0.0
30歳代(N=4)	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
40歳代(N=9)	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	77.8	0.0	11.1
50歳代(N=10)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	60.0	10.0	20.0
60歳代(N=6)	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0	0.0
70歳以上(N=14)	28.6	35.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	7.1

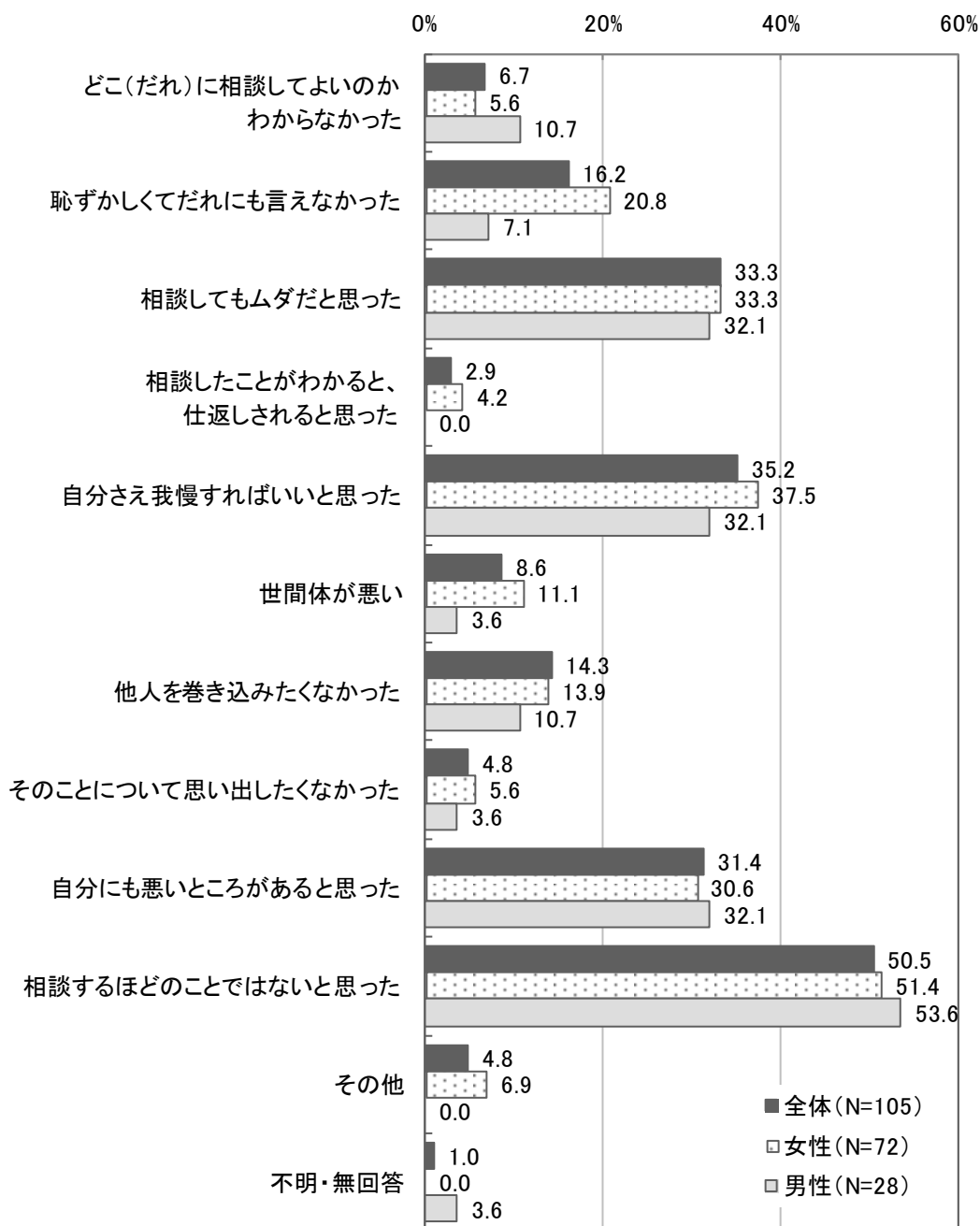
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

【問 27-1 で「だれにも相談しなかった」と答えた方のみ】

問 27-2 だれにも相談しなかった理由は何ですか。(複数回答)

だれにも相談しなかった理由は、全体で「相談するほどのことではないと思った」が 50.5%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すればいいと思った」が 35.2%となっています。

性別では、「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が女性で 20.8%と、男性と比べて 13.7 ポイント高くなっています。また、男性は「どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかった」が 10.7%と、女性と比べて 5.1 ポイント高くなっています。



## 性別・年齢別比較

女性の30歳代以上で「相談してもムダだと思った」「自分さえ我慢すればいいと思った」「自分にも悪いところがあると思った」「相談するほどのことではないと思った」といった理由が高くなっています。

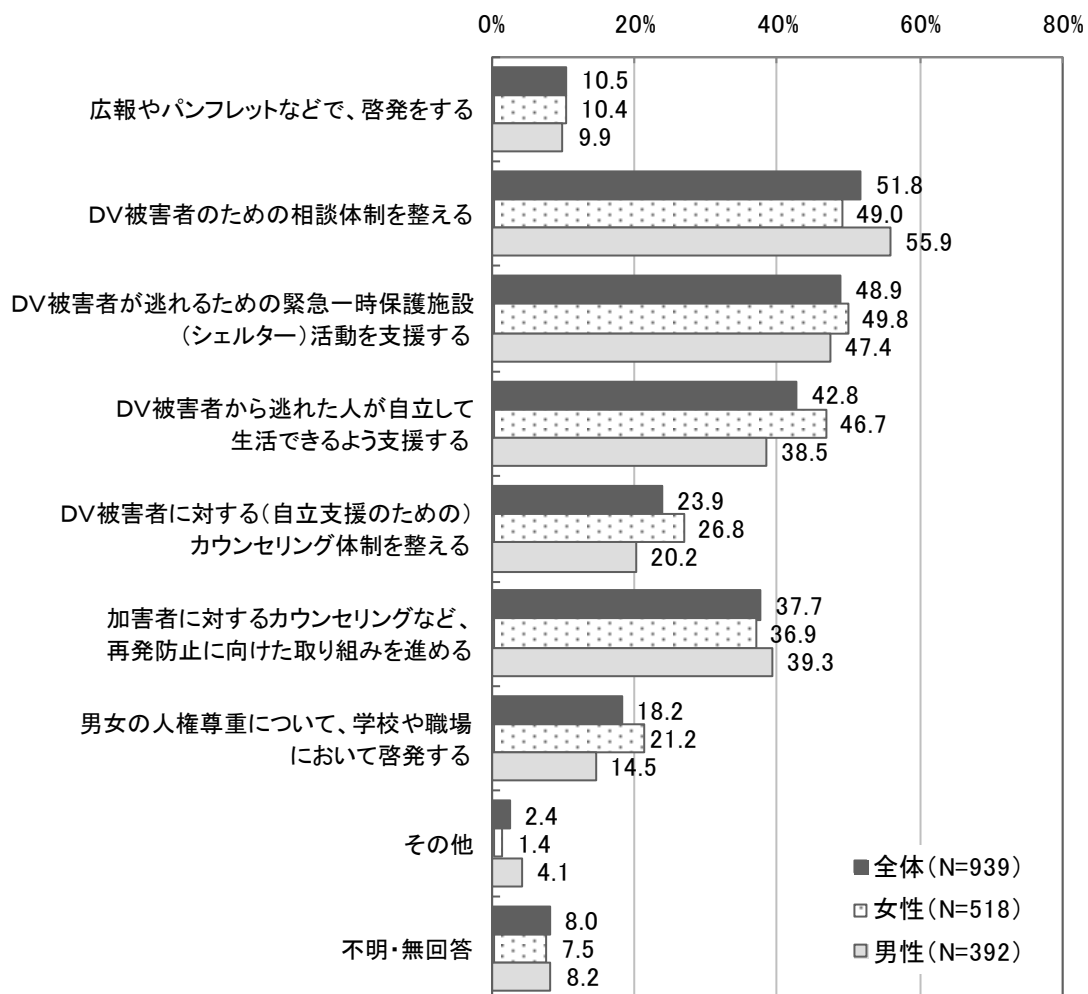
(単位: %)	どこ(だれ)に相談してよいかわからなかった	恥ずかしくてだれにも言えなかった	相談してもムダだと思った	相談したことがわかると、返されれると思った	自分さえ我慢すればいいと思った	世間体が悪い	他人を巻き込みたくなかった	そのことについて思い出しにくかった	自分にも悪いところがあると思った	相談するほどのことではないと思った	その他	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>												
20歳代(N=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
30歳代(N=10)	10.0	20.0	50.0	0.0	30.0	0.0	10.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0
40歳代(N=14)	7.1	14.3	28.6	0.0	28.6	14.3	14.3	7.1	21.4	50.0	21.4	0.0
50歳代(N=19)	0.0	15.8	42.1	10.5	36.8	5.3	15.8	0.0	26.3	52.6	0.0	0.0
60歳代(N=16)	6.3	31.3	25.0	6.3	56.3	18.8	12.5	12.5	25.0	43.8	6.3	0.0
70歳以上(N=10)	10.0	30.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	10.0	40.0	70.0	10.0	0.0
<b>【年齢別・男性】</b>												
20歳代(N=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(N=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0
40歳代(N=7)	0.0	14.3	28.6	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	71.4	0.0	0.0
50歳代(N=6)	16.7	0.0	33.3	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	83.3	0.0	0.0
60歳代(N=5)	20.0	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0
70歳以上(N=6)	16.7	0.0	16.7	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0	33.3	33.3	0.0	16.7

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

問 28 配属者や恋人からの暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）に対して、行政はどのような対応をする必要があると思いますか。（複数回答）

配属者や恋人からの暴力に対して、行政はどのような対応をする必要があると思うかは、全体で「DV被害者のための相談体制を整える」が 51.8%と最も高く、次いで「DV被害者が逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）活動を支援する」が 48.9%となっています。

性別では、女性で「DV被害者から逃れた人が自立して生活できるよう支援する」が 46.7%、「男女の人権尊重について、学校や職場において啓発する」が 21.2%、男性と比べてそれぞれ 8.2 ポイント、6.7 ポイント高くなっています。男性では「DV被害者のための相談体制を整える」が 55.9%と、女性と比べて 6.9 ポイント高くなっています。



## 性別・年齢別比較

女性の20～30歳代では「DV被害者が逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）活動を支援する」、40～60歳代では「DV被害者から逃れた人が自立して生活できるよう支援する」、70歳以上では「DV被害者のための相談体制を整える」がそれぞれ最も高くなっています。男性では「DV被害者のための相談体制を整える」「DV被害者が逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）活動を支援する」が上位のほか、60歳代以上では「加害者に対するカウンセリングなど、再発防止に向けた取り組みを進める」が上位となっています。

(単位: %)	広報やパンフレットなどで、啓発をする	DV被害者のための相談体制を整える	DV被害者が逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）活動を支援する	DV被害者から逃れた人が自立して生活できるよう支援する	DV被害者に対する（自立支援のための）カウンセリング体制を整える	加害者に対するカウンセリングなど、再発防止に向けた取り組みを進める	男女の人権尊重について、学校や職場において啓発する	その他	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>									
20歳代(N=61)	4.9	54.1	70.5	31.1	41.0	44.3	4.9	0.0	3.3
30歳代(N=106)	9.4	50.9	63.2	50.0	30.2	34.9	18.9	1.9	2.8
40歳代(N=103)	9.7	49.5	47.6	50.5	25.2	40.8	30.1	1.9	3.9
50歳代(N=103)	8.7	51.5	52.4	54.4	29.1	39.8	20.4	1.0	3.9
60歳代(N=89)	12.4	42.7	33.7	46.1	23.6	34.8	28.1	1.1	10.1
70歳以上(N=56)	19.6	44.6	26.8	37.5	8.9	23.2	17.9	1.8	30.4
<b>【年齢別・男性】</b>									
20歳代(N=55)	1.8	54.5	47.3	43.6	16.4	41.8	16.4	7.3	3.6
30歳代(N=60)	8.3	50.0	56.7	38.3	25.0	33.3	16.7	3.3	5.0
40歳代(N=68)	4.4	70.6	51.5	36.8	25.0	45.6	8.8	7.4	5.9
50歳代(N=85)	12.9	54.1	47.1	44.7	14.1	37.6	11.8	5.9	8.2
60歳代(N=72)	19.4	52.8	52.8	34.7	23.6	38.9	18.1	0.0	6.9
70歳以上(N=51)	9.8	51.0	25.5	31.4	17.6	39.2	17.6	0.0	21.6

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

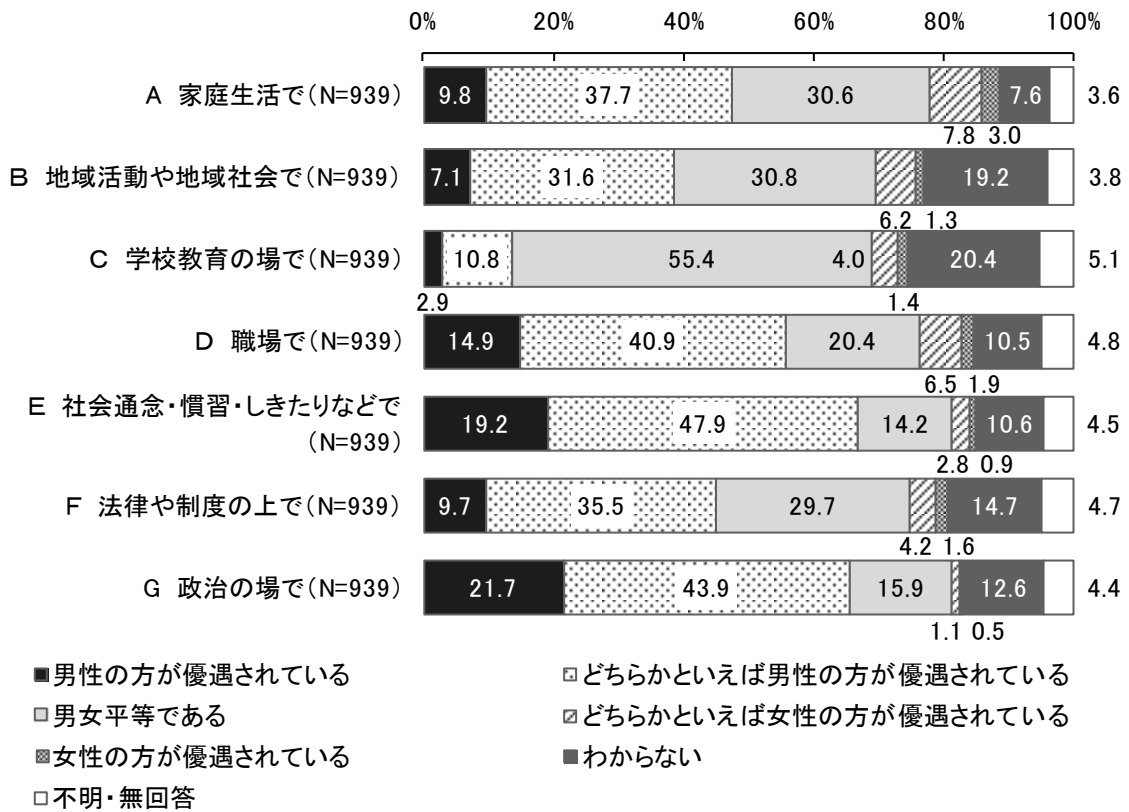
## 7 男女の平等観について

問 29 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをお答えください。(単数回答)

問 29 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

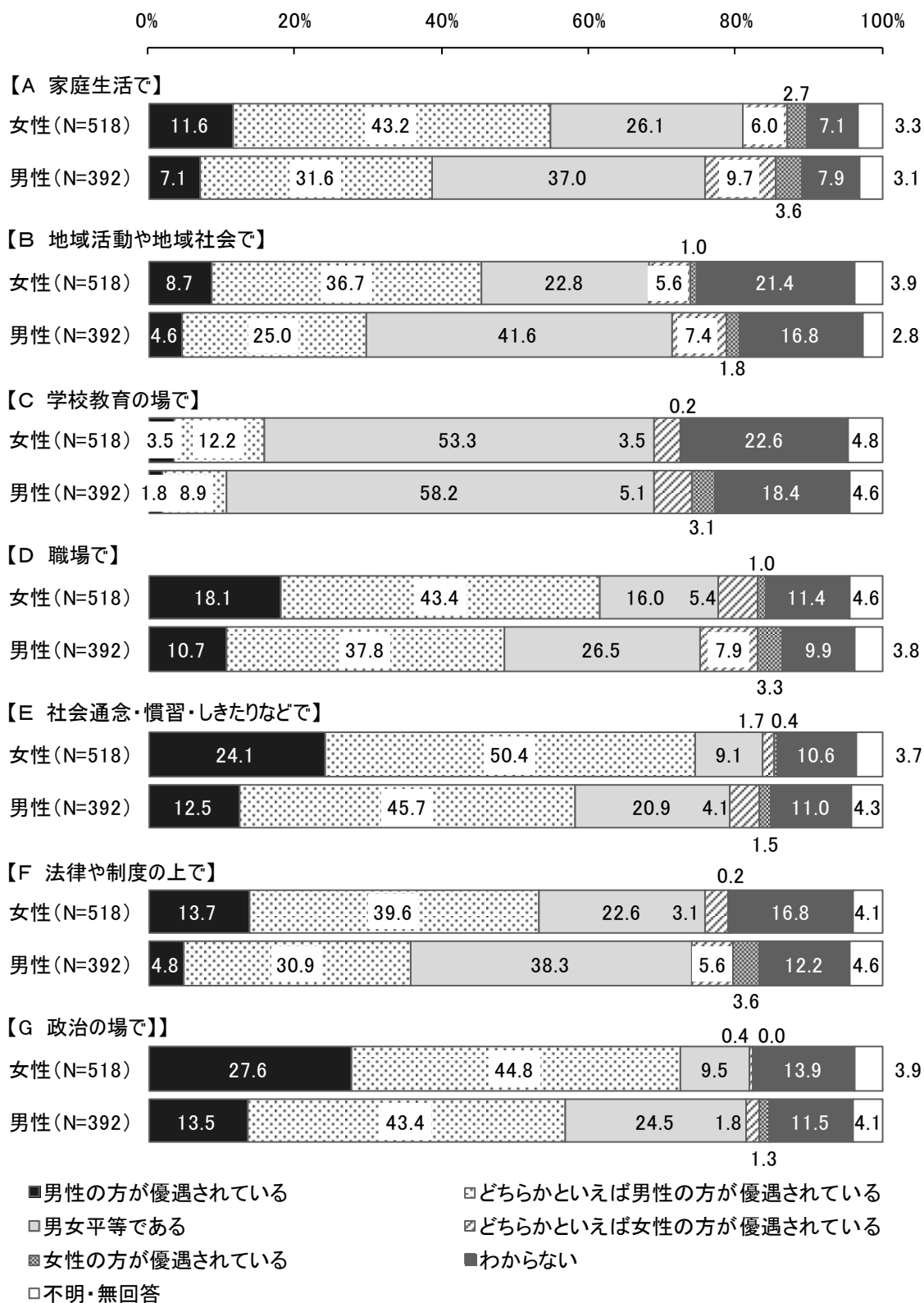
『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合算  
 『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合算

各分野での男女の平等意識について、最も「男女平等である」が高い分野は「C 学校教育の場で」となっています。『男性優遇』が高い分野は、「E 社会通念・慣習・しきたりなどで」「G 政治の場で」が6割を超えています。



## 性別比較

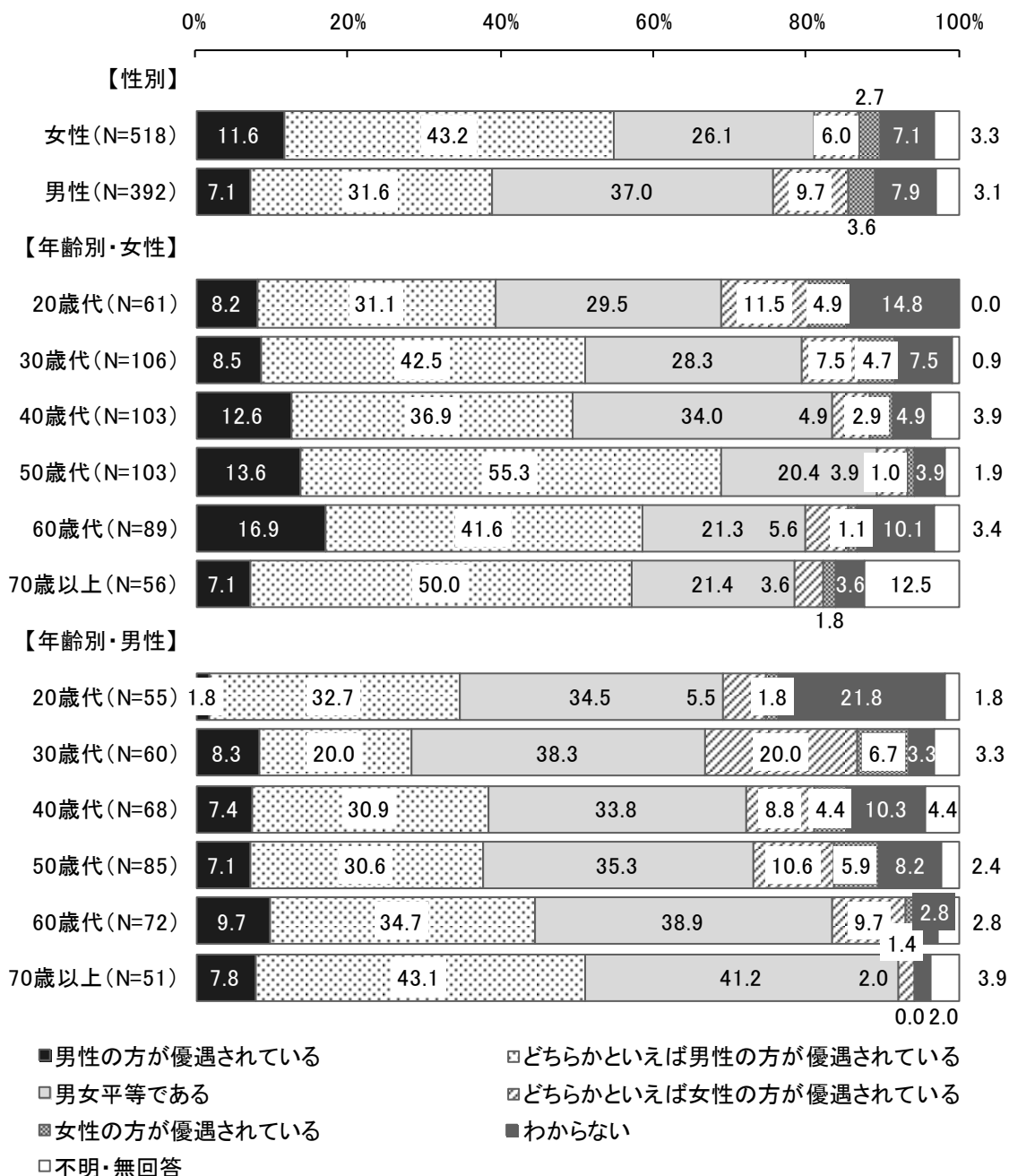
いずれの分野においても女性は男性に比べて『男性優遇』が高く、「C 学校教育の場で」を除いた分野で男性と比べて10ポイント以上の差となっています。一方、いずれの分野においても男性では女性に比べて「男女平等である」が高く、女性と比べて10ポイント以上の差となっています。



項目別集計結果

【A 家庭生活で】

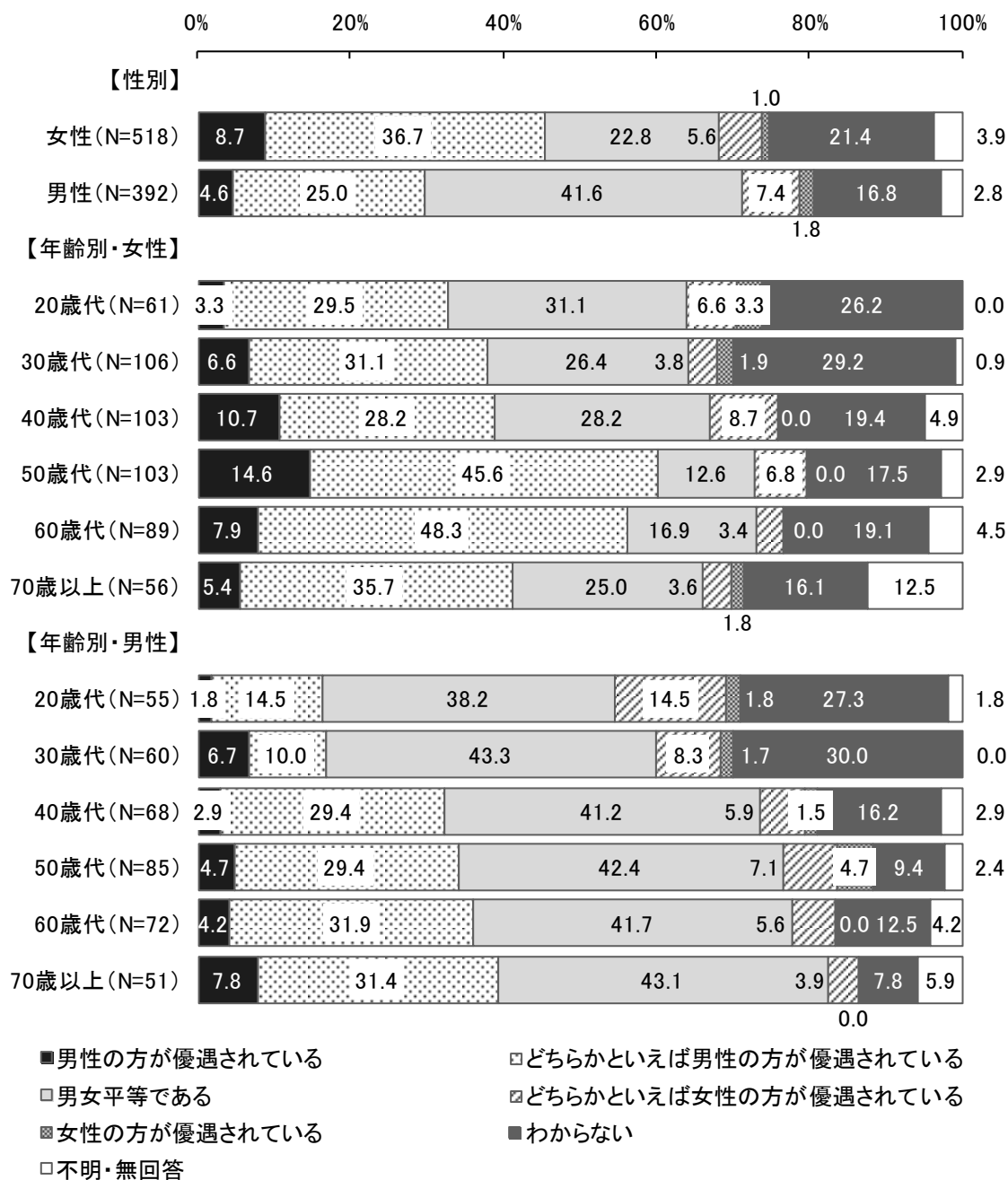
家庭生活における男女の平等意識については、女性の30歳代以上で『男性優遇』が約5割を超えて高くなっています。男性では20歳代、30歳代、50歳代で「男女平等である」が3割を超え、高くなっています。





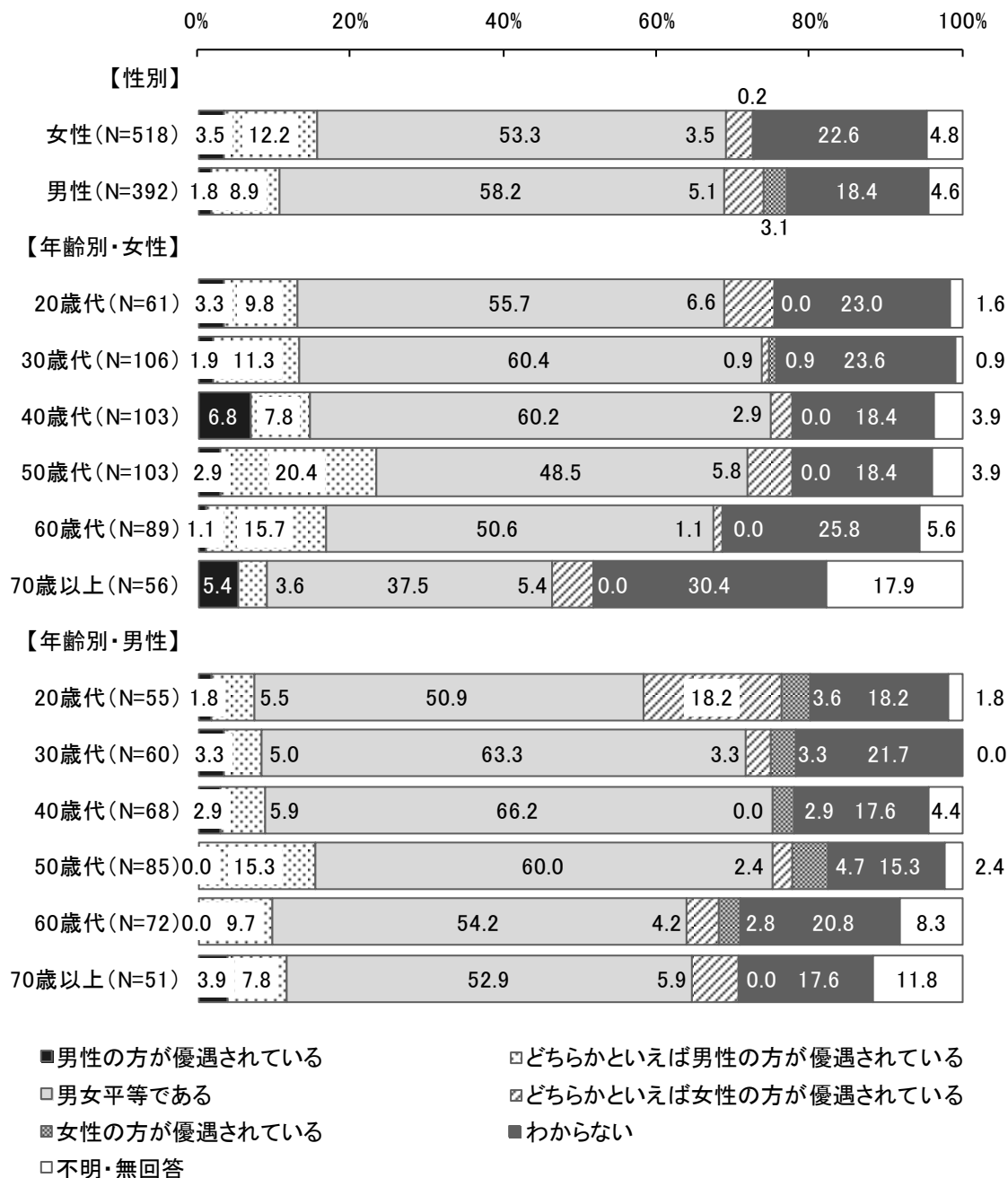
## 【B 地域活動や地域社会で】

地域活動や地域社会における男女の平等意識については、女性の50～60歳代で『男性優遇』が6割前後と高くなっています。男性ではすべての年代で「男女平等である」が4割前後と高くなっています。



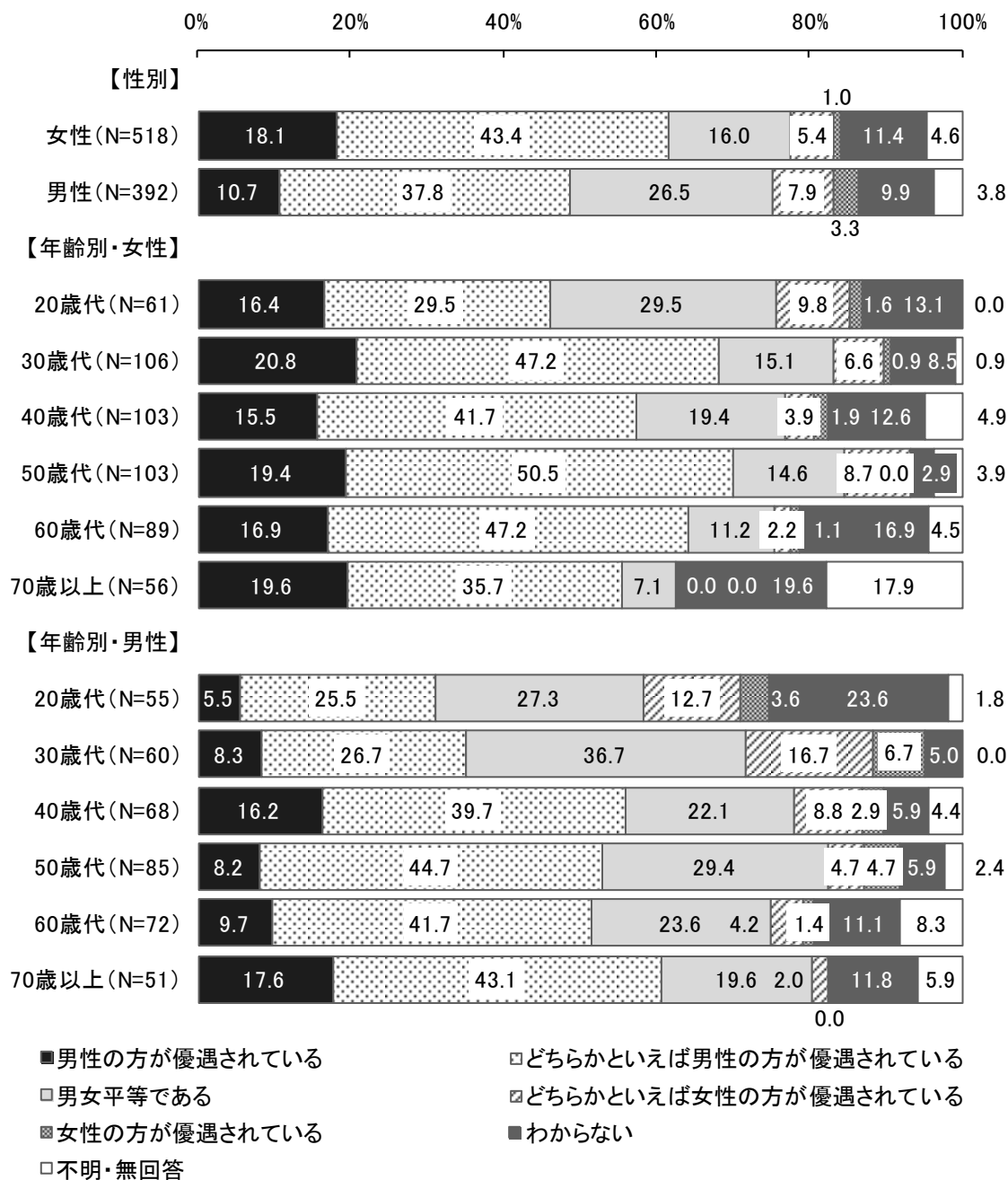
## 【C 学校教育の場で】

学校教育の場における男女の平等意識については、女性、男性のいずれの年代でも「男女平等である」が高くなっています。なお、女性の50歳代で『男性優遇』が、男性の20歳代で『女性優遇』がそれぞれ他の年代と比べて高くなっています。



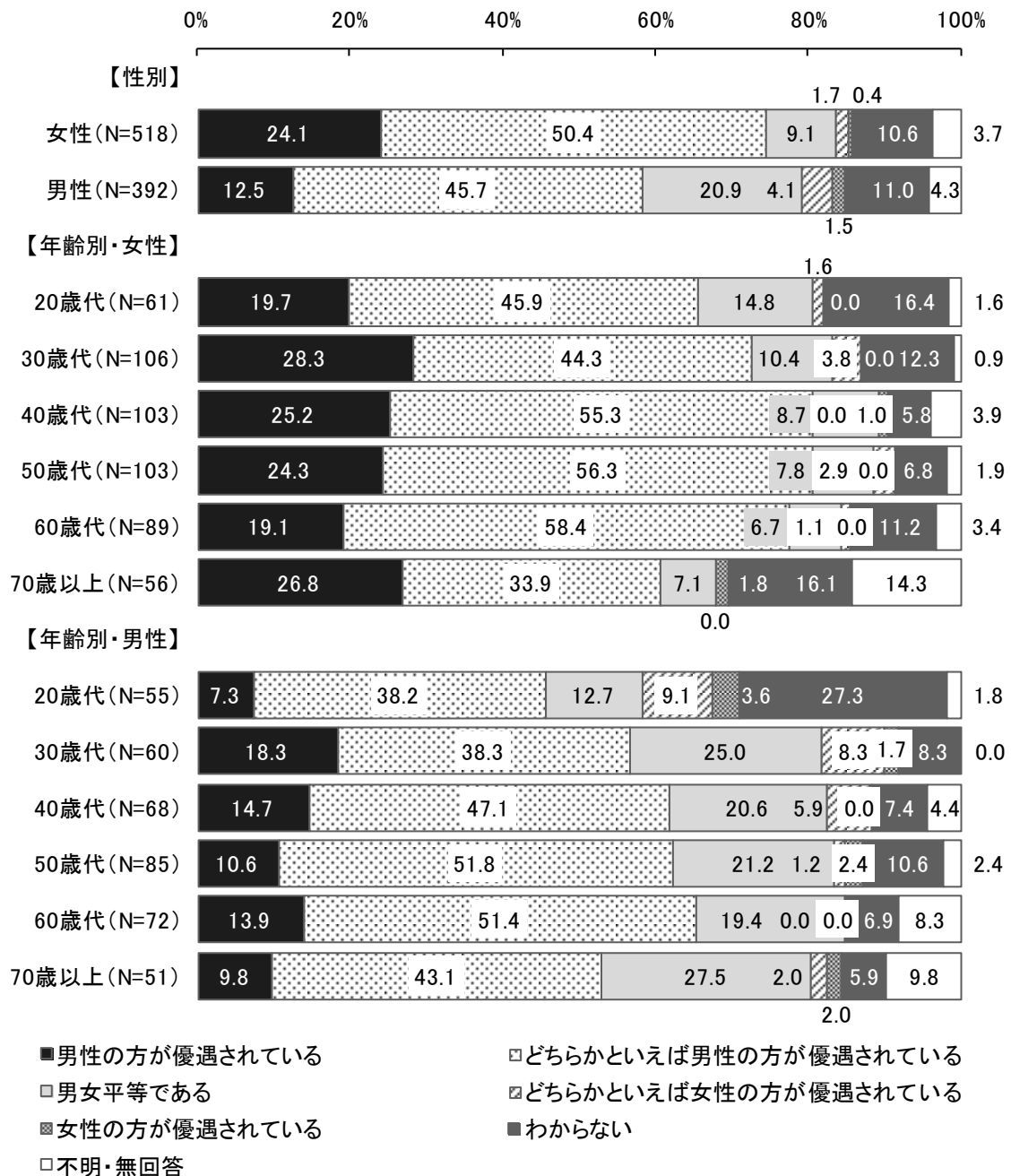
## 【D 職場で】

職場における男女の平等意識については、女性の30歳代以上では『男性優遇』が6割前後と高くなっています。男性では40歳代以上で『男性優遇』が5～6割強と高くなっています。なお、女性の20歳代及び男性の30歳代では「男女平等である」が、他の年代と比べて高くなっています。



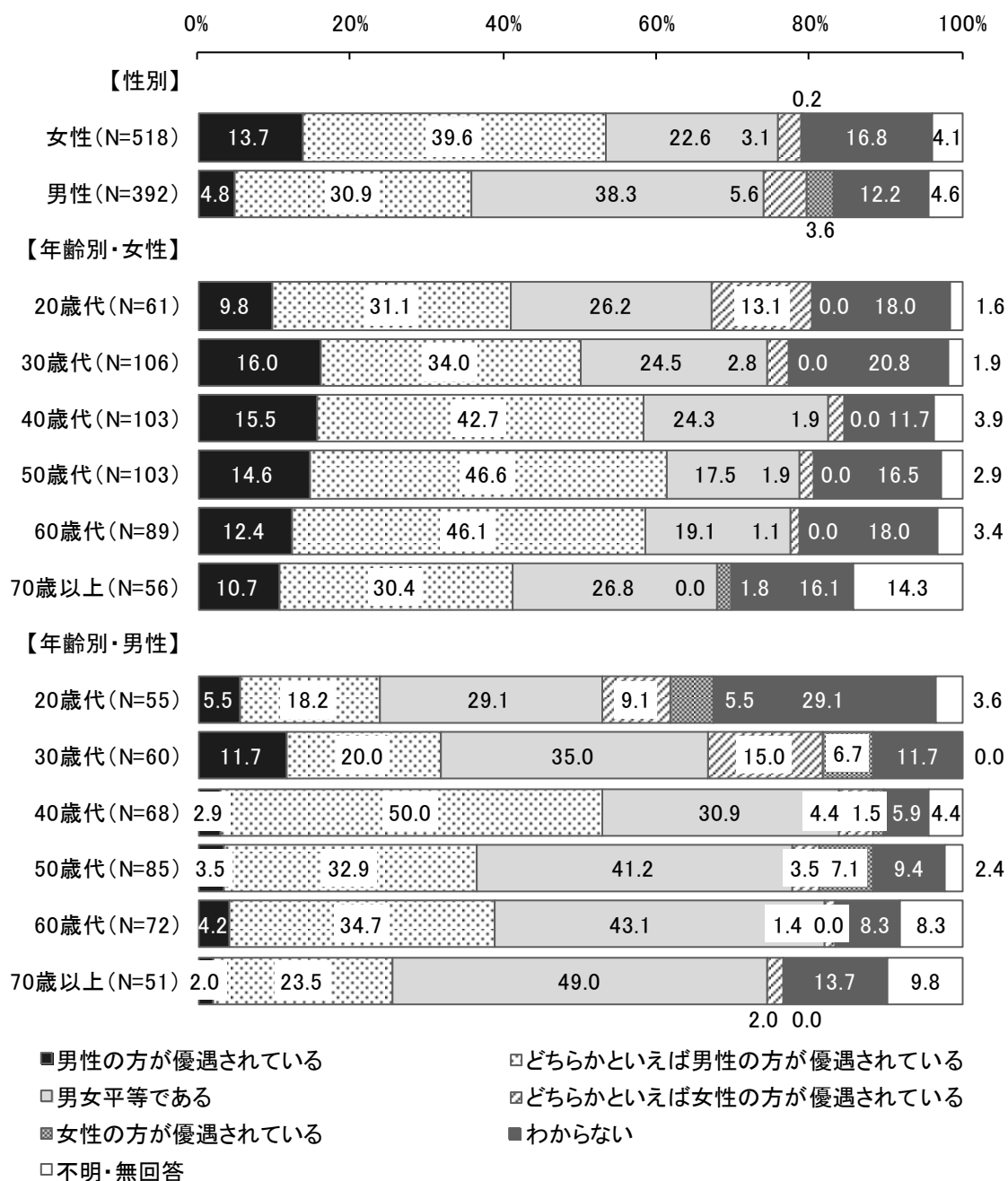
## 【E 社会通念・慣習・しきたりなどで】

社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の平等意識については、女性の30～60歳代は『男性優遇』が7割を超えて高くなっています。男性の40～60歳代は、『男性優遇』が6割を超えて高くなっています。なお、男性の30歳代以上で「男女平等である」が2割前後となっており、70歳以上では27.5%と、20歳代と比べて14.8ポイント高くなっています。



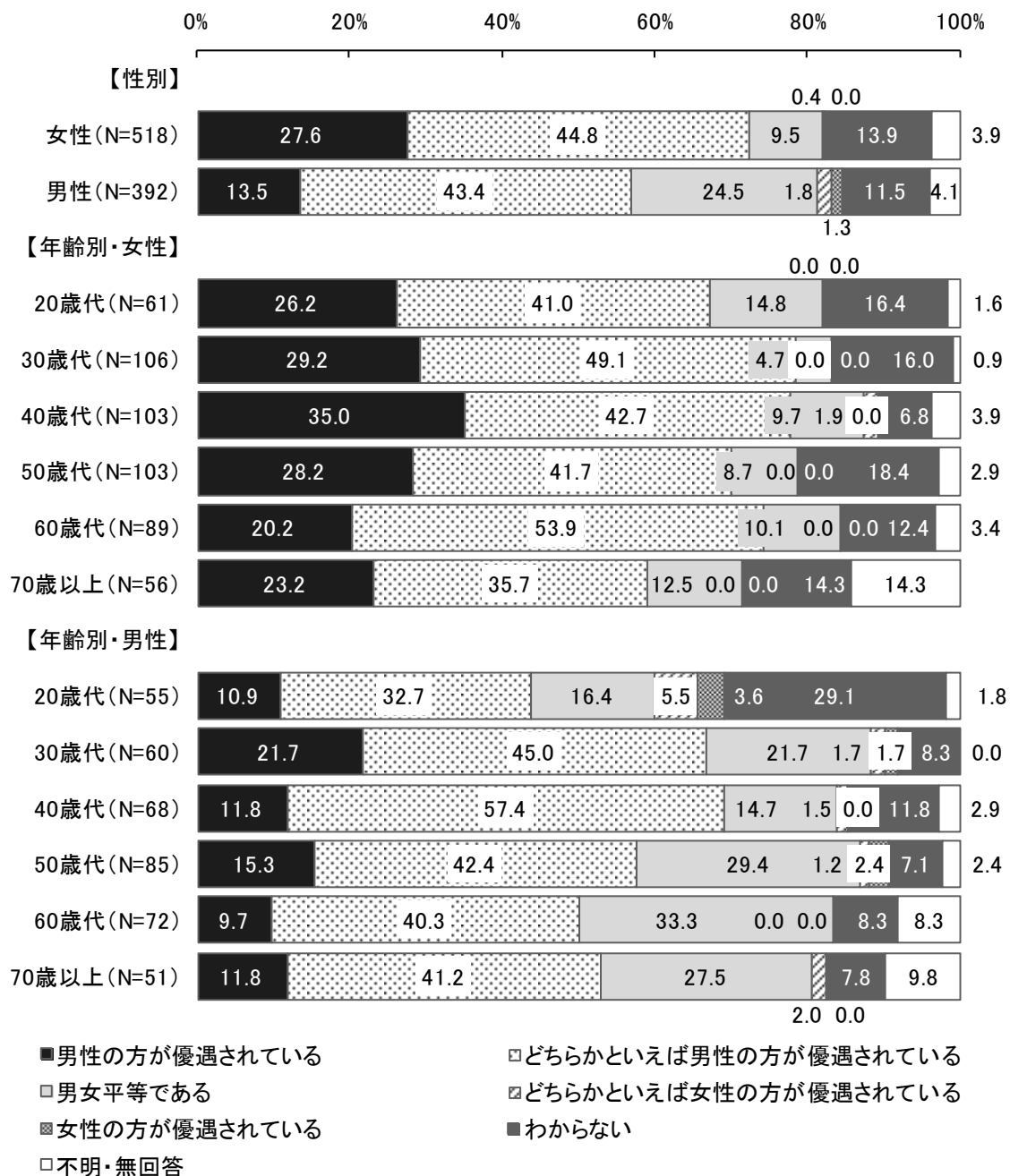
## 【F 法律や制度の上で】

法律や制度の上における男女の平等意識については、女性の40～60歳代は『男性優遇』が6割前後と高くなっています。男性の40歳代は、『男性優遇』が52.9%と他の年代と比べて高くなっています。なお、男性の30歳代以上で「男女平等である」が4割前後となっており、70歳以上では49.0%と、20歳代と比べて19.9ポイント高くなっています。



## 【G 政治の場で】

政治の場における男女の平等意識については、女性の20～60歳代は『男性優遇』が7割前後～8割弱と高くなっています。男性の30～50歳代は、『男性優遇』が6割前後～7割弱と高くなっています。なお、男性の50歳代以上で「男女平等である」が3割前後となっており、60歳代では33.3%と、40歳代と比べて18.6ポイント高くなっています。



## 8 市の施策への女性意見の反映について

問30 あなたは、社会問題や市政について関心がありますか。(単数回答)

問30の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

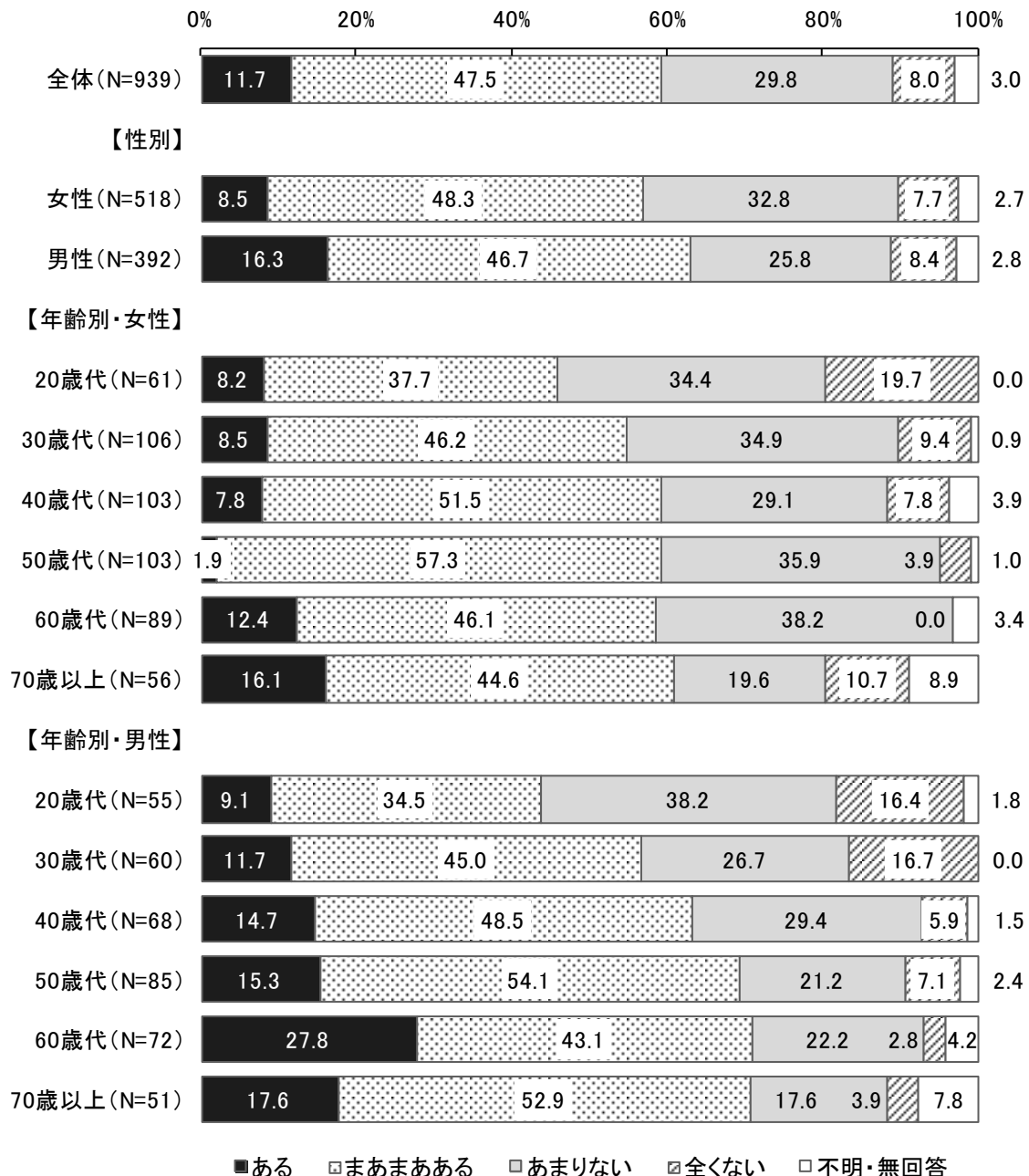
『ある』…「ある」と「まあまあある」を合算

『ない』…「全くない」と「あまりない」を合算

社会問題や市政について関心の程度は、全体で『ある』が59.2%、『ない』が37.8%となっています。

性別では、『ある』が男性で63.0%と、女性と比べて6.2ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、女性、男性の30歳代以上では『ある』が5割を超えているものの、20歳代では4割強にとどまっています。なお、女性の50歳代で「ある」が他の年代と比べても低くなっています。



問 31 市の施策に女性の意見や考え方が反映されていると思いますか。(単数回答)

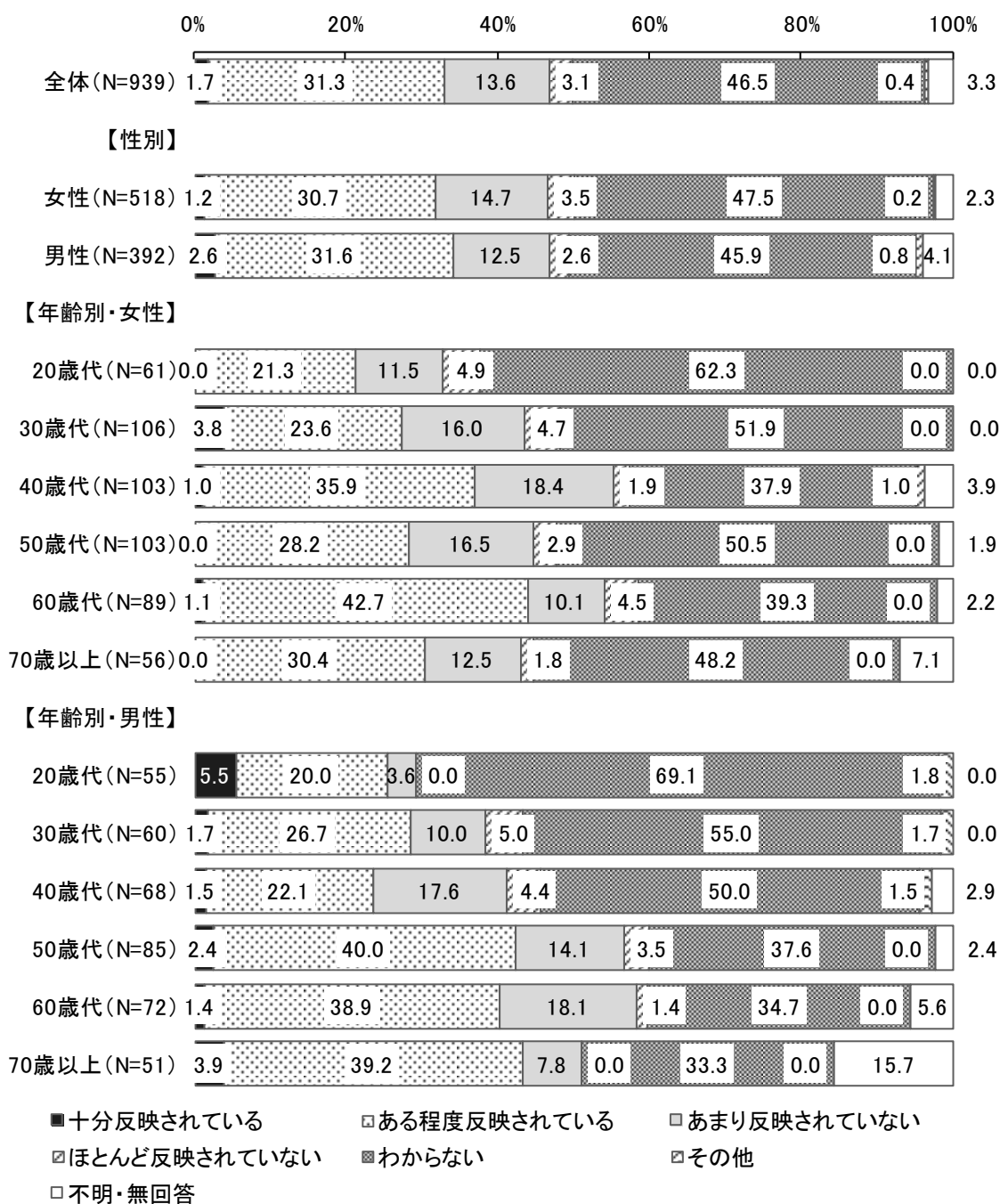
問 31 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

- 『反映されている』…「十分反映されている」と「ある程度反映されている」を合算
- 『反映されていない』…「ほとんど反映されていない」と「あまり反映されていない」を合算

市の施策に女性の意見や考え方が反映されていると思うかは、全体で『反映されている』が 33.0%、『反映されていない』が 16.7%となっています。

性別では、『反映されている』が男性で 34.2%と、女性と比べて 2.3 ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、女性の 60 歳代及び男性の 50 歳代以上では『反映されている』が 4 割を超えて高くなっています。なお、男性の 20 歳代で「十分反映されている」が他の年代と比べても高くなっています。



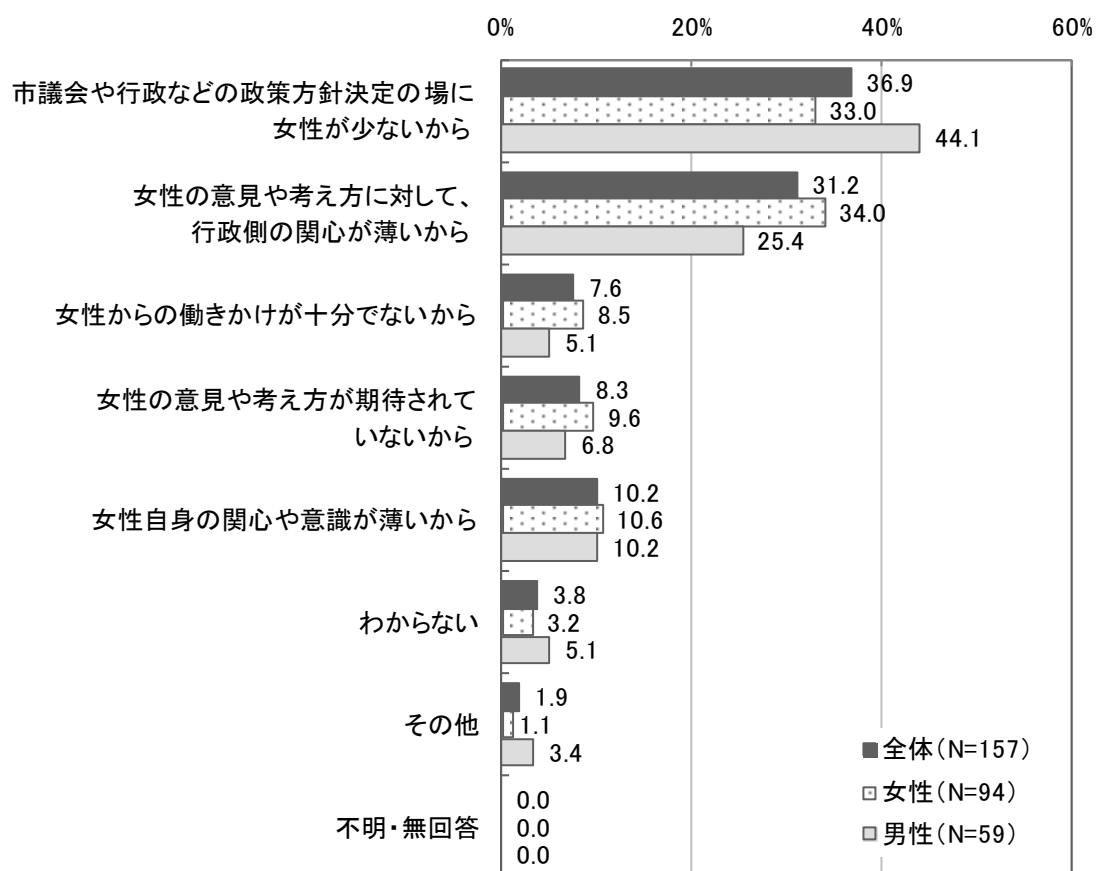


【問31で「あまり反映されていない」または「ほとんど反映されていない」と答えた方のみ】

問31-1 市の施策に女性の意見や考え方が反映されていないと思われる理由は何ですか。(単数回答)

市の施策に女性の意見や考え方が反映されていないと思う理由は、全体で「市議会や行政などの政策方針決定の場に女性が少ないから」が36.9%と最も高く、次いで「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」が31.2%となっています。

性別では、女性で「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」が34.0%と、男性と比べて8.6ポイント、男性は「市議会や行政などの政策方針決定の場に女性が少ないから」が44.1%と、女性と比べて11.1ポイント、それぞれ高くなっています。



## 性別・年齢別比較

「市議会や行政などの政策方針決定の場に女性が少ないから」「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」のほか、女性の20歳代で「女性の意見や考え方が期待されていないから」、女性の60歳代及び男性の40歳代で「女性自身の関心や意識が薄いから」が上位となっています。

(単位: %)	市議会や行政などの政策方針決定の場に女性が少ないから	女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから	女性からの働きかけが十分でないから	女性の意見や考え方が期待されていないから	女性自身の関心や意識が薄いから	わからない	その他	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>								
20歳代(N=10)	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(N=22)	27.3	36.4	9.1	13.6	0.0	9.1	4.5	0.0
40歳代(N=21)	33.3	47.6	0.0	4.8	14.3	0.0	0.0	0.0
50歳代(N=20)	25.0	35.0	15.0	10.0	15.0	0.0	0.0	0.0
60歳代(N=13)	30.8	15.4	7.7	7.7	30.8	7.7	0.0	0.0
70歳以上(N=8)	37.5	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
<b>【年齢別・男性】</b>								
20歳代(N=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(N=9)	44.4	44.4	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代(N=15)	46.7	20.0	6.7	0.0	20.0	0.0	6.7	0.0
50歳代(N=15)	46.7	20.0	0.0	13.3	0.0	13.3	6.7	0.0
60歳代(N=14)	50.0	21.4	14.3	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0
70歳以上(N=4)	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

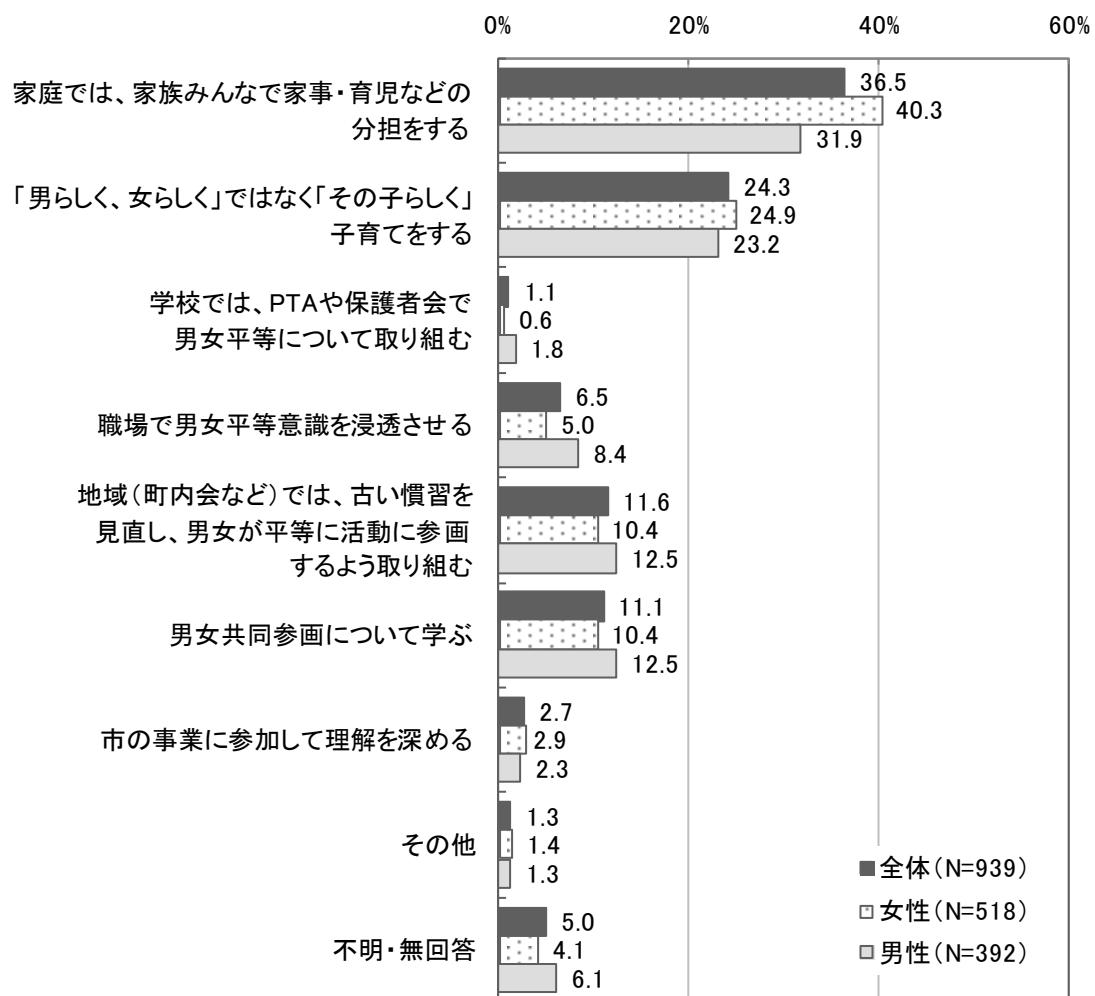
※回答者(N)が10件未満の年代については、順位の表記はしていません。

## 9 男女共同参画に関する考え方について

問 32 男女共同参画は、私たち一人ひとりの身近な課題です。あなたなら、どんなことができると思いますか。(単数回答)

男女共同参画でできることは、全体で「家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする」が36.5%と最も高く、次いで「男らしく、女らしく」ではなく「その子らしく」子育てをする」が24.3%となっています。

性別では、家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする」が女性で40.3%と、男性と比べて8.9ポイント高くなっています。



## 性別・年齢別比較

「家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする」が女性で、年代が若いほど高くなる傾向があります。

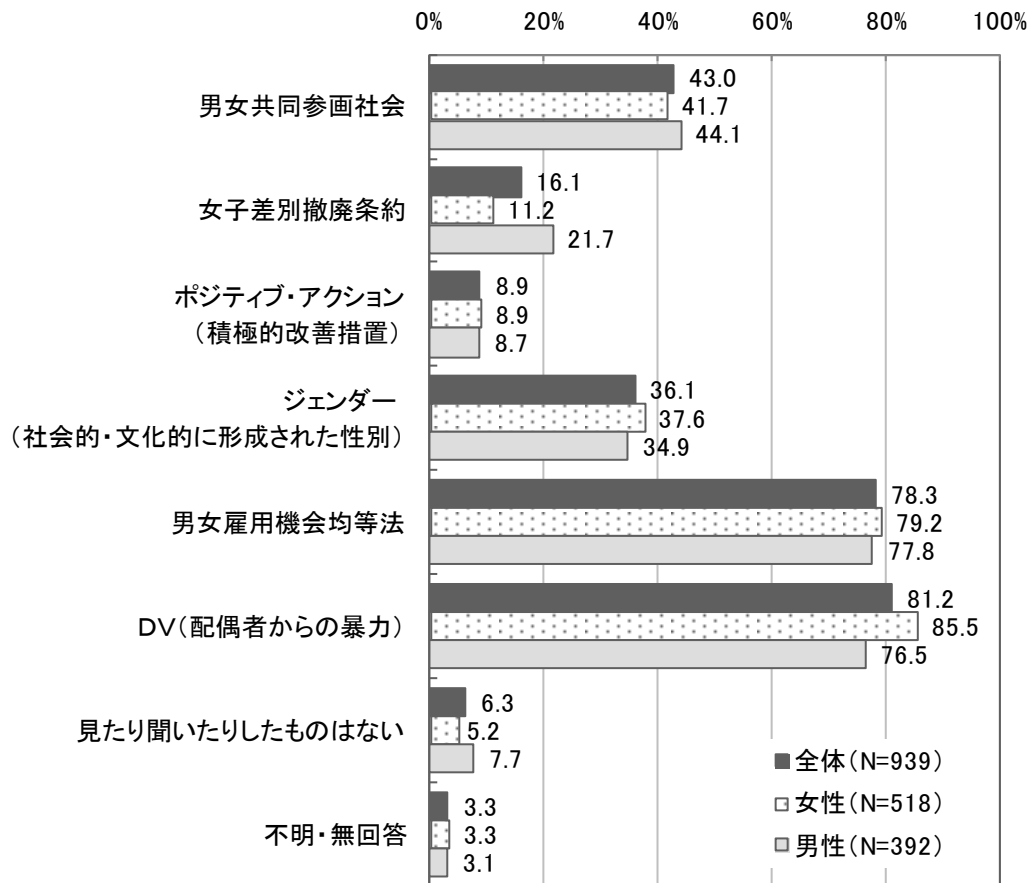
(単位: %)	家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする	「男らしく、女らしく」ではなく「その子らしく」子育てをする	学校では、PTAや保護者会で男女平等について取り組む	職場で男女平等意識を浸透させる	地域(町内会など)では、古い慣習を見直し、男女が平等に活動に参加するよう取り組む	男女共同参画について学ぶ	市の事業に参加して理解を深める	その他	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>									
20歳代(N=61)	50.8	29.5	0.0	3.3	4.9	8.2	1.6	0.0	1.6
30歳代(N=106)	44.3	27.4	0.9	5.7	11.3	7.5	1.9	0.0	0.9
40歳代(N=103)	44.7	28.2	1.0	5.8	2.9	7.8	2.9	3.9	2.9
50歳代(N=103)	36.9	22.3	1.0	6.8	10.7	13.6	3.9	1.0	3.9
60歳代(N=89)	33.7	23.6	0.0	1.1	12.4	15.7	2.2	2.2	9.0
70歳以上(N=56)	30.4	16.1	0.0	7.1	25.0	8.9	5.4	0.0	7.1
<b>【年齢別・男性】</b>									
20歳代(N=55)	29.1	32.7	1.8	12.7	14.5	3.6	1.8	0.0	3.6
30歳代(N=60)	43.3	23.3	0.0	6.7	5.0	10.0	1.7	1.7	8.3
40歳代(N=68)	35.3	22.1	0.0	10.3	8.8	17.6	1.5	1.5	2.9
50歳代(N=85)	32.9	21.2	4.7	15.3	4.7	15.3	1.2	3.5	1.2
60歳代(N=72)	26.4	16.7	2.8	2.8	23.6	15.3	2.8	0.0	9.7
70歳以上(N=51)	23.5	25.5	0.0	0.0	21.6	9.8	5.9	0.0	13.7

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

問 33 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを教えてください。(複数回答)

見聞きしたことがある言葉については、全体で「DV（配偶者からの暴力）」が81.2%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」が78.3%となっています。

性別では、「女子差別撤廃条約」が男性で21.7%と、女性と比べて10.5ポイント高くなっています。



## 性別・年齢別比較

「女子差別撤廃条約」が女性の40歳代以上で認知度が低くなっています。

(単位:%)	男女共同参画社会	女子差別撤廃条約	ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)	法	男女雇用機会均等	DV(配偶者からの暴力)	見たり聞いたりしたものは無い	不明・無回答
<b>【年齢別・女性】</b>									
20歳代(N=61)	63.9	21.3	13.1	67.2	80.3	80.3	95.1	1.6	0.0
30歳代(N=106)	36.8	22.6	5.7	50.0	86.8	86.8	92.5	3.8	0.9
40歳代(N=103)	38.8	6.8	6.8	46.6	81.6	81.6	91.3	2.9	1.9
50歳代(N=103)	43.7	5.8	7.8	33.0	81.6	81.6	84.5	6.8	1.9
60歳代(N=89)	38.2	4.5	12.4	10.1	68.5	68.5	77.5	11.2	5.6
70歳以上(N=56)	33.9	7.1	10.7	17.9	71.4	71.4	66.1	3.6	12.5
<b>【年齢別・男性】</b>									
20歳代(N=55)	58.2	27.3	9.1	67.3	78.2	78.2	87.3	3.6	1.8
30歳代(N=60)	31.7	25.0	11.7	40.0	70.0	70.0	78.3	10.0	3.3
40歳代(N=68)	39.7	23.5	11.8	32.4	76.5	76.5	80.9	8.8	2.9
50歳代(N=85)	47.1	17.6	11.8	35.3	82.4	82.4	80.0	3.5	2.4
60歳代(N=72)	51.4	22.2	5.6	23.6	87.5	87.5	77.8	2.8	4.2
70歳以上(N=51)	35.3	15.7	0.0	13.7	68.6	68.6	51.0	19.6	3.9

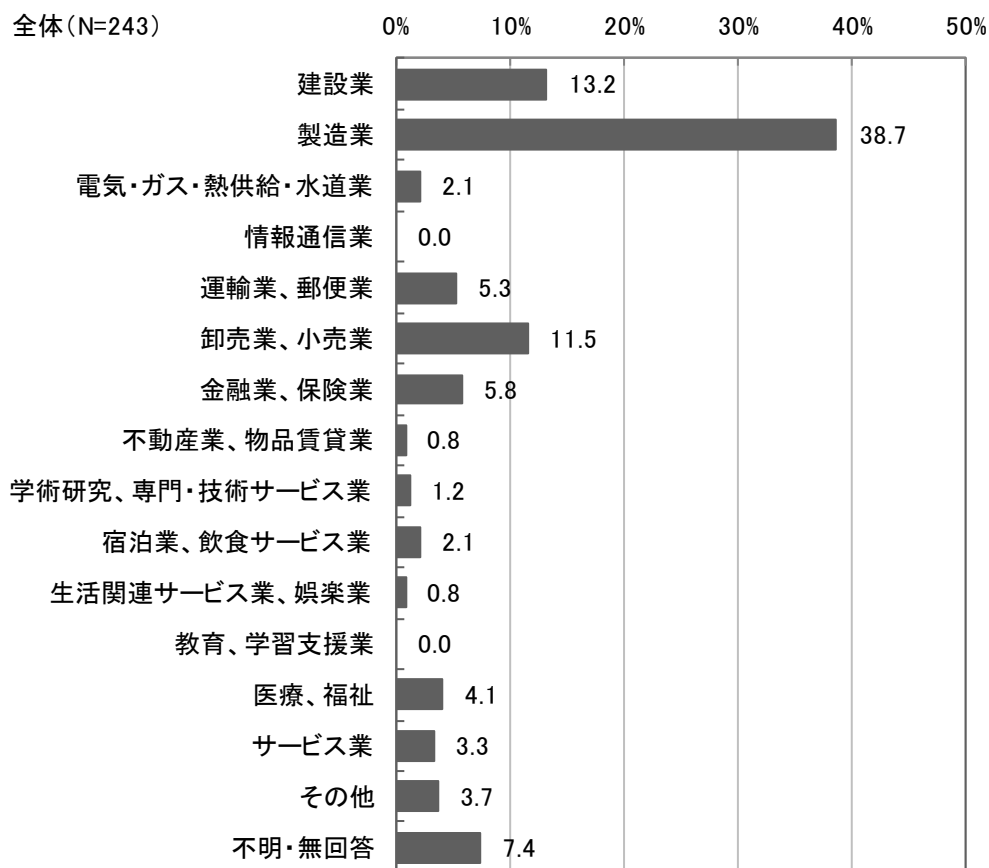
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

### Ⅲ 企業調査結果

# 1 回答企業の概要

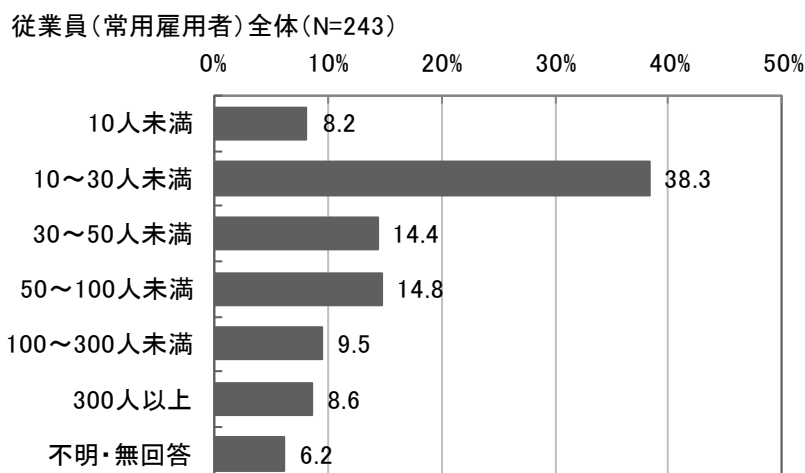
問1 貴社の主な業種について、あてはまるものをお答えください。(単数回答)

主な業種は、「製造業」が38.7%と最も高く、次いで「建設業」が13.2%となっています。



問2 貴社の従業員（常用雇用者）の人数を教えてください。(数量回答)

従業員（常用雇用者）の人数は、全体で「10～30人」が38.3%と最も高く、次いで「50～100人」が14.8%となっています。



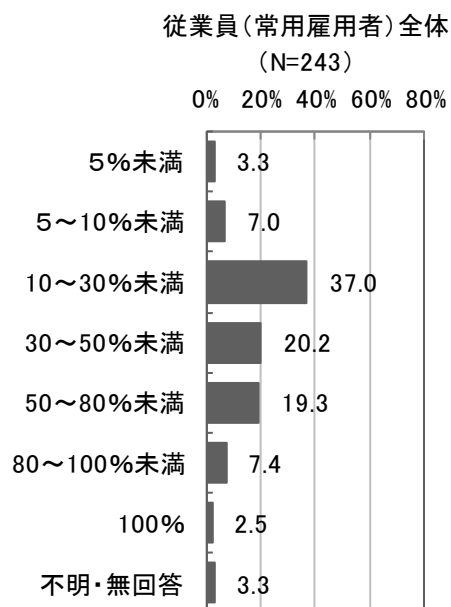
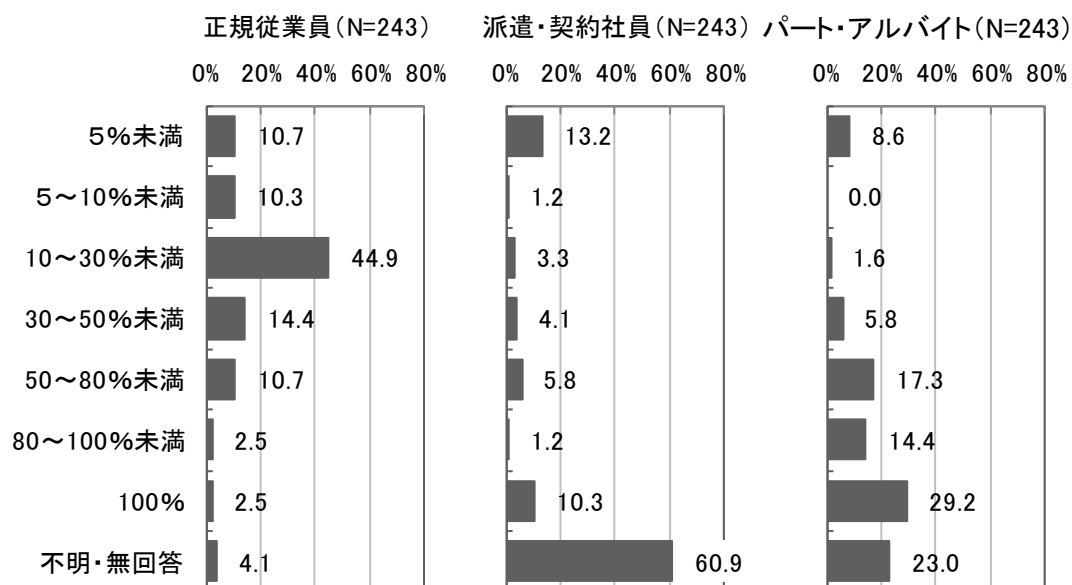


## 雇用形態別の女性比率

雇用形態別の女性比率についてみると、正規従業員は「10～30%」が44.9%と最も高く、次いで「30～50%」が14.4%となっています。

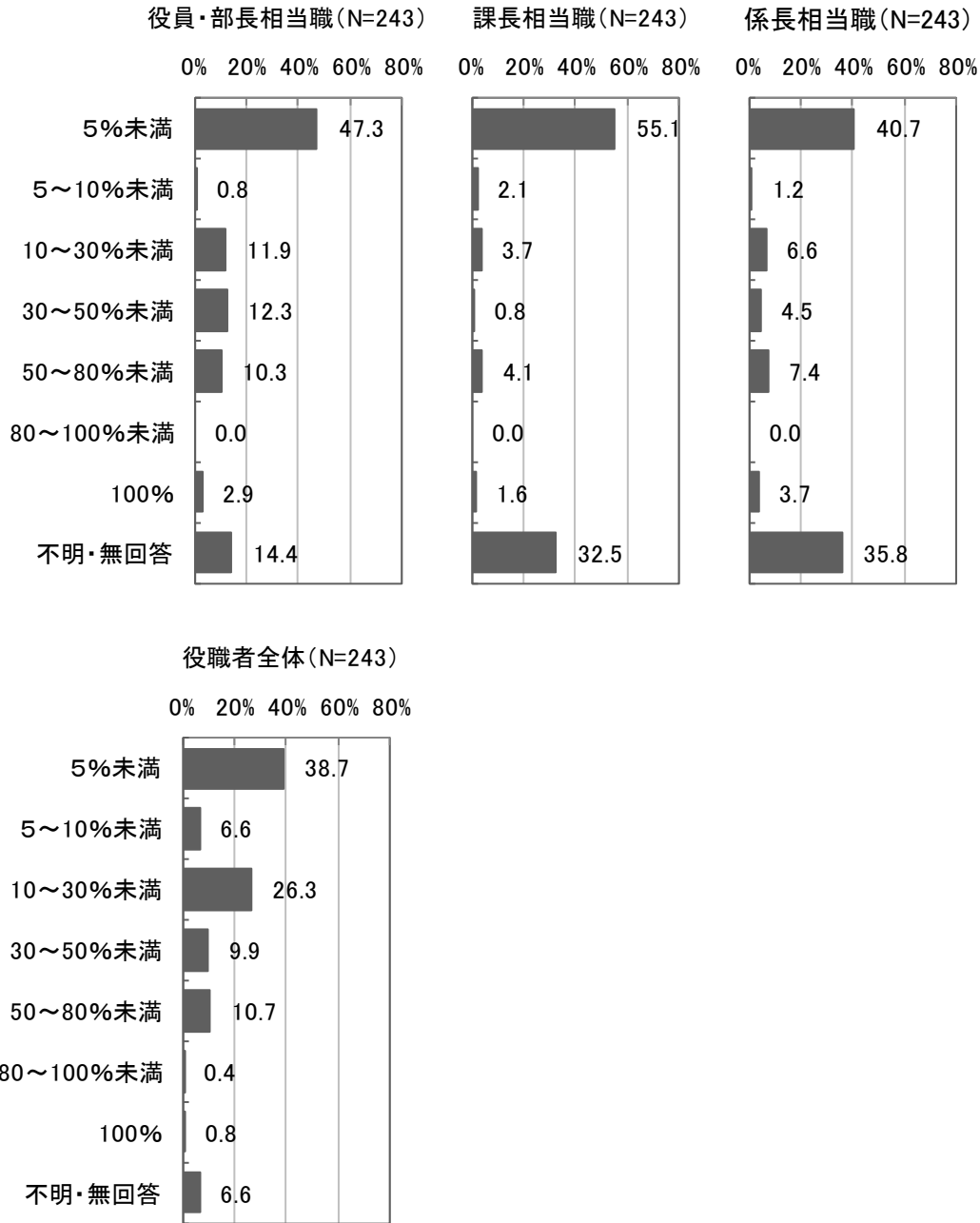
パート・アルバイトは「100%」が29.2%と最も高く、次いで「50～80%」が17.3%となっています。

従業員（常用雇用者）全体では、「10～30%」が37.0%と最も高く、次いで「30～50%」が20.2%となっています。



### 問3 役職者の女性比率

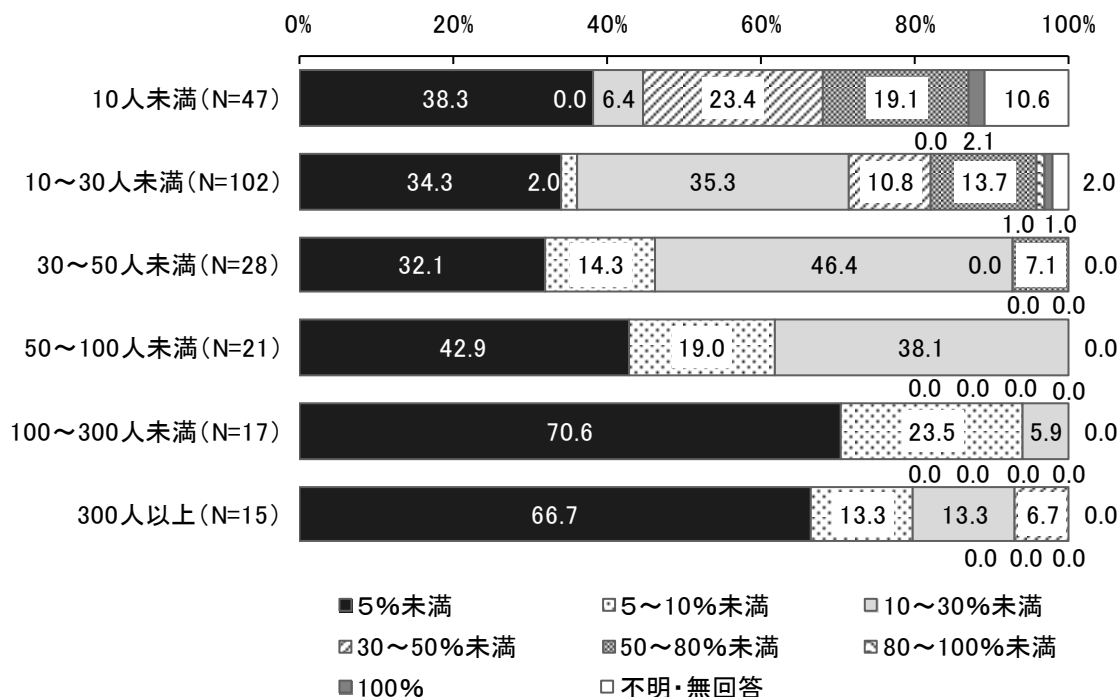
役職別の女性比率についてみると、役員・部長相当職、課長相当職及び係長相当職のいずれも、「5%未満」が最も高く、役員・部長相当職が47.3%、課長相当職が55.1%、係長相当職が40.7%となっています。  
 役職者全体では、「5%未満」が38.7%と最も高く、次いで「10~30%」が26.3%となっています。



## 事業所規模別の女性比率

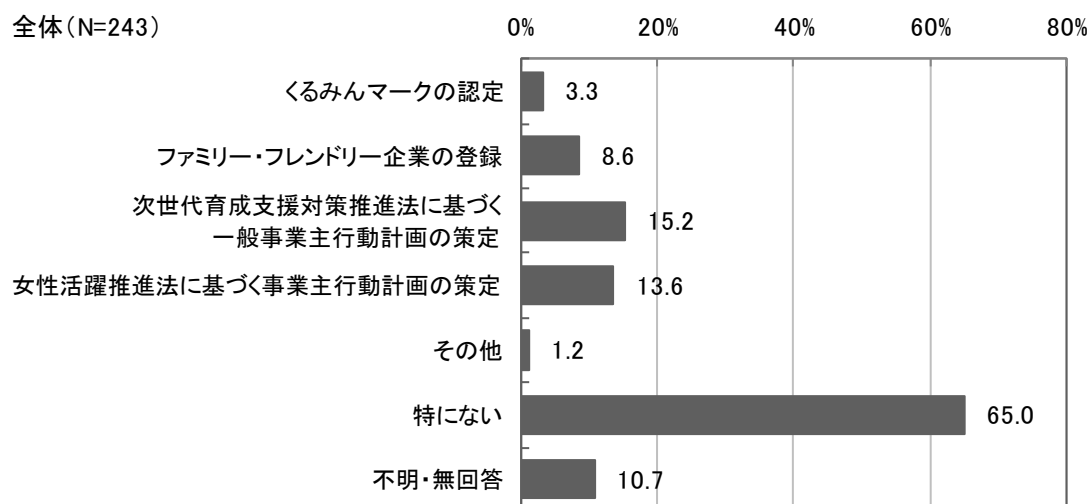
事業所規模別の女性比率についてみると、10人未満、50～100人未満、100～300人未満及び300人以上の事業所では「5%未満」が、10～30人未満及び30～50人未満の事業所では「10～30%未満」がそれぞれ最も高くなっています。特に、100人以上の事業所では「5%未満」が7割前後と高くなっています。

なお、10人未満の事業所では、「50～80%未満」が19.1%、「100%」が2.1%と、他の規模と比べて高くなっています。



## 問4 貴社は、次のような取組を行っていますか。(複数回答)

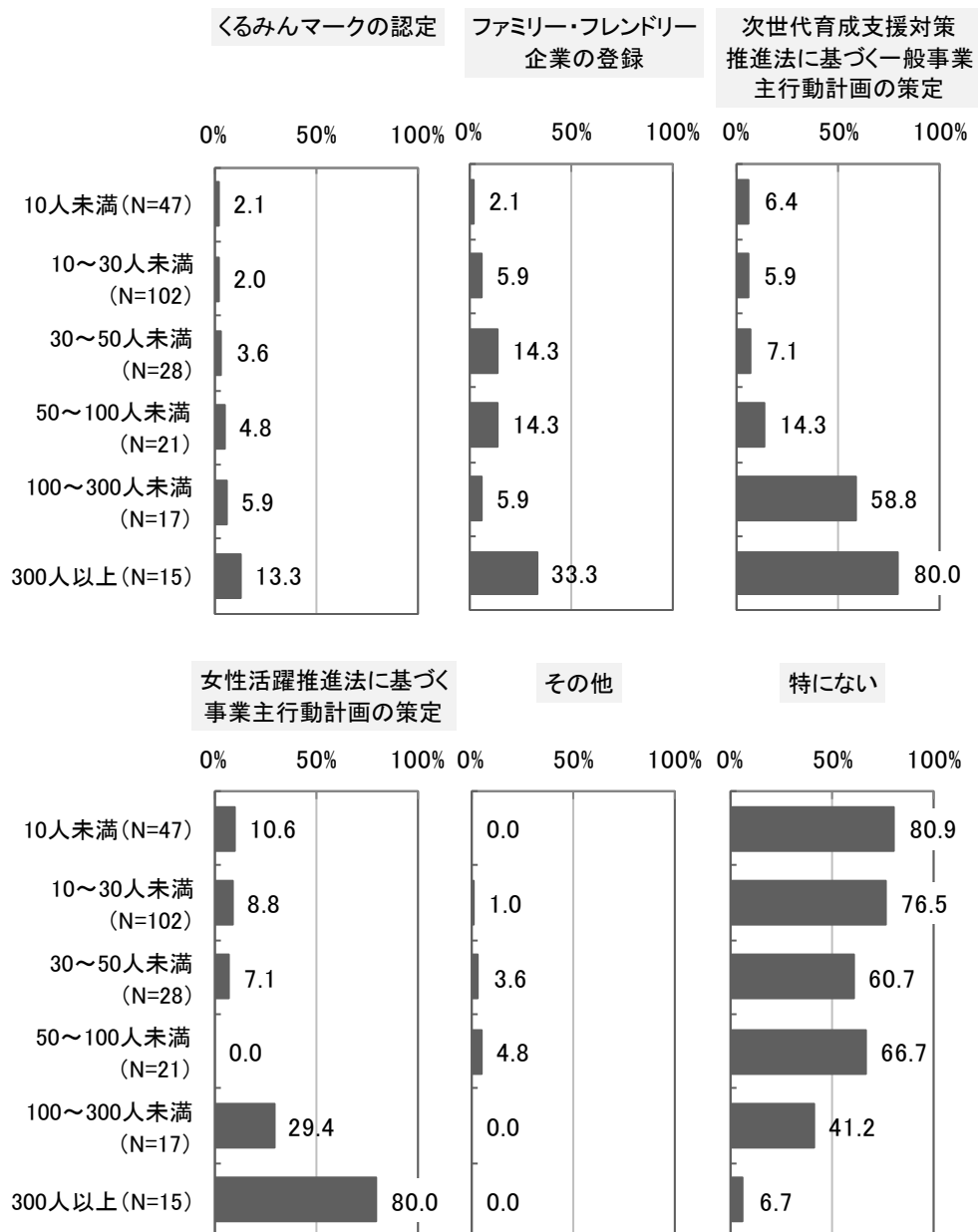
各企業における取組は、「特にない」が65.0%と最も高くなっています。なお、取組んでいる企業では「次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定」が15.2%と高く、次いで「女性活躍推進法に基づく事業主行動計画の策定」が13.6%となっています。



## 事業所規模別の取組

事業所規模別における取組は、100人未満の事業所で「特にない」が6割を超えて高くなっています。

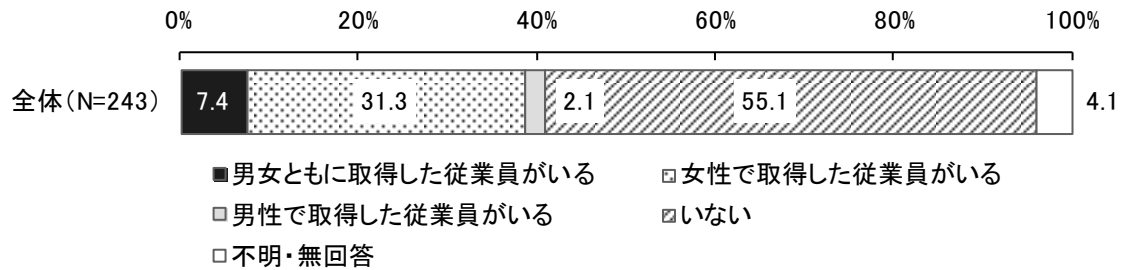
なお、取り組んでいる項目のうち、100人以上の事業所で「次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定」「女性活躍推進法に基づく事業主行動計画の策定」が、100人未満の事業所と比べて高くなっています。なお、50～100人未満の事業所で「女性活躍推進法に基づく事業主行動計画の策定」が0.0%となっています。



## 2 育児や介護に関する制度について

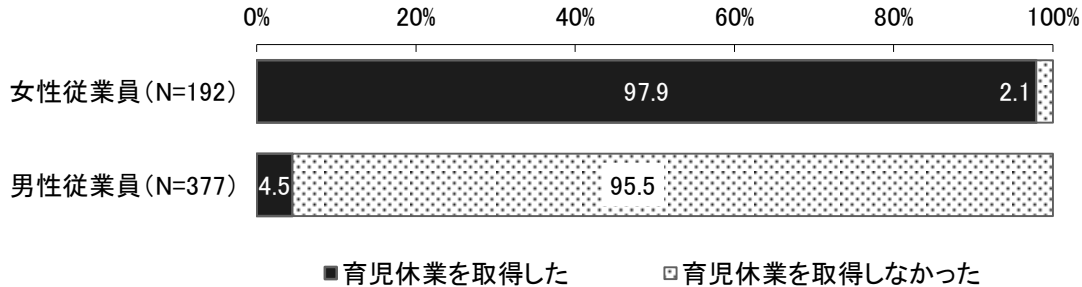
### 問5 貴社では、これまでに育児休業制度を利用した従業員はいましたか。(単数回答)

これまでに育児休業制度を利用した従業員は、「いない」が55.1%と最も高く、次いで「女性で取得した従業員がいる」が31.3%となっています。



### 問6 平成27年度の1年間の育児休業取得率

出産した女性従業員は97.9%が育児休業を取得していますが、配偶者が出産して育児休業を取得した男性従業員は4.5%にとどまっています。

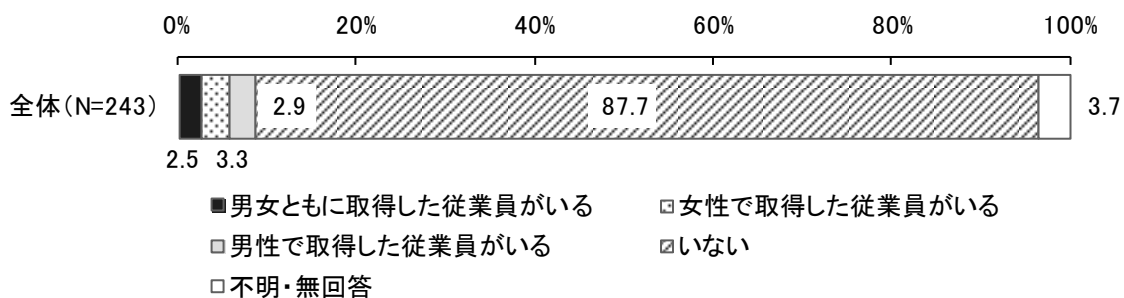


$$\text{※女性従業員の育児休業取得率(\%)} = \frac{\text{出産した女性従業員のうち育児休業を取得した女性従業員数}}{\text{回答のあった企業(N=243)中で出産した女性従業員数}} \times 100$$

$$\text{※男性従業員の育児休業取得率(\%)} = \frac{\text{配偶者が出産した男性従業員のうち育児休業を取得した男性従業員数}}{\text{回答のあった企業(N=243)中で配偶者が出産した男性従業員数}} \times 100$$

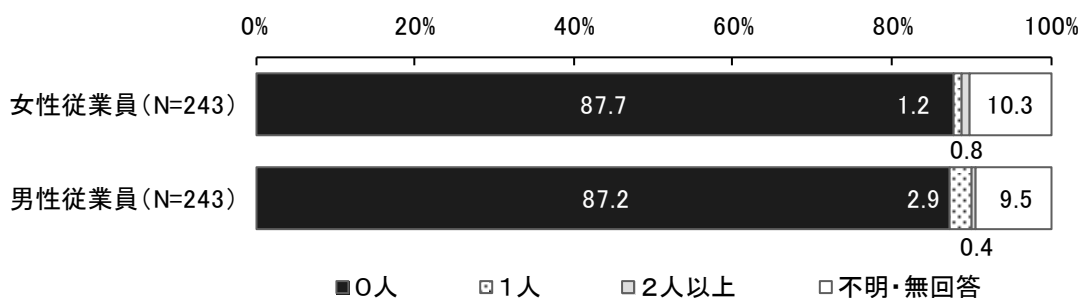
**問7 貴社では、これまでに介護休業制度を利用した従業員はいましたか。(単数回答)**

介護休業制度を利用した従業員は、「いない」が87.7%と最も高く、「男女ともに取得した従業員がいる」「女性で取得した従業員がいる」「男性で取得した従業員がいる」はいずれも数%にとどまっています。



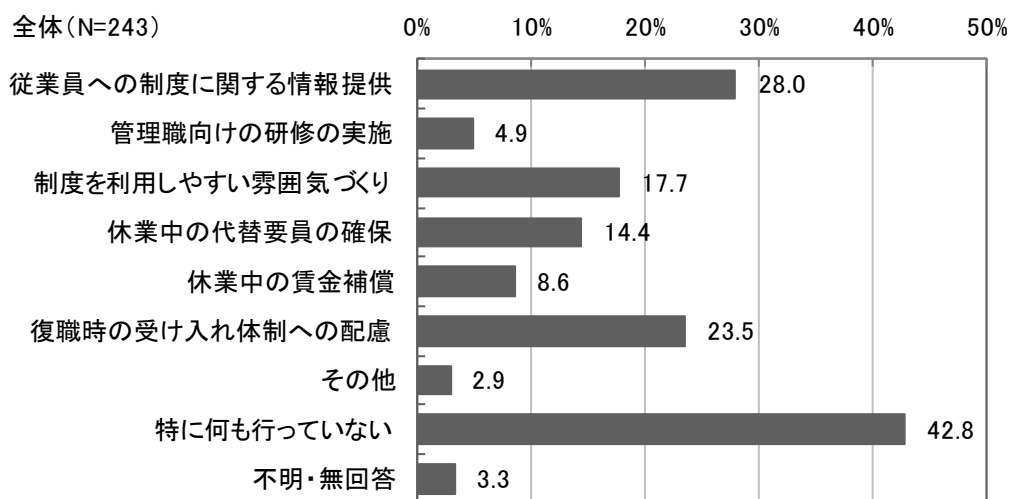
**問8 平成27年度の1年間に介護休業を取得した人数を教えてください。(数量回答)**

平成27年度の1年間に介護休業を取得した従業員は、男女ともに「0人」が最も高く、女性従業員が87.7%、男性従業員が87.2%となっています。なお、介護休業を取得した従業員は、男女ともに数%にとどまっています。



**問9 貴社で育児・介護休業制度を定着させるために行っていることは何ですか。(数量回答)**

育児・介護休業制度を定着させるために行っていることは、「特に何も行っていない」が42.8%と最も高く、次いで「従業員への制度に関する情報提供」が28.0%となっています。

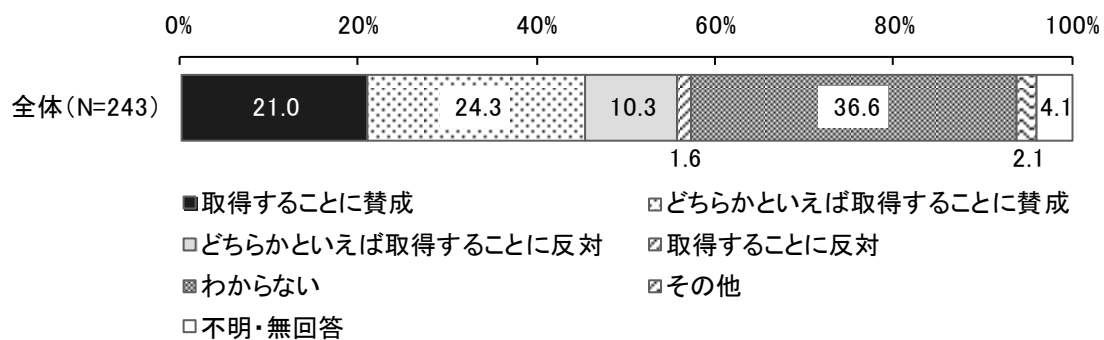


問 10 男性が育児休業や介護休業等を取得することについての貴社の考えに最も近いものはどれですか。(単数回答)

問 10 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

- 『賛成』…「取得することに賛成」と「どちらかといえば取得することに賛成」を合算
- 『反対』…「取得することに反対」と「どちらかといえば取得することに反対」を合算

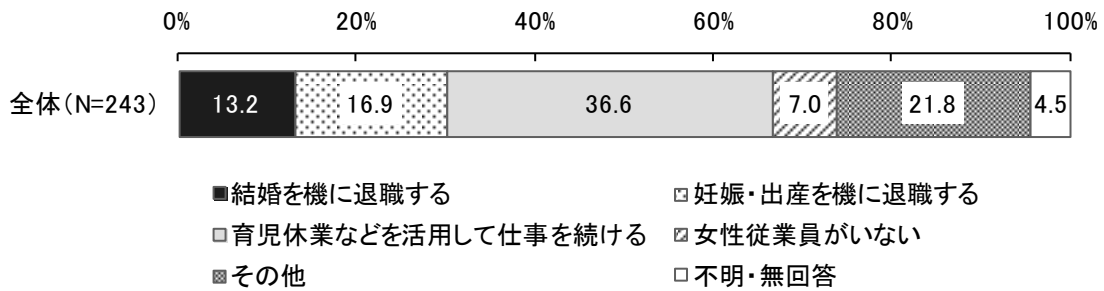
男性が育児休業や介護休業等を取得することについての企業の考えに最も近いものは、『賛成』が 45.3% と最も高く、次いで「わからない」が 36.6% となっています。なお、『反対』は 11.9% となっています。



### 3 女性従業員について

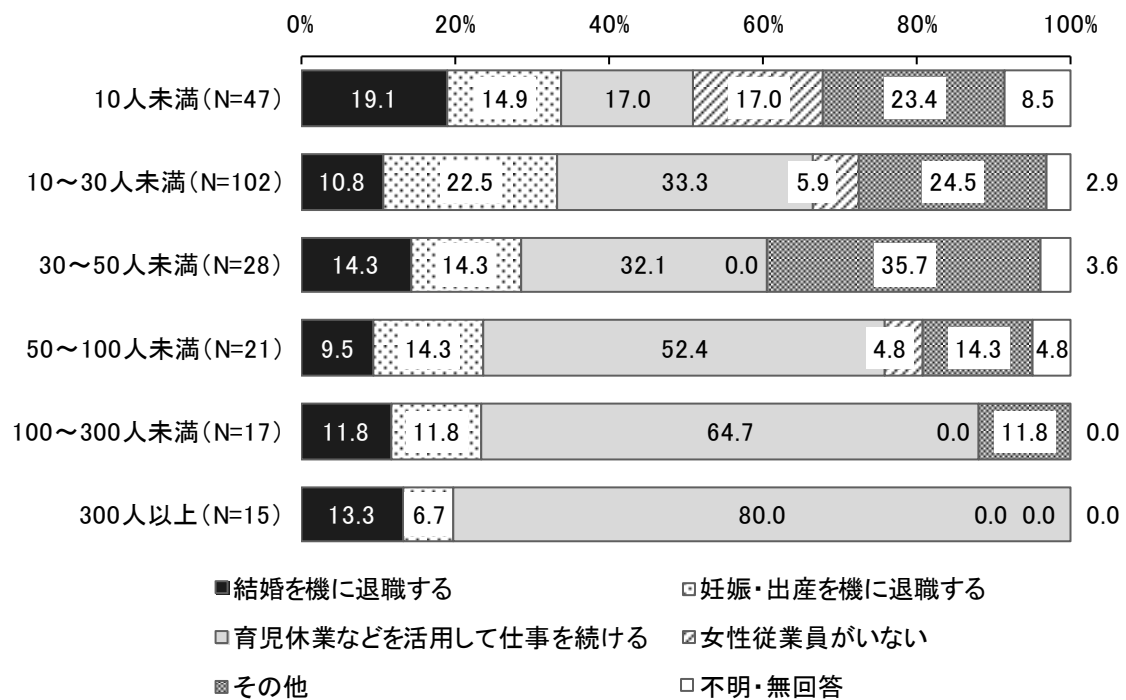
問11 貴社の女性従業員の働き方として、どのようなかたちが多いですか。(単数回答)

女性従業員の働き方は、「育児休業などを活用して仕事を続ける」が36.6%と最も高く、次いで「その他」が21.8%となっています。なお、「妊娠・出産を機に退職する」は16.9%、「結婚を機に退職する」は13.2%となっています。



#### 事業所規模別の働き方

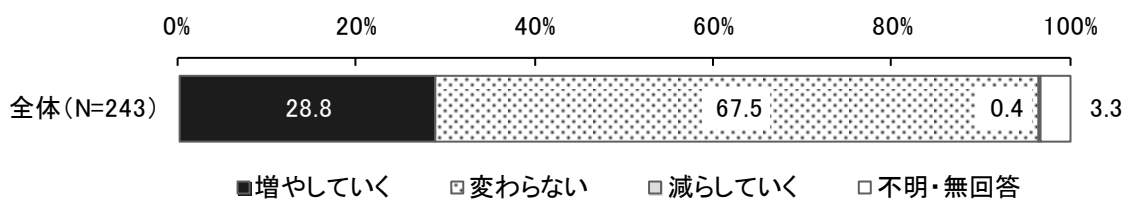
事業所規模別の女性従業員の働き方は、事業所規模が大きくなるにしたがい「育児休業などを活用して仕事を続ける」が高くなる傾向があります。なお、「結婚を機に退職する」はいずれの規模の事業所も1割前後あり、10人未満の事業所では19.1%と高くなっています。





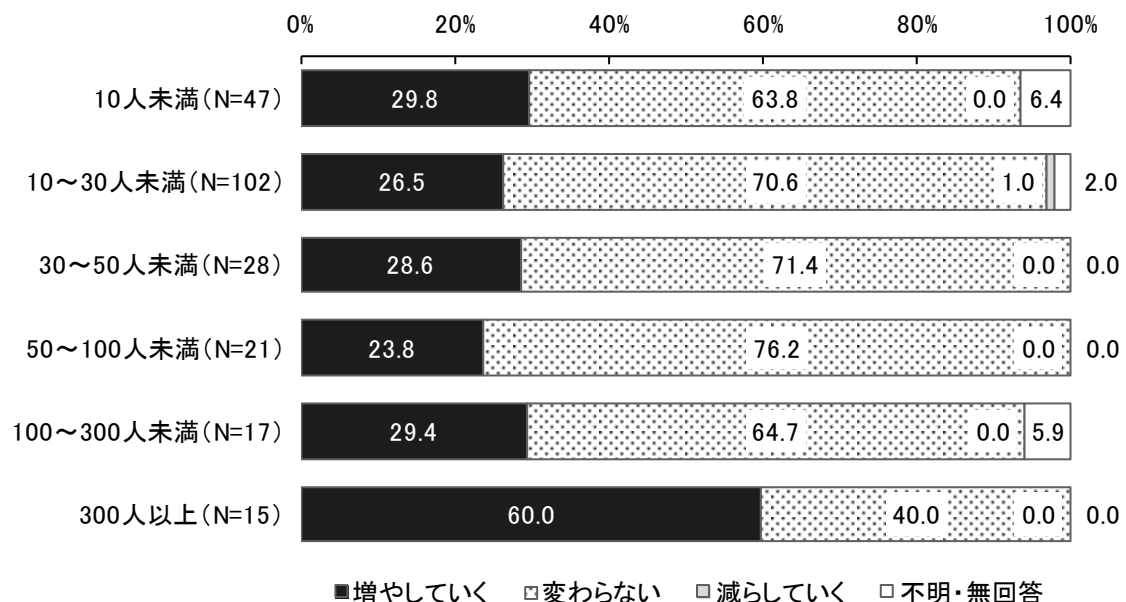
**問 12 女性従業員の数を現在と比べて増やしていく考えはありますか。(単数回答)**

女性従業員の数を現在と比べて増やしていく考えは、「変わらない」が67.5%と最も高く、次いで「増やしていく」が28.8%となっています。



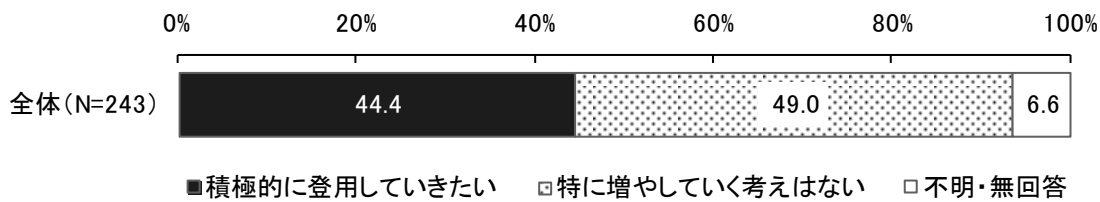
**事業所規模別の増員計画**

事業所規模別の女性従業員の増員計画は、「増やしていく」が300人未満の事業所で3割前後、300人以上の事業所で60.0%となっています。



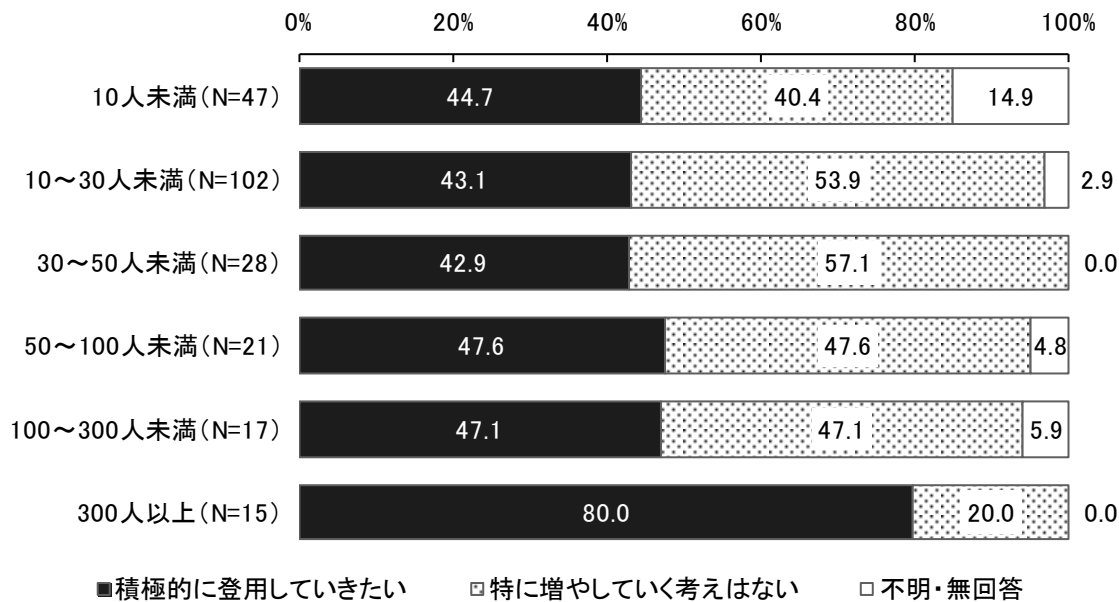
**問 13 今後管理職の登用にあって、女性を積極的に登用しようと考えていますか。(単数回答)**

今後管理職に女性を積極的に登用しようと考えているかは、「特に増やしていく考えはない」が49.0%と最も高く、次いで「積極的に登用していきたい」が44.4%となっています。



**事業所規模別の管理職登用**

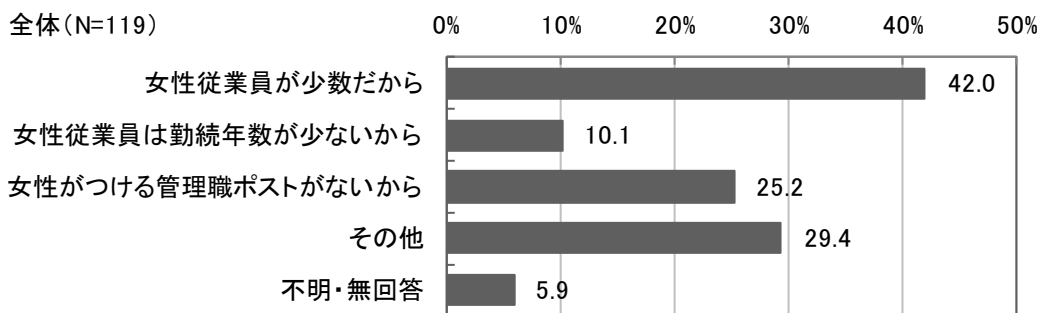
事業所規模別の女性の管理職登用は、「積極的に登用していきたい」が300人未満の事業所で4割強、300人以上の事業所で80.0%となっています。



**【問 13 で「特に増やしていく考えはない」と回答した方のみ】**

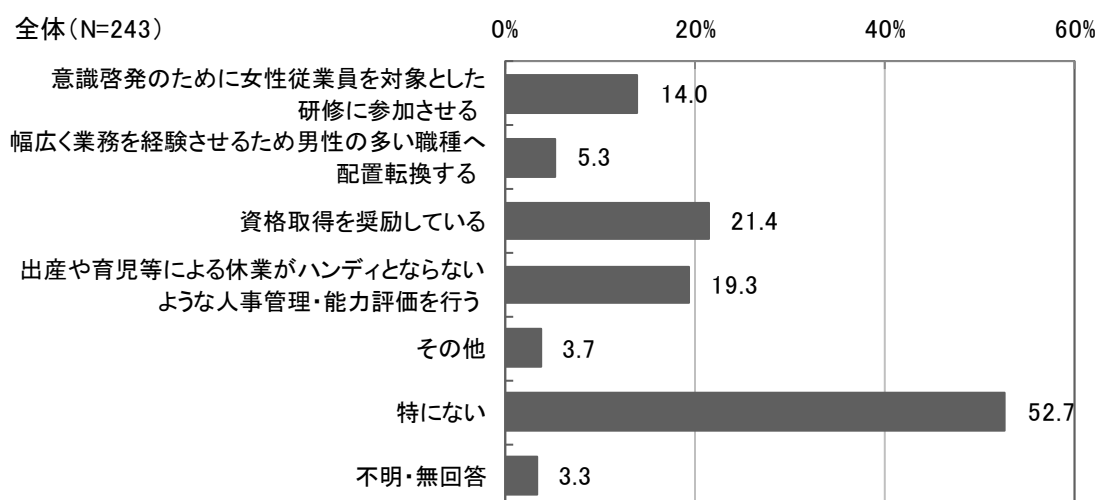
**問 13-1 その理由は何ですか。(複数回答)**

特に増やしていく考えはない理由は、「女性従業員が少数だから」が42.0%と最も高く、次いで「その他」が29.4%となっています。



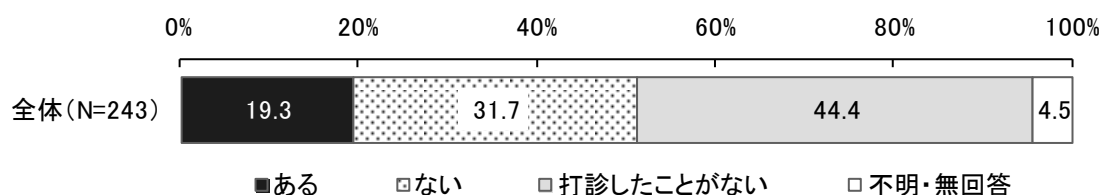
**問 14 女性の管理職の登用を促進するために取り組んでいることはありますか。(複数回答)**

女性の管理職の登用を促進するために取り組んでいることは、「特にない」が52.7%と最も高く、次いで「資格取得を奨励している」が21.4%となっています。



**問 15 管理職の登用にあたり、女性従業員に打診し断られたことがありますか。(単数回答)**

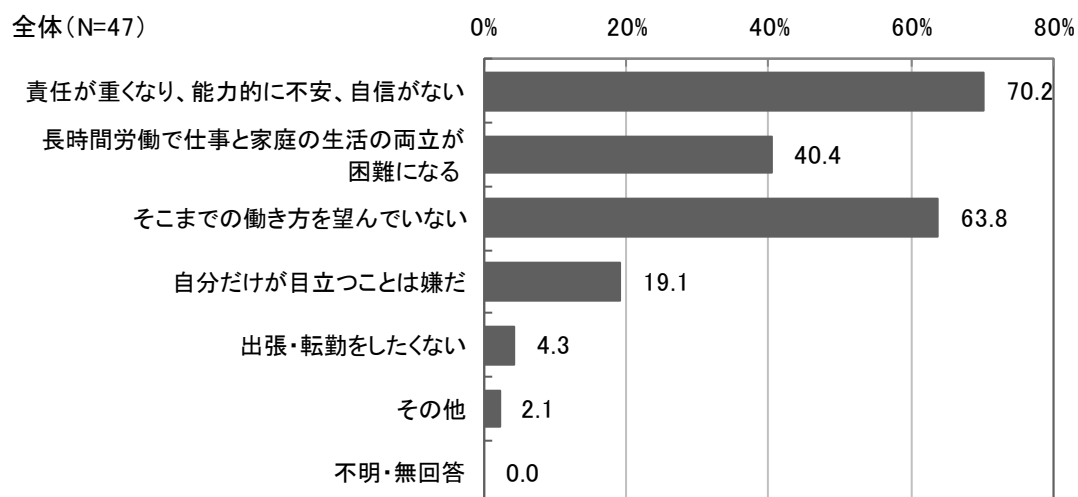
管理職の登用にあたり、女性従業員に打診し断られたことは、「打診したことがない」が44.4%と最も高く、次いで「ない」が31.7%、「ある」が19.3%となっています。



**【問 15 で「ある」と回答した方のみ】**

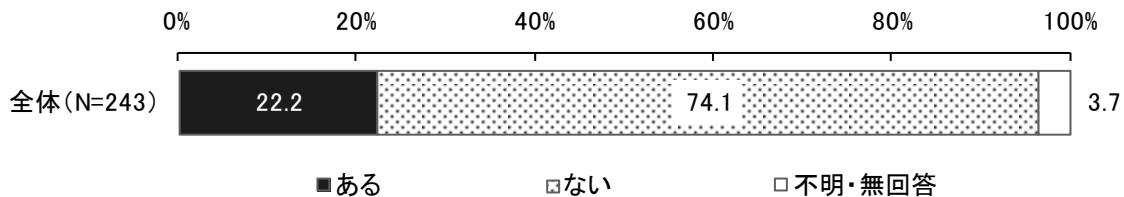
**問 15-1 断られた理由は何ですか。(複数回答)**

断られた理由は、「責任が重くなり、能力的に不安、自信がない」が70.2%と最も高く、次いで「そこまでの働き方を望んでいない」が63.8%となっています。



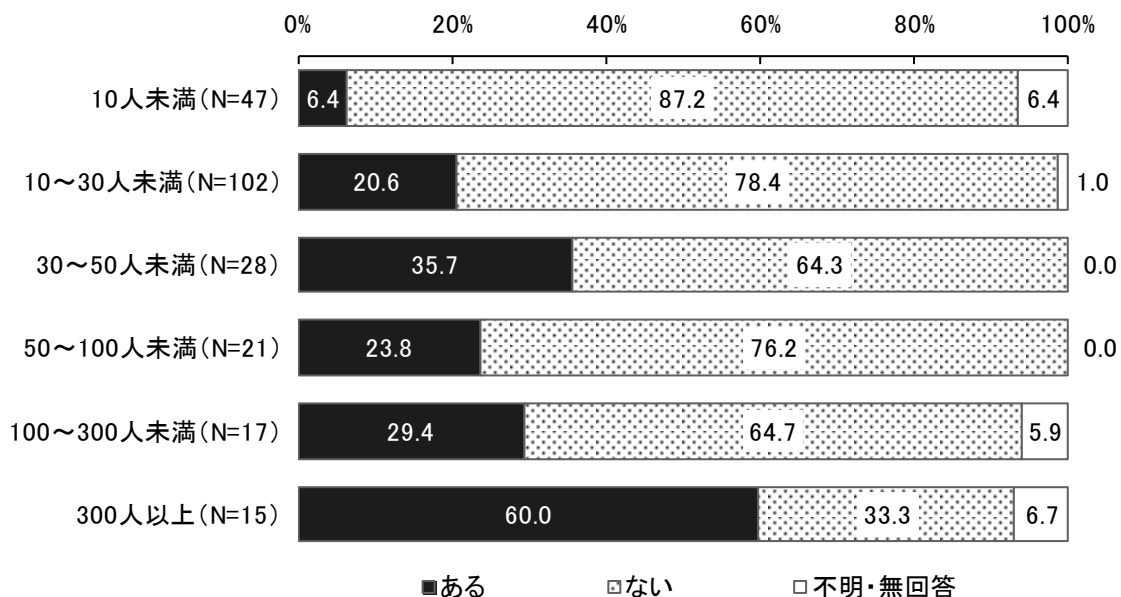
**問 16 今まで女性が少なかった職務に女性を配置したことがありますか。(単数回答)**

今まで女性が少なかった職務に女性を配置したことは、「ない」が74.1%、「ある」が22.2%となっています。



**事業所規模別の積極的登用**

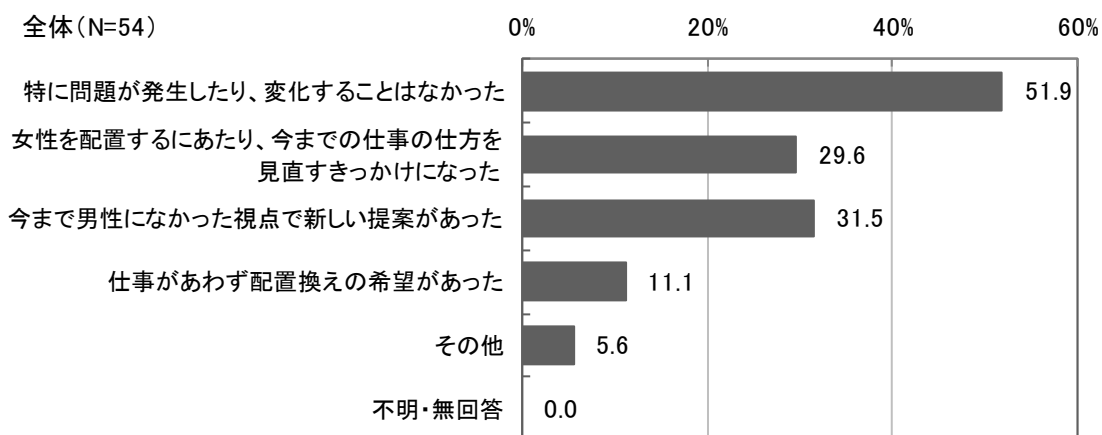
今まで女性が少なかった職務に女性を配置したことは、「ある」が10人未満で6.4%、10～300人未満の事業所で2～3割強、300人以上の事業所で60.0%となっています。



**【問 16 で「ある」と回答した方のみ】**

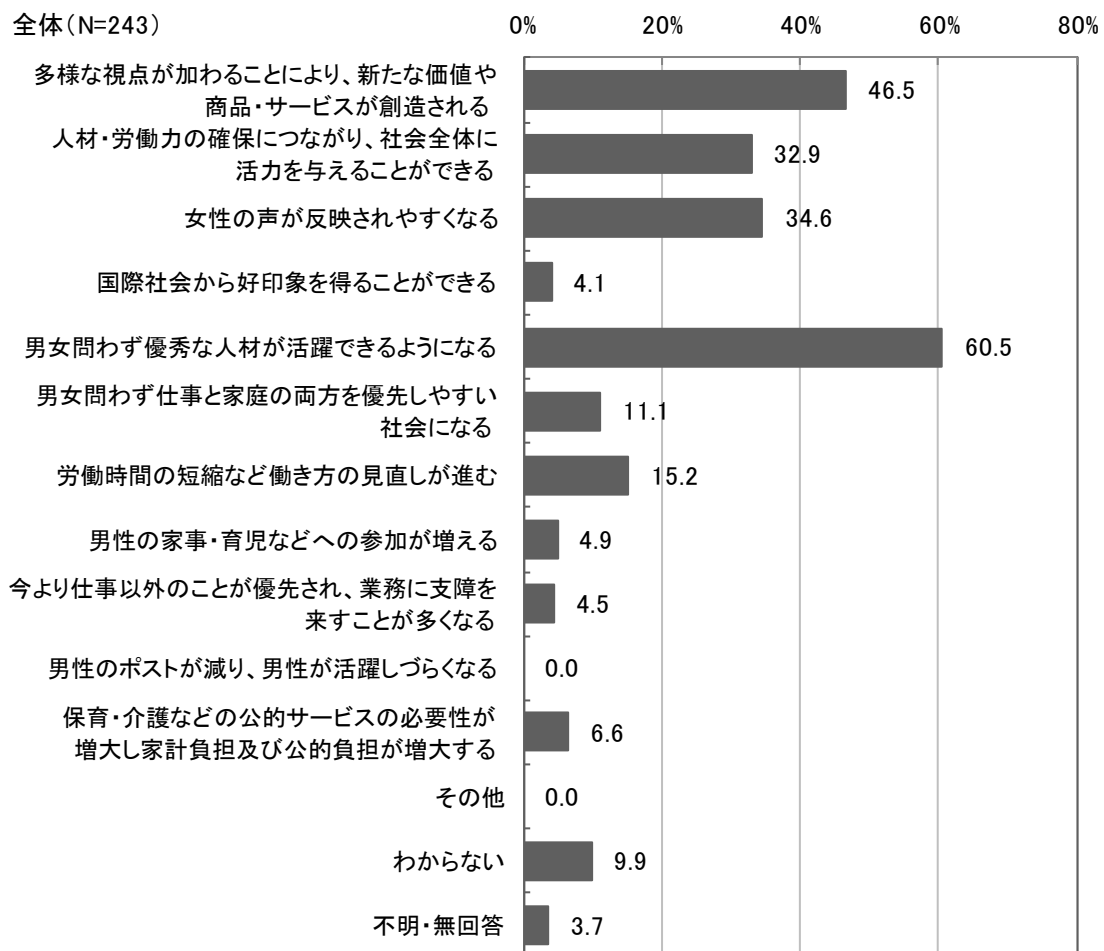
**問 16-1 配置してどうでしたか。(複数回答)**

配置した結果は、「特に問題が発生したり、変化することはなかった」が51.9%と最も高く、次いで「今まで男性になかった視点で新しい提案があった」が31.5%となっています。



問17 女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(複数回答)

女性の参加が進み、女性のリーダーが増えることによる影響は、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が60.5%と最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が46.5%となっています。



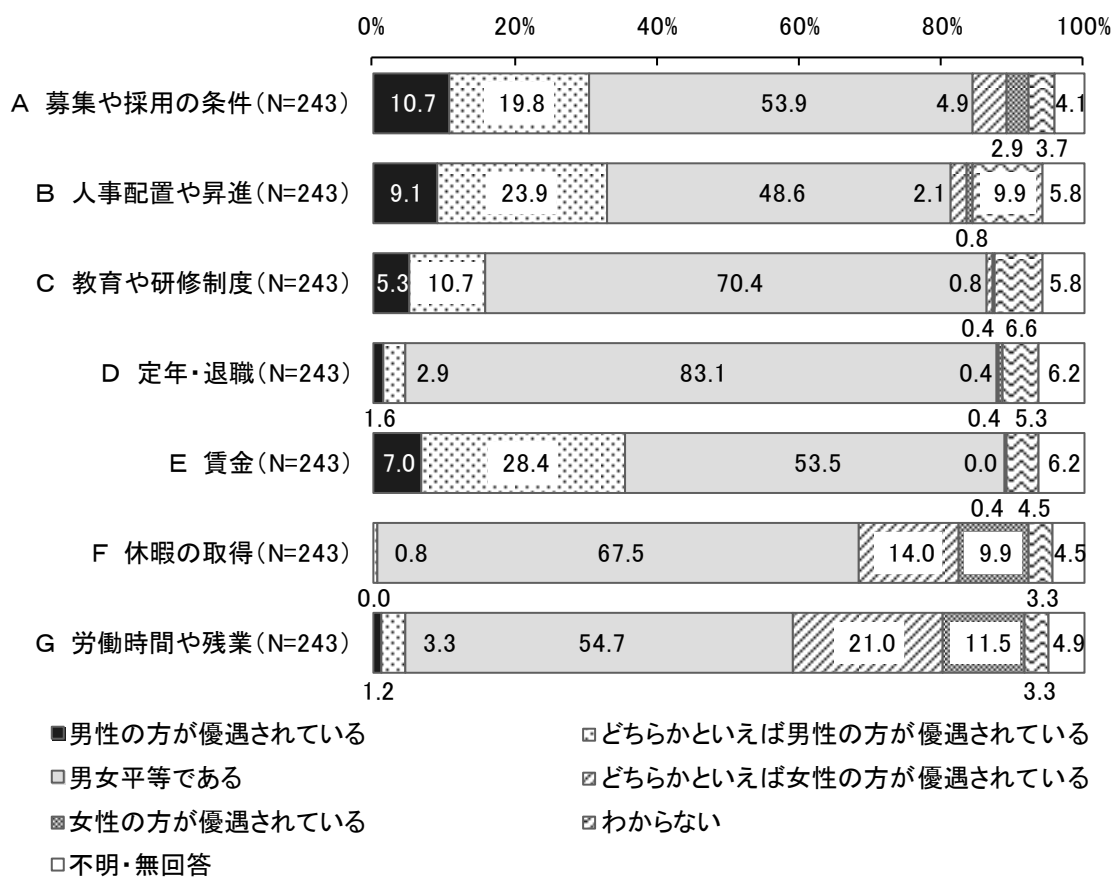
## 4 男女共同参画全般について

問 18 貴社では、次の項目の性別の状況はどの程度だと思われますか。(単数回答)

問 18 の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

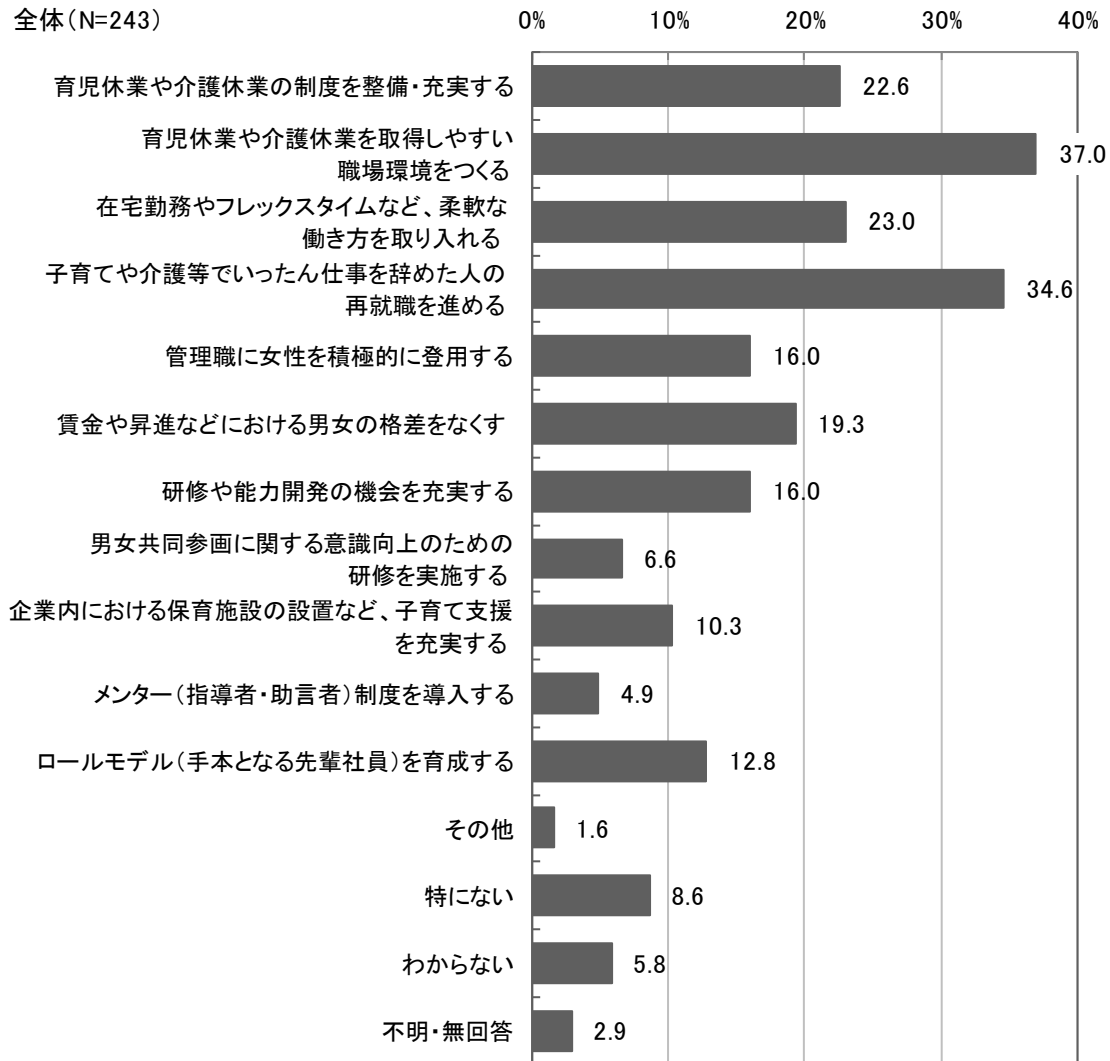
- 『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合算
- 『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合算

企業における性別の状況は、「A 募集や採用の条件」「B 人事配置や昇進」「E 賃金」について『男性優遇』が、「G 労働時間や残業」については『女性優遇』がそれぞれ3割を超え、高くなっています。「C 教育や研修制度」「D 定年・退職」については、「男女平等である」が7～8割強と高くなっています。



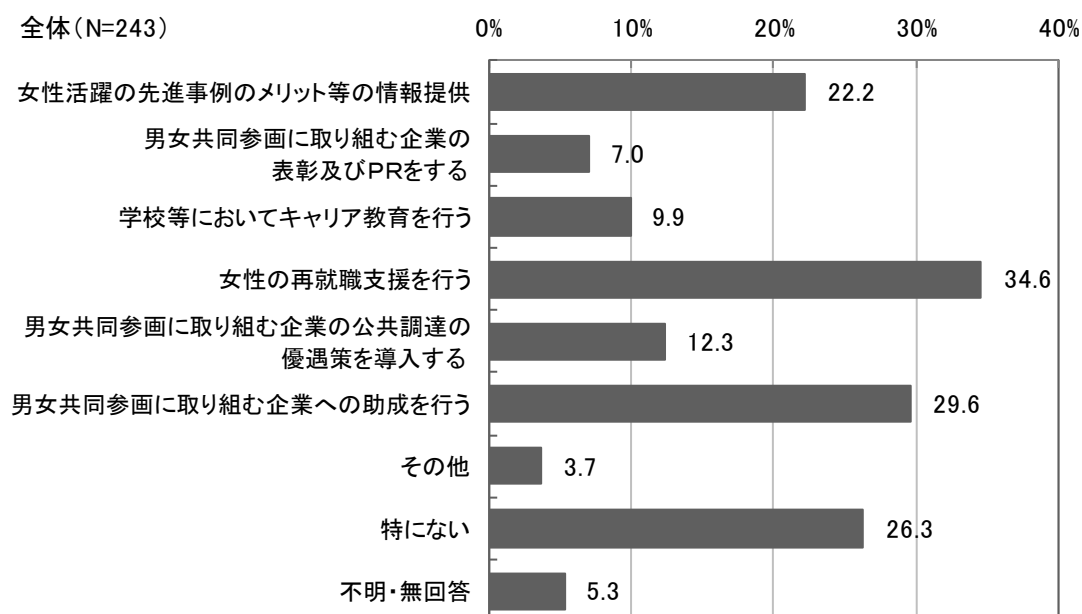
問 19 男女共同参画社会を実現するために、企業は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(複数回答)

男女共同参画社会を実現するために、企業が今後力を入れていくべきことは、「育児休業や介護休業を取得しやすい職場環境をつくる」が37.0%と最も高く、次いで「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める」が34.6%となっています。



問 20 職場における男女共同参画を推進するために、市に希望する支援にはどのようなものがありますか。(複数回答)

職場における男女共同参画を推進するために、市に希望する支援は、「女性の再就職支援を行う」が34.6%と最も高く、次いで「男女共同参画に取り組む企業への助成を行う」が29.6%となっています。



問 21 男女共同参画に関する独自の取り組みや優良事例がありましたら、ご記入ください。(女性従業員の活躍や、仕事と家庭の両立支援に関する実際の事例など)

業種	回答内容	件数
製造業	当社の場合、女性社員の労働時間は家事等を考慮し8:30~16:45としており、このため、長期間勤務する社員が多いと考えている(一般社員)。家庭事情による休暇取得も特に制限を設けず、自由に取得できる環境にある	1
電気・ガス・熱供給・水道業	電気工事会社としてやっているが、男性の多いイメージとは違い、女性の人数がとても多い。育休の取得率も非常に高く、とても働きやすい会社だと思う(短時間正社員制度有)	1
卸売業、小売業	女性課長職(店長1名 本部3名)登用し、現在、課長職以上に占める女性の割合は約3%となっている。今後、係長登用、課長登用を積極的に推進し、5%以上を目標に行動計画を策定し、従業員にも社内報で情報発信した。ワーク・ライフ・バランスを重視し、働き方、環境を見つめ直し、会社全体で勤務時間(残業時間)の短縮にも取り組んでいる。また、現在働くパートナーから社員登用も積極的に推進しており、働きがいのある職場を目指し、女性視点で売場に新たな商品やサービスが生まれる事を期待している。	1



業種	回答内容	件数
	やはり課題としては、結婚を機に退職する女性社員がいるので、結婚しても働き続けることのできる会社づくりを進めていきたいと考えている	
卸売業、小売業	優秀な女性が子どもを持つと職場復帰したくても子どもを預ける場所（保育所）がなく、なかなか職場復帰できない。男女共同参画を唱える前に、まず環境を整えるべきではないか。人間の意識改革・会社への要望ばかり要求されても、政治が一番の問題だと思う。中小零細企業にとって会社を続けていく事が一番の課題であり、大企業同様に政策ばかり押し付けられても、現実には不可能に等しい。男女問わず優秀な人材を採用したくても、来てくれないのが現実である	1
金融業、保険業	パートタイマーに対して「正職員登用制度」を行っている。平成26年に制度を導入し、平成27年度には2名、平成28年度は3名、パートタイマーから正職員へ登用している	1
宿泊業、飲食サービス業	全社で積極的に女性の登用をしている。155店あるホテルのフロントは8割が女性、全国の店の支配人の9割は女性である。本社の役員にも女性の占める割合が多く、社長も女性である。各ホテルのパート従業員も8割程度が女性なので、女性が運営し支えている会社と言える。社の方針も「女性が働きたい職場を目指す」というものである。多くの女性が活躍し輝いている、数少ない企業のひとつであると思う	1
その他	育休を利用してしている従業員へのフォロー、復職前のフォローを実施する。地域の保育園（認可外）へ保育うけ入れの協力依頼。保育料の一部補助制度を設けた	1
その他	介護事業のため、助成が多い職場である。仕事と家庭の両立のためフルタイムではなく、パート社員としての働き方を進めている	1
その他	介護施設（デイサービス、介護付ホーム、居宅介護支援）。職業柄か、女性が多く活躍している。逆に男性が少なく、男性も活躍ができる（例えば、世帯主として家庭を支えられる収入を確保できる）介護サービスを願っている	1



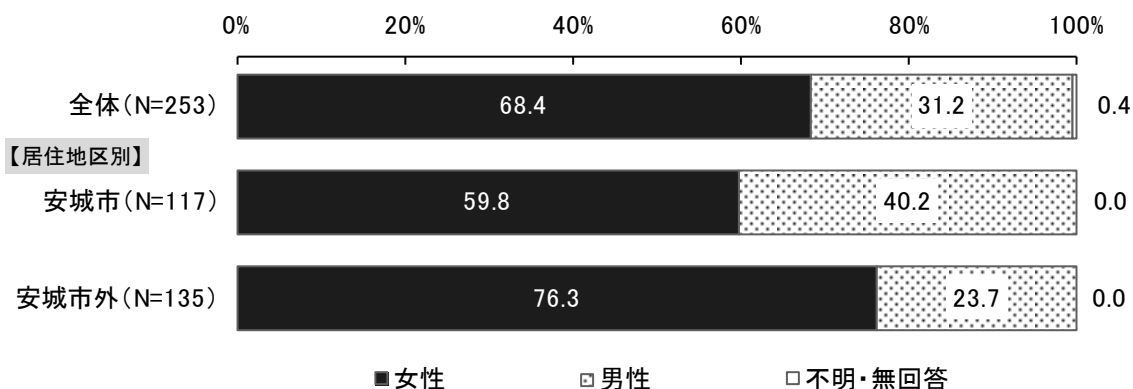
## IV 高校生調査結果

# 1 回答者の属性

## 問1 性別（単数回答）

性別は、全体で「女性」が68.4%、「男性」が31.2%となっています。

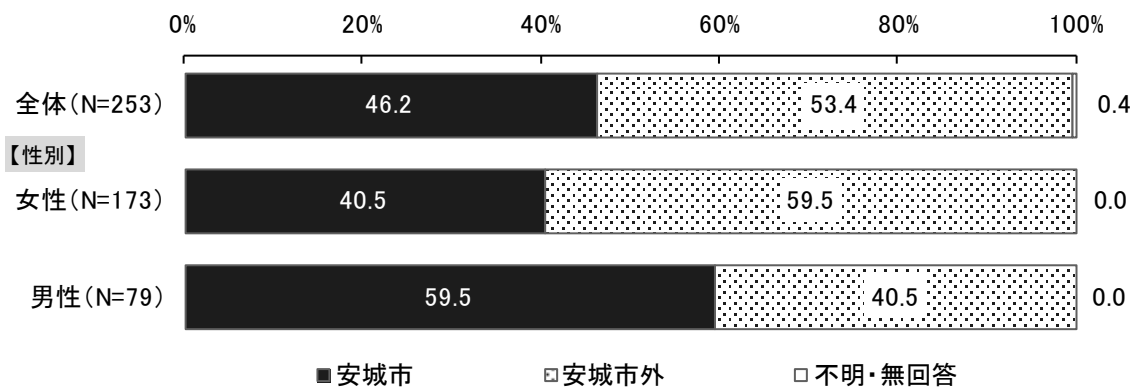
居住地区別では、女性が安城市で59.8%、安城市外で76.3%と、市内外のいずれも男性を上回っています。



## 問2 居住地区（単数回答）

居住地区は、全体で「安城市」が46.2%、「安城市外」が53.4%となっています。

性別では、女性で「安城市外」が59.5%、男性で「安城市」が59.5%と、それぞれ高くなっています。



## 2 男女共同参画の意識について

### 問3 次にあげる考え方について、あなたはどのように思いますか。(単数回答)

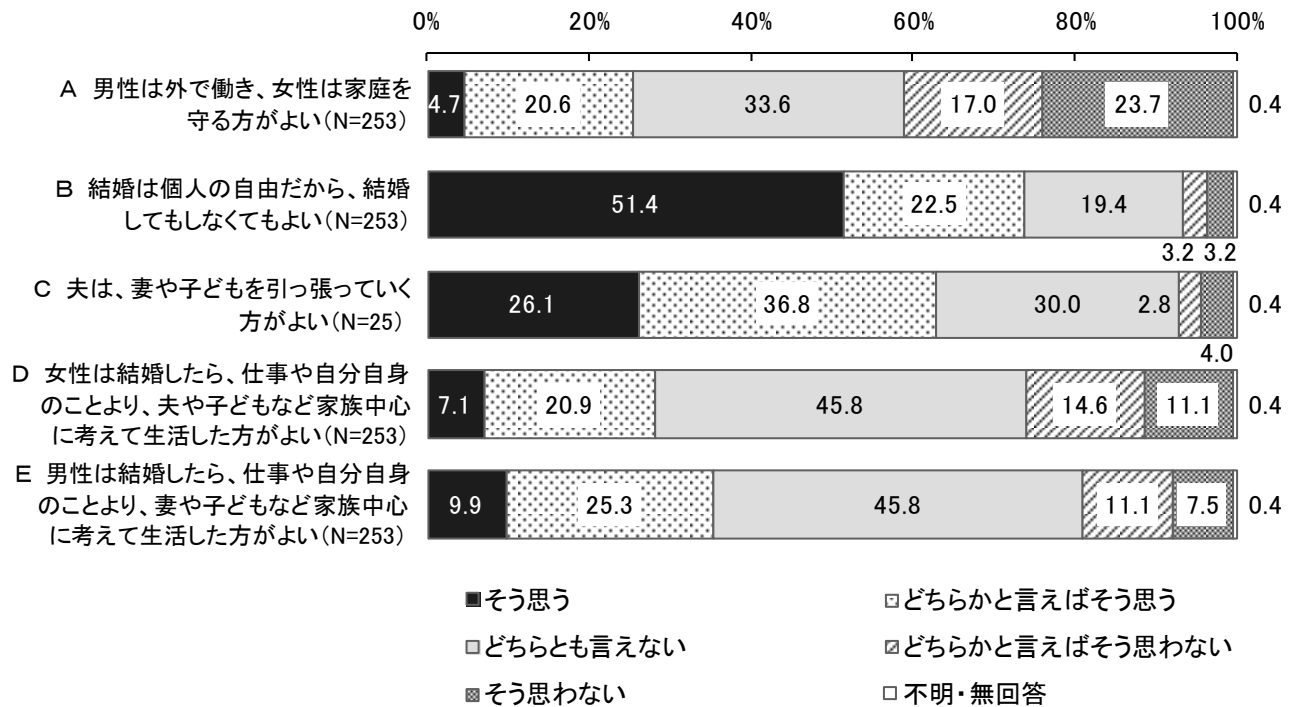
問3の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『そう思う』…「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合算

『そう思わない』…「そう思わない」と「どちらかと言えばそう思わない」を合算

家庭生活や結婚への意識については、「B 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい」「C 夫は、妻や子どもを引っ張っていく方がよい」において『そう思う』が73.9%、62.9%と高くなっています。

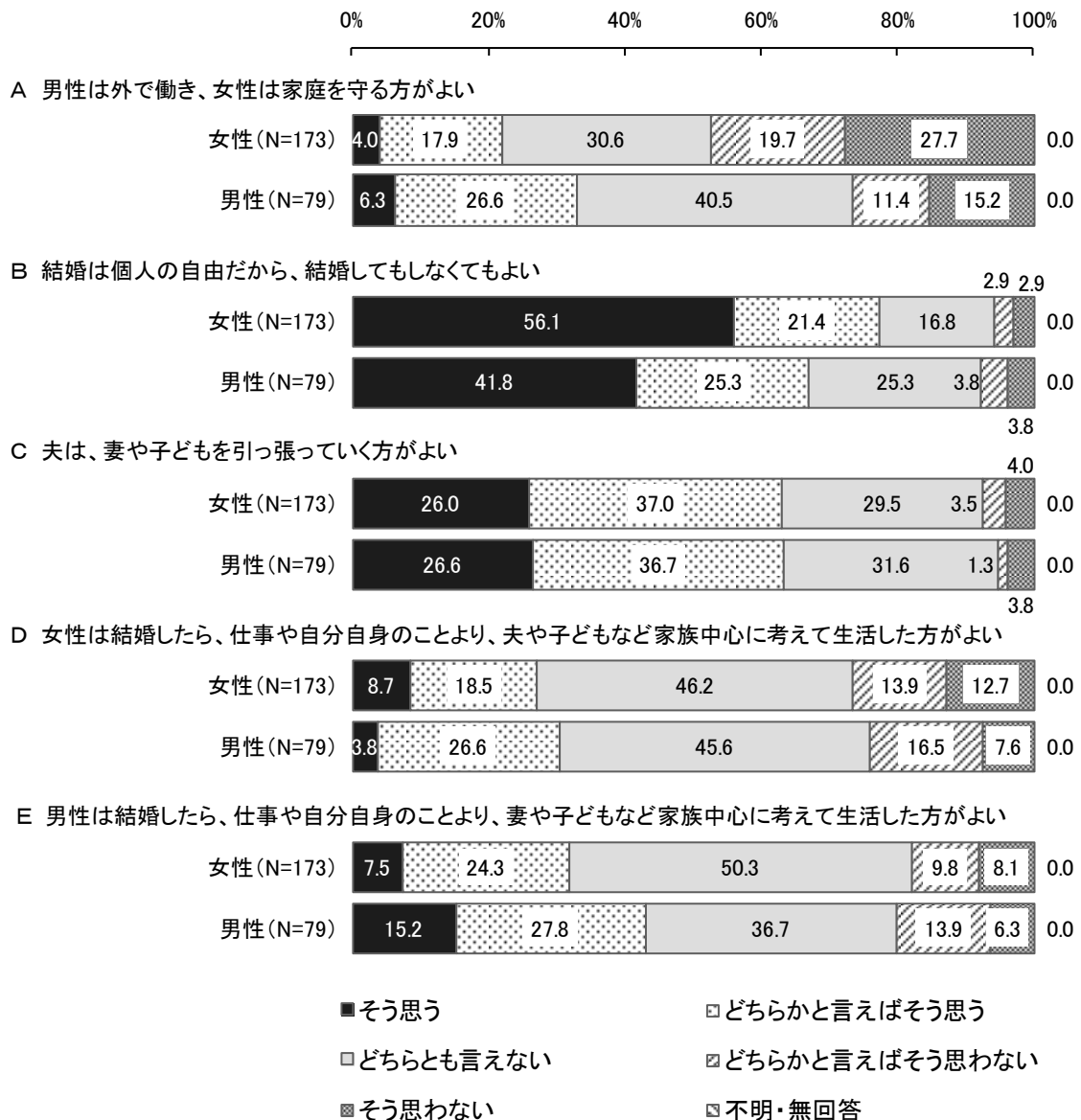
なお、「A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」「D 女性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、夫や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」において『そう思わない』が25.3%、28.0%と一定数あります。



## 性別比較

性別では、女性と男性で最も差が大きい項目は、「A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」となっており、『そう思わない』割合は、女性で 47.4%、男性で 26.6%と 20.8 ポイント差となっています。

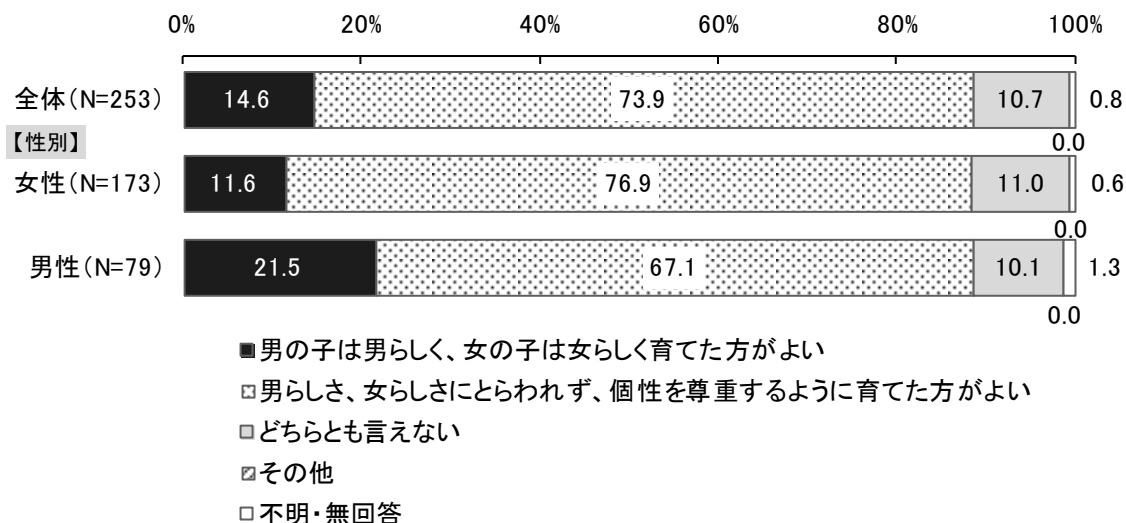
なお、「A 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい」「E 男性は結婚したら、仕事や自分自身のことより、妻や子どもなど家族中心に考えて生活した方がよい」においては女性と比べて『そう思う』が男性でそれぞれ 10 ポイント以上高く、「B 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもよい」においては男性と比べて『そう思う』が女性で 10 ポイント以上高くなっています。



問4 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方について、どのように考えますか。(単数回答)

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方については、全体で「男らしさ、女らしさにとらわれず、個性を尊重するように育てた方がよい」が73.9%と最も高く、次いで「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が14.6%となっています。

性別では、男性で「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が21.5%と、女性と比べて9.9ポイント高くなっています。



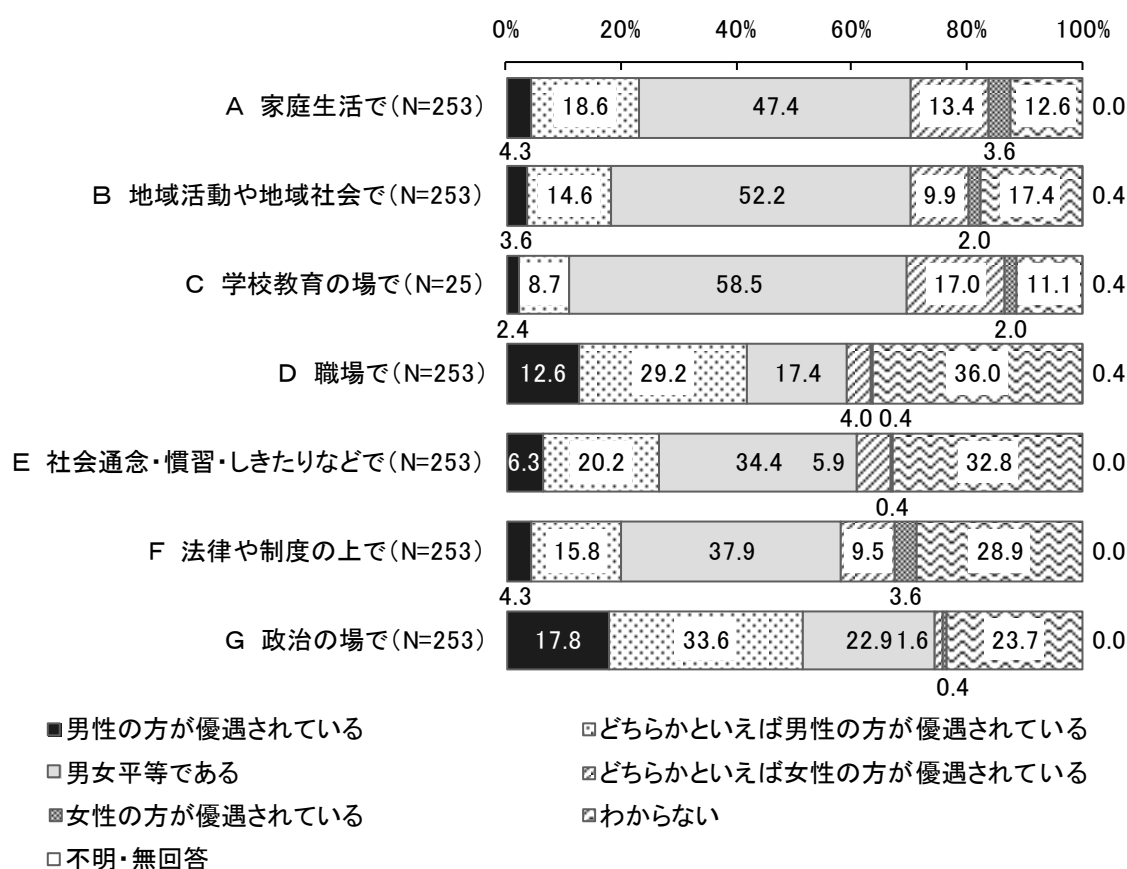
問5 あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをお答えください。(単数回答)

問5の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『男性優遇』…「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合算  
 『女性優遇』…「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合算

男女の地位の平等感については、「A 家庭生活で」「B 地域活動や地域社会で」「C 学校教育の場で」において「男女平等である」が5割弱～6割弱と高くなっています。

なお、『男性優遇』が高い項目として、「G 政治の場で」が51.4%、「D 職場で」が41.8%となっています。

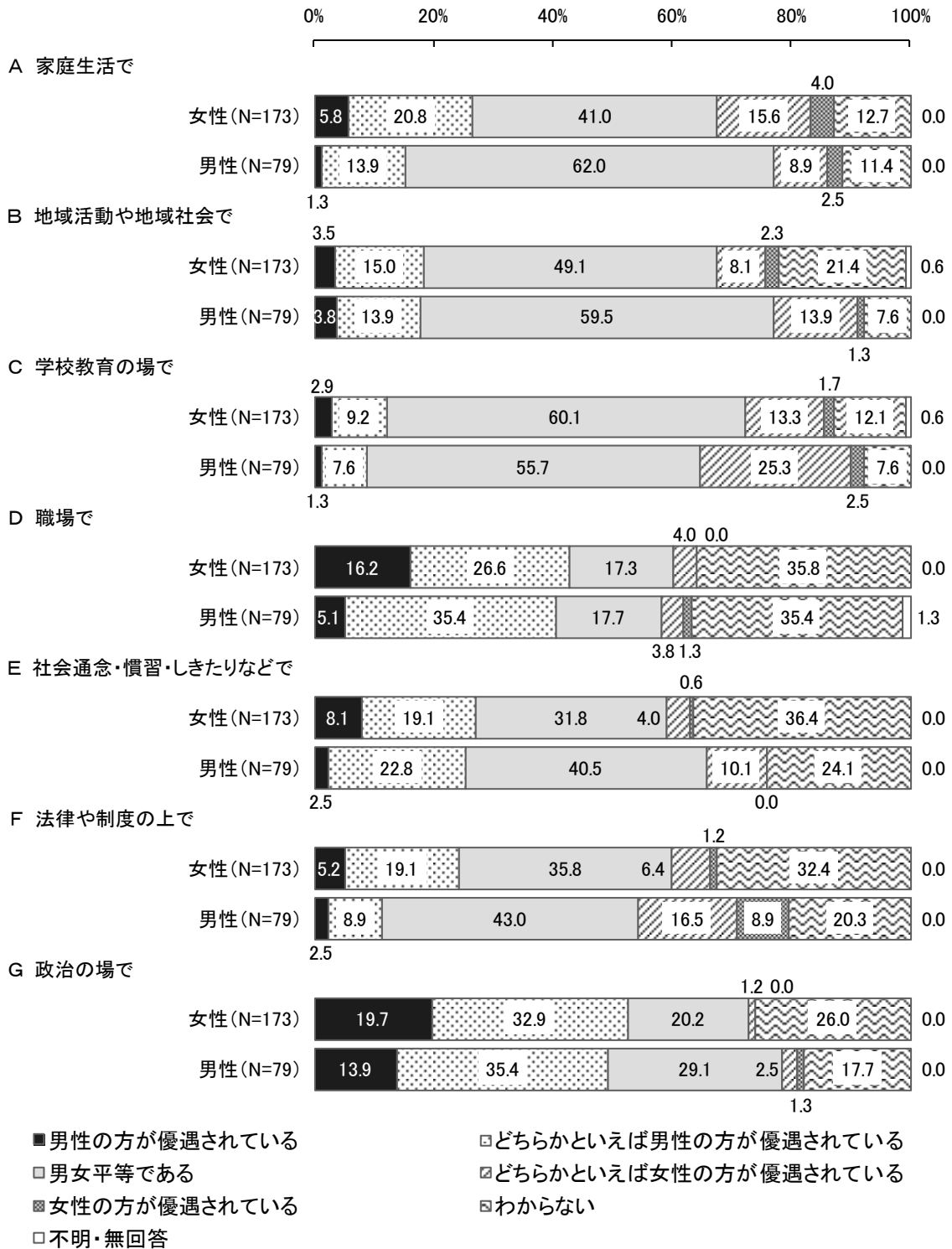




## 性別比較

性別では、女性と男性で最も差が大きい項目は、「F 法律や制度の上で」となっており、『女性優遇』割合は、女性で7.6%、男性で25.4%と17.8ポイント差となっています。

なお、「A 家庭生活で」「F 法律や制度の上で」においては男性と比べて『男性優遇』が女性でそれぞれ10ポイント以上高く、「C 学校教育の場で」においては女性と比べて『女性優遇』が男性で10ポイント以上高くなっています。

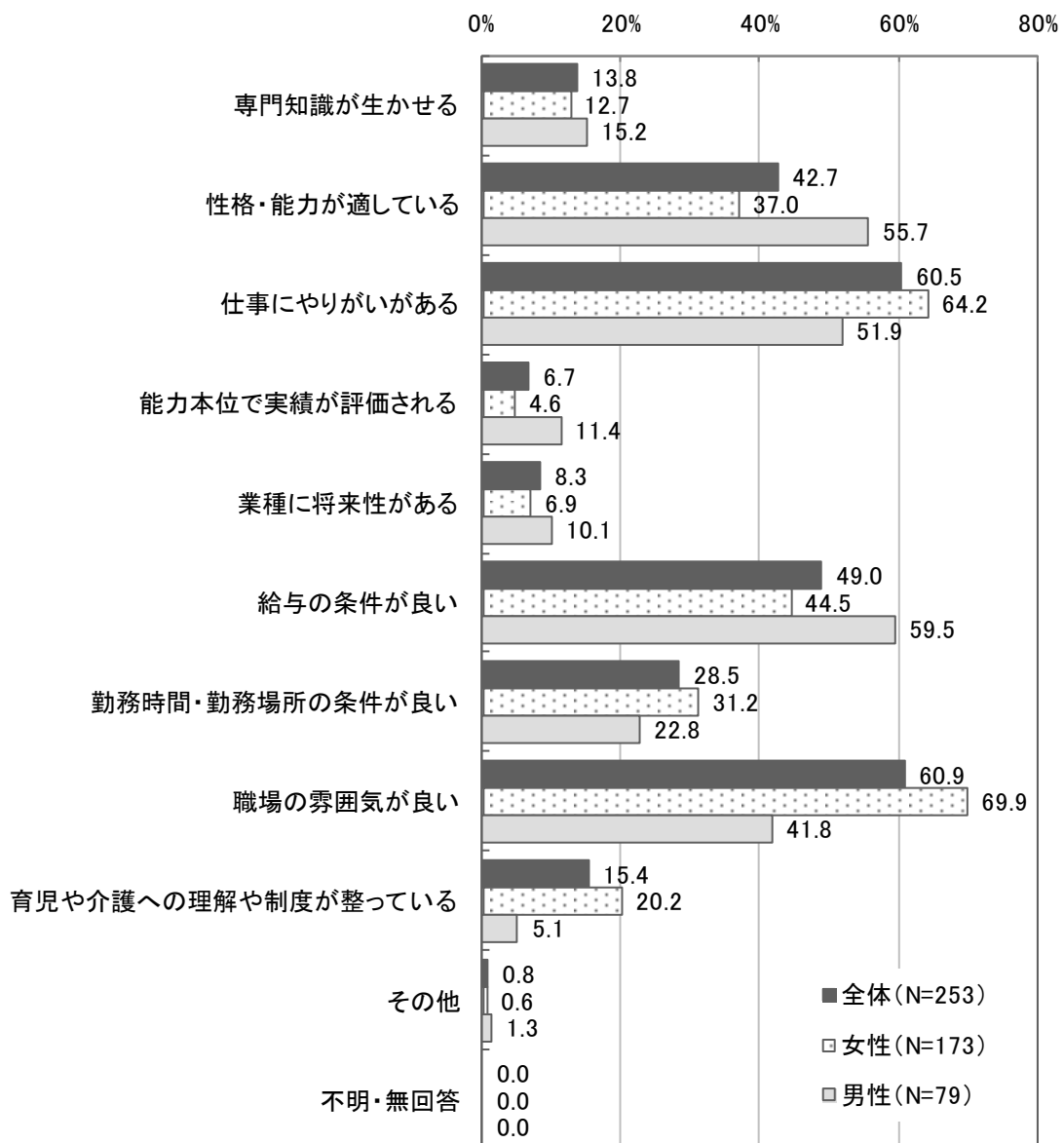


### 3 将来の働き方について

**問6 あなたが仕事を選ぶ際に重視する（したい）ことは何ですか。（複数回答）**

仕事を選ぶ際に重視する（したい）ことは、全体で「職場の雰囲気が良い」が60.9%と最も高く、次いで「仕事にやりがいがある」が60.5%となっています。

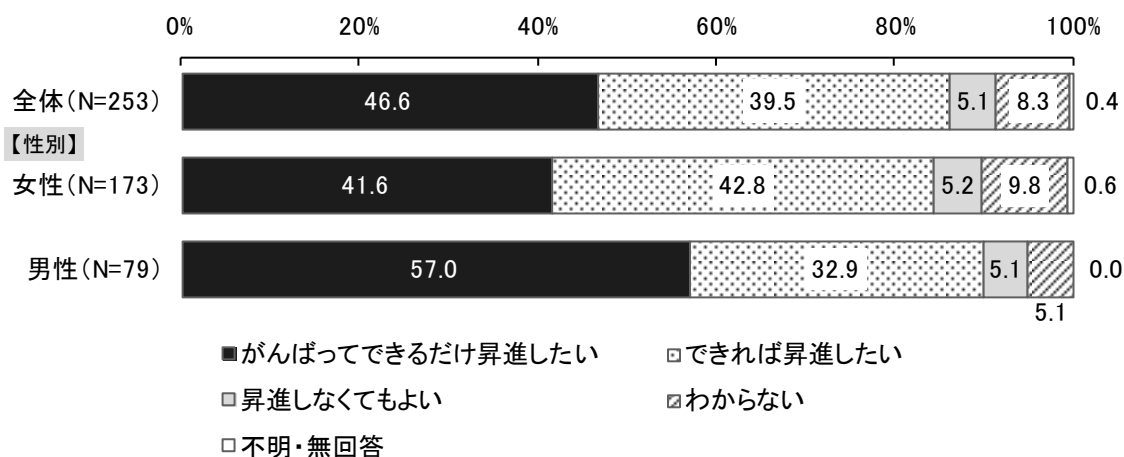
性別では、女性で「職場の雰囲気が良い」「仕事にやりがいがある」が、男性で「給与の条件が良い」「性格・能力が適している」が上位であり、それぞれの男女差も大きくなっており、性差が明確となっています。



**問7 あなたは将来、就職先でどのくらいまで昇進したいですか。(単数回答)**

将来、就職先でどのくらいまで昇進したいかは、全体で「がんばってできるだけ昇進したい」が46.6%と最も高く、次いで「できれば昇進したい」が39.5%となっています。

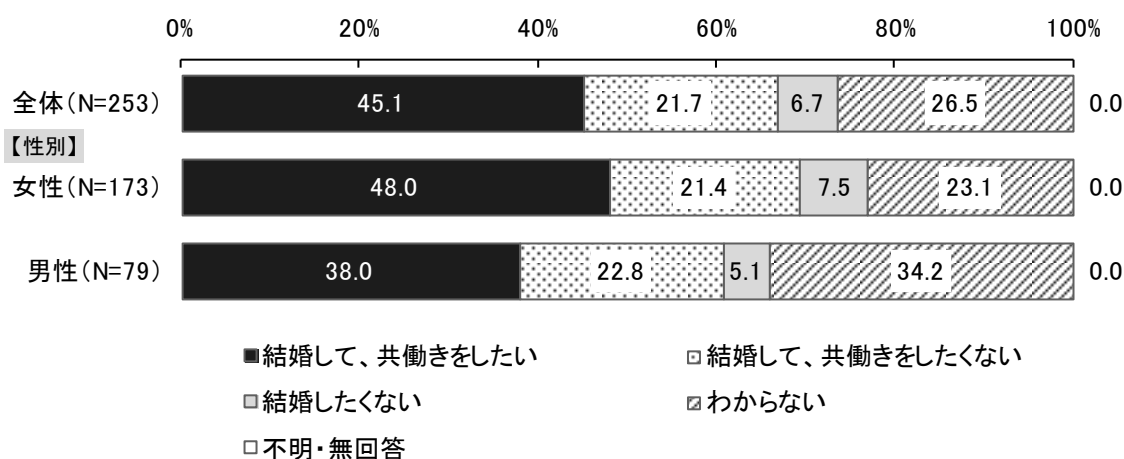
性別では、「がんばってできるだけ昇進したい」が男性で57.0%と、女性と比べて15.4ポイント高くなっています。



**問8 あなたは、将来、結婚したら共働きをするつもりですか。(単数回答)**

将来、結婚したら共働きをするつもりかは、全体で「結婚して、共働きをしたい」が45.1%と最も高く、次いで「わからない」が26.5%となっています。

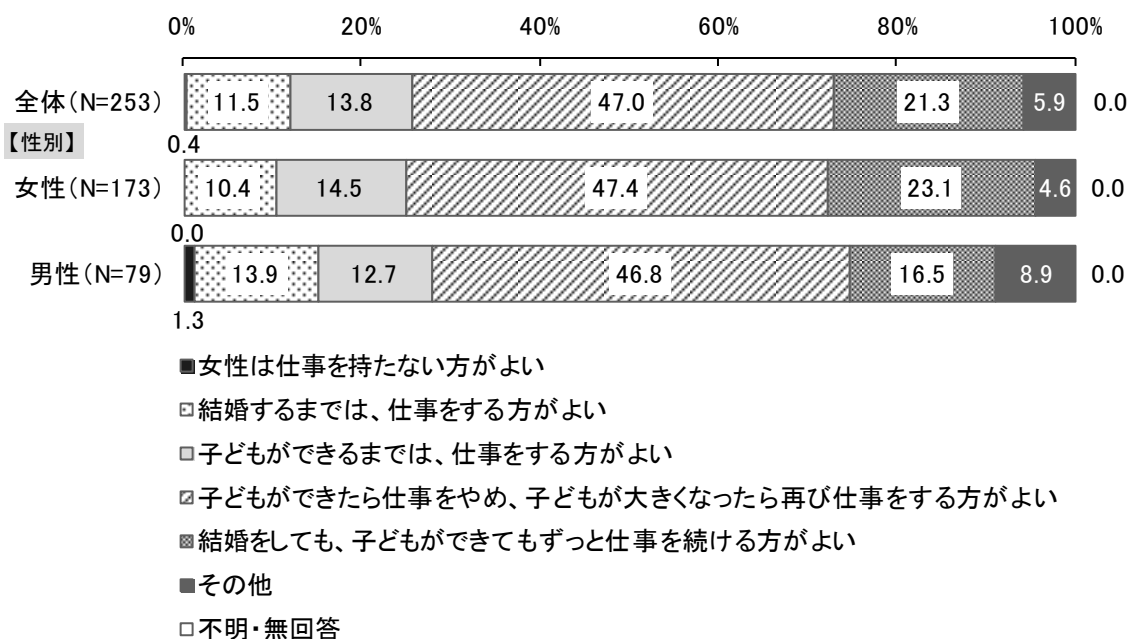
性別では、「結婚して、共働きをしたい」が女性で48.0%と、男性と比べて10.0ポイント高くなっています。なお、「結婚したくない」が女性で7.5%、男性で5.1%と一定数みられます。



**問9 あなたは女性の仕事について、どのような形が望ましいと思いますか。(単数回答)**

女性の仕事について、どのような形が望ましいと思うかは、全体で「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が47.0%と最も高く、次いで「結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が21.3%となっています。

性別では、女性で「結婚をしても、子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい」が23.1%と、男性と比べて6.6ポイント高くなっています。

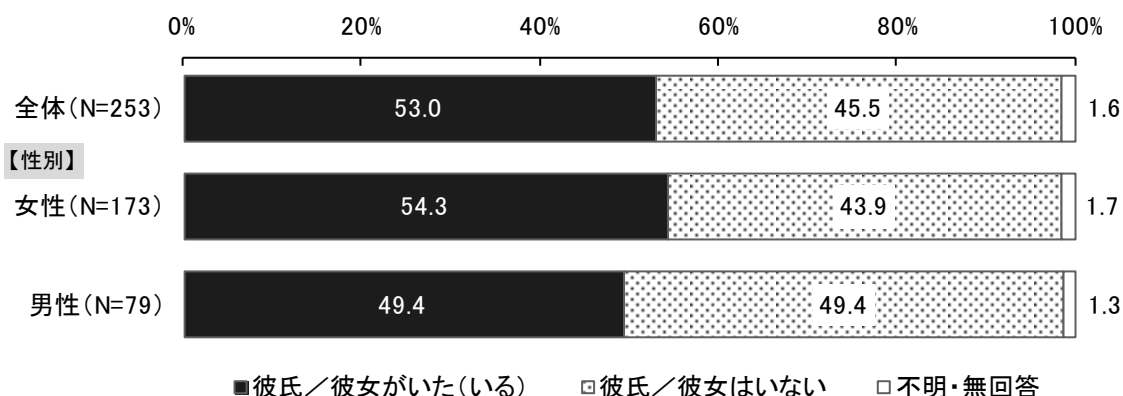


## 4 男女間の暴力について

**問10 あなたは、現在、または過去において、彼氏／彼女がいましたか。(単数回答)**

現在、または過去において、彼氏／彼女がいたかは、全体で「彼氏／彼女がいた (いる)」が53.0%、「彼氏／彼女はいない」が45.5%となっています。

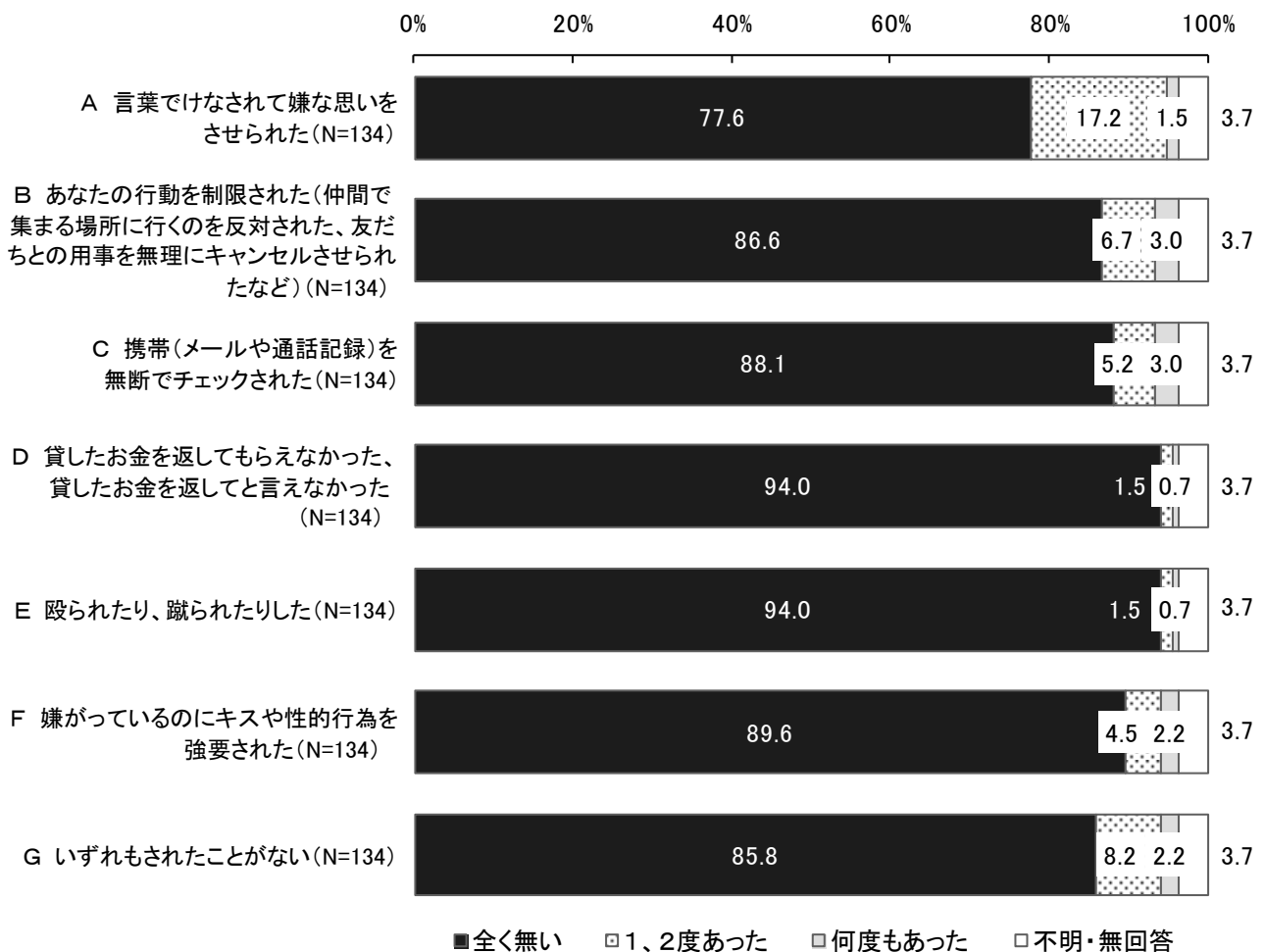
性別では、男女ともに「彼氏／彼女がいた (いる)」が5割前後となっています。



【問 10 で「1 彼氏／彼女がいた（いる）」と回答した方のみ】

問 10-1 あなたはこれまでに、次の行為を彼氏／彼女からされたことがありますか。（単数回答）

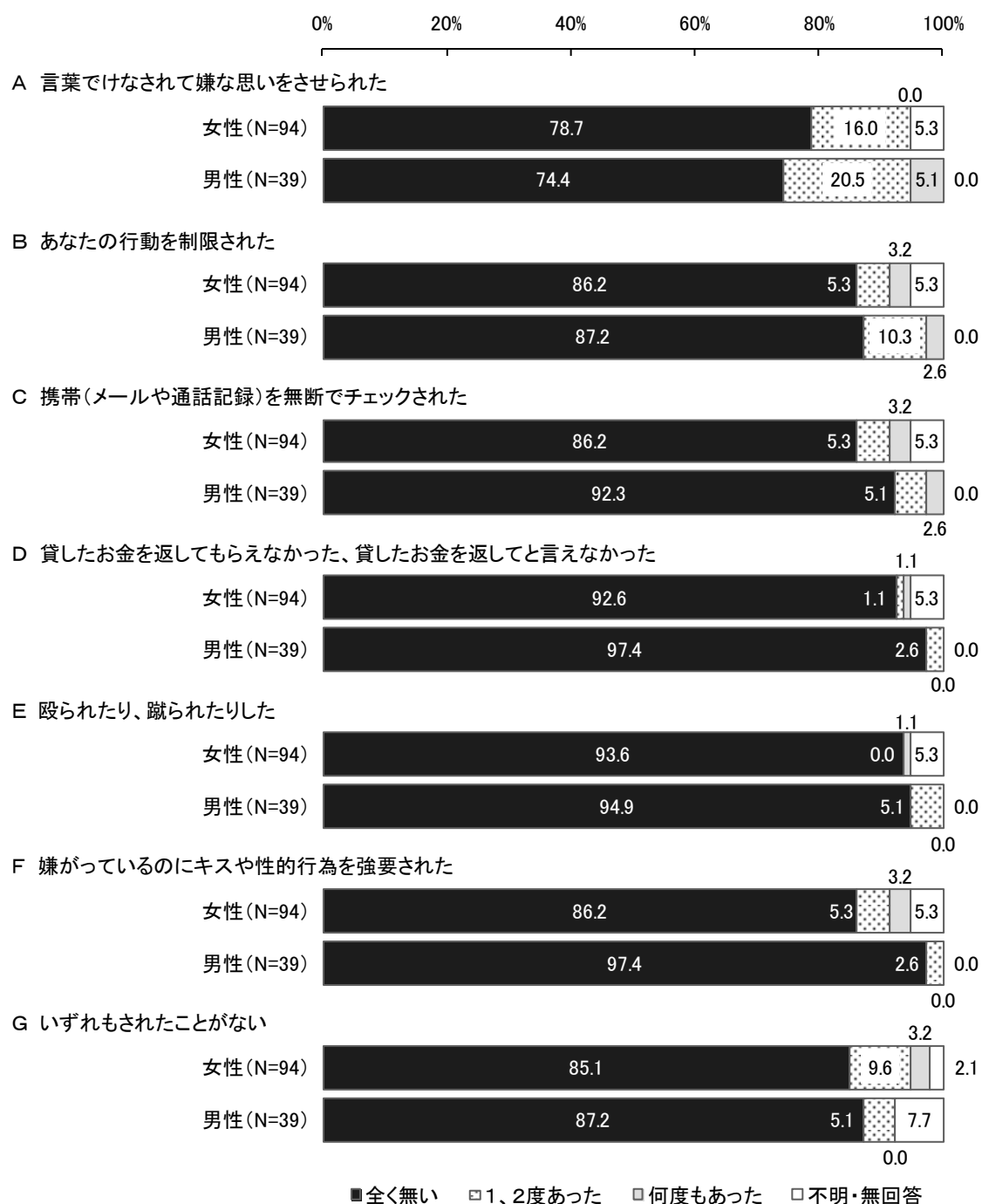
彼氏／彼女からされたDVは、いずれの項目においても「全く無い」が8割弱～9割強と高いものの、「A 言葉でけなされて嫌な思いをさせられた」で「1、2度あった」が17.2%と高くなっています。いずれの項目も「1、2度あった」「何度もあった」が一定数見られます。



## 性別比較

性別では、女性と男性で最も差が大きい項目は、「A 言葉でけなされて嫌な思いをさせられた」となっており、「何度もあった」割合は、女性で0.0%、男性で5.1%と5.1ポイント差となっています。

なお、「F 嫌がっているのにキスや性的行為を強要された」においては、女性で「何度もあった」が男性と比べて3.2ポイント高くなっています。

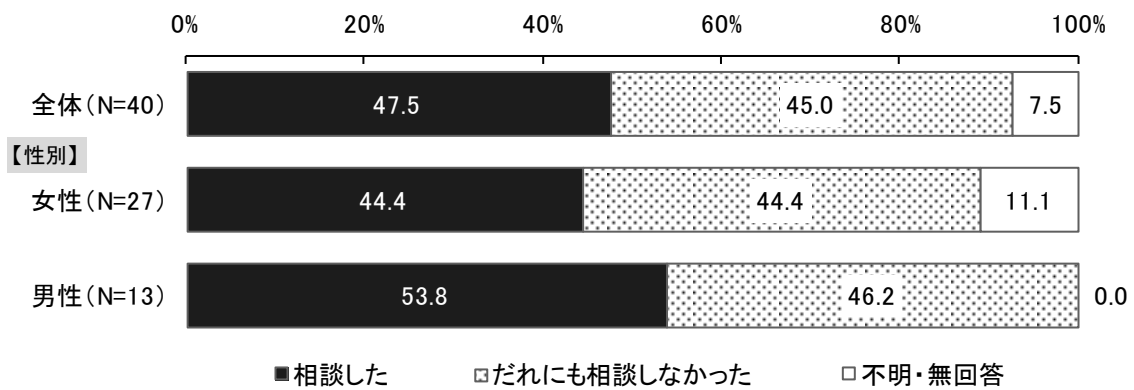


【問10-1で「1、2度あった」「何度もあった」に1つでも○をつけた方のみ】

問10-2 そのような行為を受けた後、だれか（どこか）に打ち明けたり、相談したりしましたか。  
（単数回答）

DVを受けた後、だれか（どこか）に打ち明けたり、相談したりしたかは、全体で「相談した」が47.5%、「だれにも相談しなかった」が45.0%となっています。

性別では、「だれにも相談しなかった」が女性で44.4%、男性で46.2%となっています。

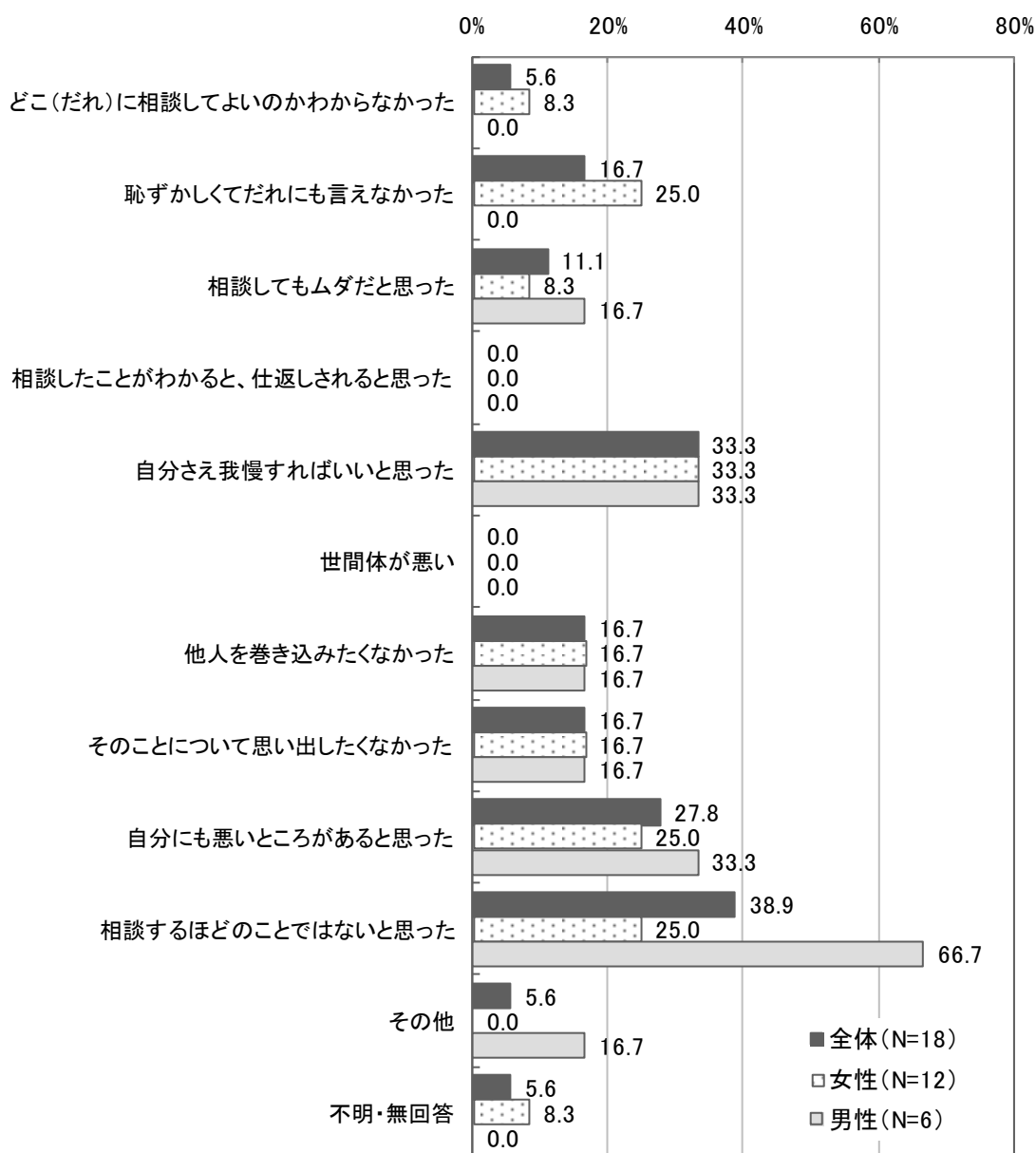


【問10-2で「2 だれにも相談しなかった」と回答した方のみ】

問10-3 相談しなかったのはなぜですか。(複数回答)

相談しなかった理由は、全体で「相談するほどのことではないと思った」が38.9%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すればいいと思った」が33.3%となっています。

性別では、男性で「相談するほどのことではないと思った」が66.7%と、女性と比べて41.7ポイント高くなっています。





## V 町内会調査結果

# 1 回答者の属性

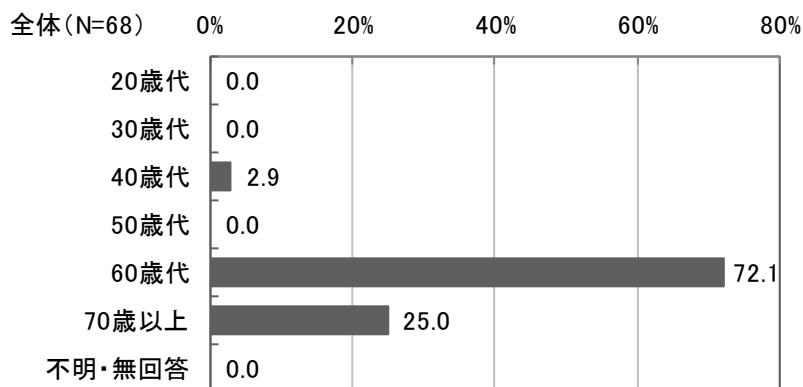
## 問1 性別（単数回答）

性別は、「男性」が100.0%となっています。



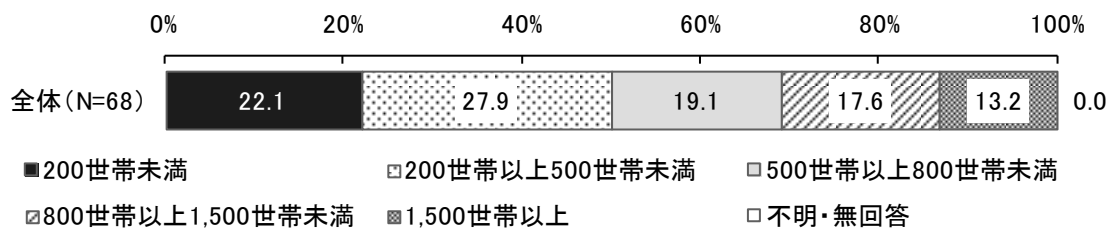
## 問2 年齢（単数回答）

年齢は、「60歳代」が72.1%と最も高く、次いで「70歳以上」が25.0%となっています。



## 問3 町内会の加入世帯数（単数回答）

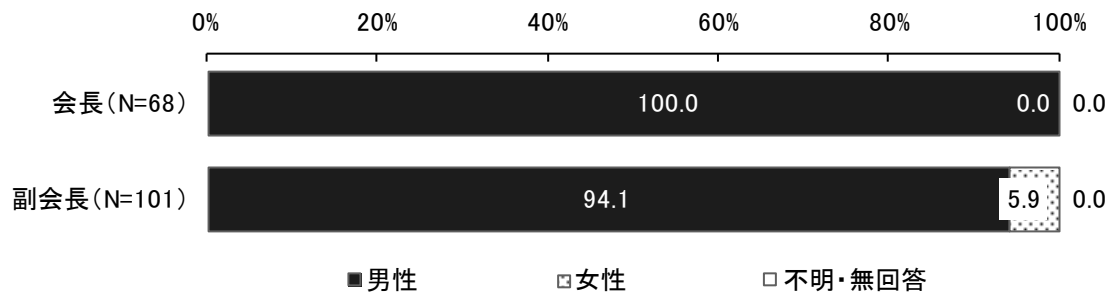
町内会の加入世帯数は、「200世帯以上500世帯未満」が27.9%と最も高く、次いで「200世帯未満」が22.1%となっています。



## 2 町内会活動における女性の参画について

### 問4 町内会役員構成員の性別（女性比率）

町内会役員構成員の女性比率は、会長が0.0%、副会長が5.9%となっています。

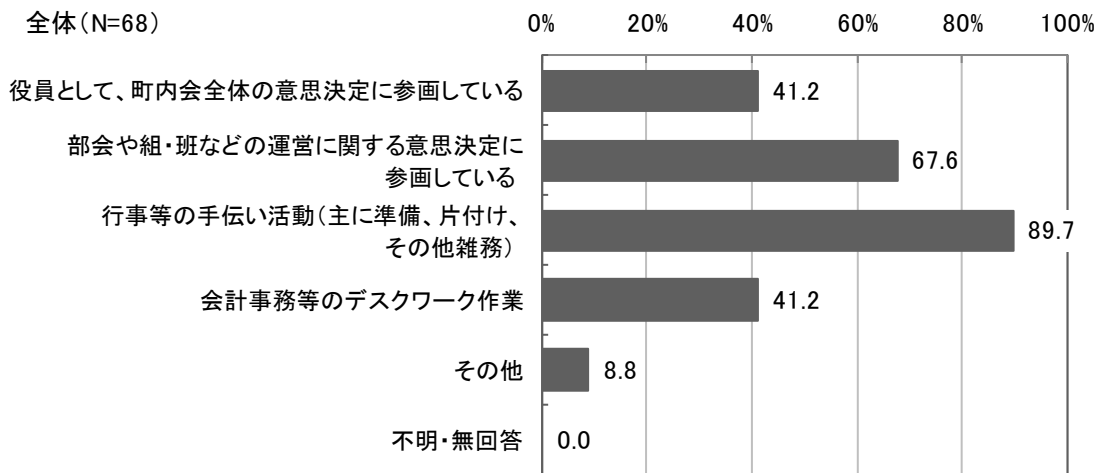


$$\text{※町内会役員的女性比率(\%)} = \frac{\text{各役員的女性数}}{\text{回答のあった町内会(N=68)中の各役員数計(男性+女性)}} \times 100$$

※「会計」「書記」「監査」「顧問」については、各町内会での呼称の違いや兼務があるため、集計方法を再検討します。

**問5 あなたの町内会において、女性が担っているのはどのような役割、活動ですか。町内会全会員についてお答えください。(複数回答)**

町内会において、女性が担っている役割、活動は、「行事等の手伝い活動（主に準備、片付け、その他雑務）」が89.7%と最も高く、次いで「部会や組・班などの運営に関する意思決定に参画している」が67.6%となっています。

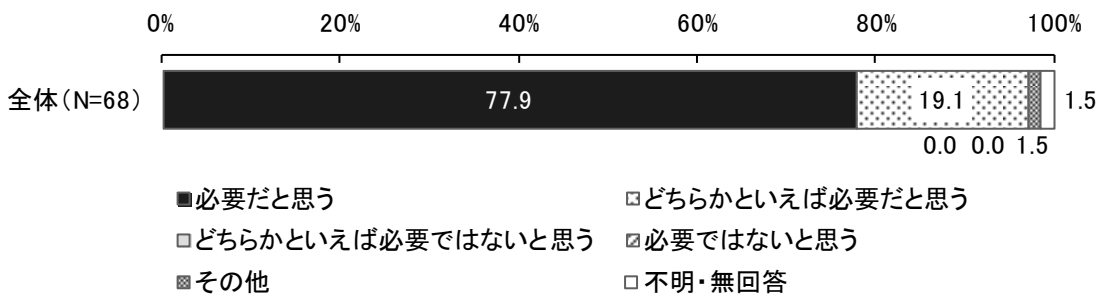


**問6 町内会の役員など地域の意思決定の立場へ積極的に女性が参加することについて、どう思いますか。(単数回答)**

問6の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

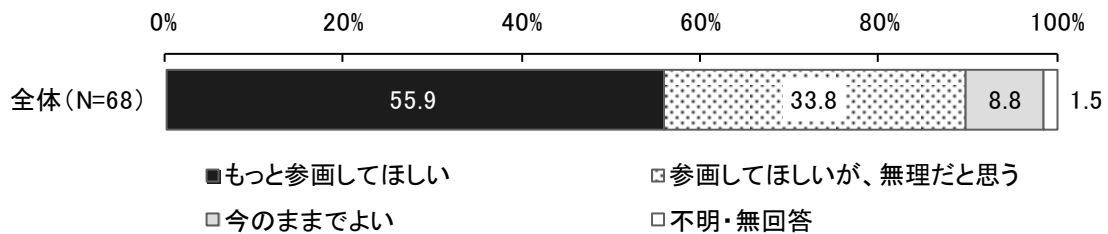
- 『必要だと思う』 … 「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合算
- 『必要ではないと思う』 … 「女必要ではないと思う」と「どちらかといえば必要ではないと思う」を合算

地域の意思決定の立場へ積極的に女性が参加することについては、『必要だと思う』が97.0%と最も高くなっています。



**問7 これからの町内会の役員への女性の登用や女性の参画について、どのように考えますか。(単数回答)**

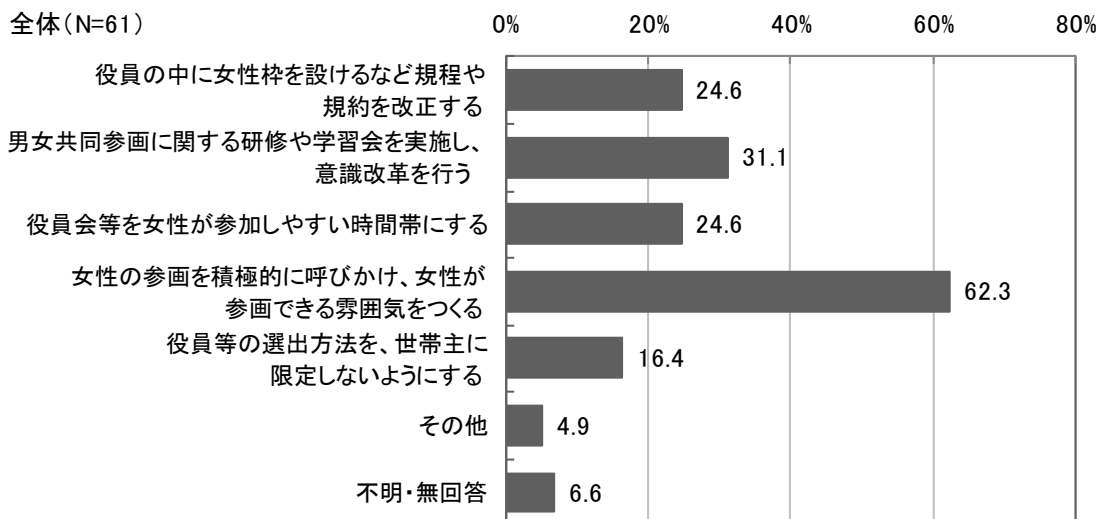
これからの町内会の役員への女性の登用や女性の参画については、「もっと参画してほしい」が55.9%と最も高く、次いで「参画してほしいが、無理だと思う」が33.8%となっています。



**【問7で「もっと参画してほしい」「参画してほしいが、無理だと思う」と回答した方のみ】**

**問7-1 どのようにすれば、女性が参画できると思いますか。(複数回答)**

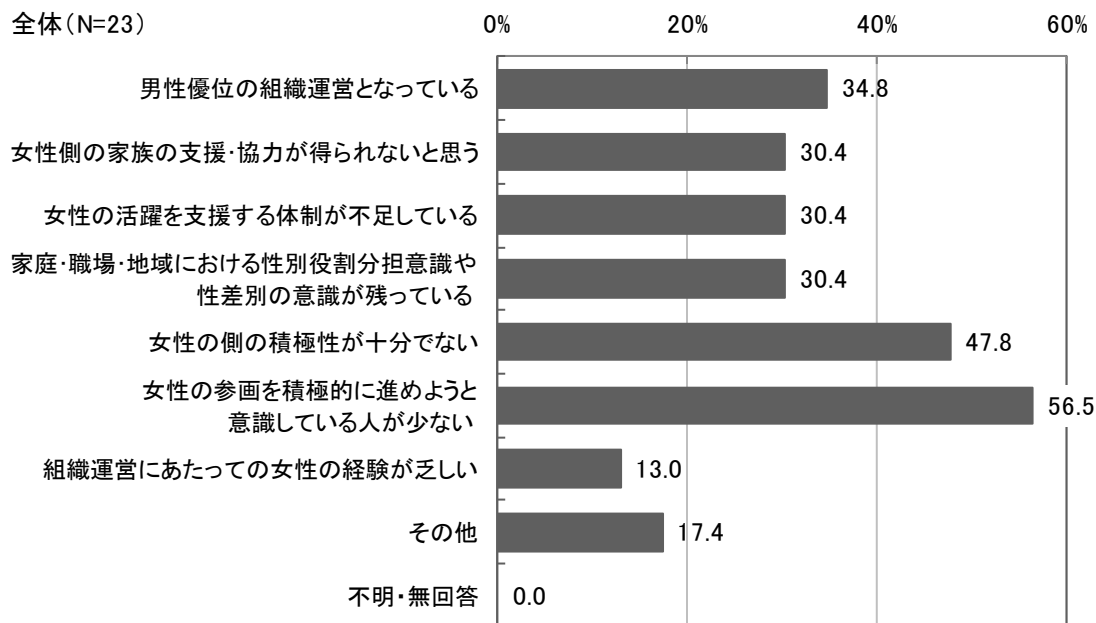
どのようにすれば、女性が参画できると思うかは、「女性の参画を積極的に呼びかけ、女性が参画できる雰囲気をつくる」が62.3%と最も高く、次いで「男女共同参画に関する研修や学習会を実施し、意識改革を行う」が31.1%となっています。



【問7で「参画してほしいが、無理だと思う」と回答した方のみ】

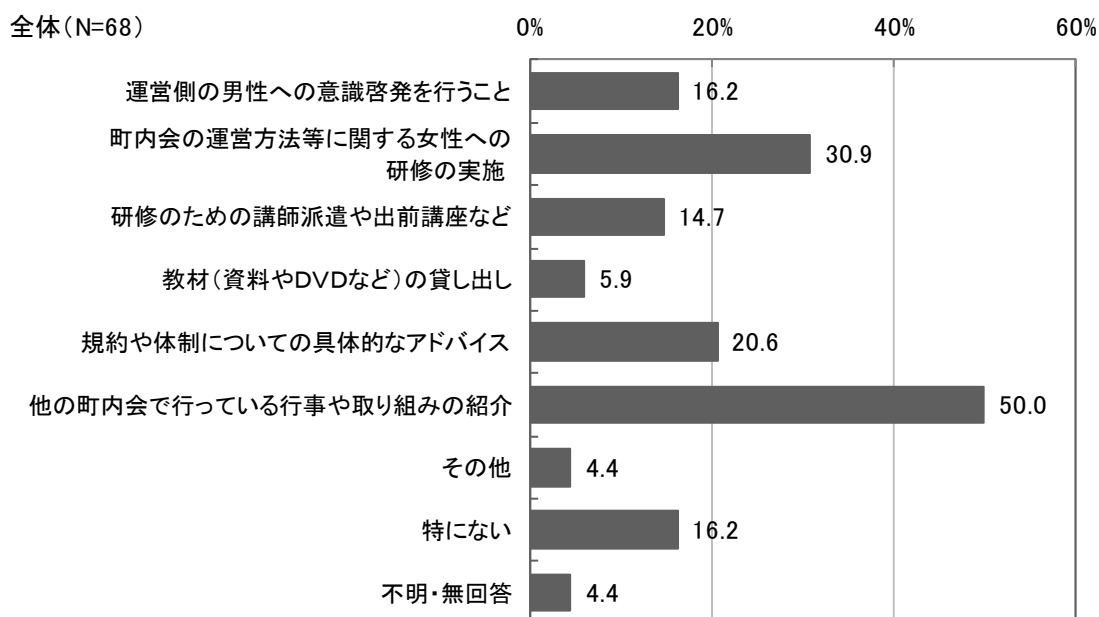
問7-2 無理だと思う理由をおきかせください。(複数回答)

無理だと思う理由は、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」が56.5%と最も高く、次いで「女性の側の積極性が十分でない」が47.8%となっています。



問8 町内会で男女共同参画を推進するため、市に取り組んでほしいことはありますか。(複数回答)

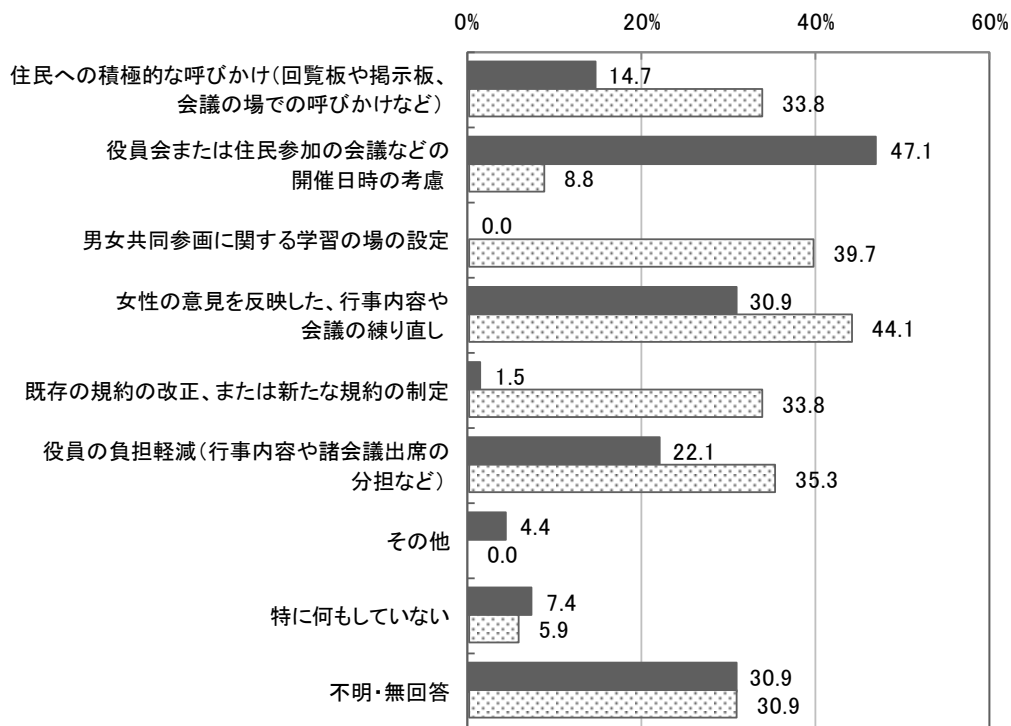
町内会で男女共同参画を推進するため、市に取り組んでほしいことは、「他の町内会でやっている行事や取り組みの紹介」が50.0%と最も高く、次いで「町内会の運営方法等に関する女性への研修の実施」が30.9%となっています。



問9 あなたの町内会では、女性が役員に就くため、または人数を増やすため、あるいは女性が意思決定に参加しやすくなるようにするために、何か取り組みを行っていますか。また、今後、取り組みたいと思いますか。(複数回答)

女性が役員に就くため、または人数を増やすため、あるいは女性が意思決定に参加しやすくなるようにするためにしている取り組みは、「役員会または住民参加の会議などの開催日時 の考慮」が47.1%と最も高く、次いで「女性の意見を反映した、行事内容や会議の練り直し」が30.9%となっています。

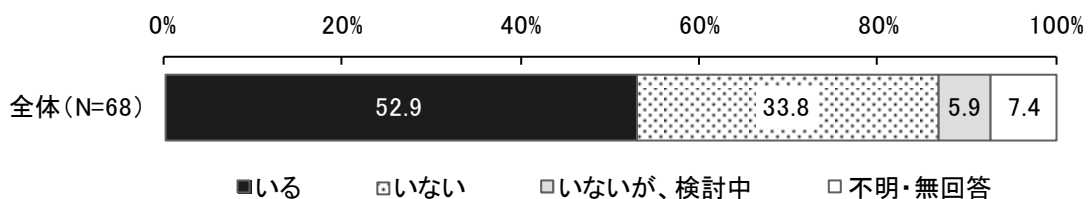
また、今後取り組みたいことは、「女性の意見を反映した、行事内容や会議の練り直し」が44.1%と最も高く、次いで「男女共同参画に関する学習の場の設定」が39.7%となっています。



### 3 災害時対策について

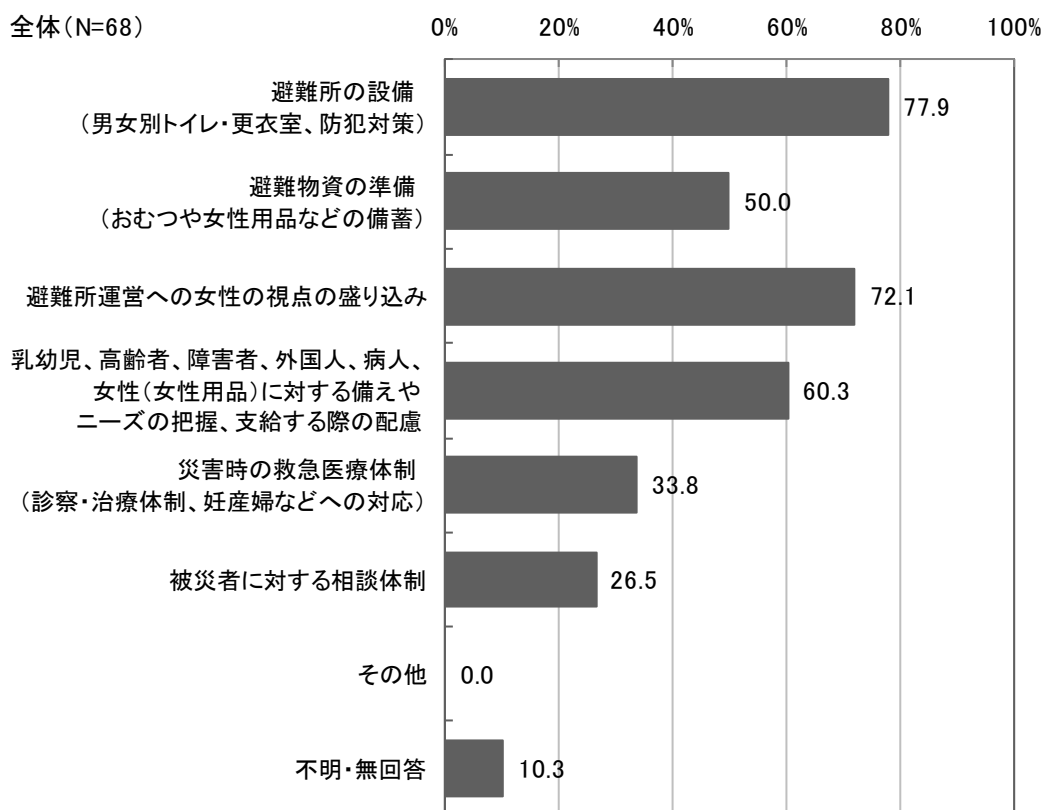
問10 あなたの町内会では、自主防災組織の意思決定や取組検討の場に女性が参画していますか。(単数回答)

自主防災組織の意思決定や取組検討の場に女性が参画しているかは、「いる」が52.9%と最も高く、次いで「いない」が33.8%となっています。



問 11 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。(複数回答)

防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは、「避難所の設備（性別トイレ・更衣室、防犯対策）」が 77.9%と最も高く、次いで「避難所運営への女性の視点の盛り込み」が 72.1%となっています。





平成 28 年度  
安城市男女共同参画に関するアンケート調査  
【調査結果報告書】

平成 28 年 11 月発行

発行 安城市 市民生活部 市民協働課

〒446-8501  
安城市桜町 1 8 番 2 3 号  
TEL : 0566(71)2218  
FAX : 0566(72)3741